カトリック 福岡教区報

松永久次郎司教認可
発行所　福岡司教区本部
福岡市中央区浄水通39
発行人
カトリック福岡司教区
編集人　山元　眞
TEL　092-522-5139
FAX　092-523-2152
振替口座　01760-6-20729
カトリック福岡司教区
定価　一部60円

今月の意向
教皇様の意向のために祈りましょう
【一般の意向】父である神への信仰
【布教の意向】神への信仰に基づく
世界の連帯
【日本の教会の意向】紀元二〇〇〇年の
大聖年の準備

1999年 教区年間テーマ

父である神を共にほめ賛えます

教区長年頭メッセージ

過去にけじめつけ　力強く前進

新しい世紀を前にして、時の流れの区切り点にあるわれわれは、過去を振り返り、過ちを正すことによって「けじめ」をつけ、新しい世紀に向かって力強く前進しなければならない――松永久次郎司教は大聖年準備の最後の年、一九九九年元旦に当たり、福岡教区の全司祭・修道者・信徒にあててメッセージを送り、神の基本的な恵みである「とき」の意義を深く悟るよう呼びかけられた。

新しい年の初めにあたり、共に父である神をほめたたえ、新しい「とき」の上に豊かな祝福をお祈りいたします。

さてこの新しい年は、二千年の大聖年準備の第三年目・最終の年であり、二十一世紀を前にした締めくくりのときでもあります。この歴史的ときを体験する特典と使命を与えられた私たちは、「ときの意義」を深く思うところがなければなりません。時間の中に生きるよう造られている人間にとって時は基本的なお恵みであり、その区切りは特別のメッセージをもたらす



と言えるからです。

一、過去にけじめをつける

新しい時を迎えるに当たって、私たちは過去を振り返り、今まで自分が辿ってきた歩みを思って反省し、必要に応じてすべてを正しく整えることを心掛けなければなりません。私たちはキリスト者として、個人としても共同体としても、過去の評価と回心を怠ってはならないのです。ヨハネ・パウロ二世教皇は、「教会は、過去の誤りと不信仰、一貫性のなさ、必要な行動を起こすときの緩慢さなどを悔い改めて自らを清めるよう、その子らに勧めることなくして、新しい千年期の敷居をまたぐことはできない」と呼びかけておられますが、私たちはこのお勧めを真剣に受け止める必要があります。

先ず自分個人の信仰生活において、キリストに忠実であったか、内心の動き・外的行為においてキリストの心、その愛と純粋さを強く生きてきたか、勇気をなくして怠惰で無為に時を過ごしてきたのではないか、など反省すべきです。また、現代の社会にあって、個人としてまた仲間と協力して、より良い社会の建設のために、出来る限りの努力をすべきですが、その務めをよく果たしたか、貧しい者・弱い者の立場に置かれた者に対して、無関心な態度をとってきたのではないか、などと考慮することも必要です。神の国の建設は私たちキリスト者の基本的任務だからです。

しかしまた、広く世界の平和を論じ、社会の実体を支配する悪の仕組みを厳しく糾弾しながら、自分の近くの友人を裏切ったり、家庭の中での労りの心を忘れたりしていないかも、考えるべきです。広く他人の悪を糾弾することで、自分の個人的生活の不足・欠点は免責されていると考えているかのように行動する者も少なくないからです。愛は近くより遠くに及ぼすべきこと、身近で地道な行いが現実の世界を真に変えて行くこと、を知らねばならないのです。

二、力強く前進する

時の流れに区切りが与えられているのは、過去を顧みその過ちを正すためだけではなく、キリストの福音に導かれてそれぞれの務めを果たすために、新しく出発するという「前向き」の招きの意味を含んでおります。これは教皇が「紀元二千年の到来」で教えられていることでもあります。ところで、人はその与えられた能力によって、また置かれた地位・立場によって、それぞれに違いはありますが、私たちには通常、そんなに大きな力はないし、また大事業を今日、明日のうちに直ちに実現する任務は与えられていません。私たちは先ず、自分の身の回り、自分の家庭の中、そして小教区・地域社会に住む人々に、言葉と行いによって、キリストの愛を伝えていく使命が与えられています。この平凡な、そして全てのキリスト者の務めを忠実に果たしていかねばならないのです。

そしてそれから、正しい指導者たちの呼びかけに答えて、またお互いに仲間をつくって、より広い世界の善のために貢献することにも積極的でなければなりません。現在の社会ではこのような呼びかけはたくさんあります。それらを正しく識別して、それぞれの能力・可能性に応じて、また時には自分の普通の意味の限界を越えて、世のため人々のために尽くしていかねばなりません。与えられた新しい年に、どれだけ神に仕え兄弟に奉仕するために尽くすかが、私たちの信仰の証しとなり、父なる神への真の感謝の徴となるのです。

新しい年に、そして新しい世紀を前にして、特に聖フランシスコ・ザビエル来日四百五十周年を祝う年に当たって、福岡教区の私たちが努力しなければならないことは、福音宣教の務めです。信者数の少ない現状では神のお恵みによって、より多い収穫が与えられるよう、また収穫のための働き手が多数与えられるよう祈り、犠牲を捧げ、働く必要があると思います。一見かっこいい議論に惑わされることなく、私たちの願いが、目に見える形でも、「多くの実を結ぶよう」乞い願いたいものです。

○　○　○

新しい年が訪れました。外的には何も特別なことはないとしても、キリストの救いのみ業は聖霊の働きを通して力強く続けられ、収穫への歩みは休むことなく前進しています。また御父の年にあたり、父の家には「住むところがたくさんある」という御言葉の、大らかさと揺るぎない希望の喜びを生きることができます。そして、私たちを包むこの御父の懐の広さ・温かさこそ、この年のもたらす特別のお恵みと確信いたします。

この期待のうちに、御父への特別の祈りを込めて、そして聖母マリアのお取り次ぎを願いながら、福岡教区の全ての方々に心から新年のおめでとうを申し上げる次第です。

一九九九年　元旦

福岡教区長
ヨセフ　松永久次郎

新FAX番号
行橋教会
09302・2・0816

ヨハネ・パウロ二世一九九九年「世界平和の日」メッセージ

人権の尊重こそ平和実現のかぎ

「世界平和の日」にあたって、わたしは自らの確信をまず明らかにします。人間の尊厳をいつも中心におき、共通善の探求を最優先して物事を進めるとき、平和を築いていくために強固で永続的な基盤が据えられます

ヨハネ・パウロ二世教皇は一九九九年元旦「世界平和の日」に当たり、全世界のあらゆる階層の人々に向けてメッセージをおくり、「人間が生まれながらにして持っている人権」を互いに認め尊重することこそが平和への不可欠の条件であり、平和を希求するすべての人が平和の実現に責任を負っていることを強調された。

教皇は人権の根拠を「神の似姿として創造された人間」におき、特に政治・経済・文化・教育にたずさわる人、そしてキリスト者に責任の自覚を強く求めている。（メッセージの要約を2面に掲載）

時の話題

原　英文

新しい年が明けて、いよいよ大聖年を一年後に迎えることになった。

キリスト生誕から二〇〇〇年、聖フランシスコ・ザビエルが日本にキリスト教を伝えるため鹿児島に上陸してから四五〇周年、ついでながら筆者の在籍する直方教会創立五〇周年と、いろんな意味で信仰の節目を迎える一年である。

イエスとその弟子たちは、さまざまの迫害・中傷による苦痛と悩みに屈せず、ただひたすら神を信じて福音宣教に励んだことであろう。わが国においても、時代の統治者による禁教令に端を発して、迫害・殉教という苦しい時代にキリスト者は信仰を守り継いできた。

さて、現代を見ると、価値観の多様化ということばが、神のお恵みに対して、あまりに鈍感にさせてしまっている。

教会活動が形式主義になりやすく、内面的な部分がおろそかにされているように思えてならない。

キリストの愛を周囲に示し、「世の光、地の塩」となるために、キリストの種がまかれた頃の原点に立ち返って考え直す最もよい一年を迎えたのではないかと思う。

大聖年の前年を迎えて

今年も多くの教会や活動団体が創立〇〇周年という記念すべき年を迎えることであろう。

歴史の過去を振り返るということは、未来に対して責任をもつことを意味する。

大聖年後の二十一世紀は、教会刷新の百年である。その新世紀の教会において、福音宣教の任を負う若者たちの信仰教育にもっと力を入れることが求められる。

若者の、とくに中・高生の教会離れが、部活や塾での勉強に忙しいのだからと、手をこまねいてばかりはいられない。

長期的展望をもって、キリスト者一人ひとりが、新しい世紀において、神の願いに真に応えられる共同体建設に取り組む、出発の年にしたいものである。

（直方教会）

みちくさ

虚礼廃止の声になるほどと納得しながらも、日ごろ疎遠の方ともせめて年に一度ぐらいは、の声にまた心がゆらぎ、ずるずると年賀状をやりとりしている。減るどころか年々ふえる傾向にある▼新年早々で恐縮だが、喪中挨拶状なるものがある。十二月になると届く「喪中につき年末年始のご挨拶をご遠慮申し上げます」という、賀状欠礼の挨拶である▼ある作家がさる年に喪中挨拶状を送り、今年はさみしい正月になるかと思っていたら、二百通も年賀状が（挨拶状を送った人からも）届いたという。当方喪中なので年賀状は出しません、あなたも出さないで…という意味なのだが、喪中の本人が出さないのはともかく、自分からは出すものだと解釈している人がかなり多いのかもしれない。この種の勘違いは意外と多いようだ。「考えておきます」もその一つ。これはやんわりと断るときの常套句なのである▼親戚が多いせいか、毎年、少なくとも一通は賀状欠礼の挨拶状をいただくが、二、三年前ある女子修道院から届いて戸惑ったことがある。子どもの頃世話になったシスターが亡くなり、葬儀にも参列したのだが、一修道院から喪中挨拶状をいただいたのは、後にも先にもこの一回だけ。修道者はみな兄弟姉妹だから身内、と考えたからかもしれない▼だが、と考えこんだ。筆者の修道会でも今まで何人もの兄弟が亡くなったが、何の疑念もなく毎年年賀状を書いている。でないと、賀状欠礼は毎年のことになってしまう。冥福は祈りながらも、新年には年賀状がよく似合う。（H）

2月11日

糸島教会出身 牧山美好助祭 司祭に叙階

糸島教会（糸島郡志摩町）出身の福岡教区助祭、フランシスコ・ザビエル牧山美好助祭が二月十一日（木）午後二時に、カテドラル大名町教会で松永久次郎司教から司祭に叙階される。一九七〇年八月二十六日生まれ。小郡教会で受洗。一九八二年に福岡小神学校（現福岡カトリック神学院）に入学。福岡市立平尾中学、私立泰星高校に通学。福岡サン・スルピス大神学院入学。一九九六年の三月にカテドラルにて助祭叙階。翌九七年の三月に大神学院卒。同年四月から戸畑教会で務めている。

「世界平和の日」メッセージ（要約）

許せない人権無視

教皇はメッセージの中で、人権を市民的・政治的権利と経済的・社会的・文化的権利に分け、それらの権利を統合的に促進すべきことを説きながら、とくに今日、危険にさらされている人権が何であるかを明らかにする。



いのちの権利

「まず第一にあげなければならないのは、いのちの基本的な権利です。人間のいのちは、受胎から寿命をまっとうするまで、聖なるものであり、侵してはなりません…それはいのちを選びとるという積極的な選択を含んでいます」

しかし最近の遺伝子工学の進歩を非常に気がかりな問題として挙げ、「いのちを物質のレベルまでおとしめることは絶対にできない」と警告する。

宗教の自由

「宗教は元来、人生の真の意味について答えるものです。したがって、宗教の自由は、人間の諸権利の核心をなしています」

「この人権に対する重大な侵害が、他の宗教の信徒たちに多大の苦しみをもたらしています…宗教的信念という名目で暴力的な紛争に発展することがあります…しかしそれは教えの悪用にほかなりません」

参加する権利

「人はだれでも、属している社会の活動に参加する権利があります」しかしある所では、腐敗やえこひいきのため「当然の権利である社会の資産やサービスを受けられなかったり、選挙でさえ巧妙に操作されることがある」と述べて、「市民には参加する権利ばかりではなく、参加する責任もありますから、これは民主主義への公然たる侮辱です」と主張する。

自己実現の権利

すべての人が生まれながらに持っている能力を発揮するには、「何よりもまず若い時に、十分な教育を受ける必要があります。若者の将来は教育にかかっているのです」

教皇は、貧しい地域での教育、特に初等教育の機会が減少しつつある傾向を憂慮し、労働の権利に関しても、「とりわけ政治的・経済的な力を掌握している人々が、今すぐ、できる限りのことを実践に移さなければなりません」と要請する。

世界的な連帯

世界的な連帯の進歩の新しいビジョンが今すぐ必要だとして、教皇は、世界的規模の金融に関して責任を負う人、また、豊かな国々の人々に「貧しい国々の対外債務という恐るべき問題の解決を見いだすために、力の限り努力してください」と強く訴える。

環境に対する責任

環境に関する諸基準が徐々に整えられつつある現状に希望を抱きながらも、教皇はなお「大地と海、気候、動植物に深刻な損害を与える危険のある、現代文明の典型的な消費生活様式を、とくに豊かな国々において根本的に変えることが求められている」ことを喚起する。

平和への権利

破壊であって建設でない戦争は「社会の道徳的基盤を弱め、さらなる分裂と絶えざる緊張を生み出します」

教皇は「戦争があらゆる真のヒューマニズムの欠如であることを理解してもらえるまで訴え続けます」と宣言し、現に行われている抗争を終わらせるための支援を、諸国の指導者と善意ある人々に要請。さらに戦争にかり出され、犠牲になっている多くの子供たちに言及している。

人権はすべての人の責任

「人権の文化を促進するためには、社会全体の協力が必要です」としながら、特にマスメディアの役割について言及する。

「マスメディアは、世論が形成される際に重要な役割を果たし、この結果、人々の行動に大きな影響を与えます。暴力礼賛的な報道が引き起こす人権侵害に対しては、マスメディアの責任を問わなければなりませんが、相互理解と平和の促進に熱心なマスメディアのおかげで高まっている対話と連帯の気運については、マスメディアを賞賛すべきです」

決断のとき、希望のとき

最後に教皇は、キリスト者に向けて「人間の尊厳の先がけとなってください」と訴える。

「貧しい人々、疎外された人々との尊厳を保護する誓いを更新し、権利なき人々の権利を具体的な方法で認めることは、わたしたちの義務です。キリストが弟子たちに託された使命を精一杯生き、彼らのために声を上げようではありませんか。これこそ、今や目前に迫っている大聖年の精神です」

典礼 あ・ら・か・る・と 16

十字架のしるし
―キリストへの信仰告白―

ミサの初めのあいさつで、一同は「父と子と聖霊のみ名によって」と言いながら十字架のしるしをします。また、さまざまな機会に主の祈りやそのほかの祈りを唱えるとき、祈りの始めと終わりに同じように十字架のしるしをすることがあります。このような十字架のしるしは、自然に行われているようですが、そこにはどのような意味があるのでしょうか。

わたしたちが十字架のしるしをする場合、ふつうは額、胸、左肩、右肩の順にしますがこれは後の時代にできたやり方で、初めは額に小さな十字架のしるしをすることから始まったようです。3世紀のアフリカやローマでは、入信式の中で、受洗者の額に十字架のしるしをすることが行われていました。このような十字架のしるしは、その人がキリストのものであること、キリストに属する人であることを表すしるしでした。同じ時代のローマのヒッポリュトスは、額にする十字架のしるしを、「受難のしるし」、「悪魔に立ち向かうための確かで力強いしるし」と呼んでいます。キリストは十字架上で殺されましたが、三日目に復活して神の栄光のうちに迎えられました。このことを信じるキリスト者にとって、キリストの十字架は死の闇に打ち勝つ勝利のしるしとなりました。聖金曜日の十字架の礼拝で歌われる十字架賛歌にあるように、十字架は世界に救いと喜びをもたらすしるしとなったのです。ですから、十字架のしるしをすることは、キリストの受難と死の意味を心に留めていることを表す信仰告白の動作になっているといえるでしょう。それゆえ十字架のしるしは、神に逆らう悪に立ち向かうためのしるしでもあるのです。

十字架のしるしは、祈りの前後に行う形式的な動作になりがちです。自分がキリストのものであることを心にとめて十字架のしるしをするようにしてはいかがでしょうか。（カトリック中央協議会『毎日のミサ』一九九六年三月号第一頁）

主のご降誕と新年のお慶び申し上げます

一九九九年・御父の年　元旦（神の母聖マリアの祭日）

教区長　松永　久次郎司教

〈福岡地区〉

司教館　青木　悟　松井　忠之　山下　正　黒川　博
糸島　平田　三郎司教
今村　中浜　一男
大楠　中村　彰
大牟田　森山　信三
小郡　牧山　勝美
久留米　山田　成章　三村　邦明
古賀　W・マヘル　乾　盛夫
笹丘　T・ドワイヤー
浄水通　青木　悟（管理者）
大名町　浦口　均　田中　重治
高宮　H・シーベル
茶山　堤　要吉
西新　平田　敬
箱崎　T・リシャール
光丘　J・バイヨ　H・キニュウ
二日市　山川　辰幸
本郷　岩永　義人
吉塚　硫黄　隆二
老司　畠山　七郎
大神学院　大山　悟　Z・イエール　高木　善行　高見　三明　櫻井　尚明　牧山　強美　白浜　満
神学院　山元　眞
聖パウロ会　百村　等　杉原　寛信
イエズス会　塩谷　恵策　J・L・モラレス　梶山　義夫　S・オチョア　A・セトアイン　G・ケルクマン
ファミリーセンター　S・M・ライル
御受難会　畠　基幸　来住　英俊　M・ヴェッター　C・ブレシュット
司牧センター（美野島）　M・コース

〈北九州地区〉

飯塚・田川　深堀　勝人
黒崎　L・ペリオン　C・バスチ
小倉　平田　寛　平田　三好
新田原　竹森　勇
天神町　M・ラバルタ
戸畑　堤　敏雄
直方　中村　信哉
水巻　J・ガイヤール
門司　下町　豊重
（門司港）　牧山　重光（管理者）
湯川　浦川　俊雄
行橋　川上　惣一
若松　山頭原太郎
八王寺（パリ外国宣教会）　L・デシャンプ

〈佐賀地区〉

伊万里　C・ガザルディ
鹿島　L・マネルバ
唐津　V・チェリッツァ
佐賀　G・フェラーラ
多久　A・テムペリーニ
武雄　A・ベッラ
鳥栖　R・マグリン
馬渡島　田川　清美
呼子　伊東　成晃
シトー会　C・ミケレーナ
ロザリオの園　A・アレグリーニ

〈熊本地区〉

荒尾　K・オマホニ
大江・崎津　川添　猛
本渡（聖コロンバン会）
帯山　V・ヤングキャンプ
菊池　R・オウエンス
健軍　鵜野　泰年
島崎　M・コーフィールド
玉名　L・メネガッツォ
手取　W・カリー　M・マッコンネル　H・オッカロール
人吉　M・モロイ
水俣・八代　J・ノーリス
武蔵ケ丘　F・マッケイ
生命山　F・ソットコルノラ
在米国　渡辺　隆義

＊玉名教会のL・メネガッツォ神父は一月五日に異動

神さまと人々のために

聖パウロ修道会
志願者募集

聖パウロ修道会は、社会的コミュニケーションを通して福音宣教を行う修道会です。現在、サンパウロ（旧：中央出版社）を中心に活動しています。将来の修道者（司祭、修道士）を希望するカトリック信者の男子志願者（新中学生以上）を募集しています。手続きなど詳しくはお問い合わせください。

〒810-0033
福岡市中央区小笹4-11-11
聖パウロ修道会福岡修道院
☎ 092-531-0924
FAX 092-524-6169
院長 Fr. 百村　等
担当 Fr. 杉原　寛信

福岡カトリック神学院
生徒募集

神学院入学を希望する者は、下記の条件が必要ですので、主任司祭と相談の上、福岡カトリック神学院までご連絡ください。

【入学条件】
①司祭を希望するカトリック信者の男子（今年3月に小学校卒業予定の現小学6年生以上）
②主任司祭の推薦
＊途中編入も可

詳しくはお問い合わせください。

〒810-0028
福岡市中央区浄水通38
福岡カトリック神学院
☎ 092-531-6821
FAX 092-524-7373
院長 Fr. 山元　眞

新年あけましておめでとうございます

○ 黙想や祈りのために建てられた『黙想の家』です
団体・小グループ・個人の黙想や静修にどうぞご利用下さい
御受難会司祭が丁寧にご指導致します（指導者同伴可）
○ 洋個室(30室) 洗面・トイレ付き（車椅子用トイレ・エレベーター有り）
<宿泊・日帰りのどちらでもご利用できます>
【お問合せ】0940－32－3222（月～金／9：30～17：00受付）

福岡黙想の家　〒811-4155 宗像市名残1056　TEL 0940(32)3222　FAX 0940(32)3385

有限会社　**共立総合防災**
＊消防設備　設計・施工
＊電気工事　保守点検
〒810-0044
福岡市中央区六本松3－11－33
代表取締役　ヨハネ　土本政実
☎会社 092-761-5885 自宅 092-863-1289

別れ・出逢い・旅立ち
草〔SOU-EN〕苑
ご葬儀
木下株式会社
TEL 092－526－5656
〒810－0016
福岡市中央区平和3丁目1-5

21世紀を地上のすべての人々が人間らしく生きることができるように

2億2000万人の署名に協力を

日本カトリック司教協議会、大聖年準備特別委員会の委員長、白柳誠一枢機卿は、全国のカトリック信者に向けて十月二十七日付けで文書を発表し、全世界で行われている「21世紀を地上のすべての人々が人間らしく生きることができるように、最貧国の累積債務を帳消しにしよう」という国際キャンペーンへの参加を求めた。

このキャンペーンは、債務に苦しめられている第三世界の貧しい人々を救済する手だてとして、「債務帳消し」のためのもの。こうした内容は実現不可能と思われる節もあるが、債務削減には近年においてもさまざまな実績があり、けっして不可能ではない。

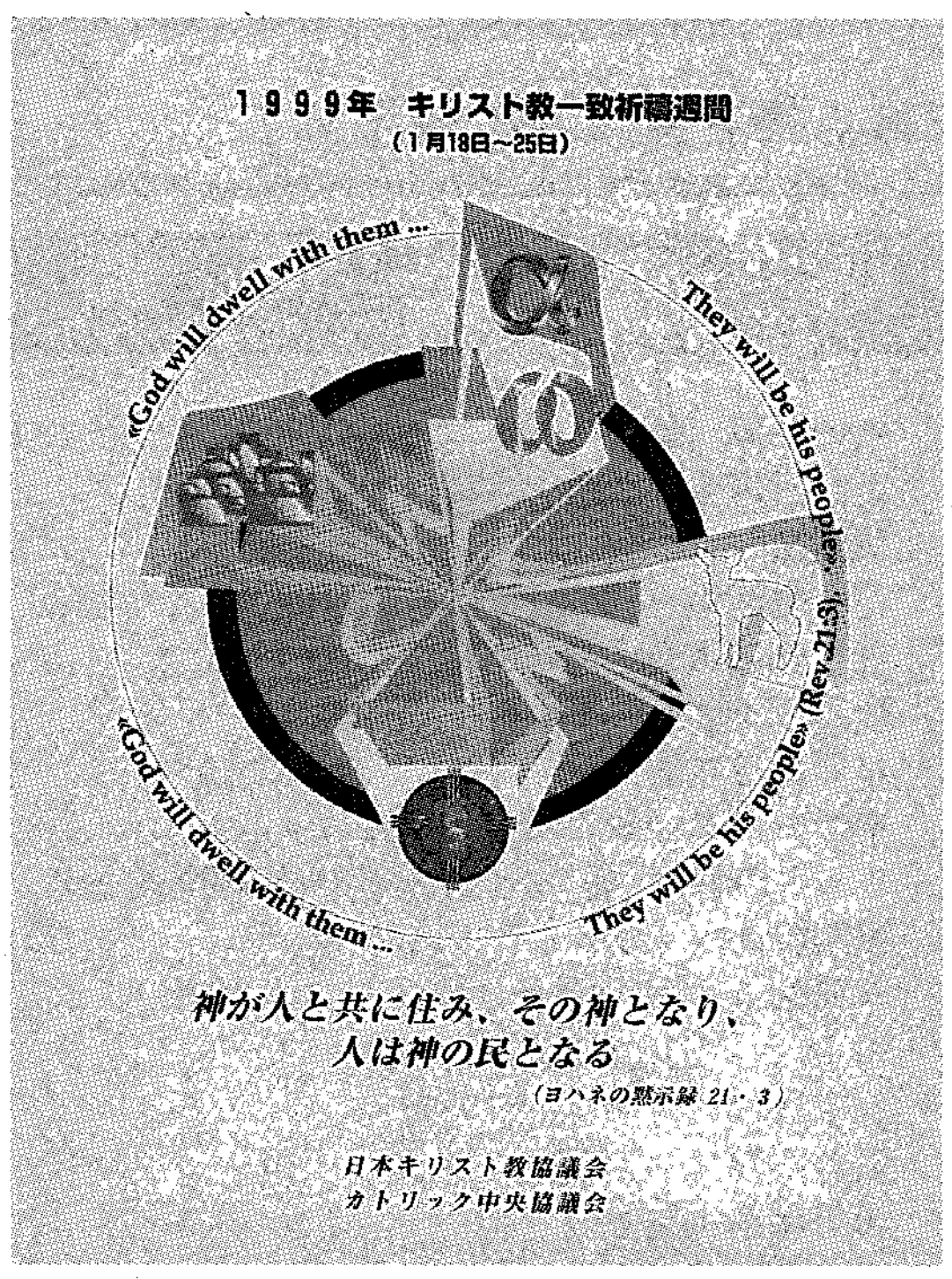
大聖年に向けた債務削減のキャンペーンは、ヨーロッパで始まったこともあり、国民総生産のレベルでみる「最貧国」を対象としている。これは主にアフリカ諸国であり、この基準でみるとアジアの国はほとんど含まれないが、より緊密なパートナーシップを創造し、助け合い、ともに豊かになる道を模索するよい機会となる。

すでに世界的に債務危機の解決のため、第三世界の貧しい国々と連帯し、その立場から署名運動など、紀元二〇〇〇年大聖年キャンペーンが進められているが、大聖年準備特別委員会では、このキャンペーンの目的を理解し、この債務問題について多くの関係者と話し合い、理解を深めた上で、署名運動に加わることに決定。

すでに修道会・宣教会からの要請で署名活動をしている教区・小教区もあるかと思われるが、大聖年の準備の一環として日本のカトリック教会としても署名運動を推進していくことになった。

なお、この署名運動はすでに七十カ国以上で繰り広げられており、史上最大の嘆願となっている。現在、一九九九年のG8サミット（ドイツ）に二億二〇〇〇万人の署名を届けようとキャンペーンを展開している。

署名用紙は各小教区、修道院などに送付されているが、キリスト信者に限定されているものではないので、広く近隣の人たちにも協力を求めてほしい。署名の第一次締め切りは一月末日。なお、白柳枢機卿は「債務帳消しキャンペーン日本実行委員会の代表でもある。資料請求、問い合わせは「アジア太平洋資料センター」事務局☎03・3291・5901 FAX 03・3292・2437まで。



1999年のテーマについて

当初から、キリスト教一致祈祷週間はエキュメニズム（教会一致）運動の不可欠な部分であり、全世界のキリスト者は、そこで、「世が信じるようになるために」ともに祈り、教会一致のための働きを続ける力を得てきた。

第三の千年期の初めに近づき、今年のキリスト教一致のための祈りは、過去1000年の間の分裂の歴史と相互の迫害について悔い改めの精神で振り返ってみるように、キリスト者を招く。同時にこの祈祷週間は諸教会に、神から受けたこと、特にこの最後の世紀にエキュメニズム運動において達成されたことに感謝する機会となる。

1999年の祈祷週間の基礎資料は、マレーシア教会協議会によって集められたエキュメニカルなグループが準備した。この祈祷週間の歴史において初めて、基礎資料がアジアの国から生まれた。

日本宣教50周年を祝う

聖コロンバン会で記念黙想会

日本における宣教五十周年を迎えた聖コロンバン会では、昨年、聖職者たちの黙想指導で世界的に高名なシスター・ブリージ・マッケナ（聖クララ会）とケヴン・スカロン神父（聖ヴィンセンシオ会）を招き、日本各地で黙想会を行ったが、その締めくくりとして、十一月二十一日から三日間、熊本の健軍教会で一般の記念黙想会を行い、全国からの応募もあって、述べ二千人がこれに参加した。

テーマは「イエスの慈しみは聖書と共に―あなたの慈しみは大きく、天に満ち、あなたのまことは大きく、天を覆います」で、これは各会場とも共通。


前列右からスカロン神父、通訳、Sr. マッケナとライル神父

初日には、二十一世紀が多くの不安材料をかかえる時代でもあり、神の慈しみに信頼した礼拝と取り次ぎが求められることが語られ、聖体を顕示して、神の慈しみへの祈りの花束を全員でささげた。

二十二日、王であるキリストの主日のミサでは、家庭における世代間の和解といやしの祈りが行われ、夜は聖体顕示の上、指導者二人による心と体のいやしの祈りがささげられた。

聖コロンバンの祝日に当たる最終日の二十三日の午後、同聖人を保護者とする健軍教会で、松永久次郎司教司式のもと、聖コロンバン会の日本宣教五十周年を祝う記念ミサが行われた。

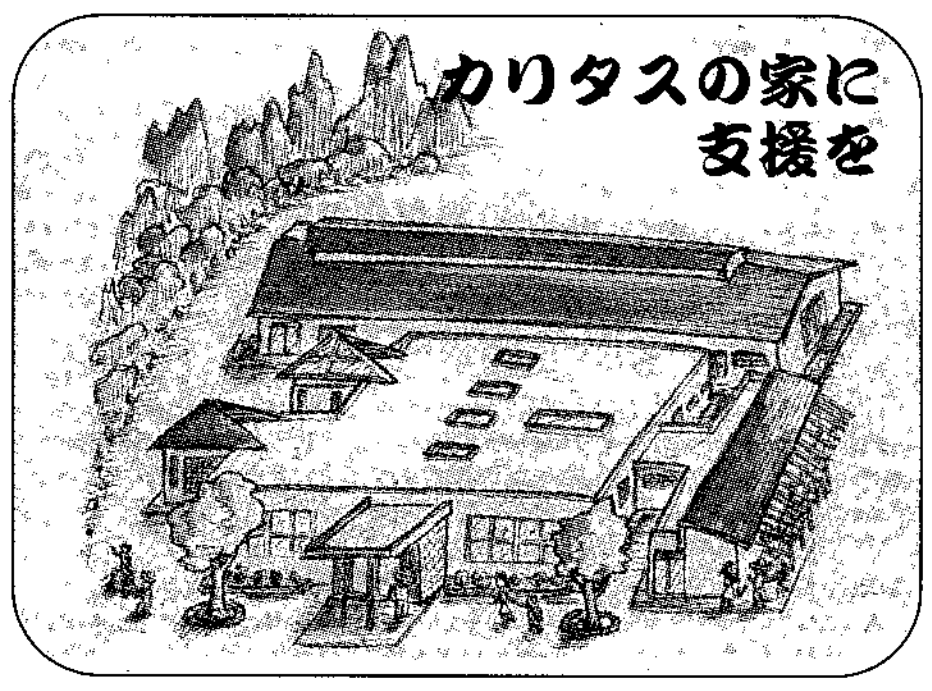
講話と聖体顕示、その前での静かな祈りの時間は、信徒はいうに及ばず、未洗者にとっても恵みと感動、そして喜びにあふれた黙想会となったようである。

教皇は、教会に、またすべての人々に確かな模範を示すために、神のいつくしみについて力強く語り、いつくしみへの礼拝について教え、神への信頼と隣人へのいつくしみに生きたシスター・ファウスティナを一九九三年に列福した。福者ファウスティナの使命とそのメッセージを紹介する小冊子の第四版が昨年の九月に発行され、「神のいつくしみ」を黙想するために多くの人に利用されている。小冊子や祈りのカードについての問い合わせはカトリックファミリーセンター（☎092・541・6207）まで（取材協力　S・Mライル）

聖コロンバン　六世紀前半にアイルランドに生まれ、暗黒時代のヨーロッパで十二人の同志とともに修道院を設立、福音宣教とともに修道者と一般信徒たちの信仰生活の刷新向上に生涯をささげた。現在行われている「ゆるしの秘跡」は彼によって初めて教会に取り入れられた。六一五年没。

マルガリタ山川ツル様

二日市教会主任の山川辰幸神父の母堂。十二月十日に五島岐宿打折の自宅で帰天。翌十一日に通夜が行われ、十二日に水ノ浦教会で葬儀が執り行われた。福岡教区からは松永司教はじめ、数人の司祭と信徒が参加した。享年94歳。



昨年九月一日に社会福祉法人かいたっくす（滑石七五三夫理事長）が嘉穂郡頴田町に開所した知的障害者更生施設「カリタスの家」では、現在三十人の行動障害者が入所しており、「今、目の前にいるこの人たちに愛の手を」をスローガンに、十六人の指導職員が昼夜を分かたず奮闘している。

設立の目的に従って、生活・作業・学習訓練を軸に、心豊かな人間愛と感性をはぐくみ、地域社会との交流をも図りながら「療育」を行っているが、目標を達成するには程遠く、資金・人材ともに力不足はいかんともしがたい。

そこで「カリタスの家」では、広く一般から支援を仰ぐことになり、行動障害者を守る会会員・準会員（年会費一万二千円・六千円）を求めている。

申込みは嘉穂郡頴田町大字勢田字新立一一九一一四（☎09496・6・2001）カリタスの家まで。

-1999年度　学生募集-

聖マリア学院短期大学

看護学科（看護婦・看護士養成3年課程）入学定員100名

選抜区分	試験期日	試験科目等
試験選抜	2月16日	国語1、英語1、理科（生物1B又は化学1B）、面接

専攻科：地域看護学専攻（保健婦・保健士養成1年課程）入学定員40名
助産学専攻（助産婦養成1年課程・女子のみ）入学定員20名

選抜区分	試験期日	試験科目等
試験選抜	2月　2日	看護学一般、面接

（お問い合わせ先）
〒830-8558　福岡県久留米市津福本町422番地
（西鉄大牟田線試験場前駅徒歩5分・聖マリア病院隣接）
聖マリア学院入試事務室 TEL：0942-35-7271 FAX：0942-34-9125

聖マリア学院医療福祉専門学校

介護福祉学科（介護福祉士養成2年課程）入学定員100名

選抜区分	試験期日		試験科目等
自己推薦選抜 社会人選抜	3期	1月26日	面接（自己推薦書に基づく）
試験選抜	1期	2月25日	国語1又は数学1・A（数と式）の選択
	2期	3月24日	

＊介護福祉学科においては、特待生制度等の奨学生制度を充実。
＊聖マリア病院、聖マリア介護支援センター等と協同した実践教育と充実した卒後教育を実施。
＊キャンパス見学随時

BOOK 読みま専科

★聖書と差別
―解放をもたらす聖書理解を求めて―
日本カトリック部落問題委員会編



一九九二年から一九九七年まで計六回、京都・大阪・広島を会場にして「聖書と差別」シンポジウムが行われた。本書はそのまとめである。

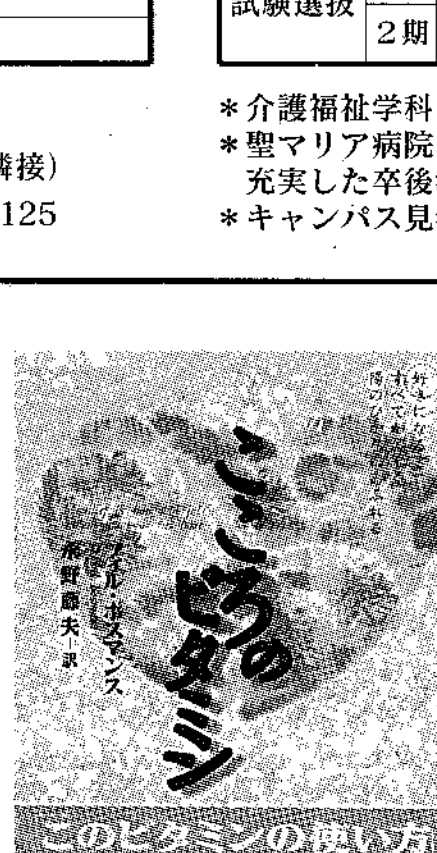
聖書には差別的表現が多々見られる。それをどう解釈したらよいのか。この種の問題は、これまで公の場で取り上げられることはなかった。

カトリック聖職者をはじめ牧師や修道女、大学教授たち計二十四人が種々の観点から発題している。

サンパウロ　税別二四〇〇円

◇　◇　◇

★こころのビタミン
フィル・ボスマンス著
永野藤夫訳



カトリックの修道司祭である著者は一九五八年からベルギーで「いのちの電話」の活動を始め、多くの人々のために〈こころのビタミン〉の必要を感じ、詩集を出版。たちまちベストセラーになり、著者の温かい愛とユーモアの言葉と人柄は「現代の聖フランシスコ」と親しまれている。

…静かに喜びをもたらし
夜ごとに星をひとつ輝かせ
荒野に花をひとつ咲かせる…

女子パウロ会　税別六五〇円

ジャパンスマイルか
株式会社
不動産/管理・仲介・売買・建設/一般建築
〒810-0044 福岡市中央区六本松4-9-4
TEL092－761－8800
代表取締役 マルガリタ・マリア 吉田由利子

吉田設計
株式会社
建築設計/企画・設計・監理
〒810-0044 福岡市中央区六本松4-9-7
TEL092－711－0550
代表取締役 ヨゼフ 吉田豊博

祭壇・洗礼盤他
素材｛大理石　御影石　その他
石のパイオニア
高木石材株式会社
〒860-0006 熊本市段山本町2-21
TEL 096－352－2417

会合と催し

教区年間テーマ：父である神を共にほめ賛えます

1月

1日（金）元旦／神の母聖マリア［祭］
《守るべき祝日》
世界平和の日ミサ（カテドラル10時）
＋G.ロー［人吉教会1950］
2日（土）＋J.ドノフ［菊池教会1985］
＋ヨセフ牧山藤房［福岡司教館1993］
3日（日）主の公現［祭］
4日（月）＋E．モーゼ［八王寺本部1998］
10日（日）主の洗礼［祝］
12日（火）**司祭新年の集い（浄水通11時）**
顧問会、司祭評議会常任委員会
14日（木）＋A.ハルブ［崎津教会1945］
15日（金）成人の日
17日（日）年間第2主日（聖アントニオ）
18日（月）キリスト教一致祈祷週間（～25日）
＋J.M.マルタン［大牟田教会1975］
19日（火）＋L.ガルニエ［大江教会1941］
21日（木）聖アグネスおとめ殉教者［記］
24日（日）年間第3主日
25日（月）聖パウロの回心［祝］
26日（火）聖テモテ・聖テトス司教［記］
28日（木）聖トマス・アクイナス司祭教会博士［記］
31日（日）年間第4主日
カトリック児童福祉の日《指定献金》
（聖ヨハネ・ボスコ）

2月

2日（火）主の奉献［祝］
司祭評議会［司教館別館10時30分］
顧問会
路上生活者への炊き出し（2月中の火・金）
5日（金）日本26聖人殉教者［祝］
6日（土）聖アガタおとめ殉教者［記］
7日（日）年間第5主日
10日（水）聖スコラスチカおとめ［記］
11日（木）ルルドの聖母［任］／世界病者の日／建国記念日
司祭叙階式［カテドラル14時～］
14日（日）年間第6主日（聖チリロ・聖メトジオ）
＋J.オマラ［荒尾教会1974］
16日（火）＋J.ボア［黒崎教会1957］
17日（水）灰の水曜日（四句節）大斎・小斎
21日（日）四句節第1主日
22日（月）聖ペトロの使徒座［祝］
＋F.ベルトラン［門司港教会1940］
23日（火）聖ポリカルポ司教殉教者［任］
＋パウロ糸永武男［今村教会1992］
26日（金）今村信徒発見記念日
＋F.ドルエ［八王寺教会1983］
＋G.オーブリ［大神学院院長1985］
28日（日）四句節第2主日
＋マルチノ青木保［浄水通教会1997］

■印は本面に詳細説明あり

福岡黙想の家　1月

◇6日（水）～12日（火）　黙想の家休館
◇14日（木）～15日（金）　聖母カテキスタ会
◇15日（金）～16日（土）　水巻教会レプトン会黙想
◇15日（金）～17日（日）　日本カトリック研修センター
コース・九州会場《生活の中で読む聖書》
◇17日（日）～19日（火）　西日本宣教司祭大会準備会
◇20日（水）　カナの会世話人黙想会
◇23日（土）～24日（日）　九州地区コアリーダーの集い
◇31日（日）～2月1日（月）　パリミッション錬成会
［問合先］黙想の家　☎0940・32・3222　FAX32・3385

黙想の家のホームページを御利用ください
◎ホームページ　http://w32.mtci.or.jp/~daneox
◎e-mail　Mail to daneox@mtci.or.jp

生命山カトリック別院

生命山では、皆様のために、美しい自然の中で、神との語らいの日々を過ごしていただきたく、黙想会を計画いたしました。ご参加ください。

■祈りの集い

日　時：1月14日(木)
9時45分～15時
テーマ：三位一体のイコンの観想
指　導：フランコ神父
＊個人、又はグループでの黙想等、常時受け付けています。
［問合先］生命山カトリック別院　☎0968・85・3100

福岡

■**カテキスタの集い**　［日時］1月10日［第2日曜］（日）13時30分～15時30分［場所］福岡カトリック神学院［講師］山元眞神父（同神学院院長）［テーマ］キリスト教一致運動、諸宗教とのかかわり［会費］500円＊教会学校に関する資料をお持ちくだされば幸いです［問合先］福岡カトリック神学院☎092・531・6821 FAX522・7373

■**福岡教区修道女連盟研修会**　［日時］1月15日（金）10時～15時30分［場所］カテドラル大名町教会［講師］押川壽夫司教（那覇教区長）［テーマ］アジア・シノドスについて

■**第15回福岡パストラルケア研究会**　［日時］1月17日（日）14時～16時［場所］福岡サン・スルピス大神学院新館ホール［内容］講話「愛について」［講師］山元眞神父（福岡カトリック神学院）［参加費］七〇〇円［問合先］事務局（シスター箕浦☎092・871・4943大神学院）

■**ホスピスの会　第5回会合**　［日時］1月17日（日）14時～16時［場所］カテドラル大名町教会4階［内容］講話「高齢化社会に向かっての教会について」［講師］松永久次郎司教［参加費］500円［問合先］事務局／〒815・0034福岡市南区南大橋1・8・29小林計子☎FAX092・512・8723★昼間（9時30分～17時）0942・83・2294

■**聖ヨアキム・聖アンナ信心会**　［日時］1月21日（毎月第3木曜日）13時15分～15時［場所］聖クララ寮聖堂（福岡市南区塩原）［主宰］信心会会長・樋口康子（東京教区）［指導］恵美漸吉神父（サレジオ会）［内容］聖体顕示、ロザリオの祈り、黙想など。ミサ（ある場合は14時～）。［会費］無料［問合先］松尾一行☎092・714・7218

■**聖テレーズの著作を読む会**　［日時］1月24日（毎月第4日曜日）14時～15時30分［場所］カルメル会修道院（福岡市西区上ノ原）［問合先］カルメル会修道院☎092・807・7361［世話人］城島暁（浄水通教会所属）。尚、同日午後13時～13時50分キリスト教入門講座があります。

■**福岡教区・召命を共に祈る会**　［日時］1月28日（木）14時～16時［場所］鳥栖教会［問合先］青木悟神父☎092・522・5139（教区本部）

■**福岡生と老い・死をみつめる会**　［日時］1月31日（日）14時～16時［場所］カテドラル大名町教会［内容］講話「生命の輝きを求めて」と語り合い・死別体験者の語り合い［講師］各務章氏（西日本アカデミー校長）［参加費］五〇〇円［問合先］事務局（大山美穂子☎092・713・8523）

■**第21回聖歌研修会**　［日時］1月31日（日）13時～15時30分［場所］カトリック大楠［テーマ］四句節・聖週間の聖歌［聖歌指導］深堀純氏（大名町教会信徒）［問合先］有馬浩☎092・661・2673

■**第75回福岡結婚準備セミナー**　［日時］2月27日（土）～3月25日（木）毎土曜・木曜日19時～21時30分［場所］カテドラル大名町教会［申込・問合先］カトリックファミリーセンター☎092・541・6207 FAX552・5022

佐賀

■**第6回聖書を読む会**　［日時］10時～11時30分・19時30分～21時（毎月初木曜日、3月まで）［場所］カトリック佐賀教会（信徒会館）［テーマ］希望に生きる［講師］A・アレグリーノ神父［テキスト］聖書（旧約・新約）［対象］どなたでも［受講料］無料［申込・問合先］佐賀教会内「聖書を読む会」☎0952・23・4754

熊本

■**第58回熊本結婚準備セミナー**　［日時］1月18日（月）～2月9日（火）毎月曜・火曜日19時～21時30分［場所］手取教会［申込・問合先］手取教会☎096・352・3030 FAX352・1515

召命祈願ミサ

2月4日（木）19時45分、有志の会である《召命をともに祈る会》主催で、福岡教区に豊かな司祭、修道者の召命を求めて、福岡サン・スルピス大神学院で「召命祈願ミサ」が行われる。どなたでも参加できます。

日本カトリック研修センター

⑲**出張コース（福岡会場）**　生活の節々をテーマに適切なみ言葉選びと、み言を中心とした祈りを学ぶ。私たちの文化、特にその地の文化に根差したシンボルを福音的視点から再解釈する。［日時］1月15日16時（金）～17日（日）［場所］福岡黙想の家［指導］日本カトリック研修センター研究企画部［対象］信徒・修道者・司祭［定員］30人［会費］21000円（税込み）［申込・問合先］日本カトリック研修センター研究企画部☎0852・831・5037 FAX831・5317

編集後記

新年あけましておめでとうございます。
本年もよろしくお願い申し上げます。
「教区報」編集部一同。

第4回九州アディクション・フォーラム

はば広いわかち合い
～本当の出会いを求めて～

日　時：1999年1月17日(日) 10時～16時
場　所：大野城まどかぴあ（大野城市役所となり）
参加費：1400円

プログラム

《第1部》体験談
・アルコール依存本人より　・薬物依存本人より
・摂食障害本人より　・家族より　他
《第2部》各自助グループの紹介とモデルミーティング
各関係の自助グループを体験するモデルミーティング
＊ミーティングは基本的にオープン（当事者以外の参加も可）ですが、グループによってはクローズド（当事者以外の参加は不可）ですのでご了承下さい。しかし、自分にこの問題があると感じておられる方は当事者として参加できます。
主催／問合先：第4回アディクション・フォーラム実行委員会（☎050-494-8412）


Onkyo Eizo gmc Nagoya
466-0823 名古屋市昭和区八雲町70
V838 フランシスコ・ザビエルと共に歩む　ザビエル渡来450年記念
ドキュメント/ドラマ 各巻20分、全巻¥20,000
新作ビデオ
1549年、イエズス会士フランシスコ・ザビエルは鹿児島県に上陸。日本に初めてキリスト教を伝えた。このビデオはザビエルが歩いた道を現代の青年が共に歩み、宣教の苦難と信仰の原点に迫る。揺れ動く現代社会の中で、何を求めて生きるべきかを問いかける秀作。
1. 探究 スペイン　2. 選択 パリ
3. 派遣 ローマ　4. 貧困 インド
5. 喜び マラッカ　6. 彼方 モルッカ諸島
7. 苦難 日本　8. 夢 中国
音響映像gmc　466-0823 名古屋市昭和区八雲町70　tel 052-831-3196 fax 052-831-4393

COSMOS
スポーツ用品・OA・文具　コスモス
〒830-1224 三井郡大刀洗町鵜木67－3
TEL　0942－77－3199
代表者　ペトロ 平田　清

“任意保険に加入してから車の運転を致しましょう”
自動車、火災、傷害、海外旅行傷害保険、保育園、幼稚園児を守る、企業賠償保険
〒814-0153
福岡市城南区樋井川3丁目17－10
大石保険事務所　大石真澄
☎092-552-8195　Ⓕ092-541-7734

FUJIKI
未来へ――安心を創る
藤木工務店
福岡支店 〒812-0016 福岡市博多区博多駅南3-1-1　TEL 092-441-6585(代表)
取締役社長 藤木鐵三　福岡支店長 長山和博

カトリック福岡教区報
松永久次郎司教認可
発行所　福岡司教区本部
福岡市中央区浄水通39
発行人
カトリック福岡司教区
編集人　山元　眞
TEL　092-522-5139
FAX　092-523-2152
振替口座　01760-6-20729
カトリック福岡司教区
定価　一部60円

高齢者、病者とのかかわりを考える

一月十七日（日）、福岡生と老い死を見つめる会の部会である「ホスピスの会」と「カトリックパストラルケア研究会」は、それぞれ研修会を開いた。「ホスピスの会」は、カテドラル大名町教会に松永久次郎司教を招き「カトリック・高齢者ケアのこころ」と題して講演会を行った。「パストラルケア研究会」では福岡カトリック神学院院長の山元眞神父を招き、福岡サン・スルピス大神学院で研究会を開催。「パストラルケアの本来の意味と愛」についての講演を聞いた。どちらも、関心の深さを感じさせる集まりになった。

高齢者が幸せであることが、健全社会のバロメーター

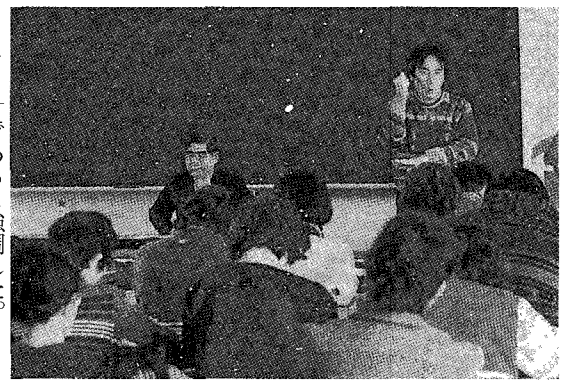
「ホスピスの会」は通称で、正式名称は「福岡市にホスピスを」（代表 小林計子 大楠教会信徒）。福岡市にホスピスを設立する運動を展開をしている。組織的には「福岡生と老い死を見つめる会」（代表 鬼木保之 高宮教会信徒）の部会に当たる。

現在、「ホスピスの会」では、カトリックの精神に基づくケアハウスを開設する可能性を探っているが、一月十七日に福岡教区長の松永久次郎司教を講師に呼び、研修会を開いた。

松永司教は「高齢化社会に向かっての教会」という題で講演。「カトリック者としての高齢者ケアのこころ」について①高齢者の意義、②奉仕者のつとめ、という二点から次のように講話を展開した。

①世紀末を迎え、教会の内外を問わず新世紀への関心が日増しに強くなる中で、「高齢化社会」問題は、リアリティの高い問題であるにも拘らず、沈黙を強いられ、話題から遠ざけられているような感がある、と指摘。また、「高齢者を大切にすることは神の贈り物である生命（いのち）を大切にすること、その生産性でなく、尊い命そのものを大切にすること」と、忘れられがちな命の創造の原点を思い起こすことを促した。

さらに、「高齢者の存在は人間家族の調和の基礎。今の社会に歪みがあるとすれば、高齢者のいない家族の中で人々が育てられているからではないだろうか」と語り、「高齢者が幸せであることが、健全社会のバロメーター」であると強調した。



②奉仕者は「清い心と汚れのない手」で奉仕し、奉仕者同志の和、心づかいがあってこそ、行き届いた世話ができると、まず奉仕者のつとめについて語った。

また、みことばや論語を引用しながら、高齢者への奉仕は尊敬の心、恩返しの心、相手の宗教心への尊敬が大切であり、それが愛の奉仕であること、そして、愛は相互的なものであって「与える者は、必ず受けている」と強調した。

終わりに、「一人の人の一生を幸せにすることはとても大変なことだけれど、一人の高齢者を幸せにすることは私にも何とかできる…」という心で取り組んでいただきたい、と結んだ。

講演の後、会場からの質問に答えて「司祭の高齢化問題もありますので、信徒の皆さんのお世話で高齢者施設が福岡にもできるようでしたら、教区としてもお手伝いしたいと思っています」という司教の発言に、主催者は大きな励ましを受けた。

参加者は約七十人。耳の不自由な方の参加に、すぐに手話通訳で奉仕する参加者もいて、正に奉仕者を語るに相応しい雰囲気の集いであった。集まりの後、新たに協力を申し出る人もあり、ホスピス設立の運動に今年は一層の拍車がかかりそうである。

次回の集まりは三月七日（日）にカテドラル四階で予定されている。

主催者からは「カトリック精神に基づくケアハウス」建設に賛同してくださる方の参加も呼びかけている。連絡は小林計子さんまで☎FAX092・512・8723★昼間（9時30分～17時）0942・83・2294

パストラルは牧者のこころ・愛は良いサマリア人に倣うこと

「カトリックパストラル研究会」（代表 大山悟神父 聖スルピス会）では、同日一月十七日に、福岡サン・スルピス大神学院において山元眞神父（福岡カトリック神学院）を講師に呼び、研究会を開いた。参加者は二十人。山元神父は、「愛について」という題で講演し、大要、次のように語った。

パストラル研究会に「カトリック」という名称がついている以上、その精神はイエスのこころに基づくものであるはず。そのため、聖書に示されている、「パストラル」と「愛」についての教えを理解していなければならない。「パストラル」とは、「牧者のような」という意味で、そのこころは、「良い牧者」のみ言葉に表れている。大切なのは、「良い牧者」は自分ではなくて、あくまでイエス・キリストである、ということ。わたしたちは「良い牧者・キリスト」に導かれて生きていること、先生はイエスしかいないことを忘れてはならない。

また、キリスト者の奉仕は単なるボランティア精神、人道主義に基づくものではない。自分がまず、神に愛されている者であることをわきまえ、その体験を出発点にしなければならない、と「良いサマリア人」のたとえ話を読みながら語った。

前回の集まりで、三つの要点について話した。

①情報を正確に信徒に伝える
②わたしたちは今から教会の中で何をすればよいかを考える
③神はすでに働いておられる、ということに気づく

ベリオン神父は、講話の中で、通夜について具体的事例をあげ、一つの方向を示した。いつも神父が出かけていき、執り行う必要があるだろうか。時によっては神を求め、教会を訪ねて来た人たちを置き去りにしている現実にジレンマを感じる。この現実をまず全員に知らせ、信徒を養成することによって、通夜などを信徒に任せることによって、解決する方法もある、と話し、すでにそのための信徒養成を始めているとの報告があった。

また、これからの司牧・宣教において山元神父は、信徒にできることは信徒に任せる方法も考える時期にきている、と指摘。それは司祭の数が減少していく中で、司祭本来の使命である福音宣教するためにも、また、信徒の使命と役割、教会とは本来何なのか、再考する必要があると指摘した。

結びとして、わたしたちは今から何かをしようとしているが、神はすでに働いておられる、その働きがどこで、どういうふうに働いているか、それに気づく努力が必要である。つまり聖霊の働きに気づくこと。そして、聖霊は何か新しく生まれようとしているときに働く。そしてすでに崩れかかったところに聖霊は働いていない。わたしたちは、直面している問題の中でそれに気づく必要があると指摘。今、教会は脱皮しようとしている、新しくなろうとしている、そしてそのとき神はいつもわたしたちと共におられる。問題はわたしたちが神と共にいるかどうかである、と結んだ。

二日間の研修会を通して、多くの意見や質問が出され、活発な討論をすることができた。信徒の大きな疑問の一つとして、司祭の間ではどのように議論され、問題解決をはかろうとしているのかがわからない、ということが目立った。初日はほとんどの参加者が宿泊するということもあって、三人の司祭を囲んで夜遅くまで意見交換を行い、二日目も六十四人の参加があり、ベリオン神父の軽妙な講話に、予定時間を超える熱気ある研修会となった。

（取材協力　水巻教会　松尾隆）

今月の意向

教皇様の意向のために祈りましょう

【一般の意向】父である神への信仰

【布教の意向】神への信仰に基づく世界の連帯

【日本の教会の意向】紀元二〇〇〇年の大聖年の準備

北九州地区信徒使徒職協議会研修会

明日の教会に向けて、そのありかたを考える

１０年後、司祭の数は半分に減る！？

一月二十三日十八時から二十四日十二時まで、新田原教会（行橋市 主任 竹森勇神父）テレジア館において、北九州地区信徒使徒職協議会（会長 川島晋二、指導司祭 平田寛神父）主催で一泊研修会が開催された（＝写真）。

前回九十八年十一月に開催した地区研修会に続く二回目で、対象を小教区の役員に絞り「明日の教会に向けて、そのありかた」と題し、教区広報担当山元眞神父、黒崎教会主任Ｌ・ベリオン神父を招いて実施した。

一日目は三十四人が参加。山元神父が「教会の将来の姿を見る」と題して、司祭データの分析結果を基に講演した。

山元神父は、司祭の年齢を基にしたデータから予測されることとして、①現在福岡教区で働く全司祭は九十三人いるが、二〇一〇年には五十四人の司祭が引退年齢に達する（教会法による引退年齢は75歳）。②教区司祭（三十七人）に関して見れば、向こう十年の間に十八人の司祭が引退年齢に達するが、その間に生まれる司祭は三人から、よくて五人。つまり、十年後には小教区を担当する教区司祭は現在の半数以下にまで減少する。実際には二〇〇七年には現在の約半数の教区司祭は引退年齢に達する。

以上の分析をもとに、司祭の高齢化、現在の小教区制、幼稚園のことについても、問題提起がなされたが、もっとも大切な問題として、「教会には福音宣教の使命がある。こういった現状にありながら、外に向かって力強く宣教しなければならない現実があり、そのことを考えるとき、この問題はもっと深刻になる」と指摘した。

二日目は、九時のミサ参加後、十時から黒崎教会のベリオン神父の講話があった。ベリオン神父はまず、今のわたしたちの教会を見ていると様々な問題をかかえているし、危機に直面しているのに、そのことについて考えるよりも、小さなことにこだわっている教会の姿が目の前に映ると指摘。前夜の山元神父の話を出発点に、三つの要点について話した。

①情報を正確に信徒に伝える
②わたしたちは今から教会の中で何をすればよいかを考える
③神はすでに働いておられる、ということに気づく

ベリオン神父は、講話の中で、通夜について具体的事例をあげ、一つの方向を示した。いつも神父が出かけていき、執り行う必要があるだろうか。時によっては神を求め、教会を訪ねて来た人たちを置き去りにしている現実にジレンマを感じる。この現実をまず全員に知らせ、信徒を養成することによって、通夜などを信徒に任せることによって、解決する方法もある、と話し、すでにそのための信徒養成を始めているとの報告があった。

また、これからの司牧・宣教において山元神父は、信徒にできることは信徒に任せる方法も考える時期にきている、と指摘。それは司祭の数が減少していく中で、司祭本来の使命である福音宣教するためにも、また、信徒の使命と役割、教会とは本来何なのか、再考する必要があると指摘した。

結びとして、わたしたちは今から何かをしようとしているが、神はすでに働いておられる、その働きがどこで、どういうふうに働いているか、それに気づく努力が必要である。つまり聖霊の働きに気づくこと。そして、聖霊は何か新しく生まれようとしているときに働く。そしてすでに崩れかかったところに聖霊は働いていない。わたしたちは、直面している問題の中でそれに気づく必要があると指摘。今、教会は脱皮しようとしている、新しくなろうとしている、そしてそのとき神はいつもわたしたちと共におられる。問題はわたしたちが神と共にいるかどうかである、と結んだ。

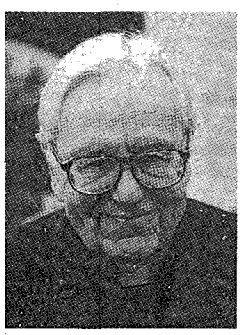
二日間の研修会を通して、多くの意見や質問が出され、活発な討論をすることができた。信徒の大きな疑問の一つとして、司祭の間ではどのように議論され、問題解決をはかろうとしているのかがわからない、ということが目立った。初日はほとんどの参加者が宿泊するということもあって、三人の司祭を囲んで夜遅くまで意見交換を行い、二日目も六十四人の参加があり、ベリオン神父の軽妙な講話に、予定時間を超える熱気ある研修会となった。

（取材協力　水巻教会　松尾隆）



司祭養成60年！

J・ツルデル神父帰天



ジャック・ツルデル神父（聖スルピス会）はカナダ・モントリオール市内の病院で療養中のところ、一月十九日午前二時十五分（現地時間）、急性肺炎のため帰天した。享年九十二歳。

J・ツルデル神父は現福岡サン・スルピス大神学院の創立当初から会計として尽力し、六十年余の長きにわたって司祭養成にたずさわり、昨年十一月二十五日健康上の理由によりカナダへ帰国したばかりであった。

ツルデル神父は一九〇六年十二月五日、カナダはケベック州サン・ブロスベルに十二人兄弟の五男として生まれ、一九三一年五月二十六日に司祭叙階。一九三六年に来日、翌年にはレジェ神父らと共に大牟田市に予科神学校を開設した。

太平洋戦争が始まると同時に軟禁され、終戦まで長崎、神戸で抑留生活を送った。

一九四五年、抑留を解かれて一旦帰国したが、翌年再来日。一九四八年からは会計として、サン・スルピス大神学院の開設に貢献。用地の購入、校舎・聖堂の建設のために東奔西走、一九五一年に現在地に移ってからは、特にラテン語の教授、聖歌の指導に従事しながら、「羅典文法」やその演習編などを出版した。

五十年前の聖フランシスコ・ザビエルの来日四百年記念祭では、平和台で約六百人の大合唱団を指揮したことをある。

九四五年に司祭叙階。

一九五一年に来日してからは東京、福岡、大阪三教区で十三小教区の主任・助任を歴任。福岡教区では手取・健軍・人吉教会で宣教と司牧に従事した。

葬儀ミサ・告別式は一月十日、池長潤大司教司式により、屋形町教会で行われた。

T・フィッシャー神父

聖コロンバン会のトマス・フィッシャー神父（和歌山・屋形町教会）はさる一月七日午前九時三十分、急性心不全のため帰天した。享年七十七歳。

フィッシャー神父は一九二一年にアイルランドに生まれ、一

司祭異動

一月二十七日付け◆セバスチャン川添猛神父は大江、崎津教会主任に加えて本渡教会主任兼任◆ペトロ川原拓也神父は大江、崎津、本渡教会助任を兼任（いずれも長崎大司教区所属）

一九九九年二月十一日「世界病者の日」教皇メッセージ

愛こそ神への道

毎年二月十一日は「世界病者」の日。今年はレバノンのハリッサの聖母聖堂で祝われる。教皇は恒例のメッセージを送り、神と人々への愛の「義務」について説いた。


文書に署名する教皇ヨハネ・パウロ2世

愛する兄弟姉妹の皆さん、

1 一九九九年二月十一日の「世界病者の日」は、定着しつつある伝統に従い、重要な聖母の聖堂で最も厳粛に祝われます。今回、ベイルートを見渡す丘の上に建つハリッサの聖母聖堂が選ばれたことには深い意味があります。この聖堂のあるレバノンという国は、「一つの国以上の存在であり、自由のメッセージであると同時に、東と西の多元的共存の好例」なのです。

ハリッサの聖母マリア像は、イエスが「み国の福音をのべ伝え、民衆のありとあらゆる病気や患いをいやされた」（マタイ4・23）地方にきわめて近い、地中海の海辺をいつも見守っています。また、この近くには、「神の国をのべ伝え、病人をいやしなさい」（ルカ9・2）というキリストの命令に従っていつも無報酬で医療を施し、聖なる文無し医者と呼ばれた殉教者のコスマとダミアノの墓があります。

二〇〇〇年の大聖年の準備として、一九九九年は父である神についてのより深い黙想にあてられます。使徒ヨハネがその第一の手紙で繰り返しているように、「神は愛」（一ヨハネ4・8、16）です。この神秘を黙想することによって愛という対神徳が強められますが、その愛は神と隣人への愛にほかなりません。

2 教会がこのような視点から、第二の千年期の終わりを間近にして、貧しい人や心身の苦しみを負う人を優先して選ぶとき、まさに福音への「真の回心の旅」に出るのです。それは、「神と隣人への愛の完全な模範」であるイエスの母のあとに従い、愛の文明の建設のために働くすべての人の一致への望みを確実に深めることでしょう。

今日、キリスト者の一致と人類の愛の交わりの出会いを象徴するのに、レバノン以上にふさわしい場所があるでしょうか。レバノンでは、異なる伝統を持つカトリックの共同体や種々のキリスト者共同体が共存しているだけでなく、他の多くの宗教も存在しています。ですから、レバノンは、人々の「人間的、道徳的成長という視点から、共存と協力の未来をともに建設するための」いわば実験室なのです。

こうしてレバノンで祝われる世界病者の日は、被造物である人間の限界ともろさを何よりも際立たせることにより、相互の連帯を叫び求める状況に対して普遍教会がどのように奉仕すべきかを自ら問い直すよう求めているのです。したがって、この日は、御父と根本的な愛のおきてとを思い巡らす大切な時となります。わたしたちは皆、愛のおきてを守ったかどうかを問われる日が必ず来るからです（マタイ25・31―46参照）。わたしたちの目指すべき模範として、隣人愛のおきてを完全に理解するかぎとなるよいサマリア人の姿をイエスご自身が示してくださいました（ルカ10・25―37参照）。

3 今回の世界病者の日は、愛の義務についての意識を高めることに力点が置かれます。種々の教派に属するすべてのレバノン人キリスト者と敬虔なイスラム教徒の巡礼地となっているハリッサの聖母聖堂では、その点を強調した黙想、学習、祈祷集会が開催されるでしょう。病人、苦しむ人、周辺に追いやられた人、貧しい人、困窮している人を世話するために、教派や宗教を超えて一致協力することは最も緊急に必要なことであり、同時にそれはこれまでの経験が示すように、エキュメニズムにあっては最も容易に実現が可能なこととともなっています。この道程を通じて、レバノンのようなところでは、キリスト者間の「完全な一致」が追求されるだけでなく、諸宗教間の対話の可能性も開かれることでしょう。相異なる信仰が「明らかにいくつもの人間的、精神的価値を共有」しており、そのことがまた「宗教上の重要な違いを乗り越えて」、何よりもまず、彼らを結び合わせているものを明らかにしていくに違いありません。

4 健康と救いは人間の最も強い願いですから、健康の分野においてこそあらゆる段階の人間の連帯を強化することができるという現実も、また、差し迫った優先事項も少なくないということもむしろ当然のことです。「人類への愛のより大いなるあかしとしての役割を担わせるため、教会の保健医療活動組織についての本格的な徹底調査を行う」ことが求められています。苦しんでいる人の期待にできるかぎりこたえるためには、何よりもまず、彼らが、共感に基づく理解、しっかりと支える愛、危険をものともしないほどの献身を待ち望んでいることを受けとめなければなりません。神の父性についての黙想が、病者には希望を与え、病者を世話する人々にとっては愛の気配りをはぐくむ修練の場となりますように。

5 あらゆる年齢の、そしてさまざまな状況に置かれている病者の皆さん、あらゆる種類の病気、災害、悲劇の被害者である皆さんに、わたしはいつくしみ深い父なる神のみ手に身をゆだねるように心から勧めます。わたしたちは、いのちが神の愛の崇高な表現として御父から与えられたたまものであること、そしてどんな状況にあってもたまものであり続けることを知っています。わたしたちの目標は自らの限界のためにしばしばあいまい、不確かになることもありますが、自分自身が大きな責任をもって下す選択はこの確信によって導かれていなければなりません。詩編作者の招きも同じ確信に基づいています。「あなたの重荷を主にゆだねよ、主はあなたを支えてくださる。主は従う者を支え、とこしえに動揺しないように計らってくださる」（詩編55・23）。詩編の注解で聖アウグスチヌスはこう書いています。「あなたは何を心配しているのですか。何を恐れているのですか。あなたを創造されたかたが世話をしてくださいます。あなたがこの世に存在する前からあなたの世話をしたかたは、あなたが神の望まれるとおりになったとき、世話をしないということがあるでしょうか。今やあなたは信者ですから、正義の道を歩んでいます。したがって、悪人の上にも善人の上にも太陽を昇らせ、正しい人の上にも不正な人の上にも雨を降らせるかたが、あなたの世話をしないということがあるでしょうか。信仰によってすでに正しく暮らしているあなたを、神がおろそかにしたり、見捨てたり、置き去りにしたりするでしょうか。むしろ神はあなたを祝福し、助け、必要なものを与え、災いから守ります。あなたにたまものを与えて、最後まで歩み通すことができるよう励ましてくださいます。また、あるときは逆に取り上げることで、あなたが滅びてしまわないように、あなたを矯正してくださいます。神はあなたのことを心にかけています。心配してはなりません。あなたを創造された神はあなたを支えてくださいます。あなたの創造主の手から落ちないようにしてください。もし落ちるようなことがあれば、あなたはだめになってしまいます。しかし、あなたの善い意志が創造主の手のうちにとどまるようにあなたを助けるでしょう。…あなた自身を神にゆだねなさい。虚無のなかに落ちるなどと考えてはなりません。そんなことを想像してはいけません。神は言われました。『わたしは天と地を満たす。』神はあなたを決して見捨ててはいません。神を見捨ててはいけません。自分自身を見捨ててはいけません」。

6 保健医療関係者の皆さん、医師、薬剤師、看護婦、病院付司祭、男女修道者、管理職にある人もボランティアのかたがたも、皆さんは召し出しと専門的な働きによって、人間のいのちの保護者、奉仕者となるよう求められています。わたしはもう一度、キリストの模範をさし示します。キリストは、御父からの限りない愛の至上のしるしとして遣わされ（ヨハネ3・16参照）、「人々に、苦しむことによって善をなし、また、苦しむ人に善を施すことを教えられました。この二面性のなかで、キリストは苦しみの意味を完全に明らかにされました」。

試練のなかで苦しんでいる人への愛のかかわりをとおして、苦しみの秘義に対するあなたがたの理解が深まりますように。痛みを共感し、相手の身になって献身的な対応をすることができますように。このいのちへの奉仕にあたっては、だれとでも協力できるように心を開いていてください。なぜなら、「いのちという課題、そしてそれを擁護し推進することは、キリスト者だけの関心事ではありません。…いのちには確かに神聖で宗教的な価値がありますが、その価値は信仰者たちだけが抱く関心にとどまりません」。苦しんでいる人はひたすら助けを求めているのですから、愛の手をさしのべる人がだれであっても、心から協力してことにあたりましょう。

7 教会共同体の皆さん、「御父の年」を、全教会をあげての愛の実践、愛の活動の年としてください。アンチオケの聖イグナチオはエフェソの教会の信徒たちに、愛こそ神への道であると書いています。信仰と愛とはいのちの起源であり、完成です。信仰は起源であり、愛は完成です。すべての徳はこの二つの徳と助け合って人間を完全へと導いていきます。聖アウグスチヌスはこう教えています。「あなたがもし聖書を読むことができず、神のことばが記されている巻物を開くこともできず、また、聖書のあらゆる秘義を理解できないなら、愛をもちなさい。すべてのもとは愛です。こうしてあなたはそこで学んだであろうことを知るばかりでなく、まだ学ぶことのできなかったことについても知ることになるでしょう」。

8 この世界病者の日にあたり、おとめマリア、ハリッサの聖母により頼みます。苦しむすべての人の近くに崇高な模範としてともにいてください。病者への奉仕を通じてキリスト教の信仰をあかしする人々を支え励ましてください。母の愛をもって慈悲深い御父の家へすべての人を導いてください。苦しむレバノンの民衆を見守ってください。この国に再び花開いた希望を通じて、愛のいやしの力への新たな信頼を世界中に植えつけ、すべての人をあなたの愛で温かく包み込んでください。これから始まる新しい千年期が、神の愛の崇高な創造である人間への新たな信頼の時代を開き、人間が愛のうちにおいてのみ、自らの人生と運命の意味を再発見することができますように。

バチカンにて
教皇ヨハネ・パウロ二世
（カトリック中央協議会　事務局訳）

＊本文にある注は省略しました。

信徒宣教者としてペルーで働く

人 大橋美智子さん



ペルーのスラム住民の自立のために働く女性がいる。吉塚教会所属の大橋美智子さん。

カナダ人宣教師、故シュルツ神父（スカボロ会）に英語を習っている時、受洗し、自分も教師として生きることを希望。カナダのトロント大学で神学を学び、信徒宣教者に。

「一大決心」をしてペルーに渡ったのは一九八四年。現在、ペルーの首都リマの北二〇キロにあるバイヨ市のスラムで信徒宣教者として働いている。

大橋さんの仕事は、現地の人々が計画して少しずつ自立をしていくのを、同伴者として見守っていく、そのような援助スタイルをとる。生活の場は、共同台所。他に、あみもの教室、ぬいぐるみ教室、識字教室、職業訓練校、理容実習、洋裁教室、靴作りなどをサポートする。

時々、支援を求めて帰国するが、今回は体調を崩して昨年十一月に帰国。教会関係以外にも、学校や国際ソロプチミスト福岡―南など、民間団体などからも支援を受け、元気で一月二十一にペルーに旅立った。

日本では民間支援組織「プエブロ・ペルーの会」が大橋さんの活動を援助している。連絡先は、同会事務局（代表 黒崎久美子）☎0425・46・0668 FAX 42・2885）

福岡市生まれ。福岡雙葉学園卒。OL時代に受洗。トロント大学で神学を学ぶ。84年、信徒宣教者としてペルーへ。現地の神父、シスターと共にスラムでキリスト教基礎共同体づくりにかかわる。吉塚教会所属。

'99年四旬節 黙想会のお知らせ

① 2月26日(金) 16:00 ～ 28日(日) 昼食後 ＜ガブリエル神父＞
② 3月6日(土) 16:00 ～ 7日(日) 15:00 ＜来住神父＞
③ 13日(土) 16:00 ～ 14日(日) 15:00 ＜来住神父＞
④ 20日(土) 16:00 ～ 21日(日) 15:00 ＜来住神父＞
★四旬節中、毎金～土は、マテオ神父が個人指導を行います。
★四旬節中、毎週火10:00～10:45／12:30～14:00（3月2日は休み）『ゆるしの秘跡』
聖なる3日間と主の復活を祝う
⑤ 4月1日(木) 16:00 ～ 4日(日) 昼食まで ＜畠 神父＞

【申込・問合せ】TEL 0940－32－3222
【受付】月～土／9:30～17:00

福岡黙想の家 〒811－4155 宗像市名残1056 TEL 0940(32)3222 FAX 0940(32)3385

有限会社 共立総合防災
＊消防設備 設計・施工
＊電気工事 保守点検
〒810-0044
福岡市中央区六本松3－11－33
代表取締役 ヨハネ 土本政実
☎会社 092-761-5885 自宅 092-863-1289

別れ・出逢い・旅立ち
草苑 (SOU-EN)
ご葬儀
木下株式会社
TEL092－526－5656
〒810-0016
福岡市中央区平和3丁目1-5

ディエゴ加賀山隼人の列福・列聖を求める動き

―典礼担当司祭が経緯を説明―

一九八一年ヨハネ・パウロ二世は来日のおり、再三、日本の殉教者について語った。日本カトリック司教協議会は、これを時のしるしとして捉え、一九八二年に下調査を始め、一九八四年にはローマ聖座の承認を得て、全国に網羅される一八八人の列福調査が進められた。そのために列福調査歴史委員会が発足し、「キリシタン地図を歩く―殉教者の横顔」が発刊（一九九一年一月）。さらに、一九九五年十月には「愛の証―ペトロ岐部と一八七殉教者」が殉教者列福調査委員会より発刊され、先輩たちの遺徳を知り、列福運動が高まり、一日も早く、彼らが列福されるように願われた。

小倉教会（北九州市、主任 平田寛神父）では、それに先駆け、一九九五年二月五日に加賀山隼人の生涯についての講演会が行われたが、その後、それほどディエゴ加賀山隼人の列福運動は行われず、時は流れ、一昨年、大聖年直前の三年間を迎えるに当たって、ヨセフ松永久次郎司教の意向のもと、豊前小倉ディエゴ加賀山隼人正興長（かがやまはやとのかみおきなが）の早期列福・列聖を求めて列福祈願司教ミサ（一九九七年十月十二日）が捧げられ、顕彰奉仕会が発足した。

また、顕彰奉仕会は、昨年、急ぎ小倉の地で殉教したことをしるす殉教地（標石（しるべいし））碑《一九九八年五月二四日祝別》と合わせ、最初に北九州地区の各教会へ案内と祈りと献金を要請した。さらに、小倉教会の庭にあった聖母像を「殉教者の聖母」と命名して殉教者への導きとご保護を願い移設した。そして、一九九八年十月十一日には、西日本地区の教会に案内を送り、二回目の列福祈願司教ミサが捧げられ、その折り、殉教顕彰碑（殉教地に赴くの図）《一九九八年十月十一日祝別》を設置した。

今後、元和（げんな）五年（一六一九年）十月十五日に殉教したことを心に留め、列福祈願司教ミサが十月の第二日曜日に捧げられることとなった。

今年一月一日付けで、ディエゴ加賀山隼人顕彰奉仕会への賛助会員入会（祈りと献金）の趣意書、顕彰会、列福祈願ミサの「聖書と典礼」、例会の祈りの手引き等について松永司教の承認（祝福）を得、奉仕会としての心を新たにし、ディエゴ加賀山隼人列福・列聖を求めて、祈り（修徳）と顕彰に努めることを決意し、今年初めての例会を一月十日にもった。



日本188殉教者列福調査歴史委員会編「キリシタン地図を歩く―殉教者の横顔」監修 溝部脩 発行 ドン・ボスコ社 980円（税込）

昨年暮れ、松永司教は、殉教者ディエゴ加賀山隼人列福・列聖を求めるにあたって、以下のような考慮すべき大切な点を示唆した。

「顕彰奉仕会の活動が行き過ぎて、列福、列聖の妨げとならないように、注意することも大切です。たとえば、福者または聖人の位に挙げられていない者に対して、公式の祈願を求めることは認められていません。このことを理解してほしいと思います。

顕彰することによって殉教者に学び、信仰の証し（生き方）がわたしたちの生き方となり、殉教者が信者にとって飾りとなるのではなく、信仰に生きる基となるように。

列福または列聖されると、わたしたちは身近な郷土の殉教者の名を公式に呼んで、その代祷を願うことができるようになります。これは地元の信者にとってたいへん好ましいことと思います。それで、わたしたちは、その日が一日も早く来ることを願って、この運動を続けているのです。

なお、殉教者の顕彰と列福・列聖を求めて祈るのは出身地の教区・教会ではなく、殉教地の教区・教会であることを間違わないように。たとえば、日本二十六聖人は出身地ではなく殉教地である長崎・西坂教会で讃え、祝われているように。殉教地である小倉において列福運動が祈りと犠牲のうちに進められ、列福・列聖の折りには神の民として神への賛美と感謝のうちに取り次ぎを願える日が一日も早く実現できるように努めてほしい。」

今年から顕彰奉仕会は、殉教者豊前小倉ディエゴ加賀山隼人に学び、祈りのうちにその生き方に倣い、生活を改めることができるように、顕彰会をまず北九州地区の教会で行えることを願っている。また、十五日の命日を偲び、小倉教会で二月から毎月十五日午後七時から列福祈願ミサを捧げ、その後、顕彰奉仕会の例会を行う。多くの参加者を待っている。

最後に、豊前小倉のディエゴ加賀山隼人の列福運動が、熊本・花岡山の小笠原玄也・マリアみや一家の列福運動との交わりの中で、豊かな恵みをいただき、ディエゴ加賀山隼人殉教者三八〇年、聖フランシスコ・ザビエル渡来四五〇年、大聖年直前の最後の年のよき準備となるよう切に願っている。

一九九九年一月

（殉教者豊前小倉ディエゴ加賀山隼人顕彰奉仕会 典礼担当司祭 深堀 勝人）

黙想の家でゆるしの秘跡を

今年は紀元二〇〇〇年の大聖年を迎える最後の準備の年。教皇をはじめ、松永教区長も、いつくしみ深い天の御父のもとに立ち返るため、「ゆるしの秘跡」を大切にするよう、呼びかけている。このような流れの中で、この度、黙想の家で「ゆるしの秘跡」のための時間と場が設けられた。来住（きし）英俊神父から編集部に届けられた文章を掲載する。

・・・・・・・・・・

東京では、イグナチオ教会で毎日、夕方、司祭が告解室で待機しています。いつでも、そこへ行けば、ゆるしの秘跡が受けられるのです。これは神の民へのよいサービスです。

自分で個々に、司祭と面会の約束をとりつけて、ゆるしの秘跡を受けるのは、信徒の心理としては難しいことのようです。事柄が深刻である場合こそ、それができないでしょう。共同回心式では、その問題はありませんが、後ろで待っている人のことも気にかけなくてはならないから、ゆっくりと話すことができません。しかし、もし、そういう時間と場所が設けられていれば、信徒はそこに出かけていくだけでいいのです。

福岡でも、黙想の家で、そのようなサービスができないかと思っていました。少し遠くても、それを必要としている人びとがいるのではないでしょうか。

そこで、この四旬節の間、黙想の家では、毎日とはいきませんが、毎週火曜日にゆるしの秘跡の時間を設けることにしました。

午前十時～十時四十五分
午後十二時三十分～二時

に司祭が決まった場所で皆さんをお待ちします（但し、三月二日は休み）。どうぞ、いらしてください。

神のゆるしは、生きる力です。人間の決心や反省だけでは同じ所をグルグル回るばかりです。神のゆるしを受けて、新たに歩んで行こうではありませんか。神様は何度でも、新しく始めさせてくださいます。

なお、黙想の家は毎火曜日を『祈りの日』としています。これはミニ黙想会のようなもので、ミサ、十字架の道行、聖体顕示などを行っています。そちらも参加されれば、神のゆるしの意味が深まるでしょう。

（御受難会司祭 来住英俊）

若者、信徒、女性に期待

福岡教区修道女連盟研修会

一月十五日の成人の日、福岡教区修道女連盟（会長 シスター木村ナミ子）主催による修道女のための研修会が、カテドラル大名町教会で行われた（＝写真）。那覇教区長、押川壽夫司教が「アジア・シノドスから光を受けて！ 21世紀の福音宣教とは」のテーマで午前と午後の二回にわたって講演した。

押川司教は、「キリストが救い主として新しい世代にどのように生まれるか、一人ひとりの中に生まれたイエスをどのように示していくか、これからのアジアに大きな期待がかかっている」と強調。また一般信徒の宣教者を有しているのがアジアであることから「アジアの若者、女性、一般信徒が、宣教の担い手である」とアジア的視点で福音宣教への大きな希望をふくらませた。さらに「地方教会でキリストは、どういう顔をもっているか。アジアの持つ文化は、癒し、ゆるし、受け入れる力を秘めている。日本人の心に、受肉されやすいキリストの姿を見せることが福音宣教である」と、福音と文化の関係を説いた。

押川司教のおだやかな雰囲気、暖い人柄と長い司牧の体験、貫かれた信仰、その生き方が、参加者百二十余名の心を包み、深い感銘を与えた。信仰の喜びを生き、伝える恵みと勇気を再び燃え立たせ散会した。

（取材協力シスター木村ナミ子）



マルガリタ山川ツル様

二日市教会主任の山川辰幸神父の母堂。十二月十日に五島岐宿打折の自宅で帰天。翌十一日に通夜が行われ、十二日に水ノ浦教会で葬儀が執り行われた。福岡教区からは松永司教はじめ、数人の司祭と信徒が参加した。享年94歳。

神さまと人々のために

聖パウロ修道会 志願者募集

聖パウロ修道会は、社会的コミュニケーションを通して福音宣教を行う修道会です。現在、サンパウロ（旧：中央出版社）を中心に活動しています。将来の修道者（司祭、修道士）を希望するカトリック信者の男子志願者（新中学生以上）を募集しています。手続きなど詳しくはお問い合わせください。

〒810-0033
福岡市中央区小笹4-11-11
聖パウロ修道会福岡修道院
☎ 092-531-0924
FAX 092-524-6169
院長 Fr. 百村 等
担当 Fr. 杉原 寛信

福岡カトリック神学院 生徒募集

神学院入学を希望する者は、下記の条件が必要ですので、主任司祭と相談の上、福岡カトリック神学院までご連絡ください。

【入学条件】
①司祭を希望するカトリック信者の男子（来年3月に小学校卒業予定の現小学6年生以上）
②主任司祭の推薦
＊途中編入も可

詳しくはお問い合わせください。
〒810-0028
福岡市中央区浄水通38
福岡カトリック神学院
☎ 092-531-6821
FAX 092-524-7373
院長 Fr. 山元 眞

BOOK 読みま専科

★アッシジの聖フランシスコ
永井 明著



十二世紀にイタリアのアッシジに生まれ、「聖貧」と愛徳に基づいて一生をおくった聖フランシスコの精神は、混乱した現代の社会がもっとも必要とするものではないだろうか。

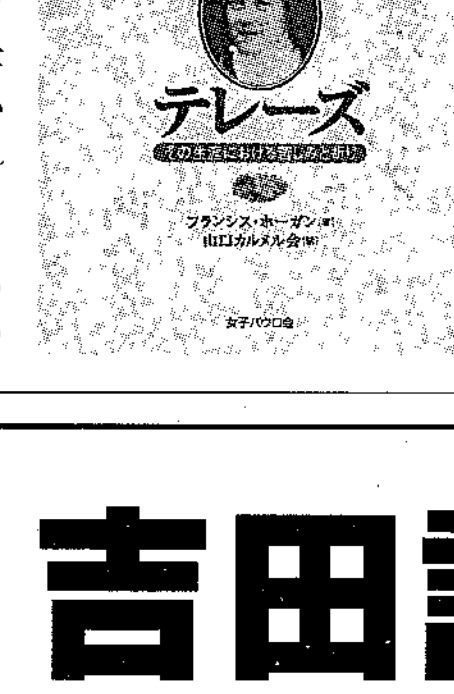
この伝記の著者は、偉大な聖フランシスコの聖貧と愛徳の精神を、とくに日本の若い人々に理解してもらうため、なめらかな文体で、やさしく語り、楽しい読み物としている。

手ごろな文庫本で二三三頁。

サンパウロ 税別六八一円

◇　◇　◇

★テレーズ
その生涯における苦しみと祈り
フランシスコ・ホーガン著
山口カルメル会訳



聖女について書かれたものの多くは苦しみについてよりも、むしろそのほほえみ、霊的生活の容易さなどに強調点を置いている。彼女は、自分の書いたものがこのように誤解され、その生涯が容易な面から見られる危険を知っていた。とはいえ、テレーズにとって苦しみが全てではなく、愛が全てであった。苦しみは愛のためにささげられる時にのみ意味があった。多くの苦しみを神に捧げたとは言わず愛のみを捧げたといった。

女子パウロ会 税別一二〇〇円

ジャパンスマイルか 株式会社
不動産/管理・仲介・売買・建設/一般建築
〒810-0044 福岡市中央区六本松4-9-4
TEL092-761-8800
代表取締役 マルガリタ・マリア 吉田由利子

吉田設計 株式会社
建築設計/企画・設計・監理
〒810-0044 福岡市中央区六本松4-9-7
TEL092-711-0550
代表取締役 ヨゼフ 吉田豊博

祭壇・洗礼盤他
素材 ｛ 大理石 御影石 その他
石のパイオニア
高木石材株式会社
〒860-0006 熊本市段山本町2-21
TEL096-352-2417

会合と催し

教区年間テーマ：父である神を共にほめ賛えます

2月

2日（火）主の奉献［祝］
司祭評議会［司教館別館10時30分］
顧問会
路上生活者への炊き出し（2月中の火･金）■
5日（金）日本26聖人殉教者［祝］
6日（土）聖アガタおとめ殉教者［記］
7日（日）年間第5主日
10日（水）聖スコラスチカおとめ［記］
11日（木）ルルドの聖母［任］／世界病者の日／建国記念日
司祭叙階式［カテドラル14時～］
14日（日）年間第6主日（聖チリロ・聖メトジオ）
＋J.オマラ［荒尾教会1974］
16日（火）＋J.ボア［黒崎教会1957］
17日（水）灰の水曜日（四旬節）大斎・小斎
21日（日）四旬節第1主日
22日（月）聖ペトロの使徒座［祝］
＋F.ベルトラン［門司港教会1940］
23日（火）聖ポリカルポ司教殉教者［任］
＋パウロ糸永武男［今村教会1992］
26日（金）今村信徒発見記念日
＋F.ドルエ［八王寺教会1983］
＋G.オーブリ［大神学院院長1985］
28日（日）四旬節第2主日
浄水通教会堅信式
＋マルチノ青木保［浄水通教会1997］

3月　聖ヨセフの月

2日（火）松永司教霊名祝い［浄水通教会11時］
＋R.ミケレ［鹿島教会1987］
＋J.オブライエン［手取教会1990］
6日（土）＋H.ジョリ［久留米教会1966］
7日（日）四旬節第3主日
8日（月）聖ヨハネ・ア・デオ
12日（金）＋F.M.ヴェイヨン［唐津教会1973］
14日（日）四旬節第4主日
16日（火）＋L.M.ベリボ［箱崎教会1977］
17日（水）聖パトリック／長崎の信徒発見記念日
19日（金）聖ヨセフ［祭］松永司教霊名の祝日
＋J.ベラス［水俣教会1990］
＋M.ボア［新田原教会1959］
21日（日）四旬節第5主日／春分の日
25日（木）神のお告げ［祭］
26日（金）＋J.ドイル［荒尾教会1982］
＋J.ムルグ［小倉教会1989］
28日（日）受難の主日（枝の主日）／聖週間
世界青年の日
29日（月）受難の月曜日
30日（火）受難の火曜日／聖香油ミサ［カテドラル15時］
31日（水）受難の水曜日

＊＊＊　4月4日（日）復活祭　＊＊＊

■印は本面に詳細説明あり

福岡

■カテキスタの集い［日時］2月7日（日）13時30分～15時30分［場所］福岡カトリック神学院［講師］山元眞神父（同神学院院長）［テーマ］四旬節に関する資料をお持ちくだされば幸いです［問合先］福岡カトリック神学院☎092・531・6821 FAX524・7373
★次回は3月7日（日）
■福岡パストラルケア研究会2、3月は休会。［問合先］事務局（シスター箕浦☎092・871・4943大神学院）
■福岡地区・召命を共に祈る会［日時］2月8日（月）14時～16時［場所］浄水通教会（ロザリオ）・司教館（集い）［問合先］青木悟神父☎092・522・5139（教区本部）
■炊き出しのお知らせと協力のお願い［日時］2月の火曜日、金曜日（計8回）［内容］①調理（15時～17時、大名町教会厨房）②配布（20時30分～22時、博多駅・天神界隈）③献品（米、卵、アルミホイル、サランラップ、紙コップ、ホッカイロ、毛布、下着＊厨房の炊き出し用の箱にお入れください）④献金（司祭へ預けてください）［主催］「2月の熱いスープ」の会［問合先］責任者・佐田一兵（大名町教会所属☎092・933・6545
■聖ヨアキム・聖アンナ信心会［日時］2月18日（毎月第3木曜日）13時15分～15時［場所］聖クララ寮聖堂（福岡市南区塩原）［主宰］信心会会長・樋口康子（東京教区）［指導］恵美漸吉神父（サレジオ会）［内容］聖体顕示、ロザリオの祈り、黙想など。ミサ（ある場合は14時～）。［会費］無料［問合先］松尾一行☎092・714・7218
■チャリティーコンサート～バングラデシュの子どもにおくる愛の歌～［日時］2月21日（日）13時～［場所］NTT夢天神ホール（岩田屋Zサイド7階）［内容］一部―バングラデシュと手をつなぐ会・現地訪問ビデオ紹介、二部―本田路津子・歌［入場料］一般・二〇〇〇円（前売り一五〇〇円）、学生以下・一五〇〇円［問合先］バングラデシュと手をつなぐ会☎092・844・1369または「にのさかクリニック」☎872・1136
■四旬節黙想会［日時］2月26日（金）～28日（日）午前の部10時～12時30分、夜の部19時～21時30分（日曜日・9時ミサ司式と説教、ミサ後の説教）［場所］カテドラル大名町教会［指導］雨宮慧神父（東京教区・上智大学聖書学教授）［問合先］大名町教会☎092・741・3687 FAX741・5107
■第75回福岡結婚準備セミナー［日時］2月27日（土）～3月25日（木）毎土曜・木曜日19時～21時30分［場所］カテドラル大名町教会［申込・問合先］カトリックファミリーセンター☎092・541・6207 FAX552・5022
■聖テレーズの著作を読む会［日時］2月28日（毎月第4日曜日）14時～15時30分［場所］カルメル会修道院（福岡市西区上ノ原）［問合先］カルメル会修道院☎092・807・7361［世話人］城島暁（浄水通教会所属）。尚、同日13時～13時50分キリスト教入門講座があります。
■福岡生と老い・死をみつめる会［日時］2月28日（日）14時～16時［場所］カテドラル大名町教会［内容］講話「老いて痴呆とともに」［講師］吉田寿一氏（ひまわり園施設長）［参加費］五〇〇円［問合先］事務局（大山美穂子☎092・713・8523）
■ホスピスの会 第6回会合［日時］3月7日（日）14時～16時［場所］カテドラル大名町教会4階［参加費］五〇〇円［問合先］事務局／〒815・0034福岡市南区南大橋1・8・29小林計子☎FAX092・512・8723★昼間（9時30分～17時）0942・83・2294
■典礼・聖歌と祈りの集い［日時］3月7日（日）14時～17時30分［場所］福岡黙想の家［テーマ］四旬節・聖週間の聖歌［指導］深堀純氏（大名町教会）［会費］一〇〇〇円［主催］福岡典礼聖歌研究会［問合先］福岡黙想の家☎0940・32・3222 FAX32・3385
■第10回徹夜祈祷会［日時］3月20日（土）～21日（日）［場所］福岡カトリック神学院・浄水通教会★詳細は次号に掲載

北九州

■ディエゴ加賀山隼人列福祈願ミサ・顕彰奉仕会［日時］2月15日（月）19時（毎月15日）［場所］小倉教会［問合先］小倉教会☎093・921・0093 FAX921・0139
■第13回お母さんの集い［日時］2月22日（月）10時30分～13時［場所］小倉教会聖堂［テーマ］希望よ 生命をありがとう［講師］上田蔦枝（重度障害児の母・カトリック信徒）［内容］講話とミサ［参加費］五〇〇円［問合先］福吉三代子☎093・962・1395

佐賀

■第6回聖書を読む会［日時］2月4日（毎月初木曜日、3月まで）10時～11時30分・19時30分～21時［場所］カトリック佐賀教会（信徒会館）［テーマ］希望に生きる［講師］A・アレグリーノ神父［テキスト］聖書（旧約・新約）［対象］どなたでも［受講料］無料［申込・問合先］佐賀教会内「聖書を読む会」☎0952・23・4754
■平和をともに考える2月11日佐賀の集い［日時］2月11日（木）14時～16時［場所］佐賀カトリック幼稚園講堂［テーマ］キリスト者の反核と平和［講師］杉本雅親氏（長崎県被爆二世協議会会長）［参加費］無料［主催］佐賀カトリック正義と平和協議会［問合先］森内慎一郎☎0952・30・9015

教区外

□第4回研修セミナー　教会が神の国建設により寄与するために―障害をもつ者からの提言［日時］3月12日（金）18時～14日（日）12時［場所］日本カトリック研修センター（名古屋）［講師］古川勉神父（横浜教区由比ヶ浜教会）［発題者］後藤進神父（コムニタスの家指導司祭、肢体障害）、島しづ子牧師（日本キリスト教団、愛実の会代表）、須永成哉氏（浦和教区足利教会信徒・精神障害）［参加費］一五〇〇〇円（宿泊なし一〇〇〇〇円）★旅費については一部遠隔地補助あり［締切］2月28日［主催］カトリック障害者連絡協議会［申込・問合先］AJU自立の家、カ障連研修センター係☎052・841・5554 FAX841・2221
□雨宮慧神父講演テープ『マリアの賛歌（マグニフィカット）』は、教皇の使徒的書簡『紀元二〇〇〇年の到来54番』にもあるように、今年・御父の年を生きる私たちのテーマの一つ。昨年10月に仙台で行われた同題の講演記録集とテープが頒布されている。①記録集一〇〇〇円、②講話テープ一五〇〇円③1と2のセット二〇〇〇円（いずれも送料込）［連絡先］千葉智行☎FAX022・286・2994

日本カトリック研修センター

◎生活の中で読む聖書―教会生活における霊的、人間的成長を求めて　「ひらかれた教会」は、「キリスト中心を始点」として取り組むことが大切です。それは、キリストを中心とする「共同体作り」、「キリストの使命（心）を継続」していく取り組みだからです。そこにおけるお互いの関わり方の成長を目指します。［日時］4月22日（木）～25日（日）［指導］松田清四朗神父［定員］30人［費用］三一五〇〇円［場所］日本カトリック研修センター［申込・問合先］同右企画部☎052・831・5037 FAX831・5317

編集後記

一月は行く。二月は逃げる。三月は去る。時の経つのは早い。

2月11日(木)

司祭叙階式
糸島教会出身
牧山美好助祭
カテドラルにて
2：00PM

召命祈願ミサ

2月4日（木）19時45分、有志の会である《召命をともに祈る会》主催で、福岡教区に豊かな司祭、修道者の召命を求めて、福岡サン・スルピス大神学院で「召命祈願ミサ」が行われる。どなたでも参加できます。ミサ司式：Fr. ケルクマン（イエズス会福岡修道院）

福岡黙想の家　2月

◇3日(水)　ミカエル会
◇5日(金)～7日(日)　クリスチャンサポートグループ
◇10日(水)～11日(木)　聖母カテキスタ会黙想
◇12日(金)～14日(日)　福岡黙想の家後援会員の黙想会（14日13：30～後援会総会）
◇20日(土)～21日(日)　島根・山口地区信徒の集い
◇26日(金)～28日(日)　四旬節の黙想会〈Fr.ガブリエル〉
［問合先］黙想の家　☎0940・32・3222　FAX32・3385

黙想の家のホームページを御利用ください
◎ホームページ　http://w32.mtci.or.jp/~daneox
◎e-mail　Mail to daneox@mtci.or.jp

生命山カトリック別院

生命山では、皆様のために、美しい自然の中で、神との語らいの日々を過ごしていただきたく、黙想会を計画いたしました。ご参加ください。
■祈りの集い
日　時：②2月13日(土)　9時45分～15時
テーマ：三位一体のイコンの観想
指　導：フランコ神父
★次回は③3月11日(木)です。
■諸宗教対話活動／仏教者との交流
(A) 2月11日(木) 熊本宗岳寺
■研修会―典礼と生け花
(A) 3月21日(日)～22日(月)
＊個人、又はグループでの黙想等、常時受け付けています。
［問合先］生命山カトリック別院　☎0968・85・3100

手話通訳ミサ
毎月第4日曜日9時
（於・カテドラル　大名町教会）

COSMOS
スポーツ用品・OA・文具　コスモス
〒830-1224 三井郡大刀洗町鵜木67－3
TEL　0942－77－3199
代表者　ペトロ 平田　清

“任意保険に加入してから車の運転を致しましょう”
自動車、火災、傷害、海外旅行傷害保険、保育園、幼稚園児を守る、企業賠償保険
〒814-0153
福岡市城南区樋井川3丁目17－10
大石保険事務所　大石真澄
☎092-552-8195　Ⓕ092-541-7734

FUJIKI
未来へ――安心を創る
藤木工務店
福岡支店　〒812-0016 福岡市博多区博多駅南3-1-1　TEL 092-441-6585(代表)
取締役社長　藤木鐵三　福岡支店長　長山和博

カトリック福岡教区報

松永久次郎司教認可
発行所　福岡司教区本部
福岡市中央区浄水通39
発行人
カトリック福岡司教区
編集人　山元　眞
TEL　092-522-5139
FAX　092-523-2152
振替口座　01760-6-20729
カトリック福岡司教区
定価　一部60円

司祭誕生・神の民の喜び

司祭召命があるのは「生きている」証し

二月十一日午後二時から、カテドラル大名町教会にて、フランシスコ・ザビエル牧山美好助祭の司祭叙階式が松永久次郎司教により行われた。新しい司祭の誕生を祝う参列者で一杯になったカテドラルは、神の民の喜びに満ちあふれた。（2面「人」欄参照）

開祭を告げる鐘の響きとともに、「きょうこそ神が造られた日」の典礼聖歌が歌われる中、主司式者の松永司教、前任の平田三郎司教と約七十人の共同司式司祭と共に、受階者の牧山助祭が入堂。司祭叙階式のミサが始まった。

福音朗読の後、牧山助祭が呼びだされ、司祭候補者として認められると、「神に感謝」の言葉とともに神の民としての賛同を表す拍手が聖堂内に響いた。

続いて、司教は司祭の務めについて説明しながら、説教をした。「キリストの仕事始めは仲間を集めることであった。司祭は叙階の秘跡によって、キリストの仕事の仲間に入る。司祭は師、祭司、牧者キリストに仕える。『仕えるために』来られたキリストに仕えるのが司祭である」と諭した。

受階者は司教の言葉に耳を傾けた後、司祭として一生を生きることを約束。その後、床に伏し、参列者は天からのたまものを豊かに与えてくださるよう、諸聖人の取り次ぎを願って連願を唱えた。司式司教の祈りの後、司教をはじめ、共同司式司祭が沈黙の中、受階者の頭に按手。叙階の祈りが荘厳に唱えられ、新司祭が誕生した。

さらに式は続き、祭服の着衣、司祭職のための聖香油の塗油、ミサで使われるパンとパテナ・ぶどう酒と水とカリスの奉納と授与が行われた。

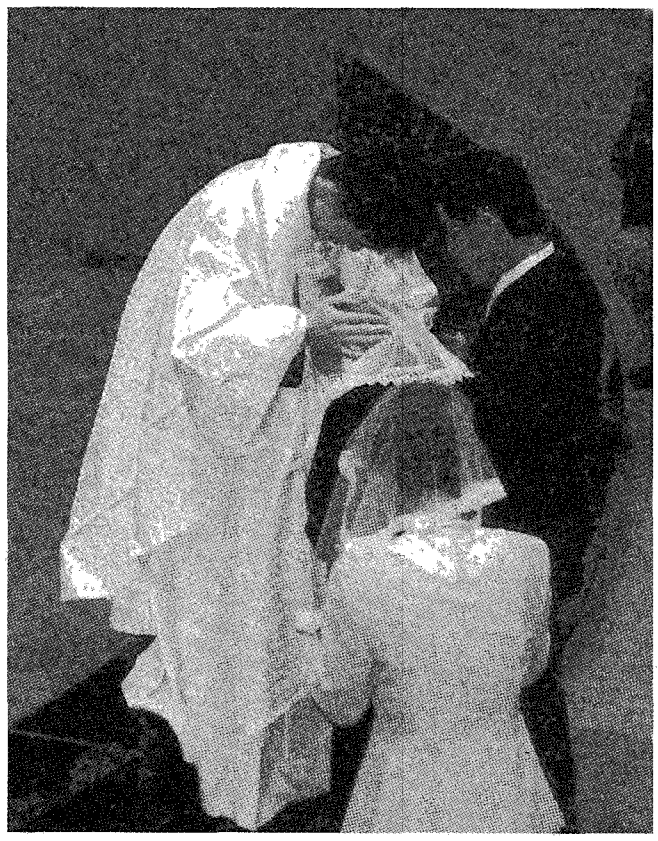
感謝の典礼に続いて聖堂で行われた祝賀式では、初めに教区長があいさつ。「司祭の召命が与えられるのは、神の民が生きている証しである。信者のみなさんは祈りと忠告、支援で司祭を支えていってほしい。新司祭には、神の国の建設、神の栄光のためにがんばってください」と励ましの言葉を送った。

続いて信徒を代表して戸畑教会の松本千弐氏が新司祭のやさしい人柄を紹介し、「司祭の高齢化や召命の減少の中での司祭の誕生は喜ばしいことであり、大いに期待している」と励ました。

司祭団を代表して西新教会の平田敬神父は「神父様は二十一世紀の教会のホープ。後輩をつくってほしい。無理をせず、ゆっくり歩んでください」と話した。

式後、カテドラル一階ホールで祝賀会が開かれた。新司祭は「恩人と親に感謝しています。これから司祭としてキリストに向かう皆さんの信仰の輪に加えてください」と謙虚に感想を語った。

牧山美好神父は一九七〇年八月二十六日生まれ。姉二人。小郡教会で受洗。姉二人。堤敏雄神父は伯父にあたる。福岡小神学校を経て福岡サン・スルピス大神学院入学。一九九六年三月助祭叙階。翌九七年三月に大神学院卒業後、戸畑教会で助祭として奉仕。今月二十八日付で大名町教会に助任司祭として赴任する。


母親に司祭として初めての祝福を与える新司祭


司教の呼び出しに「はい」と答える

教皇ヨハネ・パウロ2世
1999年四旬節メッセージ

教皇はこのメッセージの冒頭で、天の御父の配慮は天地創造の時からすべての人の救いに向けられ、イエス・キリストにおいて極みに達したことを述べ、「四旬節の歩みはこの救いの神秘を祝うための準備である」と告げる。次いで「この救いの神秘を先取りしたものが聖木曜日に祝う喜びの食卓であり、これはわたしたちが生きていく上での最終目標」であって、ここに終末的意義があることを強調する。

主はすべての民に喜びの食卓をととのえてくださる

すべての人がこの喜びの食卓にあずかるために、わたしたちは共同体としても個人としても、新しい形の貧困や緊急の諸問題に目を向け、孤独な人、暴力の犠牲者、飢えた人々が、教会の親身な関わりを通して、神の愛を体験できるよう、具体的な行動による愛を実践しなければならないと励ます。最後に教皇は、国際機関や各国政府、世界経済を動かしているさまざまな企業に対しても、地球の財貨のより公平な分配を確実に行えるように思いきった方策を実施するよう要請している。

今月の意向

教皇様の意向のために祈りましょう

【一般の意向】貧しい国の財政上の債務の削減

【布教の意向】アジアの教会とアジア世界の宗教への期待

【日本の教会の意向】ゆるしの秘跡の再認識

時の話題

牧山　強美

脳死、安楽死、臓器移植から、人工受精、クローン、遺伝子治療、出生前診断まで、現代の科学技術や医療が発展するのに伴って、その倫理的側面が常に話題となり論議されている。

人のいのちに関わる倫理の基本姿勢のいくつかを確認しておきたい。

現代の科学技術がどんなに発展したと言っても、人はまだ一個の単純な微生物さえも創造することができない。人のいのちは人知を越える方から与えられる尊いたまものであるという感覚は非常に大切なものである。「人は自分のいのちに関して、使用権のみを持っており所有権をもたない」とは、教会の伝統的表現です。子供も、親の創造物ではないし所有物でもない。受精後いつから子供（人間）と呼ばれるかは論議されるところとしても、受精の瞬間からこの受精卵は、「人間として」取り扱われなければならない。

いのちは手段ではなく目的

さらに人のいのちに優劣を付けることもできない。受精卵を凍結保存したり、単に研究対象にすることは、私が冷凍庫に置き去りにされたり、私が実験材料にされるのと同様に認識され倫理的判断が下されるべきである。

人のいのちは、不可侵のものであり、絶対的な尊重が要求される。カント的に言えば、「人のいのちは手段としてのみ用いられてはならず、常に目的としても取り扱われなければならない」。自分のいのちも他者のいのちも、別の目的（経済的目的や名声、文化や医科学の発展など）を達成するための単なる道具として犠牲にされてはならない。自分のいのちも他者のいのちも、肉的にも霊的にも健全に開花させ輝かせること、これが私たち一人一人の、また人類共通の目的であり、キリストの福音の中心的メッセージでもある。

（福岡サン・スルピス大神学院）

花岡山殉教祭への御案内

十主の平安。イエス・キリストの十字架上の御受難と御復活の栄光を黙想しつつ。

毎年、花岡山にて行われております小笠原玄也、加賀山マリアみや御一族の殉教祭を、今年は来る四月十一日（日）、松永久次郎司教様をお迎えし、左記の通り執り行うことになりました。大勢の皆様方のおいでをお待ちいたしております。

記

一、日時　四月十一日（日）午後二時
二、行事　野外ミサ、司式　松永久次郎司教
三、場所　加賀山マリア殉教碑前（花岡山）

なお、当日雨天の際も、予定通り挙行いたします。

お問い合わせは、島崎教会へ　☎096・352・5610

司祭異動

本渡教会主任（崎津・大江教会主任兼任）川添猛▼崎津・大江・本渡教会助任（長崎教区）川原拓也＝一月二十七日付（既報）▼佐賀教会助任（横浜教区・厚木教会）F・マスホルダー＝ミラノ外国宣教会＝二月十一日付▼大楠教会主任（戸畑教会主任）堤敏雄［高宮カトリック幼稚園園長兼任］▼戸畑教会主任（飯塚・田川教会主任）深堀勝人［戸畑天使園幼稚園・直方平和幼稚園園長兼任］▼二日市教会主任（福岡カトリック神学院院長）山元眞［二日市カトリック幼稚園園長兼任］▼飯塚教会主任（司教秘書）山下正［飯塚聖母幼稚園・田川カトリック幼稚園園長兼任］▼田川教会主任（直方教会主任兼任）中村信哉▼大名町教会助任（新司祭）牧山美好＝三月二十八日付［幼稚園は四月一日付］▼福岡カトリック神学院院長（大楠教会主任）中村彰▼司教秘書・教区本部事務局法人事務担当（大名町教会助任）田中重治▼教区広報担当・福岡教区報編集長、中村彰▼社会福祉委員会（カリタス・ジャパン）担当・中村信哉＝四月一日付

お詫びと訂正

一月号1面の福岡パストラルケア研究会についての記事の中で、同研究会の「代表大山悟神父 聖スルピス会」とあるのは「会長 鬼木保之氏」の誤りでした。お詫びし、訂正いたします。

みちくさ

一月末、約三十年ぶりに入院することになった。さる深夜、腹痛に耐えかねて行きつけのクリニックにかけこんだら、精密検査が必要と、渡辺通りにあるS病院を紹介され、一週間の入院となった次第▼都心にありながら閑静な雰囲気がいい。ピンクやあさぎ色の看護服がふえる中、ここは文字通り白衣なのも清潔でよい。万事行き届いているとはいえ、入院生活とは不便なものだ。検査のため三日間は水分以外はとれず、点滴は数時間も続く▼退屈しのぎに本を読めば、片手だけでページをめくるのにひと苦労する。それにもまして面倒なのがトイレ。点滴台を倒さないようしっかとつかみ、ゆっくり足を運ぶ。廊下に出ると、同じ姿の患者に出会う。中にはまるで往来を歩くように、軽快な足どりの人もいる。どこにもベテランはいるものだ。聞けば入院生活も長いという。納得▼病院内を歩きまわるうち、喫煙室を発見した。患者にやさしい病院だ。意志弱き小生のこと、禁煙は三日間で中止、常連となった。見ればいつも同じ顔ぶれだ。女性も意外と多いから、そのにぎやかなこと。院内で最高の社交場であり情報源の観を呈する。テーマは健康や食事、そして医者や看護婦さんのこと。ベテランほど話題は豊富だ。第二次世界大戦の話をくり返す人も▼ただし、からかい半分か、看護婦さんを口説く剛の者もいるらしい。「わたしには決まった人がおるけんね。そんなことはできんとよ」きっぱりと、しかしソフトになだめる声がきこえる。清く正しく美しい天使ではある。（H）

一九九九年四旬節司教教書

御父の年の四旬節

福岡教区長松永久次郎司教は、一九九九年四旬節を迎えるに当たり、全教区民に向けて教書を送った。今年は大聖年準備の最後の年「御父の年」と定められていることから、松永司教は、この教書を「御父の年の四旬節」と題して「キリスト者の信仰は、天におられる父である神を認め、その子供として生きることにあり」、「赦しの秘跡によって御父のみもとに立ち帰らなければならない」とさとしている。また、父なる神が人間全体を、そして一人ひとり、特に弱い人・貧しい人にこまやかな心遣いを示されたように、信徒も特にこの期間、兄弟愛を実行するよう訴えている。

この一九九九年は、二千年の大聖年を迎える準備期間の最後の年であり、「御父の年」と定められています。この意義ある年の四旬節を、教会の心を心として、福岡教区の信者の皆様と共に、相応しく過ごすべく努力したいと思います。

一、慈しみ深い神

天の御父を考えるとき、第一に思いいたるのは「慈しみ深い神」（エフェソ二・四）と言う称号です。まことに、ヨハネの第一の手紙（四・一六）に記されている通り、「神は愛です」、そして罪人であるわたしたち人間に対して、神の愛は「慈しみ」として現れます。わたしたちは不束な者ですが、深い信頼のうちに、父である神のみもとに近づくよう招かれているのです。

父である神への道は御子キリストです。「わたしは道である」（ヨハネ一四・六）とキリストは言われましたが、そのキリストは十字架上の死によっての御父への愛の証しを全うされ、わたしたちの贖いを果たし、御父への道を切り開いてくださいました。その故に、「神は『アッバ、父よ』と叫ぶ御子の霊をわたしたちに送ってくださった」（ガラテヤ四・六）のでした。わたしたちは御子であるキリストの心に与かって回心のまことを示し、御父のみもとに帰らねばならないのです。

この御父のみもとにわたしたちは、特に「赦しの秘跡」のお恵みによって帰ります。「多くの点で過ちを犯すわたしたちは皆、絶えず神の憐れみを必要とし、日々『われらの罪を赦したまえ』と祈らなければならない」とは、公会議の教えです（教会憲章四〇）。わたしたちは、赦しの秘跡によって御父のみもとに帰り、神の子としての生命を出来るだけ豊かにいただくよう努めなければならないのです。（昨年の教書参照）

キリスト者の信仰は、天におられる父である神を認め、その子供として生きることにあります。この父なる神を仰ぎ見る心がわたしたち信者にとって、何よりも大切で、基本的なものなのです。この父へ向かう子の心が力を失い、その働きが鈍くなり、無視されるとき、本当の信仰はないとさえ言えるのです。御父の年にあたり、わたしたちはこの信仰の根本を再確認しなければならないと思います。

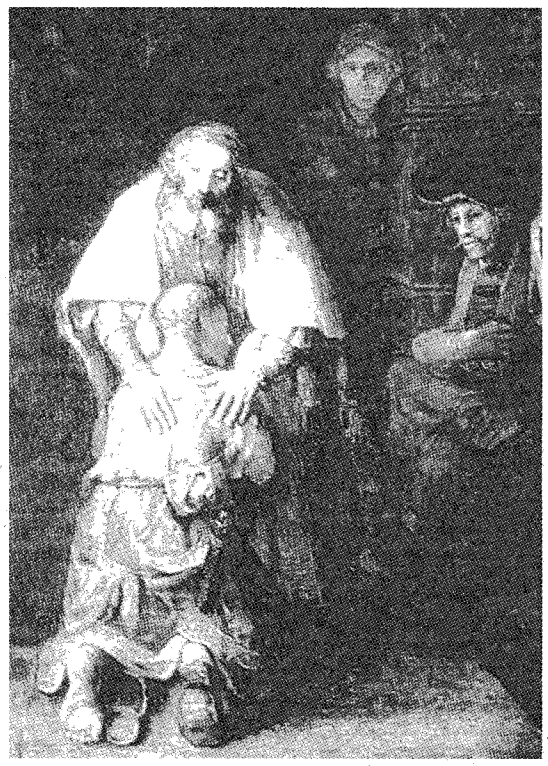
二、神の家族のこころ

父なる神を中心にして集まるのが真の人間家族です。「御父から天と地にあるすべての家族がその名を与えられているのです」（エフェソ三・一五）。父なる神こそ兄弟である人間仲間を結ぶ絆です。わたしたちは、父なる神の前に良い子供であるために、お互いに兄弟として人間仲間の愛の交わりを深めるよう努力しなければなりません。神を父と呼ぶ者は、「兄弟を愛する者なのです」（一ヨハネ四・二一参照）。

そこで、「御父の年」におけるわたしたちの最大の務めは兄弟愛の実践です。兄弟不和であるなら、父の愛を裏切っていることになります。ところで、この不完全な人間世界にあって、平和のためには、赦しと思いやりの心が必要です。そしてそのためには適切な理解と、寛大な心が求められます。「わたしたちは誰も隣人の裁き手となってはいけないのです」（一コリント六・六参照）。赦しと和解こそ、本来キリスト者の道なのです。

父である神は人間仲間全体のことを配慮されると同時に、一人一人にこまやかな心遣いを示されます。ところで、人間の世界では通常、弱い立場の人・貧しい人が疎外され、不利な処遇を受けます。そこで、父なる神は、特に弱い人・貧しい人の味方となられます。この故に、この父のもとで一つの家族を造るわたしたちは、特別に弱い立場の人達の配慮を心掛けなければならないことになります。福岡教区の信者の皆さん、この四旬節の期間に周りの誰かに対して、何らかの形で愛を実践するよう努めてください。霊的なこと共に、何か具体的な見える形での愛の実行をしてほしいと思います。

（教皇様は開発途上国の国際債務の帳消しを提唱しておられます。わたしたちもこのことについて理解を深め、自分たちの立場で支援できるよう努めたいものです。）


父のもとへ帰った放蕩息子（レンブラント）

三、天国を目指す地上の歩み

教会はこの世に派遣されており、この世の務めを堅実に果たすことを心掛けます。まことに、「教会はこの世の中に存在し、この世とともに生き、そして働いているものです」（現代世界憲章四〇）。しかし、「神の民はこの地上に永続する国を持たず、将来の国を求めている」（教会憲章四四）という信仰を、わたしたちは決して忘れてはなりません。神を父と呼ぶ人間家族のわたしたちは、この真理を忘れることなく、地上の務めを正しく果たすとともに、「わたしたちの本国は天にある」（フィリピ三・二〇）ことを思って、信仰の歩みを正しく続けなければならないのです。

従って、神の民にとって、地上の平和、地上の正義、地上の幸福がすべてではありません。わたしたちは永遠の国、御父のみもとにおける万物の完成を希望して生きている者なのです。たとい、この世に欠陥や不都合が残るとしても、終わりの日にすべてが完成し、美しく満たされることを信じて、希望の歩みを続けて行くのです。動物固有の限界に縛られ、時間の制約の中に生きるわたしたちは、数多くの不足・欠点を前にしてしばしば期待外れを体験いたします。そのようなとき、わたしたちはこの真理を思い、もっと輝かしい未来に召されていることを慰めとして生きなければならないのです。

キリストは、聖ペトロの信仰告白のあと、「人は、たとえ全世界を手に入れても、自分の命を失ったら、何の得があろうか」（マルコ八・三五）と諭されました。聖パウロもまた、この世の物からの離脱を勧める厳しい戒めを与えたのち、「この世の有様は過ぎ去るものです」（一コリント七・三一）と締めくくっています。わたしたちもこの信仰の真理を十分に考え合わせる必要があります。経済的な繁栄、物質的な幸福が余りにも強調される今日、これは信仰者の特別の任務であるとさえ言うことができましょう。

この「御父の年」にあたり、慈しみ深い父の温かい配慮を願いながら、そのみ旨の実現の協力者となるよう努めて参りましょう。御父のみ心を思い、キリストの心に与かり、特に兄弟愛の実行を心掛けながら、この聖なる四旬節を送るようにいたしましょう。

慈しみ深い父なる神の祝福が、すべての方々の上に豊かに注がれるよう、心を込めてお祈りいたします。

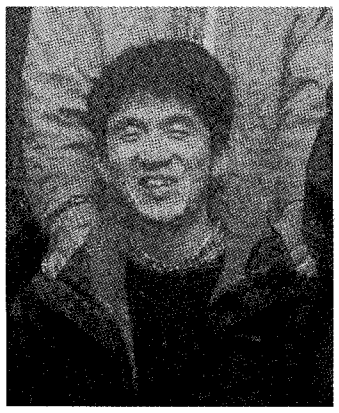
一九九九年四旬節

カトリック福岡教区

教区長　ヨセフ　松永久次郎

2月に司祭に叙階された

牧山 美好 神父



人

どうして司祭に？　という質問に「どう考えてもよくわからないんですよ」という返事。叙階式の直前まで「どうしようか」と思っていた。

叙階式の日に福岡カルメル会から運転してカテドラルに。駐車場の整理係の人から「空いてませんよ。」「どうしようか。戻ろうか」と思っていたところ、「あっ、牧山さん？どうぞ」という声。

司祭叙階までの道のりを「逃げ遅れ」の人生と表現する。「自分」が道を選ぼうとして悩んでいたのだが、気づいてみると、選ぼうとしていたのは「神さま」のほうだった。いつも神さまが先にいて、自分を引っ張っていてくれた。

約三年の助祭生活をして感じたこと。司祭の生活を見ながら、「つくづくたいへんなんだなぁ」と思う。「でも、たいへんでないように生きている。それは、いつも神さまがそばにいるからかなぁ」。

司祭の理想像は？「こういう司祭になりたい、ということは別にありません。神さまはいつも人をさがし続けている。司祭もそんな感じで生きていくのだろうか。」洗礼名はフランシスコ・ザビエル。最終決断をしたのは、気づいてみると、昨年の聖人の祝日、十二月三日だった。

ちなみに、好物は「すうどん」。

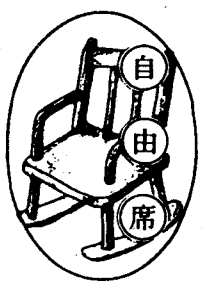
三井郡大刀洗町生まれ。福岡小神学校を経て福岡サン・スルピス大神学院入学。一九九六年三月助祭叙階。翌九七年三月に大神学院卒業後、戸畑教会で助祭として奉仕。今月二十八日付で大名町教会に助任司祭として赴任。



講師：富田富士也（とみたふじや）
1954年、静岡県出身。出版社に勤めながら、登校・出社拒否の相談活動を始める。現在、千葉明徳短期大学幼児教育科客員教授。「引きこもりからの旅立ち」など多数の著書あり。

ヨハネという名のクリニック

深堀 邦枝



聖ヨハネとその後に続くホスピスという言葉に引かれて、北九州市小倉北区の「聖ヨハネクリニック」を訪問した。医療法人・聖亮会理事長の萬納寺正清医師が、勤務医の本島由之医師と計画・建設したものである。小規模な中庭を配した回廊形式の三階建て、立地条件がよいとは言えない場所とスペースを感じさせない明るさと広がりに、ホッとさせられる。

単刀直入ですが、聖ヨハネと名付けられたのは？「洗礼者聖ヨハネです。だれでも心を洗われるクリニックをと考えました。私もカソリックです」という答えが返ってきた。全個室、ゆったりとして自分の部屋を充分に感じさせる落ち着きがある。医師も看護婦にも白衣は見当たらない。

「いわゆる末期ガン患者対象の緩和ケアにこだわらず、六十五歳以上の高齢者を配慮したものとして考えています。当然、短期滞在も受け入れる予定です。『尊厳ある死を迎えられる診療所』を目指しています。治療の中心は心身の苦痛緩和です。」

萬納寺医師は四十九歳、クリニック院長の本島医師は四十四歳、控えめに話すこの若い医師の心意気にエールを送りたい。ボランティアの受け入れも考えているとのことである。

（大名町教会）

'99年四旬節　黙想会のお知らせ

① 3月6日(土) 16:00 ～ 7日(日) 15:00　＜来住神父＞
② 13日(土) 16:00 ～ 14日(日) 15:00　＜来住神父＞
③ 20日(土) 16:00 ～ 21日(日) 15:00　＜来住神父＞
④ 27日(土) ～ 28日(日) 受難(枝)の主日　＜マテオ神父＞
★四旬節中、毎金～土は、マテオ神父が個人指導を行います。
★四旬節中、毎週火10:00～10:45／12:30～14:00（3月2日は休み）、『ゆるしの秘跡』
聖なる3日間と主の復活を祝う
⑤ 4月1日(木) 16:00 ～ 4日(日) 昼食まで　＜畠　神父＞

【申込・問合せ】
TEL 0940－32－3222
【受　付】
月～土／9:30～17:00

福岡黙想の家　〒811-4155 宗像市名残1056　TEL 0940(32)3222 FAX 0940(32)3385

有限会社　共立総合防災
＊消防設備　設計・施工
＊電気工事　保守点検
〒810-0044
福岡市中央区六本松3－11－33
代表取締役　ヨハネ　土本政実
☎会社 092-761-5885 自宅 092-863-1289

別れ・出逢い・旅立ち
草苑（SOU-EN）
ご葬儀
木下株式会社
TEL092－526－5656
〒810-0016
福岡市中央区平和3丁目1-5

創立五十周年を祝う
レジオ・マリエ福岡クリア

レジオ・マリエ福岡クリア創立五十周年を祝って、さる一月三十一日午後二時、記念ミサと祝賀会が高宮教会において行われた。これには福岡クリアの活動会員と賛助会員をはじめ、上位機関の長崎レジアと熊本クリア、さらに那覇クリアや東京セナートスから代表もかけつけ、旧会員やレジオに関係ある人々約百人が参加し、盛大な催しとなった。

松永久次郎司教司式、佐賀の指導司祭アンジェラ神父と教区本部の司祭らの共同司式で行われたミサは、レジオの誕生にちなんで聖マリアの誕生の祝日の典礼で行われた。

松永司教は説教の中で、「聖母はすべてにおいて裏方に徹し、陰でイエス様を支えられた。ロザリオは古くて新しい祈りである」と、レジオの精神を賞賛した。



二階ホールで開かれた祝賀会では、福岡クリア会長の鬼木保之氏（写真＝右端）が挨拶に立ち、一九四九年に佐賀でウォルシュ神父によって始められたレジオが爆発的に発展し、一九五四年七月に福岡地区にクリアが発足した次第を述べた。次いで「栄枯盛衰はあったが、五十年の間毎月休みなく集会を開き、今月に至ったのはマリア様のおかげであり、さらに百年記念を祝うことを望んでいる」と挨拶し、後に続く人々に希望を託した。

松永司教に続いて他県から参加した代表らの挨拶、さらに福岡教区信徒使徒職会長の祝辞のあと、初代会長森山敬三氏の音頭で乾杯、一同食事と歓談にひと時を過ごし、散会した。

（取材協力 鬼木保之）

森の中の十字架の道行

黙想の家の美しい森の中に十字架の道行があります。木漏れ日の中を、池のほとりを、時として降る鳥の声にも耳を傾けながら歩いていきます。

我田引水のようですが、十字架の道行、この伝統ある信心業の魅力が本当に現れるのは、野外である規模をもって設けられた場合ではないかと思います。

私たちは、キリストの御受難にあずかるような生き方はなかなかできていないのですが、そうありたいという望みは持っています。その望みを心の中だけにとどめずに、体で示すのが十字架の道行です。

一つ一つの留をよく黙想するだけでなく、留と留の間を深い心をもって、一歩一歩を踏みしめながら歩いて行きます。そのためには、ある程度の長さが必要になります。

また、美しい森の中を留をたどりながら歩いて行きますと、イエズス様がたどられた道も、血と傷と汗ばかりでなかったことにも思いあたります。神様が造られたこの世界は美しいものであって、その美しさをあがなうためにこそ、この方は命を与えてくださったことが心にしみるのです。

ヴェロニカがイエズス様の汗をぬぐう第六留が緑の中に木漏れ日を浴びて立っている。その前にたたずみますと、この女性の徳を称賛するだけでなく、その美しい善良な心を喜ぶ気持ちが起こります。

黙想の家は福岡教区の神の民のためのものです。私たちがイエズス様の御受難に心と体を合わせて生きようとするこの四旬節、皆様を森の中の十字架の道行にお招きしたいと思います。

黙想の家では、毎週火曜日を『祈りの日』としていますが（三月二日は休み）、その中で、午後一時からほぼ一時間、この道を歩いています。ご一緒にイエズス様と共に人生の旅路を歩みたい望みを表してまいりましょう。

もちろん、一人で来られて祈ることはいつでもできます。受付に立ち寄っていただきますと、祈りの日に使っているテキストをお貸しします。

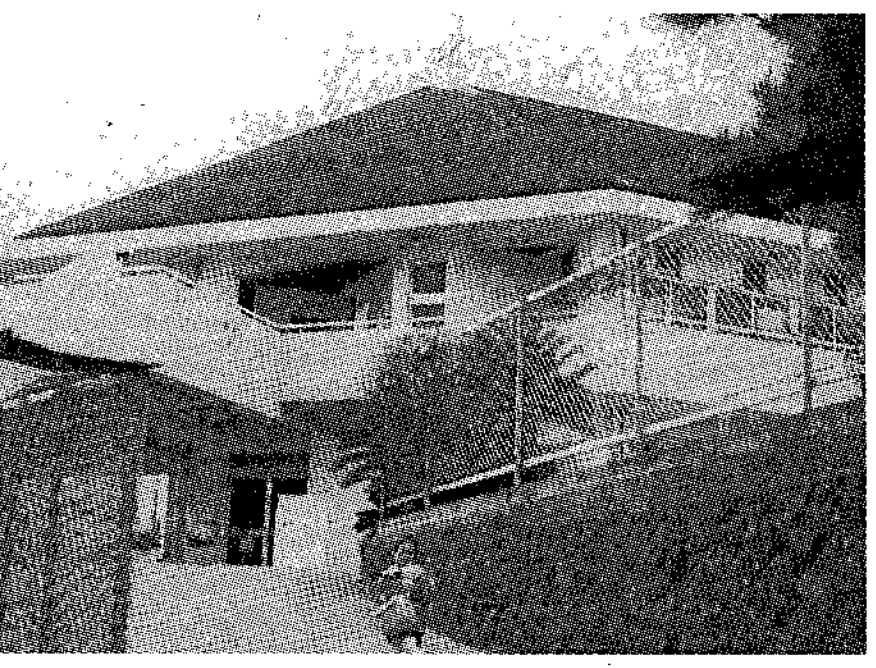
来住英俊（御受難会司祭）

大聖年準備のための指定巡礼教会 5 西新教会



西新小教区の歴史は一九五三年に始まる。当時信徒は約三百人で、長らく木造平屋の幼稚園に同居していた。福岡教区創立五十周年（一九七七年）の頃には信徒も倍増したため、一九八三年（故牧山藤房神父主任）に現教会の建設が始まった。

新教会は地下（駐車場と憩いの部屋）を除いて二階建、RC鉄骨造り、屋根はアスファルト・シングル葺き。一階は司祭館で二階が聖堂（約三百人収容）となっている。聖パウロ三木に献げられており、福岡教区では日本二十六聖人を保護者にいただく唯一の教会である。



冷暖房完備、スピーカーも天井に四カ所、その天井も採光・開閉式と、新しい時代の教会らしく、設計・建築時から新技術がとり入れられ、祈る信徒にやさしい教会となっている。

祭壇右側に設けられた泣き部屋は、会議室にもなり、平日にはここでミサが行われる。窓は、窓というよりガラスドアで、非常口でもある。

最大の?特徴は、十字架の道行。額入りの御絵ではなく、ステンドグラスになっている。これは前教区長平田三郎司教のフランスにおける友人ベランジェさんのデザインによるとか。十字架の道とは趣を異にする、華やかな印象を与える。

ここでは日曜日の教会学校も盛んで、男児が多いらしく、日曜日のミサの侍者はいつも男の子が四人から八人、とは頼もしい。七五三などの折には特別な祈りを加えて教育するなど、信仰を深める努力がなされている。

データ ●信徒数／約一二〇〇人●ミサ時間／土曜日十九時、日曜日七時・九時●住所／〒814・0003福岡市早良区城西3・14・1●☎092・851・8032●FAX843・5827●司祭／ヨアキム平田敬

場所 ●地下鉄西新駅下車、六本松方面に歩いて「三信衣料」右折5分。

教皇、初のCD
―復活祭に先駆けて発売―

一般紙でも報道されたように、来る三月二十五日、教皇ヨハネ・パウロ二世による祈りと歌、説教などを収めたCD「Abba Pater＝アバ・パーテル」がソニー・クラシカルより発売される（写真はCDジャケット）。

これは、来る二〇〇〇年の大聖年とヨハネ・パウロ2世の教皇在位二十年を祝し、ラジオ・バチカンとサンパウロとの共同プロデュースにより実現した世界初の企画。教皇登位以来二十年にわたり世界各地で行われたミサ、祈祷集会、一般謁見など、ラジオ放送録音からセレクトしたものに、イタリアの現代作曲家チームによるオリジナル曲を組み合わせた初めてのCDである。教皇自らが歌う「パーテル・ノステル」（主の祈り）も収録されている。

これは内なる巡礼の旅への招き、そして全人類に発せられた平和のメッセージといえよう。

白柳誠一枢機卿推薦。



LUMEN-VITAE（命の光）
黙想会

昨年5月に発足したカトリック典礼聖歌を歌う合唱団「ルーメン・ヴィテ」では、四月十一日14時から20時30分まで、福岡黙想の家において来住英俊神父（御受難会）の指導のもとに黙想会を行う。カトリック信者であれば誰でも参加できる。問合先は橋本富美さん（☎0940・33・5423）

ヨセフ峯定夫氏帰天
大神学院に多大の貢献

福岡サン・スルピス大神学院（院長・大山悟神父）の職員、ヨセフ峯定夫氏（笹丘教会所属）が二月十五日午前九時四十分、呼吸不全のため福岡大学病院で帰天した。享年七十一歳。

峯氏は大神学院の創立当初より院内の建物・校庭の管理保全・営繕・ボイラーなど、多岐にわたる業務を担当し、陰ながら神学生養成を支え、神学院の発展に貢献した。三年前に喉頭にガンが発見され、以来、入退院を繰り返しながらの闘病生活を送っていた。

通夜は二月十六日午後七時、故人の以前からの希望により、同大神学院聖堂で、葬儀ミサならびに告別式も同所で、翌十七日、司教会議中にかけつけた松永久次郎司教司式のもとに行われ、同校を卒業した四十余人の司祭たちと多数の信徒、修道者が出席した。

アントニオ堤辰巳様

戸畑教会主任の堤敏雄神父の令兄。二月二十三日に入院先の東京の病院で帰天。翌二十四日に通夜が行われ、二十五に松原教会で葬儀が執り行われた。享年87歳。

御寄付御礼

故エリザベット吉川庸子様の御香典返しに代えて吉川利子様より多大のご芳志を賜りましたことをご報告し、故人のご安息をお祈りし、厚く御礼申し上げます。

福岡カトリック神学院　院長　山元　眞

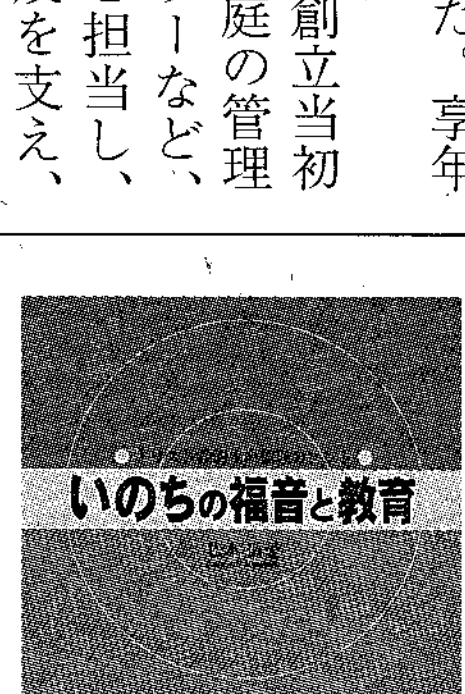
セント・ポールFUKUOKA（旧聖パウロ書院）からのお知らせ

三月五日よりFAX新番号092・741・4601

三月二十二日から二十四日までの三日間は棚卸しのために休業させていただきます。

BOOK 読みま専科

★いのちの福音と教育
―キリスト教的生命倫理のヒント―
松本　信愛著



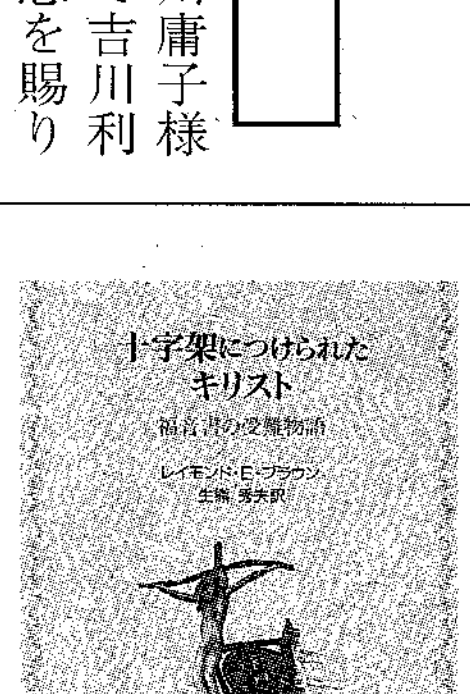
多くの国で堕胎が合法化され、体外受精や脳死など、人間の生と死にかかわる問題が日常茶飯事となりながらも、人々は「いのちの尊厳」についてどう教えるべきか迷っている。

本書は、ヨハネ・パウロ二世教皇の回勅「いのちの福音」をもとに、中絶・セックス・安楽死など「いのちの尊厳」にかんする諸問題を、カトリック倫理の立場から、平均的な日本の若者を対象に、問答形式によって分かりやすく解説している。

サンパウロ　税別一四〇〇円

◇　◇　◇

★十字架につけられたキリスト
―福音書の受難物語―
レイモンド・E・ブラウン著
生熊　秀夫訳



本書は受難物語の全体についてマルコ・マタイ・ルカ・ヨハネ福音書について、各福音書の共通性独自性をわかりやすく述べ、そのポイントとなっているものや、受難物語のなかで、私たち自身をどの立場に置くか、キリストの受難は私たちにとってどんな意味があるかを悟らせてくれる。

聖週間を有意義に実り豊かに過ごすためにお薦めしたい一冊。女子パウロ会　税別一二〇〇円

ジャパンスマイルか 株式会社
不動産／管理・仲介・売買・建設／一般建築
〒810-0044 福岡市中央区六本松4-9-4
TEL092－761－8800
代表取締役 マルガリタ・マリア 吉田由利子

吉田設計 株式会社
建築設計／企画・設計・監理
〒810-0044 福岡市中央区六本松4-9-7
TEL092－711－0550
代表取締役 ヨゼフ 吉田豊博

祭壇・洗礼盤他
素材｛石石他／理影の／大御そ｝
（大理石・御影石・その他）
石のパイオニア
高木石材株式会社
〒860-0006 熊本市段山本町2-21
TEL 096－352－2417

会合と催し

教区年間テーマ：父である神を共にほめ賛えます

3月　聖ヨセフの月

2日（火）松永司教霊名祝い［浄水通教会11時］
　＋R.ミケレ［鹿島教会1987］
　＋J.オブライエン［手取教会1990］
6日（土）＋H.ジョリ［久留米教会1966］
7日（日）四旬節第3主日
8日（月）聖ヨハネ・ア・デオ
12日（金）＋F.M.ヴェイヨン［唐津教会1973］
14日（日）四旬節第4主日
16日（火）＋L.M.ベリボ［箱崎教会1977］
17日（水）聖パトリック／長崎の信徒発見記念日
19日（金）聖ヨセフ［祭］松永司教霊名の祝日
　＋J.ベラス［水俣教会1990］
　＋M.ボア［新田原教会1959］
21日（日）四旬節第5主日／春分の日
25日（木）神のお告げ［祭］
26日（金）＋J.ドイル［荒尾教会1982］
　＋J.ムルグ［小倉教会1989］
28日（日）受難の主日（枝の主日）／聖週間
　世界青年の日
29日（月）受難の月曜日
30日（火）受難の火曜日／聖香油ミサ［カテドラル15時］
31日（水）受難の水曜日

4月

1日（木）聖木曜日（主の晩さん）
　主の晩さんのタベのミサ［カテドラル19時］
2日（金）聖金曜日（主の受難）
　大斎・小斎：聖地献金
3日（土）聖土曜日
　復活徹夜祭［カテドラル19時］
4日（日）復活の主日［祭］
5日（月）＋F.ブレンゲ［佐賀教会1946］
7日（水）＋C.シュミッツ［黙想の家院長1988］
11日（日）復活節第2主日（白衣の日）
12日（月）＋パウロ大野正恒［泰星学園校長1985］
13日（火）福岡教区司教座教会献堂記念日
15日（木）＋J.ドレル［直方教会1984］
18日（日）復活節第3主日
　司教座教会献堂記念特別献金
25日（日）復活節第4主日（聖マルコ福音記者）
　＋A.レウトル［新田原教会1944］
29日（木）シエナの聖カタリナ［記］
　みどりの日

福岡

■第75回福岡結婚準備セミナー［日時］2月27日（土）～3月25日（木）毎土曜・木曜日19時～21時30分［場所］カテドラル大名町教会［申込・問合先］カトリックファミリーセンター☎092・541・6207 FAX 52・5022

■カテキスタの集い（最終回）［日時］3月7日（日）13時30分～15時30分［場所］福岡カトリック神学院［講師］山元眞神父（同神学院院長）［テーマ］聖週間［会費］五〇〇円＊教会学校に関する資料をお持ちくだされば幸いです［問合先］福岡カトリック神学院☎092・531・6821 FAX 524・7373

■典礼・聖歌と祈りの集い［日時］3月7日（日）14時～17時30分［場所］福岡黙想の家［テーマ］四旬節・聖週間の聖歌［指導］深堀純氏（大名町教会信徒）［会費］一〇〇〇円［主催］福岡典礼聖歌研究会［問合先］福岡黙想の家☎0940・32・3222 FAX 32・3385

■ホスピスの会 第6回会合［日時］3月7日（日）14時～16時［場所］カテドラル大名町教会4階［講演］若い医師のこころみ「診療所・ホスピス」［講師］本島由之医師（聖ヨハネ・クリニック院長）［参加費］七〇〇円［問合先］事務局／〒815・0034福岡市南区南大橋1・8・29小林計子☎FAX 092・512・8723★昼間（9時30分～17時）0942・83・2294

■福岡パストラルケア研究会　3月は休会。［問合先］事務局（シスター箕浦☎092・871・4943大神学院）

■福岡地区・召命を共に祈る会［日時］3月11日（木）14時～16時［場所］浄水通教会（ロザリオ）・司教館（集い）［問合先］青木悟神父☎092・522・5139（教区本部）

■ヨアキム・アンナ信心会［日時］3月18日（毎月第3木曜日）13時15分～15時［場所］聖クララ寮聖堂（福岡市南区塩原）［主宰］信心会会長・樋口康子（東京教区）［指導］恵美漸吉神父（サレジオ会）［内容］聖体顕示、ロザリオの祈り、黙想など。ミサ（ある場合は14時～）。［問合先］今井紀代美☎0922・891・4090／724・7353

■第10回徹夜祈祷会［日時］3月20日（土）19時（受付）～21日（日）6時30分朝食後解散［場所］福岡カトリック神学院・浄水通教会［内容］召命祈願ミサ、ビデオ鑑賞、聖体礼拝、十字架の道行［問合先］青木悟神父☎092・522・5139（教区本部）

■聖テレーズの著作を読む会［日時］3月28日（毎月第4日曜日）14時～15時30分［場所］カルメル会修道院（福岡市西区上ノ原）［問合先］カルメル会修道院☎092・807・7361［世話人］城島暁（浄水通教会所属）。尚、同日13時～13時50分キリスト教入門講座があります。

■福岡生と老い・死をみつめる会［日時］3月28日（日）14時～16時［場所］カテドラル大名町教会［内容］講話「ホスピスと悲嘆 ケアを考える」と語り合い・死別体験者の語り合い［講師］森下正子氏（「生と老い死をみつめる会」スタッフ）［参加費］五〇〇円［問合先］事務局（大山美穂子☎092・713・8523）

北九州

■ディエゴ加賀山隼人列福祈願ミサ・顕彰奉仕会［日時］3月15日（月）19時（毎月15日）［場所］小倉教会［問合先］小倉教会☎093・921・0093 FAX 921・0139

佐賀

■第6回聖書を読む会［日時］3月4日（最終回）10時～11時30分・19時30分～21時［場所］カトリック佐賀教会（信徒会館）［テーマ］希望に生きる［講師］A・アレグリーノ神父［テキスト］聖書（旧約・新約）［対象］どなたでも［受講料］無料［申込・問合先］佐賀教会内「聖書を読む会」☎0952・23・4754

熊本

■花岡山殉教祭　小笠原玄也、加賀山マリアみや一族の殉教祭［日時］4月11日（日）14時～ミサ・雨天決行［場所］加賀山マリア殉教碑前（熊本市・花岡山）［問合先］島崎教会☎096・352・5610

■第59回熊本結婚準備セミナー［日時］4月13日（火）～5月17日（月）毎火曜・月曜日19時～21時30分［場所］手取教会［申込・問合先］手取教会☎096・352・3030 FAX 352・1515

教区外

■第4回研修セミナー　教会が神の国建設により寄与するために―障害をもつ者からの提言［日時］3月12日（金）18時～14日（日）12時［場所］日本カトリック研修センター（名古屋）［講師］古川勉神父（横浜教区由比ヶ浜教会）［発題者］後藤進神父（コムニタスの家指導司祭、肢体障害）、島しづ子牧師（日本キリスト教団、愛実の会代表）、須永成哉氏（浦和教区足利教会信徒・精神障害）［参加費］一五〇〇〇円（宿泊なし一〇〇〇〇円）★旅費について一部遠隔地補助あり［締切］2月28日［主催］カトリック障害者連絡協議会［申込・問合先］〒554 FAX 841・2221□雨宮慧神父講演テープ『マリアの賛歌（マグニフィカット）』は、教皇の使徒的書簡『紀元二〇〇〇年の到来54番』にもある、教皇の使徒的書簡『紀元二〇〇〇年の到来54番』にもあるように、今年・御父の年を生きる私たちのテーマの一つ。昨年10月に仙台で行われた同題の講演記録集とテープが頒布されている。①記録集一〇〇〇円、②講話テープ一五〇〇円③1と2のセット二〇〇〇円（いずれも送料込）［連絡先］千葉智行☎FAX 022・286・2994

手話通訳ミサ
毎月第4日曜日9時
（於・カテドラル大名町教会）

生命山カトリック別院

生命山では、皆様のために、美しい自然の中で、神との語らいの日々を過ごしていただきたく、黙想会を計画いたしました。ご参加ください。

■祈りの集い
日　時：③3月11日（木）9時45分～15時
テーマ：三位一体のイコンの観想
指　導：フランコ神父
★次回は④4月8日（木）です。
■諸宗教対話活動／仏教者との交流
（B）4月29日（木）上益城郡教寺
■研修会－典礼と生け花
（A）3月21日（日）～22日（月）
＊個人、又はグループでの黙想等、常時受け付けています。
［問合先］生命山カトリック別院☎0968・85・3100

福岡黙想の家　3月

◇1日（月）～3日（水）　御受難会共同体の日
◇5日（金）～7日（日）　在英日本人宣教会
◇6日（土）～7日（日）　四旬節の黙想会〈Fr.来住〉
◇7日（日）　典礼・聖歌と祈りの集い
◇10日（水）　ミカエル会
◇13日（土）～14日（日）　四旬節の黙想会〈Fr.来住〉
◇19日（金）～20日（土）　伊都教会婦人会の集い
◇20日（土）～21日（日）　四旬節の黙想会〈Fr.来住〉
◇22日（月）～26日（金）　オブレート会黙想
◇27日（土）～28日（日）　受難（枝）の主日黙想〈Fr.マテオ〉
［問合先］黙想の家　☎0940・32・3222　FAX 32・3385

黙想の家のホームページを御利用ください
◎ホームページ　http://w32.mtci.or.jp/~daneox
◎e-mail　Mail to daneox@mtci.or.jp

薬物依存症に関する公開講座／薬物依存の背景を学ぶ

どうしてこうなってしまったの？

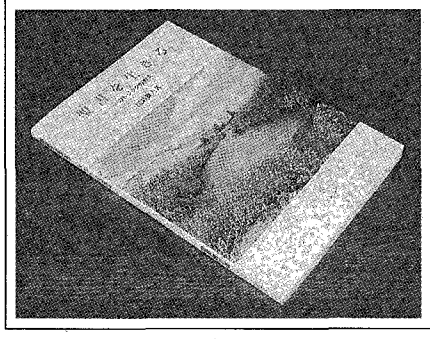
日　時：3月2日（火）14時～16時
場　所：福岡県精神保健福祉センター　研修室
　ＪＲ春日駅下車 徒歩3分 クローバープラザ南側
講　師：村上　優（国立肥前療養所、精神科医）
問合先：同センター　☎０９２・５８２・７５００

日本カトリック研修センター

◎生活の中で読む聖書―教会生活における霊的、人間的成長を求めて　「ひらかれた教会」は、「キリスト中心を始点」として取り組むことが大切です。それは、キリストを中心とする「共同体作り」、「キリストの使命（心）を継続」していく取り組みだからです。そこにおけるお互いの関わり方の成長を目指します。［日時］4月22日（木）～25日（日）［指導］松田清四朗神父［定員］30人［費用］三一五〇〇円［場所］日本カトリック研修センター［申込・問合先］同右企画部☎052・831・5037 FAX 831・5317

編集後記

春は異動、交代の時期。本紙編集長も四月から代わる。悪戦苦闘しながらも、読者諸氏のおかげで何とか発行することができました。四月号は新編集長と一緒に編集の仕事をします。より大いなる発展を祈願しつつ、ペンを置きます。御協力を心から感謝申し上げます。



初めてキリスト教に接する方に

「聖書を生きる」―カトリックの教え―　間瀬雅夫著、が出版された。

初めてキリスト教に接する方に、要理の友に、聖書研究の手引きに、黙想に、そしてミサの理解に役立つ本。

著者は久留米教会に所属し、十六年間、久留米信愛女学院で高校生たちに教えながらこれを書き上げた。

ドン・ボスコ社
定価（税別）六五〇円

COSMOS
スポーツ用品・OA・文具　コスモス
〒830-1224 三井郡大刀洗町鵜木67－3
TEL 0942－77－3199
代表者 ペトロ 平田 清

"任意保険に加入してから車の運転を致しましょう"
自動車、火災、傷害、海外旅行傷害保険、保育園、幼稚園児を守る、企業賠償保険
〒814-0153
福岡市城南区樋井川3丁目17－10
大石保険事務所 大石真澄
☎092-552-8195 Ⓕ092-541-7734

FUJIKI
未来へ――安心を創る
藤木工務店
福岡支店 〒812-0016 福岡市博多区博多駅南3-1-1　TEL 092-441-6585(代表)
取締役社長 藤木鐵三　福岡支店長 長山和博

カトリック
福岡教区報

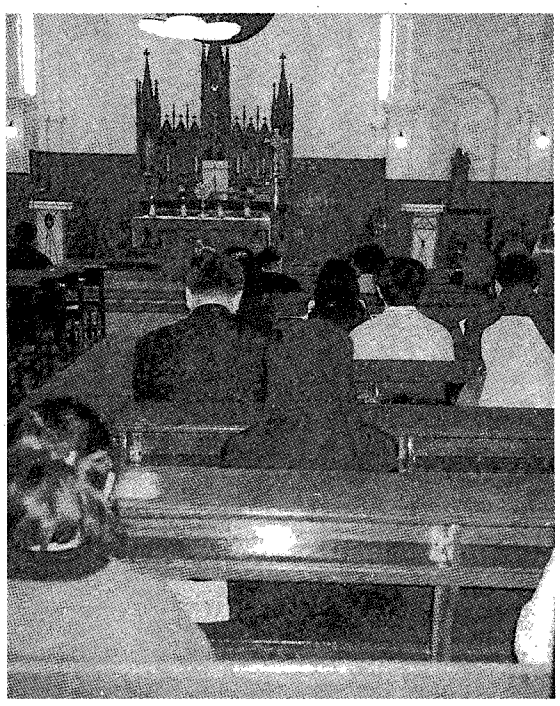
松永久次郎司教認可
発行所　福岡司教区本部
福岡市中央区浄水通39
発行人
カトリック福岡司教区
編集人　中村　彰
TEL　092-522-5139
FAX　092-523-2152
振替口座　01760-6-20729
カトリック福岡司教区
定価　一部60円



《キリストの復活》ラファエルロ・サンティ

主はまことによみがえられた アレルヤ！

召命を求めて徹夜で祈る



浄水通り教会で行われた深夜の聖体礼拝

有志の集いである「召命を共に祈る会」（代表＝青木悟神父）は、三月二十日から二十一日にかけて第十回目の「徹夜祈祷会」を福岡カトリック浄水通教会で催した。小学五年生を含む信徒、未信徒、修道者、司祭が約五十人参加。徹夜で司祭、修道者の召命を求めて祈った。二十一日には、早朝五時二十分から松永久次郎司教司式による召命祈願ミサが浄水通教会で行われた。

二十日夜、六時頃から会場となる福岡カトリック神学院に人が集まりはじめた。最年少は小学五年生の男の子。他に司祭、修道者の召命を考えている青年たち、また、そのために祈る信徒、修道者、司祭が徹夜を覚悟で集合する。この「徹夜祈祷会」は今回で十回目を迎えた。

これまでは、福岡サン・スルピス大神学院で同じ時期に開かれていたが、都合により、今回は初めて会場を福岡カトリック神学院と浄水通教会に移して行われた。

オリエンテーションのあと、午後八時から浄水通教会で聖体顕示の典礼が行われた。この典礼の中では、四旬節の第五主日の読書課（教会の祈り）を唱え、教区長の四旬節教書も朗読された。

また、イエズス会福岡修道院の塩谷恵策神父が自身がどのようにして司祭になったのか、司祭召命の経緯を話し、神の不思議な導きに参加者は感動した。

九時からは、聖体礼拝の当番を決めて翌朝の五時まで礼拝が続いた。その間、神学院では、「私は告白する」という映画を鑑賞し、会話したり、個人的に祈りを捧げたりした。午前0時からはふたたび教会に集まり、聖体の前で祈りと黙想を行った。この礼拝では、教皇ヨハネ・パウロ二世の召命のための祈りを唱え、アブラハムの召命物語を聞き、青木悟神父が短い説教をした。さらに大聖年に向けての祈りを唱え、紀元二〇〇〇年を期に、豊かな司祭・修道者の召命を祈願した。

二時からは神学院の聖堂で十字架の道行きの信心業をした。三時から食堂で軽食タイム。老若男女、いっしょに話がはずんだ。仮眠をとれるように、神学院の最上階に場所がとられ、自由に短い睡眠をとることができたが、多くの参加者は徹夜をしたようであった。

松永司教も午前三時からの聖体礼拝に参加し、教区の召命のために熱心に祈られた。五時二十分からは、同司教による召命祈願ミサが行われ、司教は、説教の中で、目に見える召命の実りはあまりないように思えるが、この集いの参加者に見られるように、熱心に祈ることをぜひ続けて欲しいと、参加者を励ました。

参加した青年たちは「ゆっくりと祈ったり、いろんな人と話しをすることができて、とてもよかったと思う。またこのような機会を企画してほしい。そして、もっと呼びかけて、たくさんの人が集まればよいと思う」と感想を述べてくれた。

今月の意向

教皇様の意向のために祈りましょう

【一般の意向】 復活された主への信仰宣言

【布教の意向】 アフリカにおける和解と兄弟愛と平和

【日本の教会の意向】 イエス・キリストの復活と宣教

典礼を学ぶ集い

１９９９年度定期学習会

４月１８日（日）：第二バチカン公会議前までの典礼概念の変遷
７月１８日（日）：「典礼憲章」における新しい典礼概念
１０月１７日（日）：典礼への信徒の行動的な参加
１月１７日（日）：日本の文化に根を下ろした典礼をめざして
＊日時は都合により変更の可能性あり
時　間：１４時～１６時
＊テーマが多少変更される可能性あり
講　師：白浜満 神父
（福岡サン・スルピス大神学院）
場　所：カテドラル大名町教会
参加費：１回６００円（年会費2000円）
申込締切：４月１３日（火）
申込先：〒811-4181　宗像市三郎丸
608-9　井上元之
FAX. 0940-33-8122

この集いは、年間のカリキュラムに従って、少しずつ典礼についての理解を深めながら、それに関して小教区の典礼現状を分かち合い、より豊かな典礼のあり方をともに学んで行くことが目的。どなたでも参加できます。

大ザビエル展

ーその生涯と南蛮文化の遺宝ー

４月６日（火）～５月３０日（日）
山口県立美術館　☎0839・25・7788

永遠のいのちへ招く御父の愛

4月25日「召命祈願日」教皇メッセージ

御父の年の世界召命祈願日に当たり、ヨハネ・パウロ二世教皇は全世界の司教・信徒にメッセージを送った。冒頭で教皇は「司祭職と奉献生活への召命が、教会のいのちの根幹にかかわる大切な課題であることを意識」し、この召命を推進していくために、教会全体と信者一人ひとりの協力を要請している。

父なる神は「司教・司祭・助祭の叙階によって救い主キリストの秘跡における現存を恒久的に保証し、彼らの献身的な奉仕を通して、教会が多様な召命、奉仕、カリスマを持つ一つのからだとして成長するよう望んで」おり、実際に「ご自分の愛が種々の形の奉献生活を通してすべての人にゆきわたるように、聖霊を豊かに注ぎ」また、「永遠のいのちこそ希望のよりどころであることを、神の国のためにすべてを捨てて、キリストに従う人々を通して示し続けています」

次に教皇は「主の祈り」にそって、召命について述べている。（以下抜粋）

①「天の父のこどもとなるように」
「天の父のこどもとなるように召された人は、天地創造の前に、聖なる者、汚れない者となるべく選ばれたのです。…すべての召命は、洗礼に根ざしています」

②「み名が尊まれますように」
「『聖なる者となれ』という神の招きに応えるためには、神中心の生き方を徹底しなければなりません。教会も人類も何事においても神を第一として生活し、神のみ心と愛を示していくために、教会は初めて会場を福岡カトリック神学院と浄水通教会に移して行われた。

オリエンテーションのあと、午後八時から浄水通教会で聖体顕示の典礼が行われた。この典礼の中では、四旬節の第五主日の読書課（教会の祈り）を唱え、教区長の四旬節教書も朗読された。

また、イエズス会福岡修道院の塩谷恵策神父が自身がどのようにして司祭になったのか、司祭召命の経緯を話し、神の不思議な導きに参加者は感動した。

九時からは、聖体礼拝の当番を決めて翌朝の五時まで礼拝が続いた。その間、神学院では、「私は告白する」という映画を鑑賞し、会話したり、個人的に祈りを捧げたりした。午前0時からはふたたび教会に集まり、聖体の前で祈りと黙想を行った。この礼拝では、教皇ヨハネ・パウロ二世の召命のための祈りを唱え、アブラハムの召命物語を聞き、青木悟神父が短い説教をした。さらに大聖年に向けての祈りを唱え、紀元二〇〇〇年を期に、豊かな司祭・修道者の召命を祈願した。

二時からは神学院の聖堂で十字架の道行きの信心業をした。三時から食堂で軽食タイム。老若男女、いっしょに話がはずんだ。仮眠をとれるように、神学院の最上階に場所がとられ、自由に短い睡眠をとることができたが、多くの参加者は徹夜をしたようであった。

松永司教も午前三時からの聖体礼拝に参加し、教区の召命のために熱心に祈られた。五時二十分からは、同司教による召命祈願ミサが行われ、司教は、説教の中で、目に見える召命の実りはあまりないように思えるが、この集いの参加者に見られるように、熱心に祈ることをぜひ続けて欲しいと、参加者を励ました。

参加した青年たちは「ゆっくりと祈ったり、いろんな人と話しをすることができて、とてもよかったと思う。またこのような機会を企画してほしい。そして、もっと呼びかけて、たくさんの人が集まればよいと思う」と感想を述べてくれた。

永遠のいのちへ招く御父の愛

4月25日「召命祈願日」教皇メッセージ

御父の年の世界召命祈願日に当たり、ヨハネ・パウロ二世教皇は全世界の司教・信徒にメッセージを送った。冒頭で教皇は「司祭職と奉献生活への召命が、教会のいのちの根幹にかかわる大切な課題であることを意識」し、この召命を推進していくために、教会全体と信者一人ひとりの協力を要請している。

父なる神は「司教・司祭・助祭の叙階によって救い主キリストの秘跡における現存を恒久的に保証し、彼らの献身的な奉仕を通して、教会が多様な召命、奉仕、カリスマを持つ一つのからだとして成長するよう望んで」おり、実際に「ご自分の愛が種々の形の奉献生活を通してすべての人にゆきわたるように、聖霊を豊かに注ぎ」また、「永遠のいのちこそ希望のよりどころであることを、神の国のためにすべてを捨てて、キリストに従う人々を通して示し続けています」

次に教皇は「主の祈り」にそって、召命について述べている。（以下抜粋）

①「天の父のこどもとなるように」
「天の父のこどもとなるように召された人は、天地創造の前に、聖なる者、汚れない者となるべく選ばれたのです。…すべての召命は、洗礼に根ざしています」

②「み名が尊まれますように」
「『聖なる者となれ』という神の招きに応えるためには、神中心の生き方を徹底しなければなりません。教会も人類も何事においても神を第一として生活し、神のみ心と愛を示していくために、教会は初めて会場を福岡カトリック神学院と浄水通教会に移して行われた。

オリエンテーションのあと、午後八時から浄水通教会で聖体顕示の典礼が行われた。この典礼の中では、四旬節の第五主日の読書課（教会の祈り）を唱え、教区長の四旬節教書も朗読された。

また、イエズス会福岡修道院の塩谷恵策神父が自身がどのようにして司祭になったのか、司祭召命の経緯を話し、神の不思議な導きに参加者は感動した。

九時からは、聖体礼拝の当番を決めて翌朝の五時まで礼拝が続いた。その間、神学院では、「私は告白する」という映画を鑑賞し、会話したり、個人的に祈りを捧げたりした。午前0時からはふたたび教会に集まり、聖体の前で祈りと黙想を行った。この礼拝では、教皇ヨハネ・パウロ二世の召命のための祈りを唱え、アブラハムの召命物語を聞き、青木悟神父が短い説教をした。さらに大聖年に向けての祈りを唱え、紀元二〇〇〇年を期に、豊かな司祭・修道者の召命を祈願した。

二時からは神学院の聖堂で十字架の道行きの信心業をした。三時から食堂で軽食タイム。老若男女、いっしょに話がはずんだ。仮眠をとれるように、神学院の最上階に場所がとられ、自由に短い睡眠をとることができたが、多くの参加者は徹夜をしたようであった。

松永司教も午前三時からの聖体礼拝に参加し、教区の召命のために熱心に祈られた。五時二十分からは、同司教による召命祈願ミサが行われ、司教は、説教の中で、目に見える召命の実りはあまりないように思えるが、この集いの参加者に見られるように、熱心に祈ることをぜひ続けて欲しいと、参加者を励ました。

参加した青年たちは「ゆっくりと祈ったり、いろんな人と話しをすることができて、とてもよかったと思う。またこのような機会を企画してほしい。そして、もっと呼びかけて、たくさんの人が集まればよいと思う」と感想を述べてくれた。

花岡山殉教祭への御案内

＋主の平安。イエス・キリストの十字架上の御受難と御復活の栄光を黙想しつつ。

毎年、花岡山にて行われております小笠原玄也、加賀山マリアみや御一族の殉教祭を、今年は来る四月十一日（日）、松永久次郎司教様をお迎えし、左記の通り執り行うことになりました。大勢の皆様方のおいでをお待ちいたしております。

記

一、日時　四月十一日（日）午後二時
二、行事　野外ミサ、司式　松永久次郎司教
三、場所　加賀山マリア殉教碑前（花岡山）

なお、当日雨天の際も、予定通り挙行いたします。

お問い合わせは、島崎教会へ　☎096・352・5610

訂正

三月号1面の司祭異動のお知らせに「平和幼稚園（直方）はこれまで通り中村信哉神父が園長実務を執り行います」を追加、訂正いたします。

司祭異動

浄水通教会主任（茶山）堤要吉▼茶山教会主任（久留米）山田成章［茶山カトリック幼稚園園長兼任＝四月一日付］▼久留米教会主任（同教会助任）三村邦明▼久留米教会助任（長崎教区より移籍）浦川務＝四月十二日付

みちくさ

主の復活おめでとうございます。冬から春へと自然界の装いを変えるこの季節に復活祭をお祝いすることは、自然界に属する人間の感覚にもなじむ気がする。冬の間、枯れたように見えていた木々が春になると青々しい葉やかわいらしい花を咲かせる。目に見えないところでいのちの営みを続け、時がくればいのちの息吹きを表わして他を喜ばす。私たちの回心の歩みもかくありたいものだと思う。自然からは学ぶところが多い▼四月はまた入学、転勤の季節でもある。期待と不安に包まれながら、新しい歩みを始める。これまでの経験や知識を生かしながらも、それに固執することなく、新たな出会いから学んでいく。捨てるべきものは捨て、生かすべきものは生かしていく。柔軟な心がないとなかなか難しい。樹木の年輪のように人間性も豊かになってくれればと思う。これもまた回心の道のりを示唆してくれる▼福音書を読むとキリストはいつも回心への招きをしていることが分かる。自分が罪人で神の前にふさわしくないと思っている人にも、自分は正しく何の欠点もないと思っている人にも、自分に従っている弟子たちにも、いつも回心の招きをしている。回心の歩みは、神への歩みなのだから、一生をかけて続けていく大切な生き方である。私たちの人間性も信仰の歩みもまだまだ成長する可能性を持っている。神は自然や人や本、出来事を通していつも回心の招きをして下さっている。キリストの復活をお祝いするこの季節、新たな回心の道のりを始めたいと思う。（N）

日本司教団が政府に要望書

臨時司教総会会期中の二月十七日朝から十八日にかけ、司教たちは複数の有識者を講師として招き、「いのちの始まりにかかわる医療と倫理」のテーマで勉強会を行い、その審議の結果を受けて作成された「いのちをその始まりから大切にしてください」と題する要望書を、宮下創平厚生大臣あてに送付した。同要望書は、「科学や医学の研究が常に生命の神秘に対する畏敬のうちに行われ、この分野での発展がいのちの尊厳に貢献することを願って」、カトリック教会の見解と日本の政府への七項目の要請を述べている。

いのちをその始まりから大切にしてください

一九九九年二月十九日

厚生大臣
宮下創平殿

日本カトリック司教協議会

要望書

はじめに

現代の科学技術は驚くほどの早さで進歩し続けています。生命科学の領域も例外ではありません。新しい医療技術が開発された結果、以前なら不治の病と言われていた疾病も、今日では克服できるようになってきています。わたしたちは、この分野で日夜研究に取り組み、発展のために貢献してくださった方々に心から深く感謝いたします。また、この際、カトリック教会が科学や医学の進歩発展に最大限敬意を払っていることを、ここに改めて表明いたします。わたしたちは、いのちを尊重するためであるならば、それらの医療を施すことを支持し、それらの医療を受けることも勧めます。

しかし、日本を含む世界各地の科学者の間では、人間のいのちの誕生を人間の手によって操作しようとする研究が進められているということも聞きます。わたしたちは、科学や医学、優生学上の名目を口実に、人間の受精卵や胎児が実験に使われたり殺されたりしてはいないかと深く心配しています。

わたしたちは、科学や医学の研究が常に生命の神秘に対する畏敬のうちに行われ、この分野での発展がいのちの尊厳に貢献することを願って、カトリック教会の見解をお伝えし、七項目の要請を提出いたします。

カトリック教会の見解

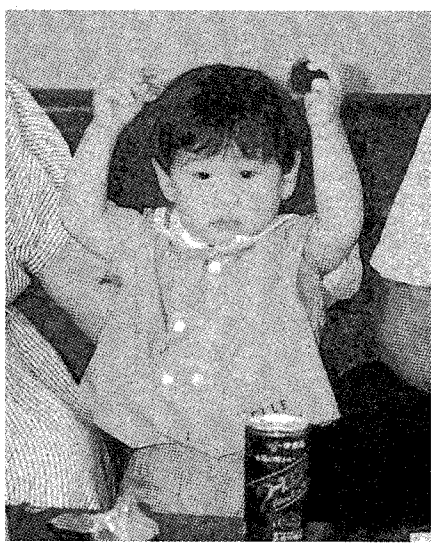
①子どもは親の所有物ではない

わたしたちは、胎児にも、その存在の始めから人間として尊重される権利があると考えています。日本語には「子どもを持つ」という表現がありますが、子どもは親の「所有物」では決してありません。子どもは「授かりもの」であり「たまもの」そのものです。生まれる前の子どもであっても、すでに生まれた子どもであっても、子どものいのちは神からいただいているもの、預かっているいのちとして尊重されなければなりません。

また、「生まない自由」という表現もありますが、親に、胎児のいのちを奪う自由があるという考えを認めることはできません。このような自由を認めることは、服従する以外に選択の余地がない弱者に対する、強者の自由を認めることになるばかりか、たまものであるいのちを踏みにじることにもなるからです。したがって、子どものいのちを奪い去ることを目的とした人工妊娠中絶は、どのような方法がとられるとしても、決して認めることはできません。

②人間の尊厳はいかなる場合にも守られるべきである

いわゆる「世俗的」倫理学の中には、人間のいのちに価値の上下をつける考え方があります。つまり、理性と反省能力があり、自分の人生設計をたてることができる人間のいのちの方が、そういうことができない人間のいのちよりも価値があるという考え方によれば、胎児や新生児、あるいは不慮の事故などで長期にわたって意識不明の状態にある人のいのちは、元気に働いている人のいのちよりも低い価値しかもたないということになります。言葉ではっきりと表現していなくとも、こうした考え方に基づく法律や医療行為が存在します。



しかし、いのちは、どのような人のいのちであっても、等しく大切なものであり、わたしたち人間がそれに優劣をつけることができるものでは決してありません。胎児であれ幼児であれ、成人であれ老人であれ、不治の病を患う人であれ死を目前にしている人であれ、同じように尊重されなければなりません。同じ理由で、わたしたちは、あらゆる殺人行為、人工妊娠中絶、すべての苦痛を取り除く目的をもって故意に死をもたらす安楽死、死刑などに対して反対します。

わたしたちは、出生前診断と治療が、胎児のいのちを尊重し、健康状態を改善し、胎児を個人として保護するためならば、それらを感謝のうちに受け入れます。また、そのような研究がさらに推進されることを心から願っています。ただ、出生前診断の中には、まだ治療法がなかったり倫理的に容認できる予防策が確立されていない障害や難病をもつ可能性を調べるものもあります。このような診断には明確に反対します。それは、暗に、障害のある子どもの排除に結びつき、彼らのいのちを軽視し、その人権を踏みにじる行為となってしまうからです。

③名誉のために、あるいは経済原理に従って人間のいのちを扱ってはならない

経済的な裏付けがなければ、どのような技術も開発できません。しかし新しい技術が、経済原理や個人的な利益のために開発されたり利用されたりするならば、平等であるはずのいのちに格差をつけていくことになってしまいます。社会の中で力ある人々はさらにその力を増大させ、周辺に追いやられている人々はこれまで以上に、人間らしく生きる機会を失っていく危険性があります。こうした事態を避けることは、医療関係者だけの責任ではなく、行政の責任でもあります。

また、臓器移植の歴史を振り返ると、「最初の成功者」という名誉を競ったためか、疑惑の残る移植が行われた事例があったことは周知のとおりです。患者のいのちよりも研究者の名誉や科学的な興味が優先されるとは決して認められません。

「患者の救命のため」という美名に隠れて、利潤と名誉という利己的な目的のために、いのちがもてあそばれることは何としても避けなければなりません。

政府に対する要請

いのちの問題は個人的な次元のものではなく、文化の問題でもあるとともに社会問題でもあります。そこでわたしたちは、いのちの尊厳を守ることを自分たちの課題として取り組む決意を新たにすると同時に、以下の7項目を政府に要請いたします。

①子どものいのちは子ども自身のものであって、子どものいのちを奪う権利は親にも医師にもありません。とくに、いのちの始まりにかかわるすべての医療において、子どものいのちが大切にされるように、制度や法律を整えてください。

②胎児や幼児のように、自分で自分を守ることのできない弱い立場にあるいのちほど、社会がより注意深く心を配る必要があることを、国の方針として明確にしてください。また、いのちを大切にする教育ができる環境を整えてください。

③医療が、障害のある人を抹殺するような優生学的な方向に進むことを阻止し、障害のある人とその家族が十全に生きることができるような社会づくりと福祉政策を促進してください。

④病気や障害がある胎児のいのちを尊重し、健康状態を改善し、個人として保護するための治療がさらに進歩するように、研究のための条件や環境を整えてください。同時に、倫理的に容認できる予防策や治療法が確立されるまでは、それらが確立されていない障害や難病の可能性を調べる出生前診断が行われないように指導してください。

⑤試みの段階でしかない、治療という名目で行われている生殖細胞や胚の細胞を対象とした遺伝子操作、受精卵の実験利用を法で規制してください。

⑥いのちの始まりにかかわる医療や技術開発が、経済原理や個人の名誉欲に左右されることを防ぎ、すべての人のいのちが等しく大切に扱われるよう配慮してください。

⑦新しく開発される医療分野についてはできる限りわかりやすく情報を開示し、論議を深め、あくまでもいのちを大切にする社会づくりを推進するようにしてください。とくに、いのちの始まりにかかわる医療の技術開発については慎重に議論を重ね、その妥当性を明確な論理で説明できるようになるまでは実施しないよう指導してください。

おわりに

日本の民法には、胎児にも損害賠償の請求権と相続権を認めた条文（民法第七二一条および第八八六条参照）、胎児を「胎内にある子」と呼んで人間とみなしている条文があります（民法第七八三条参照）。また日本は、子どもが生まれる前であっても生まれた後であっても、「身体的及び精神的に未熟であるため」「適当な法的保護を含む特別な保護及び世話を必要とする」と明記した「児童の権利条約」を一九九四年に批准施行しています（「児童の権利条約」前文参照）。しかし日本の社会は、人間のいのちが始めから尊重される健全な社会であるとはまだ言えない状態であるのも事実です。

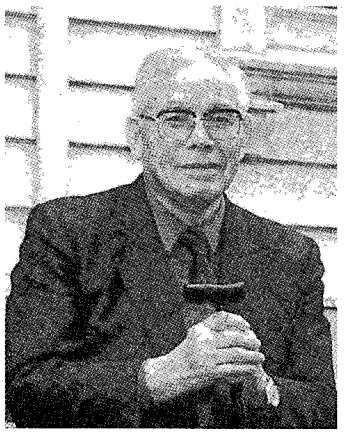
社会や文明の質は、その社会の最も弱い立場に置かれた人に対して示される尊敬の度合いによって決まるという言葉があります。日本に住むすべての人が、日本の社会と文化に誇りをもつことができるようになるためにも、上に記した7項目の要請を受け止め、対処してくださるよう要望いたします。　以　上

日本カトリック司教協議会会員
（白柳誠一カトリック東京大司教以下、十五名の司教の署名が続く）

人

修道生活４７年間

床島藤吾さん（ブラザー）



「司教様の前でこっそり毎年、誓願を更新しています」。深堀仙右衛門司教が設立したヨゼフ会の修道者。「会員は隠れた生活をしなさい。ヨゼフ様は隠れていたよ」と創立者はいつも言われていたそうだ。司教と司祭団に奉仕するのがこの修道会の目的。

深堀、平田三郎、松永久次郎司教三代にわたって奉仕。「いつの時代にも司教様でないとわからない悩み、苦しみがある。司教職はたいへん」と感想。会員はいちばん多い時で七人いたが、現在は一名。会長、会計、その他一切の役務を担当している。

兄三人、姉三人の七人兄弟の末っ子。甘えん坊で育った、という。今村で生まれ、受洗。昭和二十三年に福岡に。終戦直後、現在の浄水通界隈一帯は焼け野原。ただし、雙葉学園と小神学校だけが残っていたそうだ。当時長崎の神学校が一杯で、福岡教区の神学生は長崎と福岡の二手に別れた。暁星で三年間学ぶ。一昨年帰天した伊東誠二神父は暁星時代の同級生。

第二バチカン公会議前後、教会は大きく変わった。「信仰生活は、個人的には昔の方が熱心だったように思える。でも、現代は、超小教区で活動をしたりして、横のつながりはできている。求道者も昔の方が多かったようだし、若者があまり教会に集まらなくなったのが気掛かり。」淡々と笑顔で語るブラザーを見て、教区の宝だと思う。

三井郡大刀洗町大字上高橋生まれ。昭和27年に初誓願。82歳。

ご案内　祈りの学校

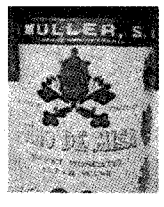
「祈りの学校」とは、一般黙想会とはちがって、祈りの方法を具体的にそして一緒に実践しながらお伝えしようとするコースです。

【コースⅠ】福音書の中にイエスをみつめる祈り
① 4月17日(土) 16:30 ～ 18日(日) 15:00
② 6月12日(土) 16:30 ～ 13日(日) 15:00
【コースⅡ】詩編によって自分の心を注ぎだす祈り
① 5月15日(土) 16:30 ～ 16日(日) 15:00
② 7月10日(土) 16:30 ～ 11日(日) 15:00

指導　来住 英俊　神父
会費　1泊3食 6,000円
(受付　9:30～17:00)

福岡默想の家　〒811-4155 宗像市名残1056　TEL 0940(32)3222 FAX 0940(32)3385

ミサ用ワイン



ヴィノ デ ミサ
VINO DE MISA
スイートタイプ（赤）（白）
ご用命　お問い合せは
有限会社 大楠酒店
ヨハネ　青木 彰
〒815-0082　福岡市南区大楠2丁目4番8号
電話 092-531-4718　Fax 092-521-6453

別れ・出逢い・旅立ち
草苑 (SOU-EN)
ご葬儀
木下株式会社
TEL092-526-5656
〒810-0016
福岡市中央区平和３丁目1-5

―グレゴリオ聖歌を歌う―

毎月曜日の10時から11時30分、手取教会から、天上の音楽を思わせるグレゴリアンの調べが流れてくる。歌うのは、花の三十代から、もう一度花咲かせたい八十代まで約二十人のメンバーからなる「グレゴリアーナ」の面々。毎週の参加者は十数名だが、四月二十四日に行われるコンサートの練習に熱が入っている（＝写真）。



指導は、手取教会で三十年間オルガニストを務めている坂田孝子さん。坂田さんは五年ほど前に、今ではどこの教会でもすっかり影をひそめてしまった感のある、カトリックの伝統的なグレゴリオ聖歌を、ぜひ歌いという熱い思いにかられてグループを作った。坂田さんは、本格的にパイプオルガンとグレゴリオ聖歌を学ばれただけあって、きさくで飾らない人柄でありながら、練習は結構、水準が高い。しかし、グレゴリアンに惹かれて入ってくるメンバーは、ほとんどが歌に関しては素人同然。最初は声を出し過ぎたり、円を描くような歌い方に慣れず、苦労されたようだ。熱心な指導と、皆が穏やかで澄み切った心で歌うためか、練習を聴いてメンバーに加わったという人もいるから、なかなかの上達ぶりである。

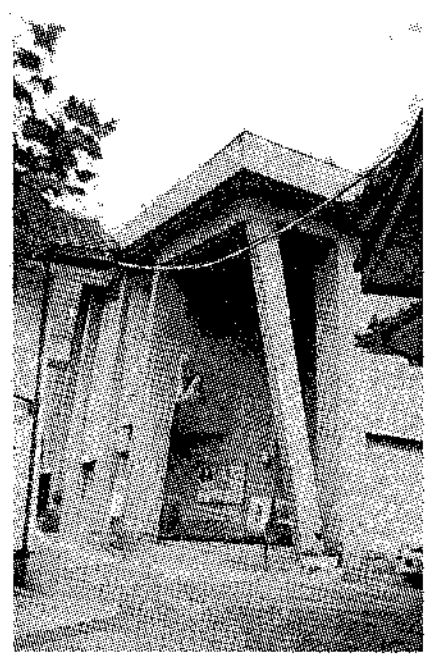
コンサートも今度で五回目になるが、三回目からは、みこころホスピスの支援のために、チャリティーコンサートを開いており、チケットの収益金をみこころ病院に寄付している。

昨年は、グレゴリアーナの歌うテープを聴いた病気の方が、くり返し何度も聴いて大きな慰めを受けたという嬉しい便りが来た。テープ作りなどで少々忙しくなってきたが、神の栄光を讃えるため、また若さを保つために、今日もグレゴリアーナを歌い続けている。

（取材協力　堺　敬子）

■第5回スピリチュアルコンサート（みこころホスピスのために）［日時］4月24日（土）17時～18時［場所］手取教会聖堂［内容］復活祭のグレゴリオ聖歌とパイプオルガン演奏［曲目］主よ人の望みの喜びよ他［主催］グレゴリアーナ［入場料］500円［問合先］坂田孝子（手取教会オルガニスト）☎096・322・0254

大聖年準備のための指定巡礼教会　6　湯川教会

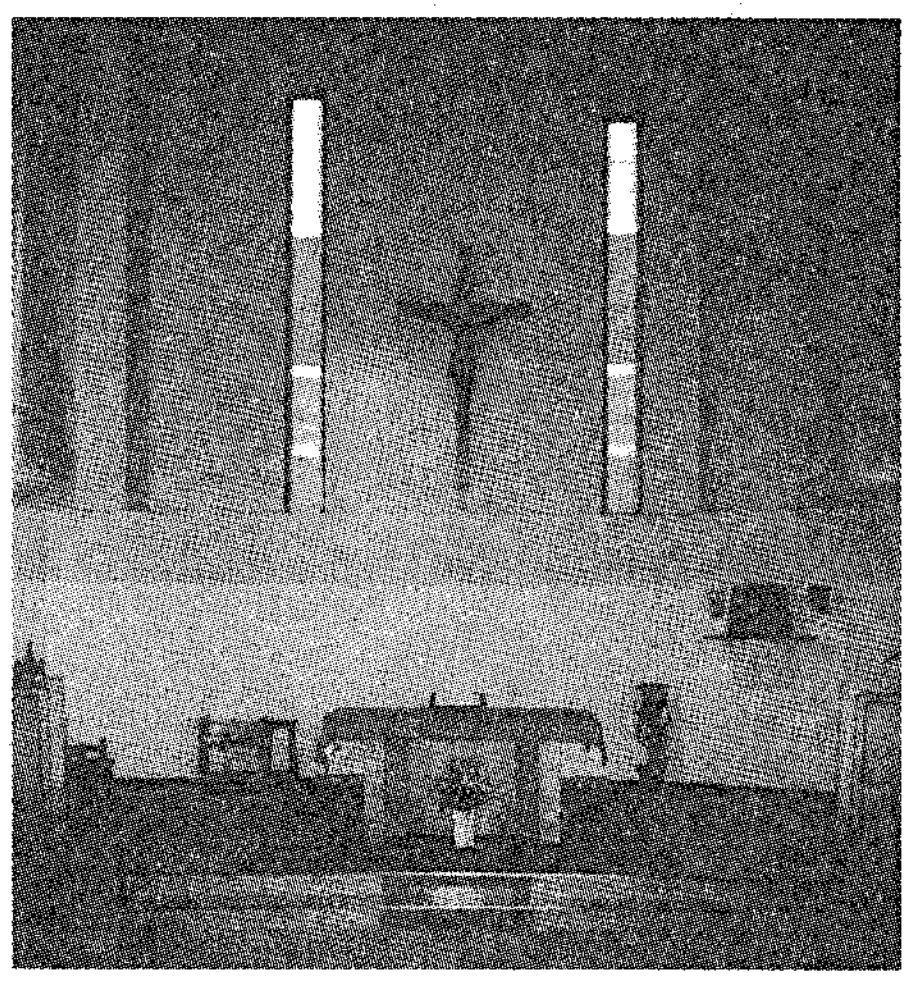


和気清麻呂の伝説で有名な足立山の麓、緑多い地に湯川教会が誕生して、早や五十年になる。この地に最初の信者木村与五郎氏が居を定めたのが一九二九年のこと。一九四六年に民家を購入して仮教会とし、毎月一回ミサが行われるようになるまで、十数人の信者たちは毎日曜日、約六キロ離れた小倉教会へ徒歩で通っていた。

一九四九年に小倉教会から別れ、文字通り湯川教会が発足。教会とはいえ聖母園という保育園と兼用で、何かと不便ではあった。なんとか専用の聖堂を、という信者たちの望みは、一九五七年にかなえられる。戸畑教会の新築に伴い、木造の旧聖堂を譲り受けて湯川教会に移築、深掘司教により祝別された。翌年には司祭館も新築。

現在の鉄筋コンクリートの教会は、十ヶ月の工期を経て一九七四年二月に落成、平田司教により祝別され、聖フランシスコ・ザビエルに献げられた。

国道10号線沿いの小高い地にあるが、隣接する保育園や司祭館にさえぎられて、正面は道路からはほとんど見えない。側面のみが眺望されるが、残念ながら一見して教会と判じがたい。駐車場といえるものはないが、すぐ下に、教会のために設置された感じの上葛原バス停があって便利だ。



設計は小田・大旗両設計事務所で、山崎工務店施工による建物全体の感じは、垂直と平行を避けた「向き合って倒れ相互に結び合う台形」で、そのため内部空間は、簡素ながら他の教会とは異なる雰囲気を持つ。

玄関では、上方から守護の天使が入堂する人たちを見守り、入口を飾る旧約時代の預言を表わす欄干が目をひく。祭壇の床下には、五十年後には……と、当時の信徒名簿などを納めたタイムカプセルが埋め込まれているという。

聖堂上屋に置かれた鐘は、二百年前にフランスで製造されたもので、数奇な運命をたどった後フランス東部の小さな教会にあったものを、グロージャン神父が譲り受け、寄進したという、教会そのものよりも長い歴史をもつ。

データ　●信徒数／約一二〇〇人●ミサ時間／土曜日19時、日曜日6時・9時●住所／〒北九州市小倉南区湯川5・10・33●☎093・922・7997●FAX931・0322●主任司祭／ヨセフ浦俊雄

場所　●JR日豊線「安倍山公園」駅下車、徒歩3分●西鉄バス「上葛原」下車1分●九州道小倉東インターより10分。

書評

鹿児島に来たザビエル
小平卓保 著

あまたの出版物の中で、また一つの名著が出た。著者は鹿児島教区の司祭で、鹿児島とザビエルを熱愛する人である。これはいわゆる聖人伝ではなくて、過去のザビエル伝を全部ふまえて、ザビエルの誕生の地から、帰天のサンシャン島まで、三回にわたってその足跡をくまなくたどり、その土地の気候風土の感触まで思いおこすことのできる位という。著者は、学術書ではないと断っておられるが、それは書き方がエッセイ風で、たいへん読みやすいと言うことだけであって、よくここまで学術的に調べられたと、その博学は驚くばかりである。恐らくその背後には、一、二年ではなく、何十年かのコツコツと研究されたものが実を結んだに相違ない。その中には岩下師を始め、日本の有名なカトリックの神父や信徒などが随所に出てくるのみならず、吉川英治、司馬遼太郎、立花隆などの著名人のザビエル観も掲載されていて、身近に感じられ、私がよく知らなかったバスク地方のこと、ピカソのゲルニカの由来、西郷隆盛の敬天愛人のルーツが清の康熙帝にあること、「広辞苑」にあるザビエルの漢名は、方済各とあるが、それはフランシスコのことであり、ザビエルは沙勿略である、などである。またザビエル城にある、くるみの木に彫られた等身大の十字架のキリストは、苦しみながら、微笑んでいるという文を読んで、私も切に観たいと思っていたが、裏表紙にまさしくそのカラーが写されていたので、飽かず眺めた。この書は書店のみならず、鹿児島県で今後開かれる渡日四五〇年祭の行事の度毎に売っていただきたい。信者もさることながら、特に信者でない人にも、宣教に役立つ。

（箱崎教会　森山　敬三）



みことばに生かされる喜びみ旨に従う喜び

週	日時	テーマ	講師
第1週	5月10日	神の愛	Fr. マテオ・Fr. 青木悟
第2週	5月17日	救いのみわざ	Fr. 伊東成晃
第3週	5月24日	新しい生命	Fr. 山元眞
第4週	5月31日	神の賜物の受領	Fr オカロル
第5週	6月7日	聖霊のバプテスマ	Fr. マッケイ
第6週	6月14日	聖霊のうちでの成長	Fr ドワイヤ
第7週	6月21日	《ミサ》キリストの証人	松永久次郎司教・参加司祭団

会場：カテドラル大名町教会
とき：毎週月曜日10時30分～12時30分
主催：聖霊による信仰生活刷新セミナー実行委員会
顧問：青木悟神父・ライル神父・ガブリエル神父・マテオ神父
問合先：Br.床島藤吾（司教館：☎092-522-5139）

キリスト教を土台とする熊本青年会による

イースター合同礼拝＆パーティー

「主にあって我らはひとつ」をモットーに、超教派の青年信徒同志（熊本）が終結、「R.O.C.K.(ロック)」が発足。4月4日(日)16時～20時まで、広安愛児園（上益城郡益城町古閑73☎096・368・2015)で開かれる。参加費は《一般》1500円《高校生以下》1000円。ヤングキャンプ神父、ボーマン牧師が説教を担当する。問合先は［代表］蒲生逸司☎096・367・9142

マリア堤 イマ様

茶山教会主任の堤要吉神父の令姉。三月十三日に宝塚の救急病院で帰天。四十七年間の修道生活（ショファイユの幼きイエズス修道会）を全うされました。享年80歳。

御寄付御礼

ヨセフ峯定夫様の御逝去につきましては皆さまと共に故人の死を悼み、心から御冥福をお祈り申し上げます。つきましては、この度のご葬儀に際し、皆さまから寄せられましたご芳志に対して峯家より、ご返礼にかえて福岡サン・スルピス大神学院へ多額のご寄付をいただきました。故人の遺志と同家の司祭養成に対する深い理解に沿うよう、この寄付金を有意義に活用させていただく所存です。ここにご厚志に対し感謝いたしますとともに、皆さまにご報告申し上げます。

一九九九年三月

福岡サン・スルピス大神学院
院長　大山　悟

BOOK 読みま専科

★空と雲へのあこがれ
―イエスへの手紙―
大原　猛著



『下町の神父』でおなじみの著者が、かつてカトリック青年労働者の運動に関わっていた時代に、書き留められていた日記の一部。過酷な労働現場で働いていた彼らとの関わりは、自己の弱さと向きあい、豊かにされていく。彼らの発するメッセージをイエスからのメッセージとして受け、イエスに向かって祈りとも、詩ともになってこだましていく。空や雲はイエスであり、屈託のない生きかたへのあこがれであった。

女子パウロ会　税別　六五〇円

◇◇◇

★聖アウグスチヌス
永井　明著



アフリカの明星、ヒッポの偉大な司教聖アウグスチヌスは、決して初めから聖なる人ではなかった。むしろ放蕩児で、その母聖モニカの悩みの種であったが、彼は真理の神を求めてさまよい、悩み、自己の弱さとたたかって苦しむ。

著者は、彼のそのような姿に感動して、その生涯を書くことにより、その感動を、現代に生きる若い人たちに伝えたい、と願っている。「恩寵博士聖アウグスチヌス」を改題。

サンパウロ　税別　六六〇円

ジャパンスマイルか
株式会社
不動産／管理・仲介・売買・建設／一般建築
〒810-0044 福岡市中央区六本松4-9-4
TEL092-761-8800
代表取締役 マルガリタ・マリア 吉田由利子

吉田設計
株式会社
建築設計／企画・設計・監理
〒810-0044 福岡市中央区六本松4-9-7
TEL092-711-0550
代表取締役 ヨゼフ 吉田豊博

祭壇・洗礼盤他
素材｛大理石　御影石　その他
石のパイオニア
高木石材株式会社
〒860-0006 熊本市段山本町2-21
TEL 096-352-2417

福岡黙想の家　4月

◇1日(木)～4日(日)　聖なる三日間の典礼と主の復活を祝う（Fr. 畠）
◇5日(月)～6日(火)　泰星学園職員研修
◇10日(土)～11日(日)　からし種の会黙想
◇11日(日)　ルーメン・ヴィーテ黙想会（Fr. 来住）
◇17日(土)～18日(日)　祈りの学校（Fr. 来住）
◇24日(土)～25日(日)　熊本青年黙想会（Fr. 来住）

［問合先］黙想の家　☎0940・32・3222　FAX32・3385

黙想の家のホームページを御利用ください
◎ホームページ　http://w32.mtci.or.jp/~daneox
◎e-mail　Mail to daneox@mtci.or.jp

生命山カトリック別院

生命山では、皆様のために、美しい自然の中で、神との語らいの日々を過ごしていただきたく、黙想会を計画いたしました。ご参加ください。

■祈りの集い
日　時：④4月8日(木)　9時45分～15時
テーマ：三位一体のイコンの観想
指　導：フランコ神父
★次回は⑤5月13日(木)です。

■諸宗教対話活動／仏教者との交流
(B)4月29日(木) 上益城郡教寺

■研修会－典礼と生け花
(B)5月2日(日)～3日(月)

＊個人、又はグループでの黙想等、常時受け付けています。
［問合先］生命山カトリック別院　☎0968・85・3100

第38回　クルシリヨ開催

下記の通り第38回クルシリヨを開催いたします。

ご存じのとおり、このクルシリヨは教会の要望に従い、使徒職に献身する信徒の養成をめざすもので、司教様も、生涯教育の一環としてクルシリヨの体験を強く望まれています。

この世の福音化をめざす今年のクルシリヨに、小教区、修道会からもたくさん参加くださいますよう、お願い申し上げます。

参加希望者は教会等にあります申込書を、下記事務局に4月25日までにお送りください。

＊なお、時間的に間に合わない恐れがある場合には、下記問合先に電話で直接お申し込みください。

記

1. 日　時　5月2日(日)　19時～5日(水)　16時
2. 場　所　福岡黙想の家　☎0940・32・3222
3. 参加費　12,000円　宿泊・食事・用品代として当日受付けます。
4. 携行品　ロザリオ・着替・寝間着・洗面用具（筆記具・その他ほとんど事務局で用意します）
5. 問合先　福岡教区クルシリヨ事務局　大谷真造　☎092・661・0120

＊当日は18時30分をめどに受付けをしてください。夕食は必ず済ませて参加してください。

会合と催し

教区年間テーマ：父である神を共にほめ賛えます

4月

1日（木）聖木曜日（主の晩さん）
　主の晩さんの夕べのミサ（カテドラル19時）
2日（金）聖金曜日（主の受難）
　大斎・小斎《聖地献金》
3日（土）聖土曜日
　復活徹夜祭（カテドラル19時）
4日（日）復活の主日［祭］
5日（月）＋F.ブレンゲ［佐賀教会1946］
7日（水）＋C.シュミッツ［黙想の家院長1988］
11日（日）復活節第2主日（白衣の日）
　花岡山殉教祭
12日（月）＋パウロ大野正恒［泰星学園校長1985］
13日（火）福岡教区司教座教会献堂記念日
15日（木）＋J.ドレル［直方教会1984］
18日（日）復活節第3主日
　司教座教会献堂記念特別献金
25日（日）復活節第4主日（聖マルコ福音記者）
　召命祈願日
　＋A.レウトル［新田原教会1944］
29日（木）シエナの聖カタリナ［記］
　みどりの日

5月　聖母月

1日（土）労働者聖ヨセフ
2日（日）復活節第5主日（聖アタナシオ）
3日（月）聖フィリポ・聖ヤコブ使徒［祝］
　憲法記念日
4日（火）国民の休日
5日（水）こどもの日
　＋F.ルマリエ［八代教会1945］
9日（日）復活節第6主日／世界広報の日《献金》
　広報研修会（福岡カトリック神学院13時30分）
10日（月）＋F.チリ司教［初代福岡教区長1930］
14日（金）聖マチア使徒［祝］
　福岡聖書講座①（～7月16日）■
15日（土）＋ヨハネ棚町正刀［茶山教会1968］
16日（日）主の昇天［祭］（復活節第7主日）
　人吉教会創立100周年記念式典
23日（日）聖霊降臨の主日［祭］
　合同堅信式（カテドラル13時30分）
26日（水）聖フィリポ・ネリ［記］
30日（日）三位一体の主日［祭］
31日（月）聖母の訪問［祝］

■印は本面に詳細説明あり

福岡

■ヨアキム・アンナ信心会［日時］4月15日（毎月第3木曜日）13時15分～15時［場所］聖クララ寮聖堂（福岡市南区塩原）［主宰］信心会会長・樋口康子（東京教区）［指導］恵美漸吉神父（サレジオ会）［内容］聖体顕示、ロザリオの祈り、黙想など。ミサ（ある場合は14時～）。［問合先］今井紀代美　☎092・891・4090／7244・7353

■出会いの集い　［日時］4月18日（日）11時～16時［場所］カテドラル大名町教会［内容］お話（浦口均神父）、昼食、レクレーション（吉川信雄氏）［参加費］二〇〇〇円（昼食代含む）［対象］20歳以上の独身男女［申込締切］4月11日［申込・問合先］前野良子（浄水通）☎092・771・0793、村尾慶子（大名町）☎6072・6992、本吉美美子（高宮）☎551・7797★大名町教会で9時からミサがあります。

■福岡カトリック・パストラルケア研究会　［日時］4月18日（日）14時～16時［場所］福岡サン・スルピス大神学院新館講話室［内容］勉強会（「病人訪問いやされるかかわり」詳読会）［参加費］五〇〇円［問合先］事務局（シスター箕浦☎092・871・4943大神学院）5月例会は9日の予定。6月は13日に講師キッペス神父を講師に予定（参加費七〇〇円）。

■福岡地区・召命を共に祈る会　［日時］4月22日（木）14時～16時［場所］浄水通教会（ロザリオ）・司教館（集い）［問合先］青木悟神父☎092・522・5139（教区本部）

■SE・CO創立十周年記念の集い　［日時］4月24日（土）10時30分～14時［場所］聖心ウルスラ宣教女修道会［内容］ミサ・カトレット神父、講話・山元眞神父［参加費］献金［申込締切］4月14日［問合先］シスター高取☎092・512・0033

■聖テレーズの著作を読む会　［日時］4月25日（毎月第4日曜日）14時～15時30分［場所］カルメル会修道院（福岡市西区上ノ原）［問合先］カルメル会修道院☎092・807・7336 1［世話人］城島暁（浄水通教会所属）。尚、同日13時～13時50分キリスト教入門講座があります。

■福岡生と老い・死をみつめる会　［日時］4月25日（日）14時～16時［場所］カテドラル大名町教会［内容］平成十年度総会・ビデオ鑑賞・死別体験者の語り合い［参加費］無料［問合先］事務局（大山美穂子☎092・713・8523）

■聖書講座［前期］ローマの信徒への手紙　［日時］5月14日19時～21時（毎週金曜日・全10回）から7月16日まで［場所］カテドラル大名町教会［テーマ・講師］①5月14日・ローマの信徒への手紙の著者、年代、場所、構成と教義・松永久次郎司教②21日・挨拶・ローマ訪問の希望、手紙の根本主題・同上③28日・人類の罪と神の正しい裁き・高見三明神父④6月4日・ユダヤ人と律法、信仰による義・同上⑤11日・アブラハムの模範と信仰によって実現される約束・中浜一男神父⑥18日・信仰によって義とされて、アダムとキリスト・同上⑦25日・罪に死に、キリストに生きる・青木悟神父⑧7月2日・内在する罪の問題・櫻井尚明神父⑨9日・霊による命、将来の栄光・牧山勝美神父⑩16日・神の愛・土岐圭子氏⑪6月1日・神さまの摂理・佐藤哲夫神父④6月8日（午前）《キリスト教が信じる神さま》は・村木敏子修道女、（午後）新しい生き方（山上の説教より）、その一・ギュンタ・ケルクマン（午前）死の臨床から命を学ぶ・三木浩司氏、（午後）新しい生き方（山上の説教より）、その二・ギュンタ・ケルクマン神父⑥22日・言葉と想像力と創造・来住英俊神父［受講料］一講座500円［申込先］カトリック福岡司教館☎092・524059（16時まで深堀）FAX523・2152（24時間）

■南粕屋教会バザー　［日時］5月16日（日）11時～14時［場所］南粕屋教会内［趣旨］①教会建設借入金の返済②ペルー布教活動援助③オブレート会活動に対する協力

北九州

■ディエゴ加賀山隼人列福祈願ミサ・顕彰奉仕会　［日時］4月15日（木）19時（毎月15日）［場所］小倉教会［問合先］小倉教会☎093・921・0139 FAX921・0139

佐賀

■心のシルクロード文化講演会（佐賀教会一〇〇周年記念事業）　［日時］5月22日（土）13時30分（開場）～［場所］アバンセホール［内容］①講演「人のため生きるとき自分も生かされる」［講師］鈴木秀子女史（聖心女子大学教授）②秦琴演奏［奏者］深草アキ［入場料］五〇〇円［主催］佐賀カトリック教会一〇〇周年記念事業実行委員会［問合先］佐賀教会☎0952・23・4754

熊本

■第59回熊本結婚準備セミナー　［日時］4月13日（火）～5月17日（月）毎火曜・月曜日19時～21時30分［場所］手取教会［申込・問合先］手取教会☎0962・352・3030 FAX352・1515

編集後記

なんとか出来上がりました。今後とも皆様のご協力をよろしくお願いいたします。（中村）

1999年度ホスピスボランティア勉強会

どなたでも、看護、末期医療、緩和ケア、ホスピス、ボランティアそして死について関心のある方はどうぞ

第1回　5月16日　市街地のホスピス病棟　小早川 晶　氏（木村外科病院ホスピス長）
第2回　7月18日　ホスピス病棟から・熊本県　井田 栄一　氏（ホスピス担当医師）
第3回　9月19日　在宅ホスピスの現状・事前指定書　二ノ坂 保喜　氏（二ノ坂クリニック院長）
第4回　11月14日　ホスピス病棟から・佐賀県　佐藤 英俊　氏（佐賀県立病院緩和ケア病棟医師）
第5回　1月23日　死生学そしてグリーフケア　波多江 伸子　氏（倫理学研究者・ファイナルステージを考える会世話人）
第6回　3月12日　共に生きる：これからのホスピスボランティア　平田 悠貴子　氏（手取教会信徒）　大山 悟　神父（カトリック・パストラルケア研究会顧問）

会　場：カトリック大名町教会4階
と　き：14時～16時
参加費：700円
連絡先：小林計子（☎092-512-8723）　深堀邦枝（☎092-801-5351夜）

COSMOS
スポーツ用品・OA・文具　コスモス
〒830-1224 三井郡大刀洗町鵜木67－3
TEL 0942－77－3199
代表者　ペトロ 平田　清

“任意保険に加入してから車の運転を致しましょう”
自動車、火災、傷害、海外旅行傷害保険、保育園、幼稚園児を守る、企業賠償保険
〒814-0153
福岡市城南区樋井川3丁目17－10
大石保険事務所　大石真澄
☎092-552-8195　Ⓕ092-541-7734

FUJIKI
未来へ――安心を創る
藤木工務店
福岡支店 〒812-0016 福岡市博多区博多駅南3-1-1　TEL 092-441-6585(代表)
取締役社長 藤木鐵三　福岡支店長 長山和博



広報研修会

テーマ：インターネットを使って
　　情報交換をする
内　容：インターネット体験
　　各地の広報活動の分かち合い
講　師：中村　彰神父、平野　禎氏
日　時：５月９日（日）
　　１３時半～１６時
場　所：福岡カトリック神学院
　　福岡市中央区浄水通３８
　　☎０９２－５３１－６８２１

60年50年25年叙階記念を祝う

喜びの聖なる油を祝別

聖香油ミサ

三月三十日聖火曜日午後三時より聖香油ミサがカテドラル大名町教会で行われた。聖香油ミサは司教の祭司職の充満をよく表わすものの一つであり、司教と司祭の深い結びを示すしるしであり、司祭職制定を祝うものでもある。この日に当たって教皇は毎年「司祭へのメッセージ」を送られる。今年は大聖年の最後の準備の年、御父の年に当たり、「アッバ・パーテル」であった。

三月三十日午後三時カテドラル大名町教会で松永久次郎司教司式のもと、平田司教はじめ八十名の司祭団、多くの修道者や信徒が集い、聖香油ミサが行われた。今年も昨年に続き、聖木曜日ではなく聖火曜日に行われた。それは福岡教区は北九州から佐賀、熊本にいたるまで広いため、聖木曜日にミサと祝賀会をすると、どうしても夜の主の晩餐の典礼に支障をきたすからである。

松永司教はミサ中の説教で、教皇の「司祭へのメッセージ」を紹介した。「アッバ・パーテルの祈り、これは父なる神に呼びかける祈りであり、上昇の祈りである。そのためにはキリストのへりくだりがまずあった。私たちは真にへりくだることによってこの祈りを体得することができる。またキリストによって、キリストとともに、キリストのうちにというミサの中の祈りも、父に向かう祈りの心をよく表わしている。また主の祈りはすばらしい御父への祈りである。司祭職をお祝いする今日のミサの中では特別な祈りとして唱えてもらいたい」と語った。

このミサの中で病者の油、洗礼志願者の油、聖香油の三つの油が祝別された。司祭は新しく祝別されたこの油をそれぞれの小教区に持ち帰り、信者の必要に応じてそれを用いる。

司祭職の祝い

ミサ後、一階ホールで祝賀会が行われた今年司祭叙階六十周年を迎えられた平田司教（糸島教会）、五十周年を迎えられたイエール神父（スルピス会）、アレグリーニ神父（ミラノ会）、マグリン神父（ミラノ会）に司祭団を代表して堤要吉神父より祝辞と記念品が送られた。二五周年を迎えられたケルクマン神父（イエズス会）は欠席されていた。各神父の感謝の挨拶の後、松永司教よりこれからも今までの倍は頑張って下さいと励まされた。また福岡教区から出られる畠神父（御受難会）、シーベル神父（フランシスコ会）、福岡教区に入られる浦神父（イエズス会）、浦川神父（久留米教会）の紹介もあった。

ひとこと

平田三郎司教　「今年で八六歳になります。六十年前パリのノートルダム聖堂で同級生百名と司祭叙階を受けました。二、三ヶ月後、欧州大戦が始まり、パリはドイツに占領されました。パリ陥落の前日、脱出しました。一九四一年帰国するため、軍艦に乗ってビルバオから横須賀まで四十日もかかりました。横須賀で三ヶ月たって大平洋戦争が始まった。二度も戦争を体験して今日まで生きてこれたことを神に感謝しています。小神学校十二年に加えて司祭職を六十年、合わせて七二年召命の道を歩んできました。最近はミサの時、足がふらつくようになりました。最後まで立派に司祭職を果たせるように祈って下さい。」

A・アレグリーニ神父　「四月十六日が叙階記念日、今年の四月十一日で来日四八年になります。司祭生活をだいたい日本で過ごしたことになる。司祭になったこと、日本に来たことを神に感謝しています。今ロザリオの園で働いているが、そこに一日中ありがとさんと言うおばあさんがいる。見倣いたいものだと思っている。」

Z・イエール神父　「五十年間、神学校で過ごしている。なかなか卒業できない。頭が固いと思う。早く卒業できるように祈って下さい。」

R・マグリン神父　「五十年は早かったと感じている。神の恵みをいっぱいいただいた。この日を迎えたことを神に感謝します。皆さんにも感謝します。」


聖香油ミサの中で３種の油が祝別された


【写真上】聖香油ミサで3種の油が祝別された
【写真右】記念品を手に喜びの挨拶。右からイエール神父、アレグリーニ神父、平田司教、マグリン神父

今月の意向

教皇様の意向のために祈りましょう

【一般の意向】イエスのみことばの使者、証人である若者たち

【布教の意向】子どもの信仰を育てる親と平和への関与

【日本の教会の意向】青少年の世界の正義

カトリック福岡教区報

松永久次郎司教認可
発行所　福岡司教区本部
福岡市中央区浄水通39
発行人
カトリック福岡司教区
編集人　中村　彰
TEL　092-522-5139
FAX　092-523-2152
振替口座　01760-6-20729
カトリック福岡司教区
定価　一部60円

横浜教区に新司教


梅村昌弘新司教

ヨハネ・パウロ二世教皇は三月二十七日、横浜教区の新教区長として、同教区の梅村昌弘神父（四六）を任命した。司教叙階式は今月十五日（土）横浜市中区山手町の雙葉学園で行われる。

昨年六月、前教区長浜尾文朗司教が教皇庁移住・移動者司牧評議会議長に任命されて以来、同教区は空位となっていた。

横浜教区は神奈川・静岡・山梨・長野の四県からなり、信徒数五二、一〇一人、八五の小教区がある。

梅村昌弘被選司教の略歴

一九五二年　横浜市生まれ
一九八五年　司祭叙階後、末吉町教会助任
一九八六年　ローマ教皇庁立ウルバノ大学に留学
一九九一年　末吉町教会助任
一九九三年　東京カトリック神学院学務主任
一九九九年三月二七日　横浜教区第七代司教に任命

大神と新入生


寺浜亮司神学生

ペトロ寺浜亮司。一九七二年六月二五日生まれ、二六歳。四月よりサン・スルピス大神学院に哲学科三年生として入学。出身は久留米教会。一九九五年三月英知大学神学科卒業。その後、佛教大学通信教育で社会科の教員免許取得、アメリカに語学留学。帰国後英知大学で事務職員として勤務していた。召命の動機としては小さい頃接した司祭の影響が強かった。趣味は体を鍛えること、英語、温泉。新しい道を歩き始めるに当たって御心のままに、あせらずにじっくりとやっていきたい。期待せずに温かく見守って下さいとのこと。

召命祈願ミサ

5月6日（木）19時45分、有志の会である《召命をともに祈る会》主催で、福岡教区に司祭、修道者の召命を求めて、福岡サン・スルピス大神学院で「召命祈願ミサ」が行われる。どなたでも参加できます。

みちくさ

五月といえば聖母月、というのがカトリック信者の発想であるが、筆者にはもう一つ「授乳の聖母像」が母の日がある聖母月と結びつく▼マリア切手を集めて研究するうち、世に「マリア図像学」なる分野があることを知った。聖母像の由来や意味づけ、特にその姿勢により種々の型があり、「授乳の聖母」もその一つである▼これは、聖母マリアが幼子イエスに乳を飲ませている姿を描いた像で、マリアが母であることを最も如実に現わしたものといわれる。画家たちはヤコボ原福音書や聖ボナベントゥーラの「キリストの生涯に関する黙想録」からヒントを得たと思われる▼授乳の聖母像は早くもカタコンベの壁画にみられるが、流行したのは十三世紀の初頭から。しかしルネッサンス時代になると、この聖母像は急速に姿を消す▼神の母という威厳ある聖母像に親しんだ人にとって、胸を露出した聖母像はあまりに人間くさく、マリアの聖性を損なうと見えたのであろう。ピューリタンからの非難あり、処女懐胎したマリアの胸から乳が出るのは生理学上おかしいという説まであった▼いつであったか、東京でグレコ展が開かれたとき、広告用ポスターに授乳の聖母像が採用された。東京の地下鉄は「わいせつ」とは言わなかったが、駅構内に掲示することを拒否したと聞いたことがある。多くの名画が御絵としても通用しているが、授乳の聖母は全くない。母と子の生活の中ではごく自然の姿であろうが、神の母聖マリアの尊厳にはふさわしくない、と誰しも思うのだろうか。〈H〉

福岡教区教勢 (1998.1.1～12.31)

福岡教区総面積		14,808 ㎢			福岡教区総人口		7,751,210 人		
		福岡県	熊本県	佐賀県			福岡県	熊本県	佐賀県
	面　積	4,836㎢	7,402㎢	2,439㎢		人　口	5,000,525	1,866,341	884,344
	教会数	32	14	9		司祭数			
	世帯総数	12,130 世帯				信者総数	32,043 人		
	世帯数	9,177	1,870	1,083		信徒数	24,754	4,030	2,693
受洗者	幼児洗礼	205	35	33	神学生	大神学生	1	1	1
	成人洗礼	142	63	21		小神学生	1	0	0
	合　計	347	98	54		修道会神学生	0	0	0
	求道者数	421	61	35		神学生合計	2	1	1

		邦人	外人	計
司教		2	0	2
	福岡	28	0	28
	熊本	1	0	1
	佐賀	2	0	2
	他地区	1	0	1
	協力司祭	1	0	1
教区司祭数		33	0	33
	ﾊﾞﾘﾐｯｼｮﾝ会	0	8	8
	聖ｽﾙﾋﾟｽ会	7	1	8
	ﾐﾗﾉ会	0	8	8
	聖ｺﾛﾝﾊﾞﾝ会	0	11	11
	ﾚﾃﾞﾝﾌﾟﾄｰﾙ会	0	1	1
宣教会司祭数		7	29	36
	ｲｴｽﾞｽ会	3	4	7
	聖ｱｳｸﾞｽﾁﾉ会	0	1	1
	ｵﾌﾞﾚｰﾄ会	2	1	3
	ﾄﾞﾐﾆｺ会	0	2	2
	聖ｻﾞﾍﾞﾘｵ会	0	1	1
	聖ﾌﾗﾝｼｽｺ会	0	1	1
	御受難会	2	2	4
	聖ﾊﾞｳﾛ会	2	0	2
	厳律ｼﾄｰ会	0	1	1
	サレジオ会	0	1	1
修道会司祭数		9	14	23
司祭総数		49	43	92
前年との増減		-1	-5	-6
助祭		1	0	1
増減		0	0	-1
修道士	聖ﾊﾞｳﾛ会	2	0	2
	御受難会	0	0	0
	聖ﾖｾﾞﾌ会	1	0	1
修道士総数		3	0	3

	女子修道会	邦人	外人	計
1	トラピスチン	32	0	32
2	カルメル会	19	0	19
3	ウイチタ聖ヨセフ	2	0	2
4	幼きイエズス会	94	1	95
5	カノッサ修道女会	8	3	11
6	煉獄援助修道会	12	0	12
7	ノートルダム	19	2	21
8	聖母訪問会	36	0	36
9	聖母の騎士会	29	0	29
10	三位一体	5	2	7
11	聖母奉献修道会	2	1	3
12	幼きイエス会	12	0	12
13	師イエズス会	7	0	7
14	女子パウロ会	8	0	8
15	福音の光	8	0	8
16	宮崎カリタス会	17	0	17
17	聖クララ会	5	0	5
18	フランシスコ会	69	1	70
19	ｼｬﾙﾄﾙ聖パウロ	10	0	10
20	聖心のウルスラ	13	3	16
21	天使の聖母宣教	3	1	4
22	礼拝会	4	0	4
23	お告げのマリア	5	0	5
24	マリア布教	0	1	1
25	聖ウルスラ修道会	1	0	1
26	聖母ｶﾃｷｽﾀ会	10	0	10
27	王たるキリスト	3	0	3
28	神学校援助姉妹	3	0	3
29	いつくしみ聖母	1	0	1
30	ｶﾄﾘｯｸ愛苦会	13	0	13
修道女総計		450	15	465
増減		-8	-1	-9

呼ばれています シスター！

今年は、例年掲載していた小教区毎の信徒の動向ではなく、教会共同体の中にあって教役者ともいわれる司祭・修道者の現勢が掲載されることになった。

この表を見て、女子修道会の数に驚きを感じた。シスター方にお会いする機会はけっこうあるが、どんな修道会なのかあまり気にしていなかった。それに、修道会の数と会員数が比例しているとは思わないが、この教区報でも数回、「召命を考える」というテーマで、司祭の高齢化を取り上げたことがあった。シスター方にも同じ状況が見られるのではなかろうか。同じ現勢表を数年前にさかのぼって見てみると、福岡教区で働くシスターの人数が少しずつ少なくなっているのに気がつく。少し前のことだが、ある女子のミッションスクールで、登下校の時間に年老いた一人のシスターが校門近くの道の清掃をしている姿があった。彼女は、校門に出入りする生徒にニコニコと「おはよう。さようなら。」の声を掛けていた。曲がって丸くなった彼女の背中には生徒たちへの愛が満ちていた。

あちこちの教会でミサにあずかった時、シスターの姿があると、どこかほっとするのは私だけだろうか。

私が在籍している教会の受付に数年前からシスターが勤務している。ある年、若いシスターが配属されて来た。若者がさっそく、この若いシスターの周りに集まっている。笑顔とキビキビした彼女の存在は共同体にとって大きいと思う。

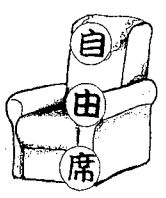
「教会は信徒の時代」といわれるようになって久しい。はたして、信徒の時代とはどんなことなのか。信徒が教会共同体の中で、どんな役割を受け持つのか。たしかに「信徒の霊性」、「信徒の召命と使命」など、信徒養成に関する本も次々と出版された。そして、婦人会や信徒有志による勉強会も開かれた。

昨今、養成が行き渡ったのかどうか、以前ほどのトーンは感じられない。かつて勉強会に参加していた人たちの中にも「霊性って何?」という声も今だに聞こえる。もちろん、養成は机の上だけのものではないし、信徒同志で養成され合う場合も多い。だが、歩みの不確かさはまだ否めないのではなかろうか。

養成はされる者が集まってもたない。養成者がいなければ成り立方に案内役を願いたいと思っている。高齢の方も若いシスターも、同じ共同体のメンバーとして信徒に近く寄り添って歩いてほしい。神の民に引退はない。

祈り処 生命山

聖ウルスラ修道会
Sr.東海林　博子



東に阿蘇外輪の山なみ、西は有明の海・島原半島、普賢岳はたびたびの噴火によって、山肌が露出しているが、いまだに美しい。夜ともなれば、熊本の灯、西の玉名の町の灯、有明の夜釣りの灯、空には月・星。なんとも美しい。自然に囲まれた生命山、この地に来て十二年。この間、どれ程の人々がこの地を訪れたことだろうか。静かな祈りの場をもとめてくるキリスト教(カトリックとプロテスタント)の司祭、シスター、信徒、日本の文化・宗教を学びたい外国からのグループ、心に傷を負ってしまった人、都会の生活に疲れしばしの休みを求める人、年を重ね豊かな人生を楽しんでいる謙虚な村人、開かれた心のお坊さま、神道の人、若者、元気な村の子どもたち……。

元旦には、村の人々が山道を登ってこの生命山カトリック別院・本堂に参詣する。「新年おめでとう、今年もよろしゅう」、神父も「昨年はお世話になりました。今年もよろしく」と紋付羽織・袴で迎える。そして「主があなたを祝福し、あなたを守られるように」(民数6章)と祝福のことばを一人ひとりに贈る。下の宿坊では、シスターが甘酒を作って待っている。元旦だけでも二五〇人の人があいさつにみえる。見知らぬわたしたちを温かく迎えてくださった蜻浦の村人の心に感謝しながら、ここ「生命山カトリック別院」では、毎日祈りがささげられている。

ご案内　祈りの学校

「祈りの学校」とは、一般黙想会とはちがって、祈りの方法を具体的にそして一緒に実践しながらお伝えしようとするコースです。
【コースⅠ】福音書の中にイエスをみつめる祈り
~~① 4月17日(土) 16:30 ～ 18日(日) 15:00~~ (終了)
② 6月12日(土) 16:30 ～ 13日(日) 15:00
【コースⅡ】詩編によって自分の心を注ぎだす祈り
① 5月15日(土) 16:30 ～ 16日(日) 15:00
② 7月10日(土) 16:30 ～ 11日(日) 15:00

指導　来住 英俊　神父
会費　1泊3食 6,000円
(受付　9:30～17:00)

福岡默想の家　〒811-4155 宗像市名残1056　TEL 0940(32)3222　FAX 0940(32)3385

ミサ用ワイン



ヴィノ デ ミサ
VINO DE MISA
スイートタイプ (赤) (白)
ご用命　お問い合せは
有限会社 大楠酒店
ヨハネ　青木　彰
〒815-0082　福岡市南区大楠2丁目4番8号
電話 092-531-4718　Fax 092-521-6453

別れ・出逢い・旅立ち
草苑 (SOU-EN)
ご葬儀
木下株式会社
TEL 092-526-5656
〒810-0016
福岡市中央区平和3丁目1-5

R.O.C.K（キリスト教を土台とする熊本青年会）
イースター合同礼拝

「主にあって我らは一つ！」の合い言葉を胸に、キリスト教を土台とする熊本の青年たちが一つになり、四月四日午後四時から広安愛児園でイースター合同礼拝とパーティが行われました。エキュメニカル運動が進む時代の中で、熊本のカトリック教会と日本福音ルーテル教会の青年たちは今年一月にROCK（礎）を発足させました。キリストの礎となってともにイエス・キリストに祈り、協力する青年会活動として生れました。

その第一回目の集いとして、「神は主をよみがえらせましたが、その御力によって私たちをよみがえらせてくださいます」（コリント一・六章一四節）をテーマに掲げ、共同礼拝が行われました。カトリック帯山教会のヤングキャンプ神父、日本福音ルーテル神水教会のボーマン牧師の共同司式のもと、カトリック、ルーテル、日本基督教団の高校生、青年が約百名参加しました。それぞれの賛美歌を共に歌いながら、聖書の朗読、平和の挨拶、共同祈願、二人の司式者の説教が行われました。この礼拝を通して、信仰、生活、証しにおける交わりのために働いて、共同して神の愛の完全な一致の証人となることを心から誓い、ともに主の祈りを捧げました。礼拝の後は復活をお祝いしてパーティがあり、自由に歓談したり自己紹介したり、青年信徒同志が楽しく語り合い、食卓を共にしました。そして復活祭の神様からの大きなプレゼントに青年たちは喜びをもって感謝しながらこの集いを終えることができました。今後も勉強会をしながら、お互いの違いについてまず理解し、勉強と祈りを通して交流を考えています。またキリストを信じる他の教派の青年たちにも参加を呼びかけていきたいと思っています。

（武蔵丘教会　今村　武史）

天草の信仰

ある日、院長シスター、春光苑の入所者を見舞い、「昨日、神父様が御聖体をもって来られたでしょう」と挨拶した。かれは何度か頷きながら、「それにしても、めずらしゅう日本語の上手なお方でしたばい」と感心していたそうだ。

天草大江にマルモン神父が着任したのは、明治十年（一七七七年）である。それからの二二〇年間、邦人司祭が大江にいたのは約三年間だけであった。それで、このあたりでは信徒もそうでない人たちも、神父といえば外人さんということになっている。老人ホームの長老も、今度の神父をインド系と思っているらしい。シスターの喜びようも、なんとなく意味ありげだった。

土曜日の午後、復活祭のミサの準備をしていたら、入ってきた男が百円を渡し、「孫の車で天草旅行をしとります。四〇年前に一度ここにお参りしたことがありましてなあ。どの宗教のお神様も同じですけん、ちょっとだけ拝ませてください。家族の安全とわたしの健康のため」とおっしゃる。そして彼は手を合わせた。百円であれだけの願いをゆるして下さるのは、神以外にあり得ないだろう。

崎津ではお通夜の帰りに玄関で「おはぎ」を配る。お祝いごとの食べ物という思い込みがあるせいか、「なぜだ」と朝までこだわり続けた。会う人ごとにたずねても、「昔からそうしよったとじゃもね」と軽く流されるばかりである。

しょうがないので、仮説を立てることにした。ある家に嫁いびりのお姑さんがいた。むかしむかしのことである。それでも忍耐して仕えた。最後を看取った彼女は喜びに満たされたが、世間体があってニコニコもできない。そこで「おはぎ」を作り、お通夜の参列者に配ったのがはじまりではないか。この仮説、当地ではいたって不評である。

思い込みや風習には、それなりの歴史と理由があるようだ。

（崎津・大江・本渡教会主任　川添　猛神父）

第45回 花岡山殉教祭 4月11日

四月十一日午後二時より、熊本の殉教者十五名が眠る墓地広場にて、松永久次郎司教の司式のもと、恒例の花岡山殉教祭が挙行された。今年も晴天に恵まれ、辺り一面に咲いた桜と山の新緑とがあいまって、殉教墓地広場には、野外式典に相応しい春の彩りが供えられ、地元熊本及び教区の各地から、司祭・修道者・信徒約三百名がここに集まった。

式典は先ず、小笠原玄也とその妻加賀山マリアみや一家十五名の殉教者が眠る「聖域」へ行列が行われ、墓前にて司教による献香、散水式、ついで参列者一同が心を一つにして、十五名の殉教者たちの列福を求める祈りを唱和した。

殉教ミサは松永司教と地元の各小教区の主任司祭ら六名の共同司式でささげられた。

式典は午後四時過ぎ、無事終了したが、司教は説教の中で、苦難にみちた殉教者たちへ向けられた神のあたたかい眼差しと、彼らの不屈の信仰について述べ、殉教者たちが流した血こそが、新しいキリスト者を生むものであることを強調し、次のように説かれた。

「今、読まれた神の御言葉をもう一度、繰り返し申し上げます。”キリストは言われました。”私は一人ではない“と。殉教者たちも決して一人ではなかったのです。神よ、どうして、私を見捨てられたのですか、というほどの苦難の中にあっても、殉教者たちの深い信仰の故に、神はあたたかい眼差しで、いつも見守り、励まして下さったはずです。此処に眠る十五名は家族の殉教をとげた方々です。その中で、幼い子供たちの血も流されたのです。それは余りにも不憫に思われるかもしれませんが、その父、小笠原玄也、母マリアみやの強い信仰に促されてのことでした。今、神の前で子どもたちは自分たちの両親を誇りに思っていることでしょう。ところで、十五名の殉教の史実は、神の御計らいにより、三四三年の年月を経て、これから先、ますますあらわにされると思います。現代に生きる私たちにとって大切なのは、日々の暮らしの中で殉教者たちとの心の霊的交わりを深めることです。そうすることで、人生の苦悩や逆境に遭遇する時、良き理解者として、私たちを励まし、力づけてくれることでしょう。皆さん、殉教者の流した血こそ、新しいキリスト者を生むものであることを私たちは忘れてはなりません…。」

（島崎教会信徒　高木光行）

大聖年準備のための指定巡礼教会　7　佐賀教会

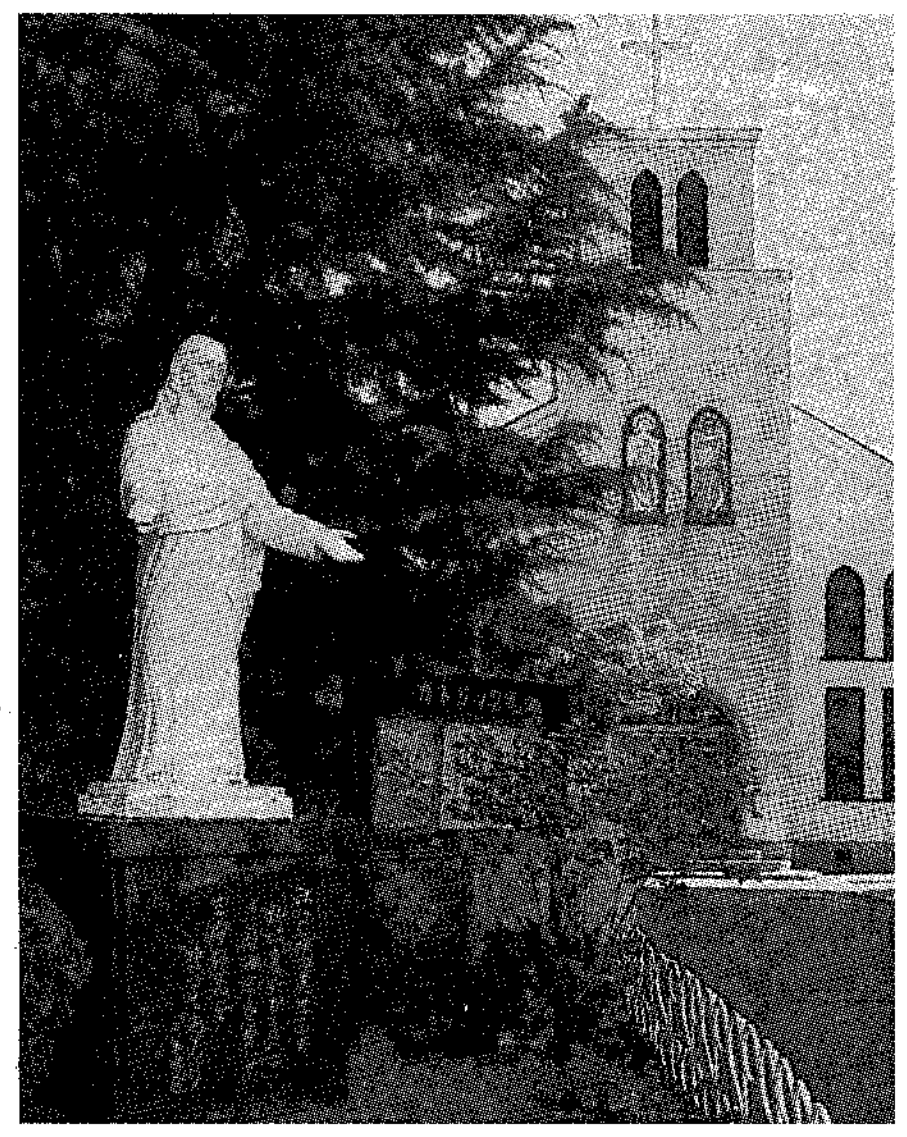


何をもって佐賀教会の誕生とするかは議論の余地があるらしい。久留米を拠点に宣教活動をしていたソーレ神父は一八九〇（明23）年ごろ佐賀地区に宣教を始め、早くも一八九四年には佐賀市の現在地に土地を購入して仮教会を建てた。しかしその後火災で焼失、明治橋通りに移転した。

一八九九（明31）年に久留米教会から分離独立。これをもって佐賀小教区の誕生としているので〃今年は創立百周年に当たる。

一九二七年長崎教区が二分された際に、佐賀教会は福岡教区に編入。一九五〇年、故深堀司教の招請により、ミラノ宣教会が佐賀地区の司牧宣教に当たることになった。そして一九五一年、三年前に同地に赴任していたウォルシュ神父の尽力により新聖堂（現教会）が完成、聖ペトロ聖パウロに献げられた。

七年後に教会案内所や売店を新設、一九七一年にはカトリック会館、三年後には幼稚園講堂落成、一九八一年には会館の増築と発展の道をたどる。会館が道路に面しているため、教会への入口がせまく、道路から教会全体が見渡せないのが少々惜しい。しかし、境内に入ったところで、イエスの聖心の御像が優しく迎えてくれるのがいい。正面玄関上部にある聖ペトロ、聖パウロのモザイクが目を惹き付ける。



聖堂前の庭には、禁教以前に造られたと思われる灯籠があり、円形の竿石には大きな十字の陽刻が施され、織部灯籠の原形ともいわれて珍重されている。

中に入ると美しいステンドグラス（イタリア製）に囲まれる。旧・新約聖書の主な場面30点が描かれ、順にたどれば天地創造から聖母の被昇天まで、さながらあがないのみ業の旅を行く感を与える。教会施設のみならず、佐賀教会は早くからレジオ・マリエなどの運動が盛んである。

データ　●信徒数／六五五人●ミサ時間／土曜日19時、日曜日7時・9時半、英語15時（第2・4）●住所／〒840・0825佐賀市中央本町1・17●☎0952・23・4754／FAX23・4929●主任司祭／ジョルジョ・フェラーラ

場所　●JR長崎本線佐賀駅下車徒歩15分●バス「中の小路」下車3分●九州横断自動車道・佐賀大和インターより佐賀駅前通りを県庁に向かい、玉屋デパート四角を左折して50ｍ

BOOK 読みま専科

★アッシジの聖フランシスコ
永井　明著



世界的にあまりに有名な聖フランシスコは、十二世紀、イタリアのアッシジという村に生まれた。以前の生活から一変して徹底した貧しさと愛によって生きた彼の精神は、豊かさを謳歌しながらも混乱した現代の社会が最も必要とするものだ。

著者は聖フランシスコの清貧と愛徳の精神を、特に日本の若者たちに理解してもらおうと、なめらかな文体で、やさしく、コンパクトにまとめ、楽しい読み物としている。

サンパウロ　税別六八一円

◇◇◇

★カトリックの信仰生活がわかる本
影山あき子、A・コレーン、五野井隆史、磯見昭太郎、白浜満、小田武彦、他共著



信仰を毎日の生活で深めるための助けとなるような、具体的なこと、祈りについて、洗礼や堅信、聖体、ゆるし、結婚などの七つの秘跡について、また信徒や修道者、司祭の生き方と活動について、信徒の信仰体験のエッセイ、ザビエルから四五〇年たつ日本の教会の歩み、新しい世紀に向かってなど、簡潔にやさしく述べた手引書。心を自由にし、心を楽しくしてゆくクリスチャンの生活を紹介。

女子パウロ会　税別一四〇〇円

ジャパンスマイルか
株式会社
不動産／管理・仲介・売買・建設／一般建築
〒810-0044 福岡市中央区六本松4-9-4
TEL092-761-8800
代表取締役 マルガリタ・マリア 吉田由利子

吉田設計
株式会社
建築設計／企画・設計・監理
〒810-0044 福岡市中央区六本松4-9-7
TEL092-711-0550
代表取締役 ヨゼフ 吉田豊博

祭壇・洗礼盤他
素材 { 大理石 御影石 その他
石のパイオニア
高木石材株式会社
〒860-0006 熊本市段山本町2-21
TEL 096-352-2417

会合と催し

教区年間テーマ：父である神を共にほめ賛えます

5月　聖母月

1日（土）労働者聖ヨセフ
2日（日）復活節第5主日（聖アタナシオ）
　クルシリヨ（黙想の家～5日）
3日（月）聖フィリポ・聖ヤコブ使徒［祝］
　憲法記念日
4日（火）国民の休日
5日（水）こどもの日
　熊本「青年のための祈りの集い」■
　＋F.ルマリエ［八代教会1945］
9日（日）復活節第6主日／世界広報の日《献金》
　広報研修会（福岡カトリック神学院13時30分）
10日（月）＋F.チリ司教［初代福岡教区長1930］
13日（木）福岡結婚準備セミナー①（～6月12日）■
14日（金）聖マチア使徒［祝］
　福岡聖書講座①（～7月16日）■
15日（土）＋ヨハネ棚町正刀［茶山教会1968］
16日（日）主の昇天［祭］（復活節第7主日）
　人吉教会創立100周年記念式典
　ホスピスの会（カテドラル14時）■
18日（火）福岡短期キリスト教講座①（～6月22日）■
23日（日）聖霊降臨の主日［祭］
　合同堅信式（カテドラル13時30分）
26日（水）聖フィリポ・ネリ［記］
30日（日）三位一体の主日［祭］
　生と老い・死をみつめる会（カテドラル14時）
31日（月）聖母の訪問［祝］

6月　みこころの月

1日（火）福岡 短期キリスト教講座③
3日（木）聖カロロ・ルワンガと同志
4日（金）+ミカエル西田邦洋［若松教会1996］
　福岡聖書講座④（～7月16日）
5日（土）聖ボニファチオ司教
6日（日）キリストの聖体
8日（火）福岡 短期キリスト教講座④
11日（金）イエスのみ心［祭］
　福岡聖書講座⑤
12日（土）聖母のみ心
13日（日）年間第11主日
　日本女子修道会総長管区長会主催研修会
15日（火）福岡短期キリスト教講座⑤
21日（月）+ドミニコ深堀仙右衛門司教
　［第3代福岡教区長1985］
　+トマス平田好［門司港教会1938］
24日（木）洗礼者聖ヨハネの誕生［祭］
27日（日）年間第13主日聖ペトロ使徒座への献金日
　佐賀教会創立100周年記念日
　生と老い・死をみつめる会（カテドラル14時）
28日（月）福岡教区司祭黙想会（～7月2日）
29日（火）聖ペトロ・聖パウロ使徒［祝］

■印は本面に詳細説明あり

福岡

■**第76回福岡結婚準備セミナー**
［日時］5月13日（木）と5月15日（土）、5月27日（木）～6月12日（土）までの毎木曜・土曜日19時～21時30分。［場所］カテドラル大名町教会［申込・問合先］カトリックファミリーセンター☎092・541・6207 FAX552・5022

■**福岡カトリック・パストラルケア研究会**
［日時］5月9日（日）14時～16時［場所］福岡サン・スルピス大神学院新館講話室［内容］勉強会（「病人訪問いやされるかかわり」詳読会［参加費］500円［問合先］事務局（シスター箕浦☎092・871・4943大神学院）
6月は13日、「臨床パストラルケアについて」講師キッペス神父予定（参加費700円）。

■**聖テレーズの著作を読む会**
［日時］5月23日（毎月第4日曜日）14時～15時30分［場所］カルメル会修道院（福岡市西区上ノ原）［問合先］カルメル会修道院☎092・807・7361［世話人］城島暁（浄水通教会所属）。尚、同日13時～13時50分キリスト教入門講座があります。

■**福岡生と老い・死をみつめる会**
［日時］5月30日（日）14時～16時［場所］カテドラル大名町教会［内容］脳死と死生観［講師］三木浩司氏［参加費］500円［問合先］事務局（大山美穂子☎092・713・8523）

■**聖書講座［前期］ローマの信徒への手紙**
［日時］5月14日19時～21時（毎週金曜日・全10回）から7月16日まで［場所］カテドラル大名町教会［テーマ・講師］①5月14日・ローマの信徒への手紙の著者、年代、場所、構成と教義・松永久次郎司教②21日・挨拶・ローマ訪問の希望、手紙の根本主題・同上③28日・人類の罪と神の正しい裁き・高見三明神父④6月4日・ユダヤ人と律法、信仰による義・同上⑤11日・アブラハムの模範と信仰によって実現される約束・中浜一男神父⑥18日・信仰によって義とされて、アダムとキリスト・同上⑦25日・罪に死に、キリストに生きる・青木悟神父⑧7月2日・内在する罪の問題・櫻井尚明神父⑨9日・霊による命、将来の栄光・牧山勝美神父⑩16日・神の愛・同上［受講料］毎回800円、全回5000円［申込・問合先］カトリック福岡司教館☎092・522・4059（16時まで深堀）FAX523・2152（24時間）［主催］福岡教区聖書委員会

■**第6回短期キリスト教講座―生きる―**
［日時］5月18日10時～11時45分／19時～20時45分（毎週火曜日・全6回）から6月22日まで［場所］カテドラル大名町教会［テーマ・講師］①5月18日・幸せを実感して生きる！・小沢京子修道女②25日・暖かい人間関係を築くために・土岐圭子氏③6月1日・神さまの摂理・佐藤哲夫神父④6月8日（午前）《キリスト教が信じる神さま》は・村木敏子修道女、（午後）新しい生き方（山上の説教より）・その一・ギュンタ・ケルクマン神父⑤15日（午前）死の臨床から命を学ぶ・三木浩司氏、（午後）新しい生き方（山上の説教より）・その二・ギュンタ・ケルクマン神父⑥22日・言葉と想像力と創造・来住英俊神父［受講料］一講座500円［申込先］カトリック福岡司教館☎092・522・4059（16時まで深堀）FAX523・2152（24時間）［主催］福岡教区聖書委員会

■**南粕屋教会バザー**
［日時］5月16日（日）11時～14時［場所］南粕屋教会内［趣旨］①教会建設借入金の返済②ペルー布教活動援助③オブレート会活動に対する協力

■**シスター根岸講演会とミサ**
［日時］5月19日（水）14時～16時30分［場所］カテドラル大名町教会［テーマ］シエラレオネは今［講師］シスター根岸（ご聖体の宣教クララ会）［ミサ］中村彰神父（福岡カトリック神学院院長）［参加費］500円。［問合先］白石☎092・581・8197

北九州

■**第14回お母さんの集い**
［日時］6月7日（月）10時半～13時［場所］カトリック小倉教会［テーマ］神様への贈り物［内容］講話とミサ［講師］白浜満神父［参加費］500円［問合先］福吉☎093・961・1395

佐賀

■**心のシルクロード文化講演会（佐賀教会一〇〇周年記念事業）**
［日時］5月22日（土）13時30分（開場）～［場所］アバンセホール［内容］①講演「人のため生きるとき 自分も生かされる」［講師］鈴木秀子女史（聖心女子大学教授）②秦琴演奏［奏者］深草アキ氏［入場料］500円［主催］佐賀カトリック教会一〇〇周年記念事業実行委員会［問合先］佐賀教会☎0952・23・4754

熊本

■**青年のための祈りの集い**
［日時］5月5日（水）毎水曜日19時～21時［場所］手取教会［申込・問合先］手取教会☎096・352・3030 FAX352・1515

生命山カトリック別院

生命山では、皆様のために、美しい自然の中で、神との語らいの日々を過ごしていただきたく、黙想会を計画いたしました。ご参加ください。

※祈りの集い
日　時：④5月13日（木）
　9時45分～15時
テーマ：三位一体のイコンの観想
指　導：フランコ神父
★次回は⑤6月10日（木）です。

※召命黙想会
日　時：5月28日（金）17時～
　30日（日）13時まで
指　導：フランコ神父
［問合先］生命山カトリック別院
　☎0968・85・3100

＊個人、又はグループでの黙想等、常時受け付けています。

福岡黙想の家　5月

◇2日（日）～5日（水）　第38回クルシリヨ
◇15日（土）～16日（日）　祈りの学校：コースⅡ
　指導：来住神父
◇21日（金）～23日（日）　一般信徒黙想会
　指導：V.マテオ神父
◇22日（土）～24日（月）　長崎純心聖母会第三修練院黙想会
◇29日（土）～30日（日）　山口・島根地区信徒養成研修会
［問合先］黙想の家　☎0940・32・3222　FAX32・3385

黙想の家のホームページを御利用ください
◎ホームページ　http://w32.mtci.or.jp/~daneox
◎e-mail　Mail to daneox@mtci.or.jp

御父の年　信仰生活刷新セミナー

キリスト者を活かす聖霊を信じます

週	日時	テーマ	講師
第1週	5月10日	神の愛	Fr.マテオ・Fr.青木　悟
第2週	5月17日	救いのみわざ	Fr.伊東成晃
第3週	5月24日	新しい生命	Fr.山元　眞
第4週	5月31日	神の賜物の受領	Fr.オッカロール
第5週	6月7日	聖霊の満たし	Fr.マッケイ
第6週	6月14日	聖霊のうちでの成長	Fr.ドワイヤー
第7週	6月21日	《ミサ》キリストの証人	松永久次郎司教・参加司祭団

会　場：カテドラル大名町教会
とき：毎週月曜日　10時30分～12時30分
主　催：聖霊による信仰生活刷新セミナー実行委員会
顧　問：青木悟神父・ライル神父・ガブリエル神父・マテオ神父
問合先：Br.床島藤吾（司教館：☎092-522-5139）

1999年度ホスピスボランティア勉強会

一九九九年度の『聖書講座』と『福岡 短期キリスト教講座』が今月から始まります。

どなたでも、看護、末期医療、緩和ケア、ホスピス、ボランティアそして死について関心のある方はどうぞ

第1回	5月16日	市街地のホスピス病棟 小早川　晶　氏（木村外科病院ホスピス長）
第2回	7月18日	ホスピス病棟から・熊本県 井田　栄一　氏（ホスピス担当医師）
第3回	9月19日	在宅ホスピスの現状・事前指定書 二ノ坂　保喜　氏（二ノ坂クリニック院長）
第4回	11月14日	ホスピス病棟から・佐賀県 佐藤　英俊　氏（佐賀県立病院緩和ケア病棟医師）
第5回	1月23日	死生学そしてグリーフケア 波多江　伸子　氏（倫理学研究者・ファイナルステージを考える会世話人）
第6回	3月12日	共に生きる：これからのホスピスボランティア 平田　悠貴子　氏（手取教会信徒） 大山　悟　神父（カトリック・パストラルケア研究会顧問）

会　場：カテドラル大名町教会4階
とき：14時～16時
参加費：700円
連絡先：小林計子（☎092-512-8723）
　深堀邦枝（☎092-801-5351夜）

大ザビエル展

その生涯と
南蛮文化の遺宝
4月6日～5月30日
山口県立美術館
☎0839・25・7788

編集後記

はじめてのパソコンソフトにあくせくしながら、どうにか間に合いました。皆さんの投稿をお待ちします。（中村）

COSMOS
スポーツ用品・OA・文具　コスモス
〒830-1224 三井郡大刀洗町鵜木67－3
TEL　0942－77－3199
代表者　ペトロ 平田　清

“任意保険に加入してから車の運転を致しましょう”
自動車、火災、傷害、海外旅行傷害保険、保育園、幼稚園児を守る、企業賠償保険
〒814-0153
福岡市城南区樋井川3丁目17－10
大石保険事務所　大石真澄
☎092-552-8195　Ⓕ092-541-7734

FUJIKI
未来へ――安心を創る
藤木工務店
福岡支店 〒812-0016 福岡市博多区博多駅南3-1-1　TEL 092-441-6585(代表)
取締役社長 藤木鐵三　福岡支店長 長山和博

カトリック 福岡教区報

松永久次郎司教認可
発行所　福岡司教区本部
福岡市中央区浄水通39
発行人
カトリック福岡司教区
編集人　中村　彰
TEL　092-522-5139
FAX　092-523-2152
振替口座　01760-6-20729
カトリック福岡司教区
定価　一部60円

福岡教区合同堅信式

各小教区から六一名
喜びの聖なる油を受ける

カテドラル

「父の賜物である聖霊のしるしを受けなさい」――五月二十三日聖霊降臨の祭日、カテドラル大名町教会において、教会の誕生を祝うとともに、恒例の合同堅信式が行われた。これは、その年の復活祭に洗礼をうけた成人を対象に、一九九四年から行われており、今年は各小教区から六十一人の成人男女が受堅した。

「今日こそ神が造られた日」午後二時、聖堂を埋めた受堅者たちと教会の誕生を祝う信徒たちが唱和するなか松永久次郎司教と司祭団が入堂、荘厳にミサが始まった。福音朗読後松永司教は、聖霊降臨の祭日に皆が一つ所に集まっていることは教会が一つであることを示しており、そしてまさにこの日に堅信式が行われることは意義深い、と述べ「いやしと新しいいのち」について話された。

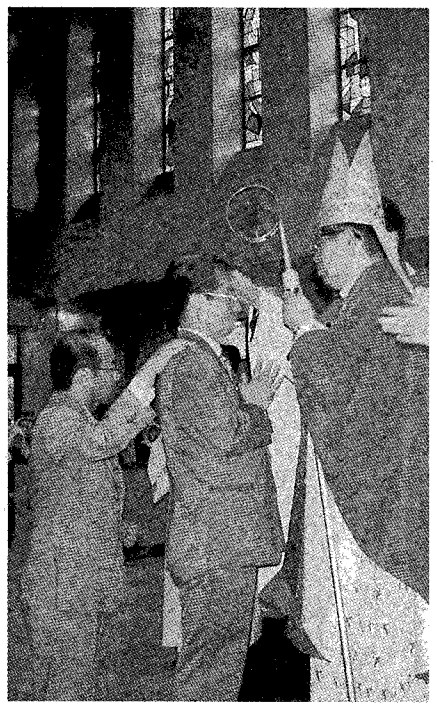
また、堅信によってわれわれは教会の中に組み込まれ、信仰を堅める恵みをいただくことを十分理解してほしいと次のように話された。「堅信の秘跡は信ずる心を堅めると共に、教会を、仲間を強める秘跡である。信仰は個人的なものであるが、仲間の中で確実に守られる。迫害時代の信徒たちがそうであった。受堅者のみなさんも教会のいろいろなグループの中で助け合いながら、信仰を堅実に保ってもらいたい。」「堅信はまた光と力を与える秘跡である。正しいこと、行うべきことを見分け、最善を尽くして神の道を歩むための恵みを聖霊に願おう　聖霊が弱い私たちを支えてくださる。」

最後に、新世紀を目前にして、聖フランシスコ・ザビエルに言及し、宣教の精神を忘れず、家庭・社会の中で神のみ旨を果たすために祈り働かねばならないと諭された。

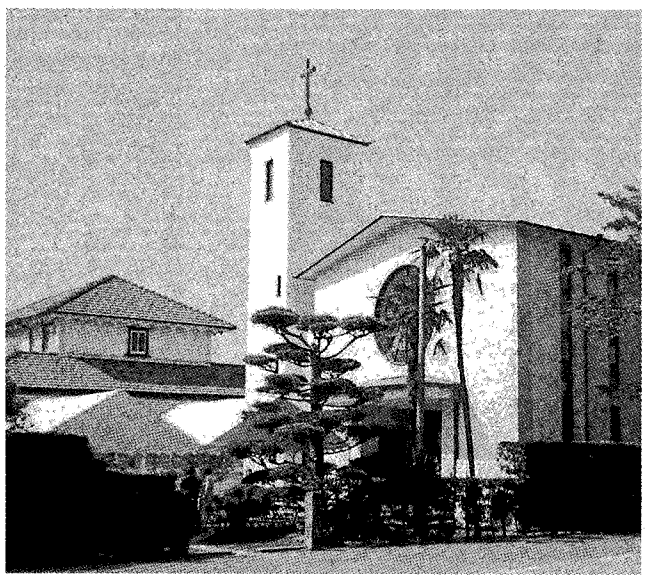
六十一人の受堅者が紹介されてから、松永司教は「今の時代に信仰に生きることは易しくないが、聖霊は恵みで応えてくださると確信してください。聖霊の恵みを有効に活用し、証し人となってくださいと励まし、受堅者一同に信仰の再確認を求めたのち、一人ひとり司教の前に進み出て聖香油を受けた。

ミサ後、受堅者代表に司教から受堅証明書と記念品が手渡され、信者代表、受堅者代表が感謝のことばを述べて式を終了。祭壇前で記念撮影の後、午後四時から一階ホールで茶話会が開かれた。

父の賜物である聖霊のしるしを受けて主の証し人となる受堅者



竹平久美さん（二日市教会）**の話**　学生時代は長崎で過ごし、純心を出ました。洗礼・堅信と教会が百周年を迎える。



▲左は初期の聖堂（現在は司祭館兼信徒会館）

創立１００周年を迎えた人吉教会

一八九六（明29）年にパリ外国宣教会のJ・M・コール神父が初めて人吉に入って現在地に教会用地を購入。二年後に後任のF・ブレンゲ神父が聖堂建設に着手、一九〇三年に木造二階建の聖堂が完成した。現教会は、一九四九（昭24）年前に聖コロンバン会が司牧を引継いだ後、着任したJ・ノーリス神父が奇跡を願って奔走し、六千ドルの建築資金を集め、後任のT・グローガン神父が不足分を満たし、一九五六年に完成したものである。（3面に関連記事）

なお六月二十七日には佐賀

今月の意向

教皇様の意向のために祈りましょう

【一般の意向】神および兄妹との和解

【布教の意向】マカオの教会と中国国民

【日本の教会の意向】父である神への賛美

時の話題

佐田　一兵

債務帳消しキャンペーン

今、全世界でもっとも貧しい国々が抱えている返済不可能な債務を帳消しにし、二十一世紀を新たな出発として、人々が等しく人間らしく生きられる世界を創ろうという運動が展開されています。

具体的には二十世紀が生み出した十三億人の絶対的最貧困層を根絶していこうというものです。この絶対的最貧困層の人々とは、飢えている人、屋根の下で寝ることができない人、読み書きができない人、きれいな水もないといった、生きていくのに最低限必要なものさえ奪われた人々のことをいいます。もちろんお分かりのように、これらの人々は開発途上国に集中し、その数は増えています。

その最大の原因になっているのが巨額な国際債務です。「国際債務」というと専門的で敬遠しがちかもしれませんが、私たちの生活感覚から言えば、多くの消費者金融から多額の借金を背負い、どうしようもない状態に陥っている状態と置き換えてみれば分かりやすいと思います。しかもその借金が自分の知らない間にそうなっていれば悲劇としか言いようがありません。

南の国の人々は国の債務返済による教育や福祉予算の削減の犠牲になり、その影響は弱い立場の女性や子どもにきています。そしてその貧しさはますますひどくなり、まさしく「債務奴隷」としてこの世に生きているのです。

レビ記が教えるヨベルの年の精神は「借金の苦しみから全ての奴隷を解放する」ことです。

この二十年間私たちの多くは、日本の社会は豊かになり良くなったと感じていると思います。しかし、この二十年の間に絶対的最貧困層は五億人から十三億人に増えました。世界はますます悪い方向に向かっているとしか思えません。（大名町教会信徒）

教区修女連
総会に90名が参加

快晴の五月五日（水）福岡教区修道女連盟は平成十一年度の総会を開催。午前中は松永司教様をお迎えして教話をいただき、修道女は神様に夢中になっている人、人に仕えるために夢中になっている人であってほしい。教区が修道女に望むことは「修道女よ、自分でありなさい」という本質に尽きると、ユーモアを交えてお話し下さいました。感謝の祭儀は秘書の田中神父様との共同司式で「神以外に何も頼るもののない私たち」のために、豊かな恵みを求めて祈る時を過ごすことができました。

午後からは、平成十年度の活動と決算の報告。十一年度の活動予定と予算案の説明があり、活動予定には例年の行事（研修会、召命の集いへの協力）の他に、二〇〇〇年の大聖年を視野にいれて教区信徒使徒職協議会の行事への協力・参加や、西日本宣教司祭大会（十一月十六日から十八日）への祈りによる支援として、リレープレイを教区全修道院が参加して行うなどの提案承認。教区召命司牧活動への積極的な参加などが話し合われました。六月十三日には総長管区長会主催の「修道女・いのちに仕える女性」をテーマに研修会が雙葉学園で行われます。

も娘に先を越されましたが、三十年この日を待ち焦がれていましたので、とても嬉しい。

イエスさまについて行こう!!

召命学校

日　時：7月26日（月）15時30分
　　28日（水）13時まで
場　所：福岡カトリック神学院
対　象：小学４年生～中学生の男女30人
参加費：2000円
申込・問合先：　中村　彰神父
☎092-531-6821

大阪大司教区に補佐司教



松浦悟郎新司教

ヨハネ・パウロ二世教皇は五月五日、大阪大司教区に補佐司教としてミカエル松浦悟郎神父（四六）を任命された。司教叙階式は七月十七日（土）大阪カテドラルで行われる。

松浦悟郎被選司教の略歴

一九五二年　名古屋市生まれ
一九八一年　司祭叙階、香里教会助任
一九八四年　夙川教会助任
一九八六年　阿倍野教会助任
一九八八年　大阪カトリック神学院院長
一九九三年　海外研修
一九九五年　阪神淡路大震災現地救援本部責任者
一九九五年　大阪教区堺・泉北共同宣教司牧チーム
一九九七年　司教総代理
一九九九年五月五日　教皇ヨハネ・パウロ二世より大阪大司教区補佐司教に任命される

みちくさ

世の中には、毎年巡り来るものがある。それらを通して人は成長し、完成していくのである▼たとえば、日本には春夏秋冬の季節がある。春すべての植物は芽を出し、花を咲かせ、自然を飾る。夏は暑さにも拘わらず活動し成長する。そして実りの秋となり、静かな反省の時を持つのである。四季には人々を立ち留まらせ、考えさせる力がある▼人間、成長して親になれば、今まで親に世話をかけていた子供が、何かと自分の子供のために尽くすようになる。今まで自己中心であったことを思えばこれまた不思議なことである。親になれば、人は自然と親心をいただくのである▼真心を受け、真心を返すのが愛であると漢字の「愛」の字を引いて教えられたことがある。字そのものの意味は別として、その説明は面白い。同じように「心を亡くすること、これ忙しいこと」という説明を聞いたこともある▼聖書の祝祭日には農業の季節が、そして月や星の姿が見られることが多い。秋の雨、春の雨、また仔羊という表現も農民にとっては懐かしい。これらはすべて何か教えているのであろう▼人間には幼年期、青年期、壮年期、老年期がある。そしてそれぞれに美しさと特徴とがある。その特徴を活かし、その欠陥に備えることが人間の知恵である▼ところで、時は巡って今は大聖年の手前である。この時自体が、わたしたちに何か特別のメッセージを伝えているのではなかろうか。

〈M〉

世界広報の日

御父を示す身近な友・マスメディア

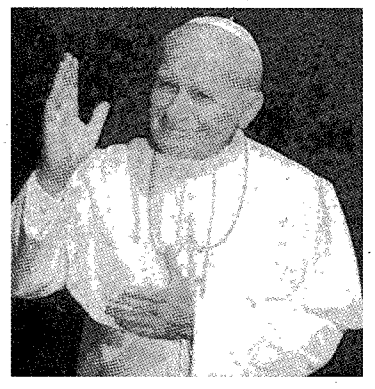
1999年

愛する兄弟姉妹の皆さん、肉となられた神のことば、イエス・キリストの降誕から二千年にあたり、キリスト教にとっての第三千年期への扉が開かれる大聖年が近づいています。その最後の準備の年である今年、教会は父である神に向かい、その無限のいつくしみの秘義を黙想します。神であるこの方からすべてのいのちが生まれ、この方に帰っていきます。この方こそが、わたしたちの誕生から死までの旅路に友として、そして仲間として付き添ってくださる方なのです。

わたしは、今年の世界広報の日のテーマとして、「御父を示す身近な友・マスメディア」を選びました。このテーマは、二つの問いを投げかけます。メディアは、どのようにして神に逆らうことなく、神とともに働くことができるでしょうか？ そしてメディアは、どのようにして、人生の中で愛のうちにともにいてくださる神を探し求める人の親しい友となれるのでしょうか？ またこのテーマは、メディアが時に神を探し求める人が、理性の領域にある自然に関する書物と信仰の領域にある啓示の書、聖書に新たな読み方で触れることを可能にしてくれることを事実として認め、感謝していることも示しています。そして最後にこのテーマは、世界で広報に携わる人たちを、まさに人生の本質といえるその意味の探究を妨げるのではなく助けることに、いつもいっそう深く関わるよう招き、それを希望していることも意味しているのです。

人間として生きることは、探究に身を投じることを意味します。そして、わたしが最近の回勅『信仰と理性』（Fides et Ratio）で強調したように、人間によるすべての探究の営みは、結局のところ、神を探し求めることなのです。「信仰と理性は人間の霊が、真理の黙想に向かって上っていくときの二つの翼のようなものです。そして神は人間の心のうちに真理を知る望みを与えてくださいました。それは人が、神を知り、愛することで自らについての真理を知り、神によって自らを知るためなのです」（教皇ヨハネ・パウロ二世回勅『信仰と理性』1）。大聖年は、すべての人の探究の目標である神を祝い、すべての人が望む限りないいつくしみを祝う時となります。しかし、人びとはたびたび、聖アウグスチヌスの言葉を借りれば、誤った場所で正しいものを探そうとする（『告白』10、38参照）罪に道を阻まれてしまうことがあります。わたしたちは、見いだせないところで神を探そうとすると き罪を犯してしまいます。

ですから、「神を探し求める人」のことについて語ることで、今年の世界広報の日のテーマは、すべての人について語っているのです。すべての人が探し求めていますが、すべての人が正しいところで探しているわけではありません。このテーマは、現代文化に対するメディアの非常な影響力を認め、だからこそ人生の真理について、人間の尊厳について、わたしたちの自由と相互依存の真の意味についてあかしするメディアの特別な責任をも認めているのです。



教会は人間の探究の旅路にあって、メディアとの友好な関係を望んでおり、どんな形の協力も、すべての人の幸福のためになることを知っています。協力はまた、わたしたちが互いをよく知り合うようになることも意味しています。時に教会とメディアの関係は、互いの誤解により恐れや不信感を生み出してしまうほどに傷つけられてしまうことがあります。教会の文化とメディアの文化に違いがあることは確かで、事実、全く対立する場合もあります。しかし、違いが友情や対話を不可能にする理由などはありません。多くの深い友好関係で、まさに違いこそが、創造性や橋渡しを可能にしているのです。

教会の記憶の文化は、メディアのうつろいやすい「ニュース」の文化が、希望をむしばんでしまう忘却に陥ってしまうことから救うことができます。そしてメディアの助けによって、教会は人々の日々の生活の現実に則して、いつも新しい方法で福音を宣べ伝えることができるのです。教会の知恵の文化は、メディアの情報文化が意味のない事実の累積になってしまうことを防ぎ、メディアは教会の知恵が今まさに現れている一連の新しい知識に、気づくよう助けてくれるのです。教会の喜びの文化は、メディアの娯楽文化が魂のこもらない、真理と責任からの逃避に走ってしまうことから救うことができ、メディアは教会に人々に訴え、喜ばせることができるように広報する方法をよりよく理解させてくれます。以上のことは、友情の精神と深いレベルでの密接な協力によって、教会とメディアの双方が、人生の意味とその実現を探究する現代の人々に仕えるうえで、いかに助け合えるかを示すいくつかの例です。

最近の情報技術の爆発的な進歩によって、世界中で個人とグループ間の意志疎通の可能性がかつてないほどに広がりました。しかし、逆に言えば、このよりよい意志疎通の手段が、自己中心主義と孤立を助長してしまうこともあるのです。ですから、わたしたちは脅威と望みの時代に生きているといえます。善意の人であれば、脅威がはびこり、人間の悲しみをさらに増してしまうようなことは望まないでしょうし、とりわけ、抱えきれないほどの悲しみに見舞われたこの世紀、そして千年期の終わりにはなおのことでしょう。

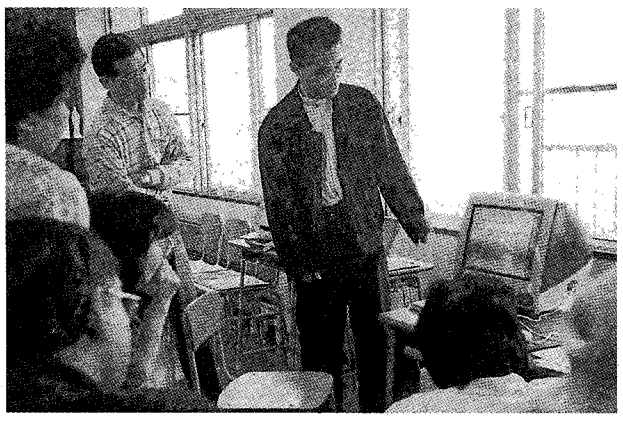
かえってわたしたちは、新しい千年期に大きな希望を抱こうではありませんか。教会とメディアの双方に、脅威に望みが打ち勝ち、孤立に意志疎通が勝るよう協力する心構えがある人たちがいてくれることを信じながら。このことによって、メディアの世界はよりいっそうすべての人の親密な友となり、記憶と結ばれた「ニュース」や知識と結びついた情報、喜びを伴った娯楽を提供することができるようになるでしょう。そしてさらに、教会とメディアが人類の幸福のために、ともに働ける世界が実現することでしょう。以上のようなことが、メディアの力が破壊する力となってしまわずに、「すべてのものの父であり、…すべてのものを通して働き、すべてのもののうちにおられる」（エフェソ4・6）神の愛を示す愛、創造の愛となるために要求されていることなのです。

広報の世界で働くすべての人が、神からくる友情の喜びを知り、神による友情を知ることによって、御父の家に向かって旅するすべての人の友となることができますように。そして御父に誉れと栄光、賛美と感謝が御子と聖霊とともに、世々限りなくありますように。

一九九九年一月二十四日
聖フランシスコ・サレジオ
司教教会博士の祝日に
バチカンにて

世界公報の日に研修会

教会←インターネット→教会



▲インターネットの効用を話す中村神父

五月九日（日）広報の日、13時半から福岡カトリック神学院で「インターネットを使って情報交換をする」というテーマのもと広報研修会が開かれた。テーマが難しかったのか17名の参加しかなかった。初めに平野禎氏よりインターネットの歴史、特徴、仕組みの説明があり、その後、実際に三台のパソコンを使って、ホームページを見たり、語句の検索、電子メールのやりとりなどをした。初めてインターネットをする人がほとんどで教会間でのネットワーク作りはまだ遠しの感が強かった。その後、中村彰神父より「広報の日教皇メッセージ」の読み合わせと簡単な解説があった。最後に各教会での広報活動や研修会の感想の分かち合いがあり、原稿集めや紙面作りの苦労ばなし、いろいろな工夫が分かち合われた。今後インターネットを使ってカトリック関係のホームページを見たり、ホームページを作って情報を発信したり、電子メールで情報を交換できたりする教会が少しずつ増えることを願って研修会を終えた。

クルシリヨに参加して

浜辺　美和香

五月二日から五日まで、緑が美しい福岡黙想の家で開催されたクルシリヨに参加しました。使徒職に貢献する信徒の養成を目指すという目的のほかは謎が多く、何年間かを通してのお誘いにも二の足を踏んでいましたが、十四名という例年より少ない参加者の中に神様は私を入れて下さいました。

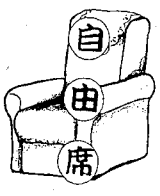
日常の時間に追われる生活から、何も気にせずに神様とだけ向かいあえる環境を与えられた私たちは、一日を奉献し、黙想し、祈り、ミサにあずかる中で今の自分の姿とキリスト者として、これからなるべき真の姿をしっかりと意識しました。そして、神様はそのエネルギーとなる愛を、それぞれ状況の違う一人一人にとても豊かに注がれました。どうして他の人に注がれた神様の豊かな愛が私に感じられたのでしょう。それは、そこにいれば分かるのです。言葉の違う会衆に弟子たちの話すことが分かったように。最終日には一人一人がそして全員が共通した意識の中にいました。

ぜひこの体験を多くの人に味わって頂きたいと思います。私たちはこの世界での日々を重ねながら、キリストの命に新しくなることができます。会食の準備は整えられています。宴会の席に着いてみませんか。

（若松教会信徒）

聖心によせて

シスター富山　憲子



受洗のお恵みをいただいた高校三年生当時、私はイエスの聖心に対する信心に燃えており、特に主イエスが聖女マルグリット・マリーに約束された言葉「初金曜日に九回続けて聖体を受ける人々に、最後の痛悔をする恵みを与えよう」という恵みを得るために、九回連続の聖体拝領に挑戦していました。世間の中にいると難しくなかなか実現できませんでしたが、修道会に入会してからは、毎日のミサに参加できるし、努力しなくても念願の九回達成もでき、自分の救霊のみならず、家族、友人、人々の救霊のためにも聖体拝領できる幸せを感じています。その上、聖心に対する祈りも熱心で、日頃の使徒職もイエスと共にあり、六月の聖心の月ともなると、シスター達と話し合い、犠牲、償いを共同体で聖心に奉献できることを感謝しています。

修道生活の年月を重ねる毎にイエスの心からあふれる愛を体験し、「キリストが御父への恭順のために多くの人に仕え、その救いのために生命を与えたように、全ての兄弟に奉仕する」（本会憲四九条）を生きたいと思うこの頃です。

六月十一日はイエスの聖心の祝日です。私共の修道会では一日中、聖体礼拝をしています。幼稚園児も参加します。皆様もいらっしゃいませんか。（聖心のウルスラ宣教女修道会）

ご案内　祈りの学校

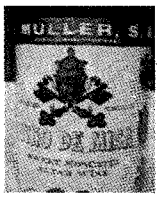
「祈りの学校」とは、一般黙想会とはちがって、祈りの方法を具体的に
そして一緒に実践しながらお伝えしようとするコースです。

【コースⅠ】福音書の中にイエスをみつめる祈り
6月12日(土) 16:30 ～ 13日(日) 15:00
【コースⅡ】詩編によって自分の心を注ぎだす祈り
7月10日(土) 16:30 ～ 11日(日) 15:00

指導　来住 英俊　神父
会費　1泊3食 6,000円
(受付　9:30～17:00)

福岡黙想の家　〒811-4155 宗像市名残1056　TEL 0940(32)3222 FAX 0940(32)3385

ミサ用ワイン



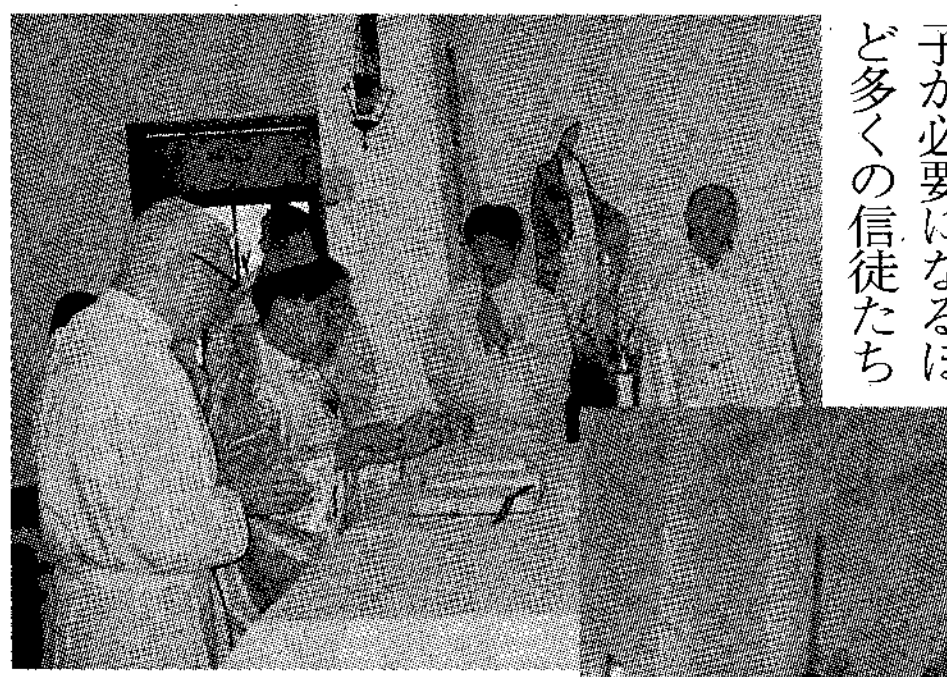
ヴィノ デ ミサ
VINO DE MISA
スイートタイプ（赤）（白）
ご用命　お問い合せは
有限会社 大楠酒店
ヨハネ　青木　彰
〒815-0082　福岡市南区大楠2丁目4番8号
電話 092-531-4718　Fax 092-521-6453

別れ・出逢い・旅立ち
草苑（SOU-EN）
ご葬儀
木下株式会社
TEL 092-526-5656
〒810-0016
福岡市中央区平和3丁目1-5

ロザリオの聖母人吉教会
盛大に一〇〇周年を祝う

人吉教会（M・モロイ神父・聖コロンバン会）では五月十六日、主の昇天の祭日に、宣教百周年の記念式典と四年ぶりの堅信式が盛大に行われた。

初夏を思わせる晴天のもと、式典には熊本地区の聖コロンバン会司祭らをはじめ、聖堂正面玄関に補助椅子が必要になるほど多くの信徒たちが参列した。





午前十時、十二人の司祭団との共同司式のミサで、松永司教は昇天祭・小教区百年・堅信をからませながら「現在の教会は主の昇天後の教会の姿であり、主は見える形ではここにおられないが、世の終わりまで私たちと共におられる。信仰と希望をもって進もう」と語られた。

「二百人という小さな小教区だが、この百年間に千人以上がここで受洗している。かれらは各地に派遣されて証しをしている」と、宣教する教会を示し、受堅者に向かっては、「信仰を堅め、人と教会をより堅く結びつける堅信の秘跡によって、人は教会に尽くし、神とより親しくなる。堅信の恵みを大切にしてください」とさとされた。

続いて堅信式が行われた。塗油に先だって司教は、聖霊を受けた後、使徒たちが一人も欠けることのなかったことを強調して、一生カトリックの信仰に忠実であるように、と受堅者たちを励ました。

十人の受堅者たちは聖堂を埋めた参列者の見守るなか、信仰を宣言し、聖なる油を受けて主の証し人となった。

賑やかに祝賀の宴

記念撮影の後、ホテルで行われた祝賀会に二二〇人が出席。主任のモロイ神父、信徒会長、松永司教ら地元関係者らのあいさつと祝辞に続き、乾杯と共に祝宴に入り、約二時間を歓談と余興のうちに過ごし散会した。

佐無田斌氏（信徒会長）**談**

この日のために、大勢の皆さんの協力がありました。今日の天気をはじめ、すべてにおいて神のすばらしい計らいと思い感謝しています。



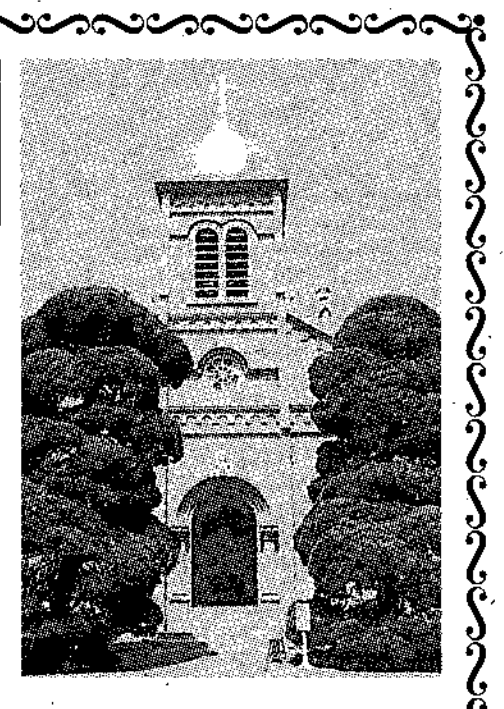
楽園

皆さんこんにちは、私は福岡教区の西の果ての小教区、呼子教会の司祭です。『イカの呼子』といえばご存知かと思います。田舎といえば田舎ですが、田舎ならではのものがたくさんあります。花鳥風月、司祭館の庭では草花が咲き乱れ、春にはウグイスが鳴きます。トタンの屋根の上でカラスがダンスを踏んでくれるのが玉に瑕ですが、『屋根裏の散歩者』ならぬ『屋根の上の散歩者』です。陽が落ちれば本当に夜になります。懐中電灯がなければ一歩も歩けません。でも星がよく見えますし、月の明るさにびっくりします。近くの田んぼではカエルが鳴き、雨が降ればイモリが現れ、窓の外ではヤモリが夜な夜な狩りにいそしんでいます。皆さんはイモリとヤモリの違いがお分かりでしょうか？　お分かりでない方は、呼子教会までお越しください。かつて『ファーブル伊東』と言われた私が御教示いたしましょう。魑魅魍魎――ありとあらゆるものがいて楽しい呼子です。たぶん原始の『楽園』もこんな感じだったんだろうと私は思います。現代的なものは何もないけれど、神が創造したものはすべてである。空の鳥、海の魚、人がいとわしいと思う地を這う生物まで。創造主は造ったすべてのものを『よし』と言った。この世のものはどんなものであれすべて良いものなのだ。原始の人は『楽園』に飽き足らずに飛び出した。それが間違いの始まりだった。田舎の楽園で暮らしていると、原始の人の気持ちも分かる気がするが、何もないけれど神が造ったものはすべてである。ここが楽園なのだと思う。神様が創ってくれたものはみんないいものなんだ、自然が一番いいということを忘れちゃいけないんじゃないかと思う。人工物で満たした便利な都会もいいけれど、神が与えてくれたものが一番いいと思う。行き詰まりの見える現代社会、もう一度神と共に生きる自然な形に戻ってみてはいかがでしょうか。

呼子教会主任司祭　伊東成晃

大聖年準備のための指定巡礼教会　**8**

手取教会



国道3号線と交差する大通り、百貨店と向かい合って建つ手取教会は、F・ボア神父（パリ外国宣教会）の在任中、一九二七（昭2）年に着工され、翌年五月に完成。今年で七十一年になる。福岡教区が長崎から分離独立したばかりの頃で、初代教区長チリー司教により祝別され、「日本の聖母」にささげられた。

小教区の歴史をさかのぼれば一八八九（明22）年、この地に第一歩を印したジャン・マリ・コール神父に至る。師は現下通二丁目に家を借りて仮教会とし、熊本県下の宣教や教育、孤児や貧困家庭、病人（特に重い皮膚病の人）たちの世話など、社会事業の面で活躍、現代にまで続く諸福祉施設を創始した。

一九〇一（明34）年になってコール神父は、熊本市内の現在地に土地を購入、日本家屋のかなり大きな聖堂を建てた。信者席だけで六十畳以上あったという。



第二次世界大戦中の熊本大空襲の際にも戦火をまぬがれた現教会は、教会建築の第一人者といわれる鉄川与助氏の設計施行による。鉄川氏は長崎地方で三十に余るカトリック教会を手がけたが、氏の手になる数ある教会の中で、手取教会は初めての鉄筋コンクリート造り、三廊式という先駆的な作品で、建築学的にも高く評価され、歴史的にもきわめて重要な、価値ある建物である。

正面玄関中央に方形の鐘塔があり、屋根は単層、窓は円形アーチ型。天井は折上方式で、折上面および平天井部分は鉄川氏独特の、花柄を十字形にデザインした装飾で埋めつくされ、華麗の一語につきる。

奥行26m50、幅11m40、建坪95坪で三百人収容。建築当時は畳敷きだったが、現在は椅子席。

一九四九年から聖コロンバン会が司牧を担当している。熊本地区の中心的教会であるが、ミサ参加者はフィリピン人の方が多いという。

データ　●信徒数／一〇五七人●ミサ時間／土曜日19時、日曜日9時、10時30分、英語ミサ15時●住所／〒860-0845熊本市上通町3・34●☎096・352・3030 FAX352・1515●主任司祭／ウィリアム・カリー

第38回 クルシリヨ終る

新緑の中、第38回クルシリヨが行われ、参加者14名はそれぞれの思いを胸に家路につかれた。

今回ほど目には見えない神の働きをかいま見たことはない、というのがスタッフの感想である。皆様から寄せられた多くの祈り、ご支援に心から感謝したい。

ところで、特筆したいのがクルシリヨ38年の歩みの中で今回初めて神学生の参加がゼロであったということ。神学生のために心から祈ることの必要性を参加者が認識し、司祭叙階の喜びの日には、かつてのメンバーがこぞって駆けつけるという美しい伝統が今日まで続いてきている。いま司祭、修道者を志す者が少なくなったことを改めて思い知らされた次第である。

クルシリヨも今回で長崎は98回、福岡は38回を迎えたが、クルシリヨの存続を云々するより司祭、修道者の召命のために真剣に祈らねばならないと思う。大聖年の年、第39回には心を新たにし、一人でも多くの参加者が神学生のために共に祈ることができるよう期待しております。

（事務局　大谷眞造）

訂正　前月号の3面「木かげ」の文中一七七七年は一八七七年、二二〇年間は一二〇年間の誤りでした。お詫びし訂正いたします。

福岡で西日本宣教司祭大会

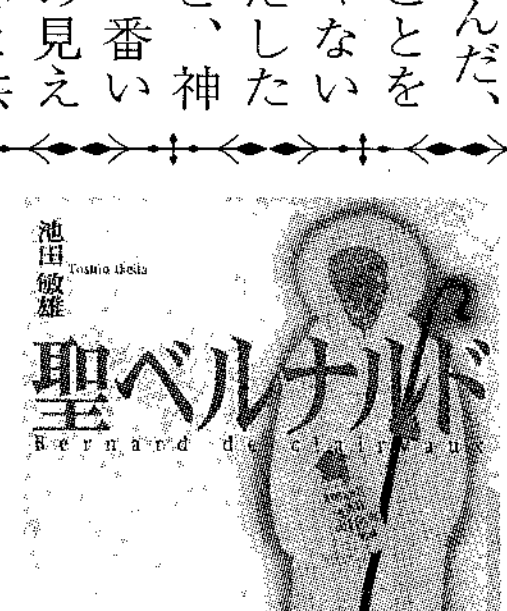
福岡・広島・長崎・大分・鹿児島・那覇教区から２５０名の司祭

期間：11月16日～18日（お祈りください）

公開記念講演：11月17日（水）
講師：金壽煥枢機卿（前ソウル教区長）
主催：ザビエル渡来４５０年祭西日本委員会
※公開講演には信徒も参加できます。

BOOK 読みま専科

★聖ベルナルド　池田敏雄著



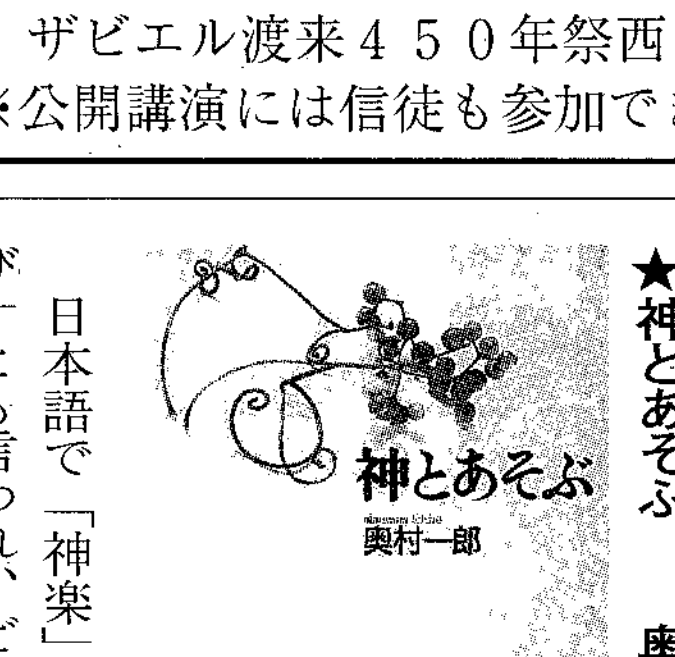
十二世紀に生きた信仰の人、聖ベルナルドは、特に聖母を愛し、その愛に駆られて人びとに神と聖母マリアへの信心をすすめ、多くの著作と説教をもって修道生活や信徒たちに活気を取りもどし、救いへの希望を喜びを与えた。

最も厳しいシトー会で生きながらも、魅力ある人柄、文体や口調の美しさゆえに「密の流れる博士」と呼ばれている。

サンパウロ　税別六八〇円

◇　◇　◇

★神とあそぶ　奥村一郎著



日本語で「神楽」は、「神遊び」とも言われ、どことなくお祭り好きな日本人をさしている。神様の恵みを願いながら、大人も子どもにかえって、一日中、神様と遊ぶ楽しい日である。

人間にとって、「真理と愛と祈り」とは、三者一体のものであり、それらを統合する中核には、きわめて単純な「遊びの原理」が深く息づいている。

この本はそのようなことに焦点をあて、幸福なようで、けっこう複雑な現代社会において、真の幸福を見いだす道を読者と共に考えさせてくれる、心に残るエッセイ集。

女子パウロ会　税別一三〇〇円

ジャパンスマイルか
株式会社
不動産／管理・仲介・売買・建設／一般建築
〒810-0044 福岡市中央区六本松4-9-4
TEL092-761-8800
代表取締役 マルガリタ・マリア 吉田由利子

吉田設計
株式会社
建築設計／企画・設計・監理
〒810-0044 福岡市中央区六本松4-9-7
TEL092-711-0550
代表取締役 ヨゼフ 吉田豊博

祭壇・洗礼盤他
素材｛大理石　御影石　その他
石のパイオニア
高木石材株式会社
〒860-0006 熊本市段山本町2-21
TEL 096-352-2417

巡礼バス旅行募集

ザビエルサマーキャンプ450

日　時：1999年8月12日(木)～15日(日)
場　所：鹿児島県桜島町
対　象：青年男女２０名
内　容：鹿児島教区国際青年大会参加
参加費：１１０００円
申込・問合先：中村　彰神父
☎ 092-531-6821
申込締切：６月２０日

ザビエル渡来450年記念荘厳ミサ

日帰り

募集内容
出発日：1999年10月11日（月）
出発時：午前７時30分
［カテドラル］
帰着時：午後８時30分［カテドラル］
行き先：荘厳ミサ会場［鹿児島］
費　用：８,０００円［昼・夕弁当付］
募集数：先着９０名まで
対象者：どなたでも参加できます
主　催：広報委員会
申込み：司教館教区事務所
☎:092-522-5139　FAX:092-523-2152

案内版　会合と催し

福岡黙想の家　６月

◇７日(月)～11日(金)　大分・鹿児島・那覇教区司祭合同黙想会
◇12日(土)～13日(日)　祈りの学校・コースⅠ（来住神父）マリッジエンカウンター
◇16日(水)　泰星・聖書研究グループの集い
◇18日(金)　日本聖公会・福岡教会婦人会修養会
◇19日(土)～20日(日)　聖母カテキスタ会Ⅰ班
◇20日(日)～21日(月)　聖母カテキスタ会Ⅱ班
◇23日(水)～25日(金)　ＳＪ四校　合同職員研修会
◇26日(土)～27日(日)　週末黙想会（ガブリエル神父）
◇28日(月)～7月2日(金)　福岡教区司祭黙想会

［問合先］黙想の家　☎0940・32・3222　FAX 32・3385

黙想の家のホームページを御利用ください
◎ホームページ　http://w32.mtci.or.jp/~daneox
◎e-mail　Mail to daneox@mtci.or.jp

生命山カトリック別院

生命山では、皆様のために、美しい自然の中で、神との語らいの日々を過ごしていただきたく、黙想会を計画いたしました。ご参加ください。
※祈りの集い
日　時：⑤６月10日(木)　９時45分～15時
テーマ：三位一体のイコンの観想
指　導：フランコ神父
★次回は⑥7月８日(木)です。
※諸宗教対話活動
日　時：６月27日熊本宗岳禅寺で仏教者との交流会

［問合先］生命山カトリック別院
☎0968・85・3100
＊個人、又はグループでの黙想等、常時受け付けています。

６月のこよみ　みこころの月

１日（火）　福岡短期キリスト教講座③（～22日毎火曜日）［カテドラル10時と19時］■
３日（木）　聖カロロ・ルワンガと同志殉教者［記］
４日（金）　十ミカエル西田邦洋［若松教会1996］
福岡聖書講座④（～7月16日）［カテドラル19時］■
５日（土）　聖ボニファチオ司教［記］
６日（日）　キリストの聖体［祭］
７日（月）　お母さんの集い（小倉教会）■
11日（金）　イエスのみ心［祭］
12日（土）　聖母のみ心［記］
13日（日）　年間第11主日
日本女子修道会総長管区長会主催研修会
カトリック・パストラルケア研究会［大神14時］■
17日（日）　ヨアキム・アンナ信心会■
20日（日）　福岡ホスピスの会総会［カテドラル14時］■
21日（月）　十ドミニコ深堀仙右衛門司教［第３代福岡教区長1985］
十トマス平田好［門司港教会1938］
24日（木）　洗礼者聖ヨハネの誕生［祭］
召命を共に祈る会■
27日（日）　年間第13主日聖ペトロ使徒座への献金
佐賀教会創立100周年記念日
生と老い・死をみつめる会（カテドラル14時）
28日（月）　福岡教区司祭黙想会（～7月２日）
29日（火）　聖ペトロ・聖パウロ使徒［祭］

■印は本面に詳細説明あり

福岡

■第9回信仰生活刷新セミナー
［日時］６月７日・14日・21日（月）10時半～12時半［場所］カテドラル大名町教会［テーマ・講師］①６月７日・聖霊の満たし・マッケイ神父②６月14日・聖霊のうちでの成長・ドワイヤ神父③６月21日・《ミサ》キリストの証人・松永司教司式［問合先］Br床島藤吾（司教館☎092・522・5139）

■ヨアキム・アンナ信心会
［日時］６月17日（木）13時15分～15時［場所］浄水通カトリック教会［内容］ロザリオ、ミサ、黙想［問合先］今井喜代美☎092・891・4090／724・7353

■聖テレーズの著作を読む会
［日時］６月27日（毎月第４日曜日）14時～15時30分［場所］カルメル会修道院（福岡市西区上ノ原）［問合先］カルメル会修道院☎092・807・7361［世話人］城島暁（浄水通教会所属）

■福岡生と老い・死をみつめる会
［日時］６月27日（日）14時～16時［場所］カテドラル大名町教会［内容］脳死と死生観［講師］三木浩司氏［参加費］500円［問合先］事務局（大山美穂子☎092・713・8523）

■聖書講座［前期］ローマの信徒への手紙　［日時］19時～21時（［場所］カテドラル大名町教会［テーマ・講師］④６月４日・ユダヤ人と律法、信仰による義・高見三明神父⑤11日・アブラハムの模範と信仰によって実現される約束・中浜一男神父⑥18日・信仰によって義とされて、アダムとキリスト・同上⑦25日・罪に死に、キリストに生きる・青木悟神父⑧７月２日・内在する罪の問題・牧山勝美神父⑨９日・霊による命、将来の栄光・牧山勝美神父⑩16日・神の愛・同上［受講料］毎回800円、全回5000円［申込・問合先］カトリック福岡司教館☎092・522・4059（16時まで深堀）FAX523・2152（24時間）［主催］福岡教区聖書委員会

■第６回短期キリスト教講座―生きる―　［日時］10時～11時45分／19時～20時45分（毎週火曜日・全６回）［場所］カテドラル大名町教会［テーマ・講師］③６月１日・神さまの摂理・佐藤哲夫神父④６月８日（午前）《キリスト教が信じる神さま》は・村木敏子修道女、（午後）新しい生き方（山上の説教より）・その一・ギュンタ・ケルクマン神父⑤15日（午前）死の臨床から命を学ぶ・三木浩司氏、（午後）新しい生き方（山上の説教より）・その二・ギュンタ・ケルクマン神父⑥22日・言葉と想像力と創造・来住英俊神父［受講料］一講座500円［申込先］カトリック福岡司教館☎092・522・4059（16時まで深堀）FAX523・2152（24時間）

■福岡パストラルケア研究会
［日時］６月13日（日）14時～16時［場所］福岡サン・スルピス大神学院新館講話室［内容］臨床パストラルケアについて［講師］W・キッペス神父［参加費］七〇〇円［次回］７月４日［内容］病人訪問いやされるかかわり

■福岡ホスピスの会総会
［日時］６月20日午後２時より［場所］カテドラル大名町教会４階会議室

■美野島司牧センターよりお願い　男性夏物衣類のカンパをお願いします［問合先］コース神父☎092・431・1419

■召命を共に祈る会
［日時］６月24日（木）13時［場所］カトリック浄水通教会［内容］ロザリオ・会合［問合先］青木悟神父☎092・522・5139

■典礼を学ぶ集い
［日時］７月11日（日）［場所］カテドラル大名町教会［テーマ］［典礼憲章］における新しい典礼概念について［講師］白浜満神父［参加費］600円［問合先］井上☎0940・33・8122

■講演会
［日時］７月15日（木）15時～17時［場所］大神学院新館ホール［テーマ］21世紀に向けて教会の新しい姿［講師］ピエロ・コーダ神父（ローマ・ラテラノ大学神学部教授）［問合］大山悟神父☎092・871・4943

■第23回聖歌研修会
［日時］７月25日（日）13時～15時30分［場所］大楠教会［指導］深堀純（大名町教会信徒）［問合先］有馬浩☎092・661・2673

北九州

■第14回お母さんの集い
［日時］６月７日（月）10時半～13時［場所］カトリック小倉教会［テーマ］神様への贈り物［内容］講話とミサ［講師］白浜満神父［参加費］５００円［問合先］福吉☎093・962・1395

佐賀

■佐賀教会創立百周年記念祝典
［日時］６月27日（日）13時30分［場所］カトリック佐賀教会［内容］松永司教司式ミサ、記念式典、祝賀会［問合先］佐賀教会☎0952・23・4754

編集後記

梅雨どきとはいえ、好天が続くと水がピンチ。福岡はそんな所です。でも教区報は枯れることのない、豊かな泉・・・のつもり。ここから何かを汲み取ってほしい、と願っています。

ゼノ　かぎりなき愛に　上映会



ゼノ・ゼブロフスキー修道士、愛称『ゼノさん』の半生を描いたアニメーション映画「ゼノ―限りなき愛に―」がゼノさんの姿を現代に伝えたい、未来に向けて残したい、の呼びかけに応えた多くの人々の募金を支えに完成し、福岡でも六月二六日（土）二七日（日）都久志会館で上映されることになった。『ゼノさん』はポーランドに生まれ、一九三〇年にコルベ神父とともに来日。戦時中も日本にとどまり、一九四五年八月九日長崎で被爆。戦後は戦災孤児の救済を中心に生活困窮者の支援、災害被災者の救援、など全国各地を駆けめぐり、「ゼノ、死ぬひまない」は有名な言葉。一時間二十分の映画では限られたエピソードしか描かれていないが、『ゼノさん』の活動の根元にある限りなき愛の心は癒しを求めている現代の人々に力強いメッセージを与えることだろう。子どもたちに是非見てもらいたい映画だ。

上映時間
６月26日（土）①14時30分②16時30分③19時
６月27日（日）①10時30分
問合先＝ゼノさん九州事務局
☎０９８・７７１・５６２３

チャリティーコンサート

オルガン

日　時：７月１０日(土) 14時　会　場：カテドラル
問合先：司教館（深堀）　入場料：1.000円

いのちの絵画展

と　き：1999年７月6日（火）～11日（日）
ところ：福岡県立美術館１号室
連絡先：☎ 092-291-7896（山崎博之）
※死刑囚のいのちの叫びを感じとり、彼らの心に触れてみませんか。

オブレート会サマーキャンプ

Thanks for Life　輝け。いのち

日　時：８月９日(月) 13：40～11日(水)
場　所：カトリック古賀教会・暁の星幼稚園
対　象：小学５年生～20歳代男子信徒
参加費：8000円　締切り：7月20日
申込先：オブレート会修学院（川口敏神父）
☎ 052-805-3918　FAX 052-807-1209

COSMOS
スポーツ用品・ＯＡ・文具　コスモス
〒830-1224 三井郡大刀洗町鵜木67－3
ＴＥＬ　0942－77－3199
代表者　ペトロ 平田　清

“任意保険に加入してから車の運転を致しましょう”
自動車、火災、傷害、海外旅行傷害保険、保育園、幼稚園児を守る、企業賠償保険
〒814-0153
福岡市城南区樋井川３丁目17－10
大石保険事務所　大石真澄
☎092-552-8195　Ⓕ092-541-7734

FUJKi
未来へ――安心を創る
藤木工務店
福岡支店　〒812-0016 福岡市博多区博多駅南3-1-1　TEL 092-441-6585(代表)
取締役社長　大森　周　福岡支店長　多田泰幸

カトリック 福岡教区報

松永久次郎司教認可
発行所　福岡司教区本部
福岡市中央区浄水通39
発行人
カトリック福岡司教区
編集人　中村　彰
TEL　092-522-5139
FAX　092-523-2152
振替口座　01760-6-20729
カトリック福岡司教区
定価　一部60円

今月の意向

教皇様の意向のために祈りましょう
【一般の意向】外国人に対する温かい受け入れ
【布教の意向】新しい運動の宣教上の役割
【日本の教会の意向】日韓の教会の相互理解と交流

誰もがキリストと出会える処

各地のキリスト教講座

熊本・佐賀・福岡で毎年開講

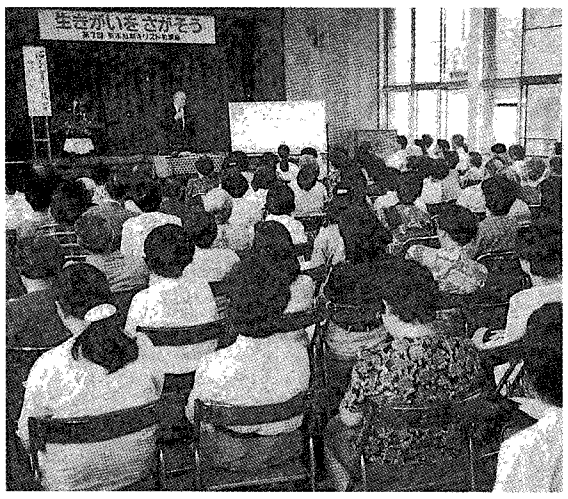
市民講座や老人大学、自己実現セミナーなど生涯学習が盛んになっている今日、福岡教区でも十数年前からキリスト教講座が開講され、多数の市民、信徒が受講している。これは貴重な宣教の場であり、信徒養成の場ともなっている。今回、各地区の担当者に報告をしてもらった。

熊本　短期キリスト教講座

熊本短期キリスト教講座は当時のコロンバン会の地区長ヴィンセント・ヤングキャンプ神父の発想を受けて、熊本県内各小教区の信徒使徒職協議会の委員が集まり企画し、一九八八年秋に第一回の講座が開講された。この講座が始まって、やがて「信徒協」にも宣教部、司牧部、社会参加部ができ、「短期キリスト教講座」は宣教部部長が実行委員長となった。講座の責任者はコロンバン会の地区長の司祭で、講座は熊本市内五教会合同とその他に現在では八代、人吉、水俣でも行われている。熊本市内五教会の実行委員会は、手取教会に定期的に集まり、この講座の企画や立案にあたっている。講師はそれぞれの専門的な分野で造詣の深い方にお願いし、キリスト者の立場より、真の生きがいとは何かについて話していただいている。

この講座の目的は、①未洗者の人たちに現代の諸問題について、福音的な受けとめ方、価値観を知らせる、②未洗者が教会に近づくきっかけとなるように、③信徒が知人を教会に誘う手段となる、④信徒の宣教活動の助けとなることである。講座のメインテーマは「生きがいを探そう！　真の幸せとは何でしょうか？」のもとに、愛するとは、いのちの尊さ、暖かい家庭作り、生と死の受容などの問題について共に考え、学び合っています。当初は未洗者を対象にしていたが、自然と信徒も参加して一緒に養成されている。毎回三百～五百人（延べ）の受講者数となっている。五～七週の講座で最後には必ず「信徒の証し」を入れている。毎年、この講座が終了した後には受講者の方々に教会の勉強会等の案内をしている。この講座は回を重ねるごとに実り多いキリスト教講座として着実に発展し、今年で十二回目を迎えることになった。

（取材協力　藤内聖一）



佐賀　人生講座

佐賀地区での人生講座はA・アレグリーニ神父を中心に企画され、昨年で十三回を終えた。今年は佐賀教会創立百周年記念行事のため、休みにしている。毎年五月に始まり、朝の部、夜の部に分かれ、週に一回全八回である。他の地区と違ってユニークな点は、講座の一回をバスを使って日帰り研修をしていることである。これまでも島原半島や出津教会、大分などキリスト教ゆかりの地を巡っている。来年も、ぜひユニークな講座を企画して多くの方を迎えたい。

（取材協力　石井　文）

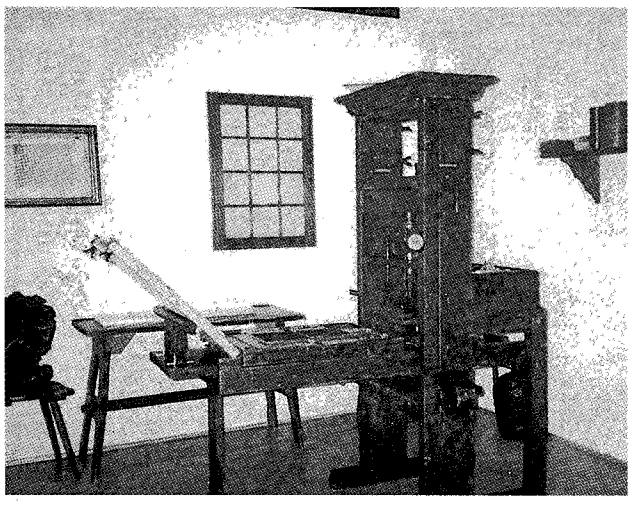
福岡　短期キリスト教講座

福岡地区では、一九九五年一月三十一日から三月七日までの毎週火曜日午前と午後の全12回、メインテーマ『生きるとは』で開講した。

第1回目の講座は「カトリック教会へ、ようこそ」というテーマ。講師には医療従事者、教育者、カウンセラー、主婦、司祭、牧師、僧侶と様々な人生の達人をお願いしている。初期の参加者のアンケートを見ると「教会に一度入ってみたかったけど機会がなかったので……」という未洗者の声が多かった。

今年の復活祭に、キリスト教講座がきっかけです、という受洗者が数名。勉強中の方もいらっしゃると聞いて「やってよかった」という実行委員の声があった。

（取材協力　深堀邦枝）



▲展示される物と同型のグーテンベルク印刷機

福岡聖書展にザビエルコーナー

八月二十六日（木）から三十日（月）まで、博多大丸八階の特設会場で『福岡聖書展』が開催される。テーマは『二十一世紀の心を拓く』。入場は無料。

今回の聖書展は中部教会（日本キリスト教団）を中心にカトリックとプロテスタント諸派の信徒や司祭・牧師が「一人でも多くの福岡市民に聖書に触れてもらおう」と熱心に取り組んでいる。ユニークなのは、カトリック教会が中心になって紹介する『ザビエルコーナー』である。ぜひ、一度は会場へ足を運んでもらいたい。プレイベントとして七月十日のチャリティーコンサート、八月二十二日は結城了悟神父（26聖人記念館館長）の講演「博多を訪れたザビエル」がカテドラル大名町教会で行われる。

時の話題

末吉　宏光

今日のような多様性の中で生きている私たち人間、なかでも子供たちについての教育上の問題は極めて多岐にわたっていて、決して安易な一筋縄でしめ括られるものではありません。それをあえて九牛の一毛として摘出するとすれば、創造的な個性の啓培といじめ（物理的・精神的暴力）ではないでしょうか。このうちの後者については、先ずいじめる者は、向日葵（ひまわり）の様に強く逞しく学芸等にも優れ明るい強者であることが多く、又、いじめられる者は、蒲公英（たんぽぽ）の様に小さく万事に控え目で未だ能力や個性を見出し得ないで他者から踏みつけられ易い弱者でありましょう。こういう構図から、向日葵の様な生命力を持った子供たちは、二十一世紀に向けてその持つ強烈で有用な個性の花をみごとに咲かせて欲しい。そして、目立たない蒲公英はいえ、その辛抱強さを認めてもも決して残忍な踏みにじり方をしないで下さい。そこに、へり下ることの強さ美しさを家庭や学校等でいろんな体験を通しながら苦しみの中から勝ちとって下さることを祈っています。ちなみに、「天の国では誰が一番偉いですか」の問いにイエス様は「あなたたちは心を入れかえて幼な子の様にならなければ、天の国には入れない。だから、自分を低くしてこの幼な子の様になる者が、天の国で一番偉いのである」（マタイ18章3～4節）と答えられている。「…誰でも自ら高ぶる者は下げられ、自らへり下る者はあげられるのである」（ルカ18章14節）

（大名町教会　信徒）

向日葵と蒲公英

九州地区修女連研修会を福岡雙葉で

修道女……い・の・ちに仕える女性たち

「修道女…い・の・ちに仕える女性たち」をテーマに、日本女子修道会総長管区長会養成委員会主催の研修会が、今年は雙葉学園テレジアホールにて六月十三日（日）に開催された。九州の四教区から百二十名余りのシスターが集い、三人のシスターによる体験の分かち合いに耳を傾けた。「崩壊家庭」「ホスピスの現場から」「滞日外国人との関わりの中で」というテーマの講話を聞いた後、活発な分かち合いがなされ、現代社会が直面している問題の深さ、難しさを再認識し、神がお造りになった「いのち」への愛、一人ひとりを大切にすることばなどを学ばせて頂いた。初めに養成委員会代表のSr渡辺（聖母訪問会）から研修会の流れの説明があったが、二〇〇〇年に広島で開かれるＡＭＯＲ（アジア・大平洋修道女会議）へと向かって歩む修道女たちの連帯を目指したもので、特に今年は種々の意味で「いのち」と私たちの関わりに焦点を当てたもので、危機にさらされているいのち、環境汚染によって破壊される自然、アジアの中で痛めつけられてきたいのちへの想いなど多くの課題提示がなされた。最後の山元眞神父様（二日市教会主任）の総括の言葉「キリストがまず私たちに示された愛の姿を思い起こそう。福音の中に全てがある。聖書をもっと深く味わい、足もとから具体的に始めよう。テーマの言葉を―あなたに仕えるわたし―に置き換えて」を胸に刻み、派遣の場へと帰途に着いた。

師イエズス修道女会Sr関口律子

イエスさまについて行こう！

召命学校

日　時：7月26日（月）15時30分
　　28日（水）13時まで
場　所：福岡カトリック神学院
対　象：小学４年生～中学生の男女30人
参加費：2000円
申込・問合先：　中村　彰神父
FAX・☎092-531-6821

お知らせ

福岡カトリック神学院のFAX番号が電話番号と同じになりました。FAX・☎092・531・6821

みちくさ

最近、年をとったなあと実感させられることがあった。五月の連休に用事を入れ過ぎて、連休が終わると疲れがたまり、少し風邪ぎみになった。体調の優れない中、部屋の掃除、片付けをしていた。三十…ほどある重い物を抱えて運ぼうとしていたとき、ぎくっ、ときた。あっきたな、と思った。そう、ぎっくり腰になったのである。その場で横になり、なさけないな、と一人ごちた。司教館の神父に電話して、すぐに近くの病院に連れて行ってもらった。幸い軽いものでゆっくりとながら動けたし、一週間で完全にもとに戻った▼日頃から体を動かすことに気をつけていたし、テニスや登山などをしていたので、まさかこの年でぎっくり腰になるとは思ってもいなかった。病院の先生から、初めてですかと聞かれ、そうですと答えると、一言「年ですね」と言われた。司祭叙階のとき、体力だけは自信がありますと挨拶したことを思い出す。これから用心するようにと、たくさんの方から忠告を受けた。自分ではまだ足腰の鍛え方が足りなかったと、反省にならない反省をする▼そういえば最近「老人力」という本が出され、巷で使われている。若くて体も脳も元気なときから見れば、少しずつ体がいうことをきかなくなり、物忘れも多くなることは嫌なことである。しかし、逆に老人力がついたと考えることは楽しいことである。物事は考え方しだいで暗くもなるし、明るくもなる。どうせなら精一杯の意地をはって超楽観主義で生きることもまた興である。

〈N〉

実れ実れ、召命の実

教区各地区の取り組み

司祭、修道者の高齢化、神学生、志願者の減少が目に見えている今、真剣に祈り、対策に取り組む時にきている。個人で祈るだけでなく、会として祈り、取り組んでいるところを紹介する。火のない所に煙が立たないように、召命のために祈らないところに召命はない。

召命を共に祈る会

「召命を共に祈る会」は一九九七年に発足しました。以前は教区、修道会の召命担当者が青年対象に巡礼や黙想会を行っていました。しかし、司祭、修道者の召命の減少は、教会全体の問題でもあるので、信徒の方々にも関わってもらい、共に召命のために祈る会の必要性がでてきました。こうして、司祭・修道者・信徒が集まり、教区内の司祭・修道者の召命の増加のために祈り、具体的に活動する有志の会が発足しました。

この会の目的として、以下の六つのことを目指しています。①司祭・修道者となった方々の召命のために祈る。②司祭・修道者のために祈る。③司祭・修道者の召命について考える機会を教区民に提供する。④青年対象の召命黙想会を企画する。⑤司祭・修道者の召命担当者のための研修会を企画する。⑥召命識別への手助けをする。

活動として企画されたのは、青年対象の召命黙想会、青年対象の巡礼、徹夜祈祷会、志願者養成者のための研修会などです。二年前からの新しい点として、大神学院での召命祈願ミサが行われるようになりました。

ミサ後にお茶を飲みながら、神学生と話をする時間もあります。知らない人のために祈るよりも知っている人のために祈る方が、より具体的に祈れるし、神学生への励ましともなっています。



現在は月に一度例会を持ち、ロザリオの祈りをした後、企画を話し合っています。今後の活動としては、福岡カトリック神学院で行われる召命学校を手伝い、秋に青年対象の召命黙想会を計画しています。

他の地区での掘り起こしのために教区全体会として、北九州、筑後、佐賀、熊本地区で祈る会をすることもあります。近くの教会で「召命を共に祈る会」が行われるときには、ぜひ皆さんの参加をお願いします。

（召命を共に祈る会代表　青木　悟神父）

熊本地区の活動

二年前の教区報の呼び掛けに応え参加いたしました。その後、教区全体会・福岡地区の例会・活動に参加するかたわら、地区独自では召命祈願ミサ・聖時間等を行い、最近では信徒協主催の召命の集いへの参加、青年への情報提供をさせて頂いています。また五月三十一日には武蔵ケ丘教会に於いて教区全体会をいたしました。北九州・福岡・佐賀の会員を迎え四十余名の皆さんと共に祈り（みことばの典礼・聖体賛美式）、情報交換をすることができました。参加者の方から「個人でまた小グループで祈っていたけれど、皆さんと一緒に祈ることの大事さを再確認しました」との言葉を頂き励まされています。松永司教様は「召命は神様のお恵みです。私たちはこのお恵みを祈り求めなければなりません」と私たちの使命を呼び覚ましておられます。今後は、他地区との情報交換をしながら召命の苗床作りのために、そして召命が育つように祈り、奉仕していきたいと願っています。

（武蔵ケ丘教会　竹市ヒロ子）

子羊会　召命を祈り続け20年

小羊会は今から約二十年前、地行教会が閉鎖されて、信徒は大名町教会、西新教会へと分散していったが、礼拝会の聖堂ができてから、小神学生のために祈ろうと分かれていった信者たちが集まってきて生まれた。それ以来、月一回集まってロザリオをとなえ、福岡カトリック神学院の代々の院長司祭によってミサが捧げられ、その後和やかな茶話会の中で親睦を深めている。

このような集まりは今も続けられ、現在は超小教区の信徒、約二十名位の参加によって司祭を目指す少年たちのために祈っている。時代の推移によって司祭を志す少年たちも少なくなってきているが、「それにもかかわらず、現代に生きる若者にあなたの光りをお与えください。彼らの中に主を見る目と主に従う心を育ててください。主において人生の選択ができますように」と願う日々である。

（礼拝会　Sr佐藤　節子）

イエスさまの招きに『はい』と答えよ！

今年も福岡カトリック神学院で召命学校を七月二十六日（月）から二十八日（水）まで行います。今年は「召命を共に祈る会」の協力を受けて、参加対象を小学四年生から中学生までの男女としました。男女一緒の召命学校は初めてのことですが、召命を意識している子どもたちが互いにいい影響を受け合ったらと思います。また、二日目の夜の「召命祈願ミサ」も初めてのことです。参加している子どもたちと共に、福岡教区に司祭・修道者の召命を求めて「召命祈願ミサ」を一般の方々と一緒にいたします。最終日には松永司教様司式ミサで締めくくります。



司祭や修道者になってみたいなあ、と思っている子どもたちはぜひ参加してください。神学校ってどんなところか、神学生ってどんな人か、司祭や修道者の生活はどんなものか、たくさんのことが分かりますよ。

神学生やシスター、司祭や信者さんたちが楽しい召命学校になるように一生懸命準備しています。イエズス様の招きに「はい」と従った弟子たちのように、君も勇気を出して参加してみませんか。

私の使徒職

ブラザー　楠本　正良

私はマスメディアによる宣教を第一の使徒職とする聖パウロ会のブラザーです。もう一人のブラザーと共にサンパウロ福岡センターに所属して、おもに教会バザーや出張販売に励んでいます。これが私たちの宣教なのです。九州一円と広島教区の一部が守備範囲ですが、定期的に巡回している所、なかなか行けない所、とさまざまです。

やる気はみなぎっていても、能力、人材、経済面で力不足を痛感せずにはいられません。

『雨ニモマケズ、風ニモマケズ……』という宮沢賢治のこの詩が大好きで、自分もこの人のようになりたいと、いつも思っています。

長年巡回していますと、車のタイヤと同じように、体力もすり減っていくのを感じますが、福音宣教のためという誇りと喜びが私たちを力づけてくれています。

ある教会を訪問したとき、司教様から「あなたは今している使徒職に誇りを持ちなさい」と、励ましの言葉をいただき、嬉しくなりました。

行く先ざきで至らない点が多々あるにもかかわらず、暖かいもてなしがあり、多くの人から待たれ、必要とされていることを身にしみて感じながら、緊張と感謝のうちにハンドルを握る毎日です。

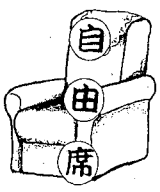
（聖パウロ修道会修道士）

私の召命

寺濱　亮司

私は小さい頃から神父様や教会の方々に、神様の話しや聖書についてたくさんのことを教えていただき、そうしているうちにいつのまにか教会で人々のために働く神父様にあこがれていました。様々な人々との出会いを通して、自分も多くの人と関わり何か役に立てるようになりたいと思いましたが、具体的に司祭の道に進む決心はなかなかつかずに心の片隅に置いたままでした。大学を卒業したあとも具体的な就職はせずに自分の将来についてゆっくりと答えを出したいと思い、アルバイト、通信教育、海外留学といろんなことを経験しました。そして、自分にとって神様に支えられてたくさんの方々のために働くことができるのは司祭しかないと考え、司祭への道を歩む決心をしました。神様と多くの人に支えられて、少しずつ頑張っていきたいと思っています。これからもよろしくお願いします。

（福岡教区神学生）



召命を共に祈る会にによせて

山口　紀子

福岡地区婦人会を通して、日本カトリック女性団体連盟（日カ連）に関わりを持つことになり、その中で、この団体の基本テーマ「神のみ旨に基づく家庭づくり」、特に、「司祭召命を考える…」を掲げていた折、日カ連の仙台大会で教区長の佐藤司教様が「自分の子どもでない子どもの召し出しを祈っていませんか？」「少なくとも神さまの召し出しの働きの邪魔をしないでください」と言われたのを聞いて、今まで考えてもみなかった、私の息子の司祭召命を真剣に祈ろうと思い立った矢先、教区報で「召命を共に祈る会」が始まることを知りました。私が何よりこの会に引かれたのは、「有志の集まりであって、司祭、修道者の召命の増加を祈る」という目的でした。

早いもので、二年が過ぎようとしているのですが、息子は一向に変わる気配もないのでやっぱり無理かな、高望みかなと思っていた時、熊本の会の人から「息子さんのために、毎日お祈りしているわよ」と声をかけられたり、たくさんの方々から「祈っているからね」と言われる度に、自分の毎日の祈りの足りなさを思い、大聖人アウグスチヌスのお母さま聖モニカの信仰をいただいて、もっともっと神さまにゆだねて祈っていきたいと反省しています。また、二日市教会の教会学校に携わっている一人として、いつの日か、神父様になってくれる子どもがでることを神さまにお願いしながら祈りを続けていきたいと思っています。

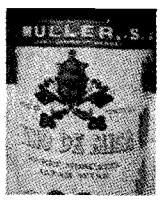
（二日市教会信徒）

※投稿のお願い
［内容］信仰生活上の体験や思い　［字数］四百字程度
［送付先］司教館広報室

召命祈願ミサ

7月27日（火）19時30分、召命学校に参加している子どもたちと共に、福岡カトリック神学院で、司祭・修道者の召命を求めて「召命祈願ミサ」が行われます。どなたでも参加できます。

おさそい　週末の黙想会
心と身体を休めるために・・・　エネルギーを補給するために・・・
週末の一日を、深い森に囲まれた『黙想の家』でお過し下さい。
※少人数で、ミサとお話や個人面接、十字架の道行きなど、ゆったりしたプログラムになっています。問合せ、申込はお電話でどうぞ。
① 7月23日(金)～25日(日)《鈴木 忠一 神父》
＊ ＊ ＊
★祈りの学校 コースII 申込受付中！ 7月10日(土)～11日(日) ＜来住 英俊 神父＞
【時 間】16:00～最終日15:00／【会 費】1泊3食 6,000円×日
福岡黙想の家　〒811-4155 宗像市名残1056　TEL 0940(32)3222 FAX 0940(32)3385

ミサ用ワイン

ヴィノ デ ミサ
VINO DE MISA
スイートタイプ（赤）（白）
ご用命 お問い合せは
有限会社 大楠酒店
ヨハネ 青木 彰
〒815-0082 福岡市南区大楠2丁目4番8号
電話 092-531-4718 Fax 092-521-6453

別れ・出逢い・旅立ち
草苑〔SOU-EN〕
ご葬儀
木下株式会社
TEL092-526-5656
〒810-0016
福岡市中央区平和3丁目1-5

熊本

宗派を越えて聖霊降臨を祝う 六十四人の青年たち

健軍教会

熊本地区において、キリスト教を土台とする青年たち（ROCK）が四月のイースター合同礼拝に続き「御言葉と証しによる分かち合いの集い」を行いました。六月二十三日聖霊降臨の祝日にカトリック健軍教会に、カトリック教会、日本福音ルーテル教会、日本基督教団の青年六十四名が集いました。

集いは賛美歌を歌いながら開会、参加教会の紹介、主旨説明がありました。その後御言葉の部、証しの部、分かち合いの部へと集いは進行しました。御言葉の部では二人の青年の聖書朗読と感謝の祈りを行いました。証しの部は「対話」の題で日本福音ルーテル熊本教会の伊藤さんの話しと、「洗礼までの道のり」と題してカトリック手取教会のマリーテレーズ出来田さんの話しがありました。この二人の青年の話の後、沈黙の中で青年一人一人が祈りながら心の中で分かち合いの準備を行いました。分かち合いの部では数グループに分かれて、朗読と証しの言葉を聞いて、また信仰について互いに分かち合いました。青年たちが話す中で交流と信仰生活の分かち合いができました。閉会の部では賛美歌と聖書朗読、そして主の祈りを閉会の祈りとして全員で共に捧げました。

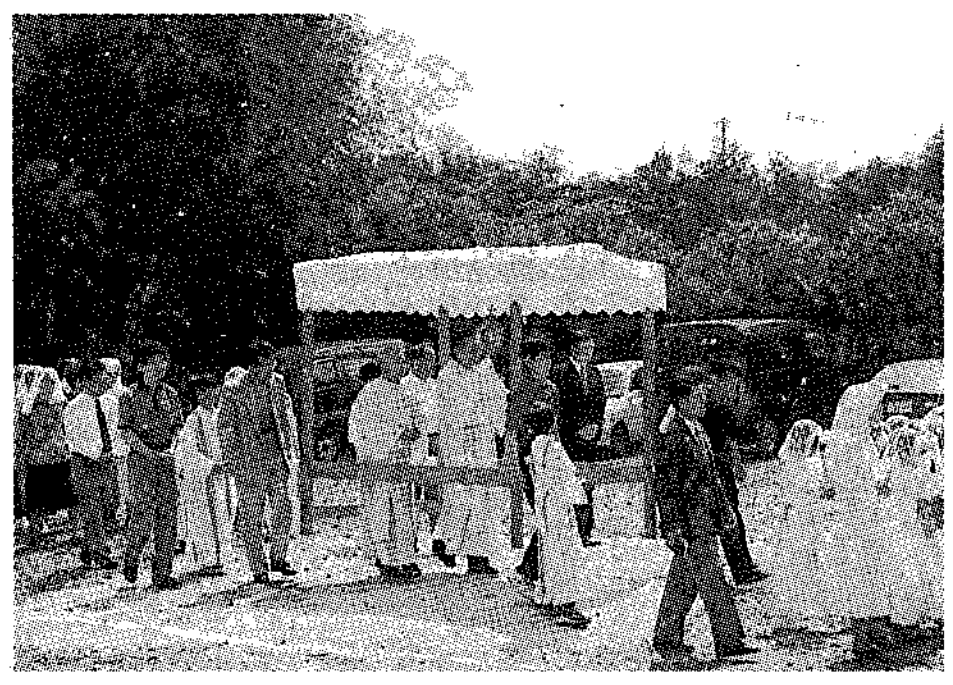
復活祭に始まったこのROCKによって、カトリック熊本地区の青年たちにもいい刺激となって青年活動も活発になりました。聖霊降臨の祝日に神様から青年への素晴らしいプレゼントであったと思います。

（武蔵ケ丘教会　今村　武史）

聖体行列

新田原

梅雨の中休み、晴天に恵まれた六月六日（日）キリストの聖体の祝日、新田原教会では久しぶりに聖体行列が行われた。新田原小教区では毎年聖体の祝日に『小教区聖体大会』と銘打って御聖体に対する信心業のひとつとして、御聖体についての講演会や聖体賛美式、あるいは聖体行列を行っている。聖体行列は過去二、三回ほど計画はしたものの雨天のために流れてしまっていたが、今年は好天に恵まれ実に久しぶりに待望の聖体行列となった。



当日は月の第一日曜日で『小教区召命祈願日』とも重なり、福岡サン・スルピス大神学院の高見三明神父を招いての『小教区聖体大会』となった。

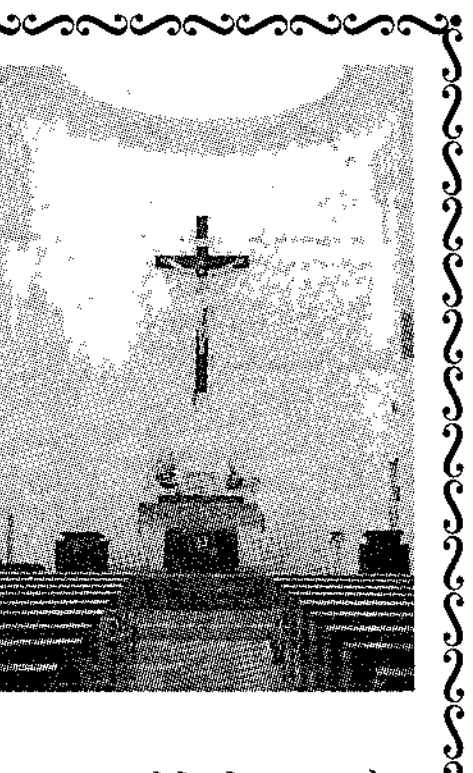
午前九時、高見三明神父と主任司祭竹森勇神父の共同ミサに引き続いて聖体行列が挙行された。まず、全信徒が教会の前庭広場に集まって司式司祭の奉持する御聖体に花まき少女が花まきをしてから行列が始まった。十字架を先頭に侍者と子供たちの後に、御聖体、聖歌隊、信徒の列と続き、順路は教会前庭広場から新田原聖母病院裏の広場へと続いて、そこに設けた仮祭壇で御聖体の献香と花まき、更に行列はカリタス修道会の聖マリアの園幼稚園園庭の仮祭壇で献香と花まきをした。最後に教会前庭の仮祭壇で聖体賛美式をして、御聖体による祝福をもって終了した。

殉教者の教会

殉教者ディエゴ加賀山隼人が殉教の前に幽閉されていた地に現在の小倉教会が建っていることを思うとき、感慨深いものがある。加賀山隼人は数々の功をたて、華やかな武士生活を送り、細川氏には家老としての職をいただき、教会では宣教師セスペデス神父のもとでその右腕として活躍した。その加賀山隼人は殉教までの数年の間をこの香春口にて静かに過ごしていた。小倉城落成の歌会で歌った隼人自身の歌がその思いを深くする。「千尋より　深きおもいの　海はあれど　もらしそむべき　言の葉ぞなき」高山右近のもとで手柄をあげ、また細川忠興のもとで名をなし、小倉城建築では大きな役割を果たし、江戸城建築のためには細川藩を代表して江戸送りされた加賀山隼人のこころは、なんともいいようがなかったようである。武士として手柄を立てたということは、それだけ人の首を切ったことを意味している。キリスト者としての静かな一時をこの香春口で送っていたことであろう。娘みやは、小笠原玄也に嫁いでいたが、父隼人の殉教をしっかりと見つめ、それが十七年後熊本での一家殉教につながっていった。この香春口にて武士の服を脱ぎ、祭服（侍者服）に着替え、キリストの心に入れ替え、殉教に赴いた。

小倉教会主任司祭　平田　寛

大聖年準備のための指定巡礼教会　9　八代教会



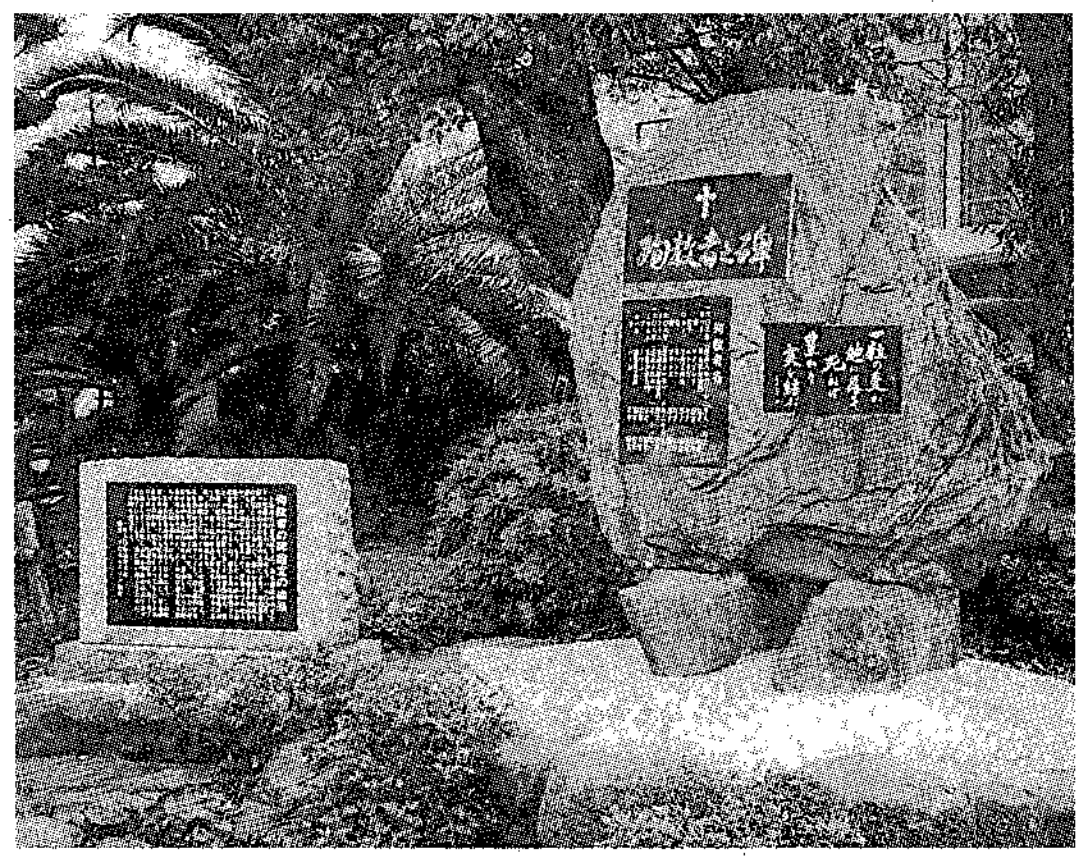
八代小教区の歴史は、一八九〇年、初代主任本田神父が、現在の教会の近くに弓削親正氏の家を借りて宣教を開始した時に始まる。

その三年後に着任したパリ外国宣教会のコール神父は一八九五年、現在の地、長町に千百八十坪の土地を購入、翌年には、聖堂と司祭館の建築を始めた。こうして一八九七年に八代に初めての教会が完成し、宣教の拠点となった。

八代教会の発展には、シャルトルの聖パウロ修道女会の活躍があったことを忘れてはならない。コール神父の要請で一九〇〇年に八代に到着した同会は、直ちに医療・養護活動を開始、後に孤児院「ナザレ園」ほか病院「博愛院」、白百合学園の前身「技芸女学院」を設立し、社会に開かれた教会の窓口として計り知れないほど重要な役割を果たしている。

神父たちや修道会の働きのかいあって信者や求道者も増えたために、一九〇五年に二代目の聖堂が建てられた。新聖堂は奥行十七メートル×幅七メートル。一九三五年には伝道館も完成した。

一九四八年九月ごろ、聖コロンバン会が八代ほか熊本地区の司牧を引き継ぐことになり（一時邦人司祭も担当したが）、新しい時代を迎えた。とはいえ終戦直後のこと、ほとんどゼロからの出発であった。



現在の聖堂は三代目で、司祭館とともに一九五八年に完成した。和久田建設の設計・施工で鉄筋コンクリート造り、二百人収容、「七つの悲しみの聖母」に献げられている。当時の八代では、建築様式、モダンさ、規模ともに注目を浴び、その道の人たちが多数見学に訪れたという。昨年十二月に五十坪の信徒会館も完成した。

ここでは一九〇八年に始まったレジオ・マリエをはじめ、婦人会、牧場の会などの活動が盛んである。

八代小教区で特筆すべきことは、慶長年間の八代の十一人の殉教者について、詳しい記録が保存されていることである。庭にある殉教記念碑がひときわ目を引く。

データ　●信徒数／一五〇人●ミサ時間／日曜日9時●住所／〒866・0861八代市本町1・8・2●☎FAX0965・32・4065●主任司祭／J・ノリス

福岡ホスピスの会　請願書提出

「福岡市にホスピスを」という思いで、昨年二月に発足した「福岡ホスピスの会」が、この六月十五日に市長に陳情書を、市議会議長に請願書を提出した。代表の小林計子さん、発足以来の相談役で生と老い・死を見つめる会の鬼木保之会長ら四人が六千五百人分の請願書を持って市役所の議会棟にある各会派を回り、請願の推薦を訴えた。九会派中、七会派の市議が賛同を表明、午後には無事、提出することができた。

六月二十日には、カテドラル大名町教会において総会を開き、請願書提出の報告、勉強会の継続、ニュースレターの発行等を企画承認した。七月十八日、井田栄一医師を講師にカテドラルで勉強会。

福岡で西日本宣教司祭大会

福岡・広島・長崎・大分・鹿児島・那覇から２５０名の司祭

期間：11月16日～18日（お祈りください）

公開記念講演：11月17日（水）
講師：金壽煥枢機卿（前ソウル教区長）
主催：ザビエル渡来４５０年祭西日本委員会
※公開講演には信徒も参加できます。

テレジア鵜野貞子様

健軍教会主任の鵜野泰年神父の令妹。六月十日に奉仕していた司祭館で帰天。二十年間鵜野神父のもと教区のために奉仕されました。享年六十二歳。

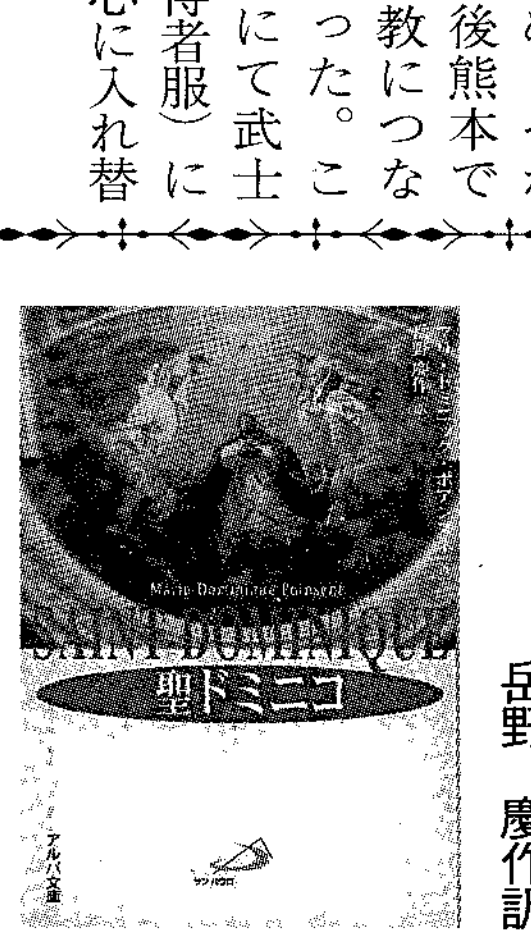
御寄付御礼

故テレジア鵜野貞子様の御香典返しに代えて、鵜野泰年神父様より多大なご芳志を賜りました。故人のご安息をお祈りし、厚く御礼申し上げます。

福岡カトリック神学院
院長　中村　彰

BOOK 読みま専科

★聖ドミニコ
マリ・D・ボアンスネ著
岳野　慶作訳



聖ドミニコの生涯は十三世紀から十六世紀にかけて、信用できない伝記によってゆがめられていた。同じドミニコ会のラコルデールやヴィケール師らが真実の歴史を見つめ直し、現実にそった伝記を著して初めて、説教者修道会の父聖ドミニコの真の姿が現代に示された。

本書は長期にわたる研究の成果であって、ドミニコ会の起源とその創立者について、コンパクトながらも広範で確実な資料を提供してくれる。

サンパウロ　税別六八〇円

◇◇◇

★フランシスコ・ザビエル
希望の軌跡
H・チースリク編



今年の八月十五日はザビエル来日四百五十年記念日にあたる。日本に初めてキリスト教を伝えた東洋の使徒として上陸した鹿児島では特に盛大な祝典がくり広げられる。スペインの北部バスク人としてハビエル城で生を受け、パリ大学で学び、聖イグナチオと共にイエズス会を創立。その歩んだ足跡を専門家が簡潔にわかりやすく紹介する。

女子パウロ会　税別五〇〇円

ジャパンスマイル株式会社
不動産/管理・仲介・売買・建設/一般建築
〒810-0044 福岡市中央区六本松4-9-4
TEL092-761-8800
代表取締役 マルガリタ・マリア 吉田由利子

吉田設計株式会社
建築設計/企画・設計・監理
〒810-0044 福岡市中央区六本松4-9-7
TEL092-711-0550
代表取締役 ヨゼフ 吉田豊博

祭壇・洗礼盤他
素材｛大理石・御影石・その他
石のパイオニア
高木石材株式会社
〒860-0006 熊本市段山本町2-21
TEL096-352-2417

巡礼バス旅行募集

ザビエルサマーキャンプ450

日　時：1999年８月12日(木)～15日(日)
場　所：鹿児島県桜島町
対　象：青年男女２０名
内　容：鹿児島教区国際青年大会参加
参加費：１１,０００円
申込・問合先：中村　彰神父
☎FAX：092-531-6821
申込締切：７月１１日

ザビエル渡来450年記念荘厳ミサ

日帰り

募集内容
出発日：1999年10月11日(月)
出発時：午前７時30分[カテドラル]
帰着時：午後８時30分[カテドラル]
行き先：荘厳ミサ会場[鹿児島]
費　用：８,０００円[昼・夕弁当付]
募集数：先着９０名まで
対象者：どなたでも参加できます
主　催：広報委員会
申込み：司教館教区事務所（深堀）
☎:092-522-4059　FAX:092-523-2152
締切り：７月末日

案内版　会合と催し

福岡黙想の家　７月

◇３日(土) ～ ４日(日)　山口島根地区信徒養成研修会
◇10日(土) ～ 11日(日)　祈りの学校・コースⅡ（来住神父）
◇11日(日)　ルーメン・ヴィーテ
合唱練習会〈新垣壬敏先生〉
◇18日(日) ～ 19日(月)　日本ルーテル博多教会修養会
◇20日(祝)　マリッジエンカウンター福岡
◇23日(金) ～ 25日(日)　一般週末黙想会
◇27日(火) ～ 8月5日(木)　援助修道会黙想会

[問合先] 黙想の家　☎0940・32・3222　FAX32・3385

黙想の家のホームページを御利用ください
◎ホームページ　http://w32.mtci.or.jp/~daneox
◎e-mail　Mail to daneox@mtci.or.jp

生命山カトリック別院

生命山では、皆様のために、美しい自然の中で、神との語らいの日々を過ごしていただきたく、黙想会を計画いたしました。ご参加ください。
※祈りの集い
日　時：⑥7月８日(木)
9時45分～15時
テーマ：三位一体のイコンの観想

指　導：フランコ神父
※黙想会
日　時：８月16日(月) ～
24日(火) まで
指　導：園田善昭神父（コンベンツァル聖フランシスコ会）

[問合先] 生命山カトリック別院
☎ 0968・85・3100
＊個人、又はグループでの黙想等、常時受け付けています。

７月のこよみ

２日（金）　福岡聖書講座⑧［カテドラル19時］■
３日（土）　聖トマ使徒［祝］
十フランシスコ・X平田正喜［老司教会1994］
４日（日）　年間第１４主日
６日（火）　聖マリア・ゴレッティ［記］
９日（金）　福岡聖書講座⑨［カテドラル19時］
10日（土）　聖書展チャリティーコンサート［カテドラル14時］■
11日（日）　年間第１５主日
15日（木）　聖ボナベントゥラ［記］
16日（金）　カルメル山の聖母［記］
福岡聖書講座⑩［カテドラル19時］
18日（日）　年間第１６主日
福岡ホスピスの会［カテドラル14時］■
20日（火）　十ヤコブ平田勇［西新教会1980］
十W・シュルツ［吉塚教会1987］
22日（木）　マグダラの聖マリア［記］
25日（日）　年間第１７主日
生と老い・死をみつめる会（カテドラル14時）■
十J・ラグレブ［門司天使園園長1982］
十J・ブルトン［呼子教会1987］
26日（月）　召命学校（～28日）
27日（火）　十L・ルリエ［聖小崎育児園園長1970］
29日（木）　聖マルタ［記］
31日（土）　聖イグナチオ・ロヨラ［記］
十ヨハネ平田惣五郎［浄水通教会1989］

■印は本面に詳細説明あり

福岡

■聖書講座［前期］ローマの信徒への手紙　［日時］19時～21時（［場所］カテドラル大名町教会［テーマ・講師］⑧7月２日・内在する罪の問題・牧山勝美神父⑨9日・霊による命、将来の栄光・牧山勝美神父⑩16日・神の愛・同上［受講料］毎回８００円、全回５０００円［申込・問合先］カトリック福岡司教館☎０９２・５２２・４０５９（16時まで深堀）FAX５２３・２１５２（24時間）［主催］福岡教区聖書委員会

■福岡パストラルケア研究会　［日時］7月4日（日）14時～16時［場所］福岡サン・スルピス大神学院新館講話室［内容］病人訪問　三十二　体験の共有［参加費］無料［次回］9月19日　8月は休会。

■典礼を学ぶ集い　［日時］7月11日（日）［場所］カテドラル大名町教会［テーマ］「典礼憲章」における新しい典礼概念について［講師］白浜満神父［参加費］６００円［問合先］井上☎０９４０・３３・８１２２

■ヨアキム・アンナ信心会　［日時］7月15日（木）13時15分～15時［場所］浄水通カトリック教会［内容］ロザリオ、ミサ、黙想［問合先］今井喜代美☎０９２・８９１・４０９０／７２４・７３５３

■講演会　［日時］7月15日（木）15時～17時［場所］大神学院新館ホール［テーマ］21世紀に向けて教会の新しい姿［講師］ピエロ・コーダ神父（ローマ・ラテラノ大学神学部教授）［参加費］無料［問合先］大山悟神父☎０９２・８７１・４９４３

■福岡ホスピスの会勉強会　［日時］7月18日（日）14時［場所］カテドラル大名町教会４階会議室［内容］ホスピス病棟から・熊本県［講師］井田栄一（イエズスの聖心病院ホスピス医師）［参加費］７００円

■聖テレーズの著作を読む会　［日時］7月25日（毎月第４日曜日）14時～15時30分［場所］カルメル会修道院（福岡市西区上ノ原）［問合先］カルメル会修道院［世話人］城島暁（浄水通教会所属）

■福岡生と老い・死をみつめる会　［日時］7月25日（日）14時～16時［場所］カテドラル大名町教会［参加費］５００円［問合先］事務局（大山美穂子☎０９２・７１３・８５２３）

■美野島司牧センターよりお願い　男性夏物衣類のカンパをお願いします［問合先］コース神父☎０９２・４３１・１４１９

■第23回聖歌研修会　［日時］7月25日（日）13時～15時30分［場所］カトリック大楠教会［指導］深堀純（大名町教会信徒）［問合先］有馬浩☎０９２・６６１・２６７３

■フントス　ペルーの子供たちに文房具を送ろうチャリティ＆バザー［日時］7月25日（日）11時～17時［場所］ベイサイドプレス［入場料］無料

日本JOC五十周年記念集会

～日本JOC発祥の地・小倉で～

JOC（カトリック青年労働者連盟）は一九一九年、ベルギーのカルデン神父によって創設され、青年労働者のための運動として全世界に広められました。

日本のJOCは一九四九年、J・ムルグ神父によって北九州市小倉で誕生しました。その後、各地で司祭の養成を受けて青年労働者によるJOC運動は広まっていきました。多くの若者に引継がれたJOCは、今年五十周年を迎えます。この記念すべき五十年の歩みを振返り、神に感謝のミサを捧げ、仲間たちと交流と親睦を深め、更なるJOCの発展を願って記念集会を開催いたします。JOCに関わった司祭、修道者、ジョシストたちや、一般の方も参加されます様、ご案内申し上げます。

日　時：七月二十日（祝）十二時
場　所：北九州市小倉北区香春口カトリック小倉教会
内　容：神への感謝ミサ
司　式：平山高明司教・元小倉JOC担当司祭
交流会：五十年の歩み、各年代より五名の発表
親睦会：JOC関係歴史資料展
会　費：千円
主　催：日本JOC五十周年記念集会実行委員会
代　表：浦俊雄神父、K・マルセル神父、猪原英雄、相良美樹子、木村久治、松室淑子
問合先：大沢久美子（☎&FAX０９３・８８２・１２３２）

いのちの絵画展

と　き：1999年７月6日（火）～11日（日）
ところ：福岡県立美術館１号室
連絡先：☎092-291-7896（山崎博之）
※死刑囚のいのちの叫びを感じとり、彼らの心に触れてみませんか。

平和を祈る集い

「JUBILEE2000 債務帳消しキャンペーン」
日　時：8月8日（日）　13時～16時
場　所：カテドラル大名町教会
講演会テーマ：「国際債務問題」
講　師：越田清和
（アジア太平洋資料センター事務局長）
平和祈願ミサ：松永司教司式

■和田墓地清掃とミサ　［日時］8月1日（日）清掃8時～　ミサ11時～（小雨決行）雨天の場合は8月8日（日）

■納骨堂開放　［開放日］8月13日（金）～15日（日）の10時～15時まで

北九州

■和田墓地ミサ　［日時］8月15日（日）14時～

熊本

■北九州CYGキャンプ　［日時］7月22日（木）～24日（土）［場所］大分県住吉浜リゾートパーク［スローガン］勇気と優しさで楽しくがんばるCYG［体験学習］料理コンクール［参加費］８０００円［申込先］各小教区主任司祭

■熊本サマーキャンプ　［日時］7月29日（木）～31日（土）［場所］熊本県立芦北青少年の家［費用］６０００円［問合先］各小教区教会学校リーダー

チャリティーコンサート

オルガン演奏

日　時：7月10日（土）13：30～
会　場：カテドラル大名町教会
演　奏：スイス聖アントン教会トリオ
トーク：高見三明神父（サン・スルピス会）
入場料：１０００円（当日券あります）
問合先：司教館　※収益の一部はホスピス推進に！

編集後記

どこの職場もそうでしょうが月末が近くなるにつれてあわただしくなります。当編集部も御多分に漏れず……。情報は正確さとともに迅速を旨とします。皆さまの教会で、何か行事の予定がありましたら、できるだけ早く教区報編集部へ御一報ください。

毎月の第三週の土曜日までにFAXでいただけたら掲載できます。よろしく。

COSMOS
スポーツ用品・OA・文具　コスモス
〒830-1224 三井郡大刀洗町鵜木67－3
TEL　0942－77－3199
代表者　ペトロ 平田　清

“任意保険に加入してから車の運転を致しましょう”
自動車、火災、傷害、海外旅行傷害保険、保育園、幼稚園児を守る、企業賠償保険
〒814-0153
福岡市城南区樋井川３丁目17－10
大石保険事務所　大石真澄
☎092-552-8195　Ⓕ092-541-7734

FUJIKI
未来へ――安心を創る
藤木工務店
福岡支店 〒812-0016 福岡市博多区博多駅南3-1-1　TEL 092-441-6585(代表)
取締役社長 大森　周　福岡支店長 多田泰幸

カトリック福岡教区報

松永久次郎司教認可
発行所　福岡司教区本部
福岡市中央区浄水通39
発行人
カトリック福岡司教区
編集人　中村　彰
TEL　092-522-5139
FAX　092-523-2152
振替口座　01760-6-20729
カトリック福岡司教区
定価　一部60円

今月の意向

教皇様の意向のために祈りましょう
【一般の意向】全能の神への賛美と感謝
【布教の意向】ラテンアメリカの教会の宣教精神
【日本の教会の意向】聖フランシスコ・ザビエルの渡来四五〇年記念



夏休みの最後は福岡聖書展で

期間中、会場では司祭・信徒によるお話し、マジック、オルガンやバイオリン、グレゴリオ聖歌の演奏など多彩な催しがあります。

1899 佐賀教会宣教百年を祝う 1999

はがくれの里が信仰の里に
歴代の主任司祭も喜びを分かち合う

佐賀カトリック教会（主任　ジョルジョ・フェラーラ神父）の宣教百周年を祝うミサと式典が六月二十七日（日）、佐賀市中央本町の聖堂と幼稚園講堂を会場に、福岡教区長松永久次郎司教と、多数の司祭・信徒が参加して行われた。これには近くの浄土真宗の住職も出席、諸宗教との対話に務めてきた同教会の活動が結実していることををうかがわせた。

当日は梅雨のさ中にもかかわらず、雨が上がり思いがけない日和に恵まれた。

午後一時半から松永久次郎司教を囲んで歴代の主任司祭、教区内外からの三十人の司祭の共同司式により感謝のミサが捧げられた。

説教の中で松永司教は、「百年の歴史の中で、教会の基礎を築いた司祭・信徒の尊い祈りと犠牲と献身の模範を学びとり、信仰の遺産を享受するだけでなく、次の世代に確かなものとして繋いで行くように…」と励ました。

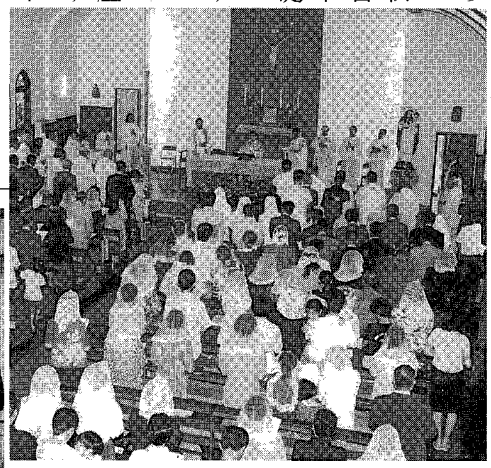
このあと記念式典が行われ、約二百人の来賓を交え信徒全員で喜びを分かち合った。

前任のT・マルコ神父がアメリカ・デトロイト市から、また、D・アルベルト神父が横浜・大和市からかけつけた。

佐賀教会では、この日に先立ち、百周年記念事業の一環として、五月十六日、市内アバンセにおいて、聖心女子大教授シスター鈴木秀子氏を招き、『人のために生きるとき、自分も生かされる』と題して、市民を対象に文化講演会を行った。

なお、祝賀会当日には、来賓及び参加者に、『佐賀カトリック教会百年史』（Ⅱ）が記念として贈られた。

（取材協力・牧山満安氏）


⬆松永司教様主式で捧げられるミサ
⬅乾杯で始まる祝賀会



教皇ヨハネ・パウロ二世の宣教百年を祝したメッセージが代読され、教皇の特別祝福があたえられた。

続いて佐賀地区長・ガッザルディ神父、来賓を代表して浄土真宗・願正寺住職、熊谷勝師が祝辞を述べた。その後、祝賀会が幼稚園講堂で開かれ、

黙想会
御父のみ手の中で力を回復し見い出したものを探そう
教区司祭

福岡教区司祭の黙想会が黙想の家（宗像市　責任者鈴木忠一神父）において開催された。指導は御受難会の鈴木神父。病気等の司祭を除き、三十五人の教区司祭全員が参加、期間中、帰天された司祭への追悼ミサも行った。

福岡教区邦人司祭の黙想会が六月二十八日（月）から七月二日（金）にかけて福岡黙想の家で行われた。教区長松永司教をはじめ、三十五人の司祭が参加した。今回、黙想会を指導して下さったのは御受難会の鈴木忠一神父。テーマは聖アウグスチヌスの言葉をひいて『Quaeramus inventum』（見い出したものを探そう）であった。

参加した司祭たちは、幅広い年代層にわたり、それぞれ経験も異なっているが、このテーマは皆が共有できるものであったと思う。

鈴木神父は「いただいた司祭職の恵み、それをみつめよう。」そして「最初のときの思い、それを思い出そう」と語りかけた。



時の話題

男女雇用均等法の改正に当たって

三浦　啓作

男女平等は、人類の目指すべき目標の一つである。すでに二千年前に、イエスは、男女平等の思想を人類にお示しになったが、人類は長い間これを無視してきた。女性の参政権が一般に認められるようになったのは、高々この百年のことである。

本年四月、男女雇用均等法および労働基準法が改正・施行された。雇用の場における男女平等が法的に保障され、セクハラ行為が禁止されたのである。

この法律の求める男女平等を実現するには、主として男性の意識の改革が必要である。しかし、この問題は、保育所等のインフラが整備され、家事・育児に男性の協力が得られれば、相当程度解決する問題である。

女性に男性と同様の働きを求めるのであれば、夫の家事・育児への協力が必須である。幸い、最近の若い男性の中には、それを当然のこととして、受け入れる層が出て来ている。

今こそ、イエスがお示しになった男女平等の思想を育てなければならないときである。

（大名町教会信徒）



八回にわたった講話の一つひとつに詩編の言葉が朗読され、わたしたちも詩編作者と思いを重ねながら神を賛美した。特に指導司祭が言われた「司祭は貧しい者、貧しいがゆえに主の身元に身を寄せる者」という言葉が深く心に沁みた。

また鈴木神父はイエズス会士のバックウェー神父の講話をもとにわたしたちが生きる司祭職の根幹にあるものに目を開かせてくださった。「一般的には弱さは克服されるべきものと考えられている。しかし、弱さはわたしたちをより深く神に結びつける。弱さは神の恵みを見るそのための深淵であり、暗闇なのだ」と、時にユーモアを交えながら、心をもって心に語りかけようとしておられる指導司祭の真剣な眼差しが印象的だった。

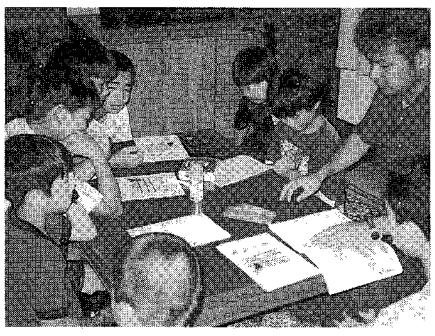
福岡カトリック神学院
召命学校に33人

七月二十六日から二十八日までの三日間、福岡カトリック神学院（院長　中村彰神父）では「召命学校」を開校した。

教区の各地から三十三人の元気な子供達が集った。召命を共に祈る会の信徒やシスター方、教区神学生のスタッフとしての協力は大きかった。

期間中はほとんど毎日のように雨が降り、日頃耳をすますことの少ない雨音、鳥たちのさえずりに心癒される思いがした。多くの人々の祈りに囲まれ、神の御手の中で力を回復したわたしたちは、いただいた恵みに感謝しながら、それぞれの任地への帰路についた。

取材協力　牧山美好神父



みちくさ

『悪魔の辞典』というものがある。言葉や物事の定義がからかいとか皮肉、ブラックユーモア的で、まともな辞典とはいえない。内容に悪意があるということだ。お国柄や時代、また著者により内容も異なる▼例えば、「女＝アダムが眠っているすきに、神があばら骨を一本抜き取って造った。こんな盗品から出来たものにろくなものはない」といった調子で、よくある女性蔑視。また「恥＝同級生の女友だちがみな離婚までしているのに、まだ結婚できないでいること」。結婚しない症候群の時代、もう通用しない▼『悪魔の聖書』といわれているものもある。これは悪意ではなく、単なる誤植によるもので、有名なのが一六三一年の『姦淫聖書』である。「汝、姦淫するなかれ」の「なかれ」という語が脱落したため「汝、姦淫せよ」となった▼誤りが発見されて大騒ぎとなり、直ちに回収が命じられ、焼却処分となった。この回収・焼却は完璧に行われたと信じられていたが、一八五五年にオランダで一冊発見されてまた大騒ぎ。現在、世界に六冊あることが確認されている▼『殺人者聖書』もある。こちらは、「ねたみ深い（熱情の）」が「人殺し」という語になり、「われは殺人者なる神」となったもので、珍本中の珍本。骨董的価値がついて、値段のつけようがない▼印刷された聖書を初めて見た人たちも、写本と違ってどの本も全く同じであるため、悪魔の仕業では、と疑ったという。聖書なのに、神わざと思わなかったところが、なんともおかしい▼福岡では今月二十六日から五日間、聖書展が催される。こちらは正真正銘まともな聖書。一度といわず二度三度、足を運びたい。〈H〉

福岡大丸

21世紀の心を拓く 福岡聖書展

8月26日～30日



今年は、聖フランシスコ・ザビエルが、日本に渡来して四百五十年という節目を迎えます。

福岡聖書展が、その節目に合わせて福岡の地でも開かれることになり、もう数年前から準備委員会が開かれてきました。二年前からは実行委員会が組織され、はや十数回の会合が持たれています。

福岡聖書展はプロテスタント諸教会とカトリックなどのキリスト教諸派が協力するというエキュメニズム的な関わりの中で準備されているものです。その中ではいろいろの小委員会が組織されていますが、記念の年という事で「ザビエル委員会」が設けられることになりました。

今年は、ザビエルについてマスメディアなどでも多く取り上げられ、鹿児島教区では、県の観光課など、一般の方々との協力の中で、ザビエル渡来四百五十年を考えるようになってきています。それぞれの思惑がどんなものであるかはわかりませんが、ザビエルが生きているとすれば、どんな思いを持つことでしょうか。ザビエル自身、いろいろの思惑の中で、そこには人間的なものもあったでしょうが、「たとえ全世界を手に入れても魂の救いを失うなら何の意味があるだろうか」という福音の精神を貫いて生きていたと思います。一五四九年鹿児島に着いたザビエル一行は、短期間の間に十数人の武士をはじめ多くの人に洗礼を授け、教会を建てている。一五五〇年になって、一行は都（京都）へ登るために鹿児島を出発、海路を平戸へ、平戸では領主の松浦隆信から宣教の許可を得て平戸教会の基をつくりあげた。

同年十月、フェルナンデス修道士とともに平戸を発ち貿易港として賑わっていた博多に着いた。到着した港は、元の大丸デパート（呉服町）のあたりにあったらしい。

上陸と同時に立ち寄った聖福寺で僧侶との問答があったと聞く。一行は、筑前国（福岡県）博多から香椎、宗像、黒崎、若松と陸路を旅し、下関、山口へと向かった。

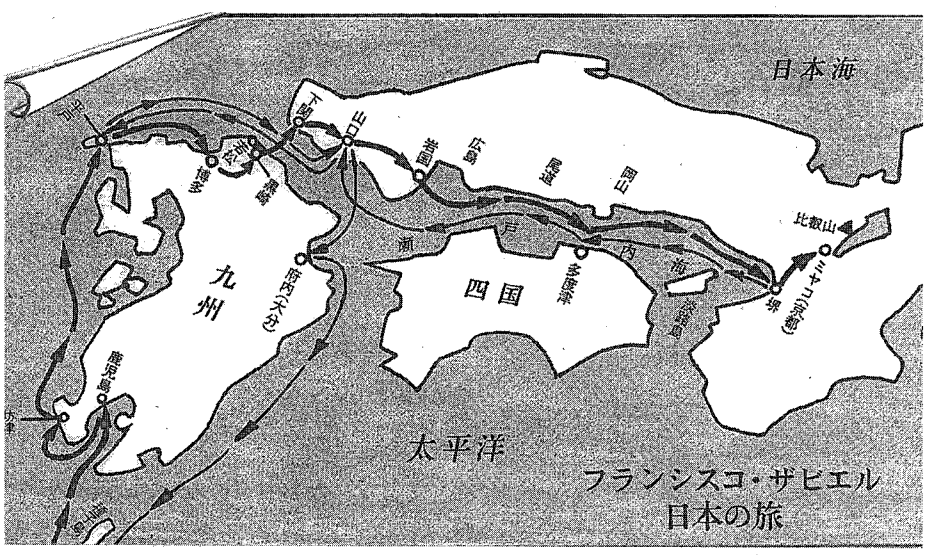
この福岡の地に四百五十年前、フランシスコ・ザビエルが滞在したと思う時、キリストを知らせに来た彼の姿を現在の福岡でどう見い出せばよいだろうかと思わずにはいられない。

ザビエル渡来四百周年の写真集をたまたま目にいたしました。福岡の平和台球場ではザビエルの聖遺物（右腕）を迎え、盛大な式典が行われた様子が分かります。また、長崎の浦上では、原爆で焼け落ちた浦上天主堂の廃墟での写真が印象的です。一九四九年という戦後間もない年に、四百年前のザビエル渡来の出来事は大きな意味を持っていたようです。日本の社会の新たな歩み、そして、日本の教会の新たな一歩を、心に確かな信仰と希望を抱いて日本を訪れたザビエルは照らし出していたのでしょう。

五十年前のザビエルを見つめる目と、今のザビエルを見つめる目は変化しているようです。戦後、日本の将来を照らしたザビエルは、今どんな光でわたしたちを照らそうとしているのでしょうか。

大聖年の意味が何回となく繰り返されながら、今一つ浸透していないような気がしています。日本の教会の歩みの中で、ザビエルがもたらしキリシタンたちが大事にしたものが見直されています。それは、互いを大切にする隣人愛（ミゼリコルディアの組）、秘跡を大切にする信仰、神が示す正しい道のためには命もささげる殉教者の精神（希望の精神）だったということができるでしょう。

ザビエルの生涯をたどりながら、大聖年を通して新しい世紀に向けて船出しようとするわたしたちの道を探して行けたらと願います。





展示予定の今村切支丹資料館所蔵のマリア観音像

福岡聖書展では、世界の聖書の展示、聖書などに関わる福岡ゆかりの品物、グーテンベルク印刷機による印刷実演、イベントコーナーでの講演会やイベントなど盛りだくさんです。

ザビエルコーナーでは、ザビエルの生涯に関するパネル、菅井日人氏の写真などを展示する予定です。また、カトリックの信者でない方にも興味を引くのではないかということで、ミサの祭具、祭服などの展示もしています。一人でも多くの人を誘って聖書展の会場に出かけてみて下さい。

聖書展会場でのイベント

8月26日（木）15：30～　講話
「聖書に生かされて」
G・ケルクマン神父　（泰星学園教師）

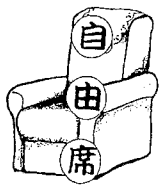
8月27日（金）15：30～　講話
「聖書を生きることにしたザビエル」
ホセ・バラ神父（山口教会助任）

8月28日（土）12：00～　演奏
司祭・信徒有志（ラウダテドミノ）による
クレゴリオ聖歌

8月29日（日）12：00～　演奏
太期晴子（笹丘教会信徒）さんのバイオリン

8月29日（日）14：00～　講話
「福音書と教育」
梶山　義夫神父（泰星学園校長）

※問合先：福岡教区事務所　青木　悟神父



神さまからの呼びかけ

田浦　剛

僕は、正直いうと初めは召命学校に来ようとは思わなかったけど、なぜか来ようという気になりました。やはり神様が呼んでいるのだと思います。今は参加して良かったと思っています。

僕が参加してよかったと思うことは、この三日間いつも心の中がきれいだと思えたことです。いつもの自分は何だか悪いことばかりしているようで、心の中がもやもやすることが多くありました。それなのに、召命学校に参加している間はそんなことを思わないでいました。それは、召命学校で行うことはすべて正しいことだからです。いつも神様が見守っていてくれると思えるからです。

神学生やシスター方の話を聞いて僕はとても気持ちが分かりました。僕も時々同じ気持ちになります。映画を見た時も、あのフランチェスコのように生きたらすばらしいと思いました。

このように召命学校に参加したことで僕の心の中で、『正しい道を歩みたい』と思う気持ちが今までよりも強くなったと思います。そして、神父様になろうかなあという思いもこれまでよりも大きくなりました。

しかし、僕はこれからどう進むか分かりません。でも、今回参加したことを忘れないように生活したいです。

友達が出来たことも良い思い出になりました。

武蔵が丘教会　中三

召命学校

浦越　耕平

ぼくが召命学校に来て、来年小神学校にはいる時、おもしろくなりそうだと感じました。

新しい友達や将棋なかまも増えたりして、召命学校のように、年々の行事がおもしろい？　ようだったからです。

今年の召命学校でとくにおもしろかったのは、グループの出し物です。不思議にたくさんの所でわらいが出たり、得点の方もすごかったからです。

他にも、神学生たちの話の時、ちょっと難しい話でわからなかったり、ねむくなった所もあったけど、全部の話を聞いて、神学生たちみんな話す内容はちがったけど、ただ一つのことのためにがんばっている点では、みんな同じことを言ってるようでした。召命学校はとってもよかったです。

糸島教会　六年

わくわく温泉大作戦

川畑　夕美子

七月初め、「わくわく温泉大作戦」がありました。北九州市内でホームレスの人たちを支援している北九州越冬実行委員会の主催で、じめじめした梅雨の時期に一日だけでも、さっぱりしてもらおうと、七月二日、理解ある銭湯を貸し切り、入浴のサービスをしたわけです。初めてのことで、入浴希望者数や着替え、入浴後の銭湯掃除をするだったと想像できます。

恥ずかしながら、この作戦が準備されていることを知らず、久しぶりに市庁舎横の拠点に出向き、一週間後の入浴券が配られる時に居合わせて知ったので掃除ぐらいならと、この話をした若松教会の友人も気軽に応じて、当日二人で参加。午後一時半から三時半まで、七十名の方を二回に分けての入浴でした。

私たちは終わるまで銭湯近くのJR駅で待機。そこにいた数名のボランティアも、雨の中を歩いて来る希望者に時間を知らせるか、銭湯に案内するぐらいで、意気込んできたものの、じっとただ待ちます。なぜか皆、黙っています。今日の作戦が成功しますようにと祈っているのか

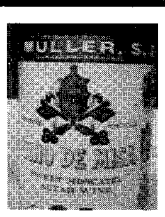
時間が来て銭湯へ。つやつやした顔をして出て来たおじさんに「ご苦労さまです」と言われ、少しホットしました。このザーザー降りの中、歩いて来て、また歩いて帰る。せっかくさっぱりとなったのに、厳しいと思いました。

三十分くらいかけて、掃除、消毒をしました。あと水をかけ合ったり、空になった浴槽に一同入ってハイポーズ。「〇〇さん二十才位若くなって帰ったね」「本当に来て欲しい人には来てもらえなかった」と、今までの沈黙がうそのよう。本来なら行政がすることなのですが、身体をきれいにし、衣服を整えることで生きる力を出して欲しいというスタッフの思いです。入浴中のおじさんたちが、ほとんど話さないので、雰囲気を和らげようと一緒に入った牧師さんや若者の気負いのない行動力に圧倒されました。わずかな時間手伝っただけですが、帰りはすっかり力が抜けたようになりました。入浴を済ませ、ありがとうと言われた方もいたと聞き、この作戦は成功だったのではないかと思います。ついでに北九州越冬実行委員会の標語みたいなのは「あんたも　わしも　おんなじ　いのち」です。

（若松教会信徒）



'99 心をひらいて
むなかた・てんてん・まつり
10月9日（土）AM10時より
※『祈りの日』8月はお休みです。
9月は14日（火）・21日（火）の予定です。
福岡默想の家　〒811-4155　宗像市名残1056　TEL 0940(32)3222　FAX 0940(32)3385

ミサ用ワイン

ヴィノ デ ミサ
VINO DE MISA
スイートタイプ（赤）（白）
ご用命　お問い合せは
有限会社　大楠酒店
ヨハネ　青木　彰
〒815-0082　福岡市南区大楠2丁目4番8号
電話 092-531-4718　Fax 092-521-6453

別れ・出逢い・旅立ち
草苑（SOU-EN）
ご葬儀
木下株式会社
TEL092-526-5656
〒810-0016
福岡市中央区平和3丁目1-5

日本ＪＯＣ発祥の地・小倉で50周年

見る・判断・実行
ＪＯＣ運動で学んだもの、そして今…

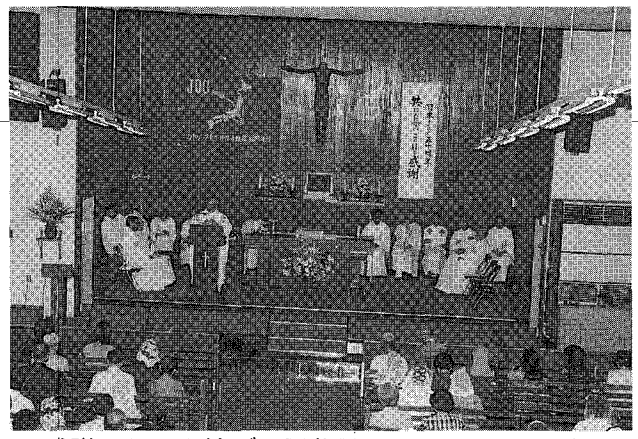
日本ＪＯＣは、今年五十周年を迎え発祥の地小倉教会で七月二十日記念集会が開催された。

式典は、感謝のミサ、五十年の歩みの発表、交流会が行われた。参加者は福岡の外、仙台、東京、名古屋、大阪、広島、長崎など全国から百三十四名（司教一名、司祭十六名、修道者九名、ＪＯＣのＯＢと現役百八名）。アジアＪＯＣ担当のワラ神父（香港）、日本ＪＯＣ協力司祭の瀧野神父を始め、関係司祭の多くが参列していた。

感謝ミサ

第一部の「感謝のミサ」は、平山司教司式で、ＪＯＣ五十年の歩みを神に感謝し、故人となった指導司祭や先輩、友人たちを想い、共に祈りの内にミサを捧げ、五十周年を祝った。平山司教は「現代社会は目標を見失っている。私たちは御言葉に生き、キリストの癒しによって真の平和と心の安らぎを得ることが大切」と話された。

交流会では『ＪＯＣ運動で学んだもの、そして今…』をテーマに各年代代表者五名から発表され、ＪＯＣ五十年の歩みがスライドや具体例で紹介された。猪原初代会長は「ＪＯＣ誕生時は聖書研究（見る、判断）から祈り（実行）がジョシストの原動力であった」と強調された。また、高度成長期は残業や休日出勤の過酷な労働から人間性回復に戦った、とＯＢ談。女性職場では軽視に果敢に挑み育児の中でＪＯＣ精神を培ったと言う女性は「私は今後もＪＯＣ精神で生き抜きます」と力強く宣誓された。


▲感謝のミサを捧げる司祭団とＪＯＣのメンバー

交流会

交流会は、全国や地方研究会で激論した仲間たちの再会で沸き、年代を越えた人の輪ができ「街頭の新聞売りでＪＯＣ精神を育んだ」などと楽しい交流となった。

集会室ではＪＯＣ五十年の資料や写真展があり、仲間たちのメッセージはＪＯＣへの想いを盛り上げた。

この記念集会が二十一世紀へ更なる広がりになるように祈念し、最後に全員でスクラムを組み『ＪＯＣの歌』を大合唱した。この集会に全国から遠路参加して下さった多くの皆様方お疲れさまでした。神に感謝。

（取材協力：小倉教会信徒　武田清治）

子どもの真のしあわせ

新聞を開くと学校教育が荒れていることがよく報じられています。そして、学校は何をしているのかと咎めて終わっているようです。確かに、学校の教育はもっとしっかりしてほしいと思いますが、世の親たちまでが学校に押しかけて先生を咎めているようです。

子どもの教育に関して第一の責任者は両親であることを忘れているように見えます。学校の教育を非難する前に、家庭で親はしっかりわが子を教育してきたのでしょうか。もしかしたらわがままに育てた子どもを学校に送りこんでいないでしょうか。とにかく登校拒否とか、いじめとか学校教育が荒れてきたことは、誰もが認めざるを得ません。しかし、親としてはこうしたことを誰の責任かなどと問うておることは許されないのです。どうにかしてて今の教育の荒れをなくして、わが子をはじめ若者をしっかりと教育しなくてはなりません。今のままでは日本の将来は惨めな結果になってしまいそうな気がしてなりません。日頃考えていることが誰かに、少しでも役立てたらと思いまして書いてみます。

子どもを可愛がる親は多いですが、教育している親はいるでしょうか。子どものしたいことに親がついていっている姿が目立ちます。このままま成長していくならば、わがままな人間になってしまいます。雑草と同じく人間の場合も小さいときには手がつけられますが、放っておいたらわがままな性格が強く根付いてしまいます。

本当に子どもを大切に育てたいならば、まだ子どもが可愛いときに思いやりの心を植え付けること、きついことでも克服できる根性を身につけてあげることを忘れてはならないと思います。

若松教会主任司祭　山頭原太郎

スイス＊聖アントン教会トリオ・コンサートの収益金を
福岡聖書展とホスピスの会に寄付

七月二十三日（金）、西日本新聞社において福岡ホスピスの会（代表小林計子・大楠教会信徒）と福岡聖書展実行委員会に対し寄付金の贈呈式が行われた。

これは、七月十日（土）にカテドラル大名町教会の大聖堂で開催されたスイス・聖アントン教会トリオによるチャリティーコンサートの収益金の一部が贈られたものである。

このコンサートは、広島市で開催の「世界音楽祭オーガスト・イン・ヒロシマ」に出演を予定していたスイスの三人の音楽家が広島市と福岡市のホスピス活動を支援させていただきたいという申し出に始まった。

三人は、スイスの聖アントン教会（ルーテル派）に所属するオルガン、オーボエ、フルート奏者でプロの音楽家である。メンバーの一人Ｒ・ワルター氏（オーボエ）の奥さんは福岡市の出身。そこで、是非、福岡でコンサートを開催したいと市内のホテルでのチャリティーが企画されていた。Ｒ・ワルター氏等は、教会でのコンサートも強く希望し、カテドラル大名町教会でのチャリティーコンサートが実現した。

この申し出を受けた福岡ホスピスの会では、主催者の西日本新聞社、スイス・ジャパンＭ・Ｉ・Ｓ（スイスと日本の音楽を通した交流を勧めている団体）に応え、近く開催される「福岡聖書展」のプレイベントとして位置付け、聖書展のイベント委員会、市内のカトリック教会やミッションスクールをはじめ、キリスト教各派の教会の協力を得て、十日（土）のコンサートは実現した。


▲演奏後あいさつに立ったＲ・ワルター氏

当日は、梅雨の中休みのような天気に恵まれ五百五十人もの参加者になった。

寄付を受けた福岡ホスピスの会では、早急に理事会を開き有効な利用を検討するということである。ホスピスの会のメンバーの一人は、福岡市に公的なホスピス病棟の実現とホスピスケアの推進のために活動しているが、ホスピス（緩和ケア病棟）がただ死を待つ人の施設ではなく、人がその人らしい最期を生きるところであることを知ってもらうために一層活動していきたいと語っていた。

全ての人が参加できる教会を
コース・マルセル神父

東京大司教区の「外国籍信徒に関する司牧の実体調査九八」によると、日本のカトリック教会の信徒の実に四七％が外国籍であり、いくつかの教区ではすでに外国籍の人数の方が日本人を上回ってさえいるという。福岡教区でも外国籍信徒の割合は約二十％にもなっている。国際化に伴って今後、外国人は増えることはあっても減ることはないであろう。にも拘わらず、どこの小教区でもこの問題に対する対応はこれからといったところが多いのが現状と思われる。

そこで私たち福岡国際協力委員会は、外国籍の人々と共生できる教会作りにむけての第一歩を踏み出すために、教区事務局長の青木悟神父と共催で去る七月三日、まずは外国語のミサに携わっている方々に集まってもらった。会場のカテドラル会議室には司祭四人、シスター一人、信徒十人が忙しい中を各地から駆けつけ、二時間にわたって日頃の取り組みの分かち合い、情報交換など有意義な話し合いができた。

そこで最も浮き彫りになったのは、どこの小教区においても、外国語ミサの信徒と日本人の共同体との関わりがほとんどないということだった。その原因は、互いの無関心にあるようだ。外国人側の問題として住所、電話など連絡先が分からない人や移動が激しくて定着しない、日本の教会のシステムになじめないなど関係性ができにくい状況はいろいろあるようだ。ミサだけでなく、洗礼、初聖体、堅信などの秘跡や要理教育など、外国人信徒にとっても大事な問題の数々を、私たちが国籍を超えて共有し、多国籍であることは、教会の豊かさのシンボルであると考えられるようになりたいものである。外国語ミサの関係者だけでなく、すべての小教区の人々が外国籍の信徒を身近に感じ、共生に向かって協力し合えるように、次の一歩を進める企画をこれからも考えたい。九月の「国際協力の日」には、日本に在住する外国籍の信徒（この中にはいろんな事情でミサにも来られない人が沢山いる）のことを祈りの内に思い出していただければ幸いである。

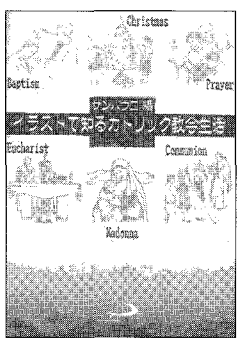
訃報

ミカエル平田清登様

今村教会信徒で、平田三郎司教様の令兄が七月二十二日亡くなられました。享年91歳。

BOOK 読みは専科

★イラストで知る
カトリック教会生活
サンパウロ編



四旬節って何？　アレルヤって何のこと？　信徒でさえ、問われて答えにるまるような、一般になじみの薄い教会用語や典礼用語、また、教会の祭儀で使用される聖具・祭具や教会の構成メンバーなどを、イラストで楽しみながら、カトリック教会について簡潔に説明する。

月刊「家庭の友」の連載のまとめで、手ごろな啓蒙の書。

サンパウロ　税別五〇〇円

◇　◇　◇

★ＮＥＷ・ＣＤ・ザビエル
つのだたかし／波田野睦美
アンサンブル・エクレジア



ザビエル渡来四五〇年記念作品で歌と古楽器で奏でるザビエル時代の音楽。十六世紀初めヨーロッパ各地で楽譜が出版されるようになり、ルネサンス音楽は最盛期を迎えた。ザビエルもこの時代、音楽の湧き出る重要な都市、パリ、ヴェネツィア、ローマにいた。このＣＤは彼の生まれたスペインに始まり、パリ、ヴェネツィア、ローマ、日本へと、彼の歩んだ道を美しい古楽器の旋律と澄み切ったソプラノの音楽でたどっている。

女子パウロ会　税別三〇〇〇円

ジャパンスマイル㈱
株式会社
不動産／管理・仲介・売買・建設／一般建築
〒810-0044 福岡市中央区六本松4-9-4
ＴＥＬ092－761－8800
代表取締役 マルガリタ・マリア 吉田由利子

吉田設計
株式会社
建築設計／企画・設計・監理
〒810-0044 福岡市中央区六本松4-9-7
ＴＥＬ092－711－0550
代表取締役 ヨゼフ 吉田豊博

祭壇・洗礼盤他
石石他
理影の
大御そ
素材
石のパイオニア
高木石材株式会社
〒860-0006 熊本市段山本町2-21
TEL 096－352－2417

福岡黙想の家　8・9月

◇2日(月)～3日(火)　吉野天使幼稚園職員研修会
◇5日(木)～14日(土)　幼きイエズス修道会黙想
◇16日(月)～22日(日)　聖母カテキスタ会（本部）黙想
◇22日(日)～27日(金)　御受難会、PASPAC会議
◇29日(日)～9月4日(土)　オブレート会黙想

9月

◇11日(土)～12日(日)　レジオマリエ福岡黙想
◇14日(火)～15日(水)　聖母カテキスタ会黙想
　兄弟会
◇16日(木)　ミカエル会
◇24日(金)　ルーメン・ヴィテ
◇25日(土)　老司教会マリア会黙想
◇26日(日)～10月2日(土)　御受難修道会黙想

[問合先] 黙想の家　☎0940・32・3222　FAX32・3385

黙想の家のホームページを御利用ください
◎ホームページ　http://w32.mtci.or.jp/~daneox
◎e-mail　Mail to daneox@mtci.or.jp

生命山カトリック別院

生命山では、皆様のために、美しい自然の中で、神との語らいの日々を過ごしていただきたく、黙想会を計画いたしました。ご参加ください。

※祈りの集い
日　時：⑦9月9日(木)
　9時45分～15時
テーマ：三位一体のイコンの祈り

指　導：フランコ神父
※黙想会
日時：8月16日(月)～
　24日(火)まで
指導：園田善昭神父（コンベンツアル聖フランシス会）

[問合先] 生命山カトリック別院
☎FAX0968・85・3100
＊個人、又はグループでの黙想等、常時受け付けています。

案内版　会合と催し

8月のこよみ

1日（日）　年間第18主日
4日（水）　†M.ボンカズ［田川教会1991］
6日（金）　主の変容
　平和旬間（～15日）
　†E.ベノア［門司港教会1962］
8日（日）　年間第19主日
　平和を祈る集い［カテドラル13時］■
　†P.マルケシーニ［待労病院付1980］
10日（火）　聖ラウレンチオ助祭殉教者
11日（水）　聖クララおとめ
12日（木）　†A.ブルトン司教［第2代福岡教区長1954］
　†J.オサリバン［熊本地区長1983］
13日（金）　教区和田墓地開放（～15日）■
14日（土）　聖マキシミリアノ・マリア・コルベ殉教者
　†ミカエル木村義巳［馬渡島教会1967］
15日（日）　聖母の被昇天
　教区和田墓地ミサ［14時］■
19日（木）　†ステファノ川口康頼［小神学校校長1991］
20日（金）　聖ベルナルド修道院長教会博士
21日（土）　聖ピオ十世教皇
22日（日）　年間第21主日
　ザビエル渡来450年記念講演［結城了悟神父「博多を訪れたザビエル」カテドラル14時］■
24日（火）　聖バルトロマイ使徒
26日（木）～30日（月）　福岡聖書展［博多大丸8階］■
27日（金）　聖モニカ
　福岡地区婦人会感謝ミサ［カテドラル10時］■
28日（土）　聖アウグスチヌス司教教会博士
29日（日）　年間第22主日
　佐賀教会堅信式

■印は本面に詳細説明あり

9月のこよみ

3日（金）　聖グレゴリオⅠ世教皇教会博士
　†P.コトレル［熊本地区で宣教1928］
5日（日）　年間第23主日
7日（火）　**司祭評議会［司教館10時半］**
8日（水）　聖マリアの誕生
10日（金）　日本205福者殉教者
12日（日）　年間第24主日
　呼子教会堅信式
13日（月）　聖ヨハネ・クリゾストモ司教教会博士
14日（火）　十字架称賛
15日（水）　悲しみの聖母
　福岡地区信徒協研修会■
　敬老の日
　†A.ヒューゼ［福岡司教館1944］
16日（木）　聖コルネリオ教皇・聖チプリアノ司教殉教者
17日（金）　†P.オジョニ［ロザリオの園1982］
19日（日）　年間第25主日
　福岡ホスピスの会［カテドラル4階14時］■
20日（月）　聖アンデレ金と同志殉教者
21日（火）　聖マタイ使徒福音記者
23日（木）　秋分の日
　典礼研修会［カテドラル10時］■
24日（金）　福岡聖書講座⑪■
26日（日）　年間第26主日
　カトリック国際協力の日［献金日］
　生と老い・死を見つめる会［カテドラル14時］■
27日（月）　聖ビンセンシオ・ア・パウロ司祭
28日（火）　聖トマス西と15殉教者
29日（水）　聖ミカエル聖ガブリエル聖ラファエル大天使
　†Y.ヴィオン［福岡司教館1969］
30日（木）　聖ヒエロニモ司祭教会博士

夏期研修会案内

日　時：9月15日（祝）
　10：00～16：00
場　所：カテドラル大名町教会
テーマ：父である神を共にほめ讃えます
講　師：来住英俊神父（御受難会）
主　催：福岡地区信徒協

教区和田墓地ミサ

日時：8月15日（日）
　14時から

和田墓地開放日

8月13日・14日・15日
いずれも10時～15時
＊詳細は各小教区墓地委員

福岡

■平和を祈る集い
［日時］8月8日13時～16時
［場所］カテドラル大名町教会
［内容］第一部講演会、第二部平和祈願ミサ

■特別講演会
［日時］8月22日（日）14時～
［講師］結城了悟神父（長崎二十六聖人記念館館長）［テーマ］博多を訪れた聖フランシスコ・ザビエル［入場料］無料［問合先］司教館　青木悟神父

■99福岡聖書展
［日時］8月26日（木）～30日（月）博多大丸開店時間内［場所］博多大丸西館8階特別会場

■聖モニカ祭
［日時］8月27日（金）10時～
［場所］カテドラル大名町教会
［主催］福岡教区福岡地区婦人会［内容］婦人会活動の感謝とこの一年間に亡くなられた方々の追悼の祈りを捧げます。
［参加者］自由に参加できます。

■聖テレーズの著作を読む会
［日時］8月29日14時～15時30分［場所］カルメル会修道院（福岡市西区上ノ原）［問合先］カルメル会修道院［世話人］城島暁（浄水通教会所属）・次回は9月26日（毎月第4日曜日）

■第77回福岡結婚準備セミナー
［日時］8月28日（土）～9月30日（木）毎土曜・木曜日19時～21時30分［場所］カテドラル大名町教会［申込・問合先］カトリック・ファミリーセンター
☎092・541・6207　FAX552・5022

■パストラルケア研究会
［日時］9月19日（日）14時～16時［場所］福岡サン・スルピス大神学院新館講話室［内容］病人訪問　関わる覚悟三十六P
［参加費］無料
［次回］10月3日　8月は休会。

■福岡ホスピスの会
［日時］9月19日（日）14時～16時［場所］カテドラル大名町教会4階会議室［内容］在宅ホスピスの現状、事前指定書［講師］二ノ坂保喜医師（二ノ坂クリニック院長）［参加費］700円［次回］11月14日

典礼を学ぶ集い

日　時：9月23日（祝）10時
場　所：カテドラル大名町教会
テーマ：ミサを歌おうⅡ
講　師：新垣壬敏氏
　（白百合女子大教授）
参加費：大人1,000円　中高生500円
申込先：FAX0940-33-8122　井上

■聖書講座［後期］ローマの信徒への手紙
［日時］19時～21時［場所］カテドラル大名町教会［テーマ・講師］⑪9月24日・イスラエルの選び、神の怒りとあわれみ・松永司教⑫10月1日・イスラエルと福音、万人の救い・松永司教⑬8日・イスラエルの残りの者、イスラエルの再興・高見三明神父⑭15日・キリストにおける新しい生活・同上⑮22日・支配者への従順、隣人愛・森山信三神父⑯29日・兄弟を裁いてはならない・白浜満神父⑰11月5日・福音はユダヤ人と異邦人のためにある・青木悟神父⑱12日・使徒パウロの手紙の神学的考察・牧山勝美神父⑲19日・使徒パウロの手紙の神学的考察・同上⑳26日・使徒パウロの手紙の神学的考察・同上［受講料］毎回800円、全回5000円［申込・問合先］カトリック福岡司教館☎092・522・4059（16時まで深堀）FAX523・2152（24時間）
［主催］福岡教区聖書委員会（委員長牧山勝美神父）

■福岡生と老い・死を見つめる会
［日時］9月26日（日）9時～16時［場所］カテドラル大名町教会［内容］私なりの健康づくり［講師］脇坂順一医師（久留米大学医学部名誉教授）［参加費］500円［問合先］事務局☎092・711・8523）　8月は休会

■美野島司牧センターよりお願い
男性夏物衣類のカンパをお願いします［問合先］コース神父☎092・431・1419

北九州

■映写会
［日時］8月29日（日）①10時30分②14時③19時、三回上映
［場所］新田原教会テレジア館
［内容］ゼノ〈かぎりなき愛に〉
［入場料］大人千五百円・中学生と60才以上千二百円・子供千円
［問合先］カトリック新田原教会テレジア館☎0930・26・6095

熊本

■第12回熊本短期キリスト教講座
［日時］10月1日～10月29日毎週金曜日の全6回・午前の部10時30分～12時30分、午後の部19時～21時［場所］カトリック手取教会［テーマと講師］①午前：夫の宿題（死は終わりではない、心暖かい医療）午後：夫のちがもたらすもの・吉永ユリ氏②人としての成長への旅・ジェラルド・グリフィン神父④大聖年とキリスト教の変容・池長潤大司教⑤旅立つ夫が残したもの（夫の中にみた神の働き）・原田公子氏⑥母に導かれて（神様のご計画はすばらしい）・徳冨義種氏［問合と申込先］熊本カトリック案内所☎0963227948FAX352・1515

由布院ザビエル祭

日　時：9月26日（日）13：00～
場　所：コーワパークホテル（☎0977-85-2636）

イベントメニュー

①記念講演：ザビエルの日本発見
　講師：高祖敏明神父（上智学院理事長）
②グレゴリアン合唱（大分中世音楽研究会）
③古典音楽合唱（ザビエル時代の）
　出演：メキシコ古典音楽合唱団
入場料：2000円（当日券有り）
申込先：福音の光修道会（☎092-581-1663）

編集後記

暑中お見舞い申し上げます。から梅雨を心配していたら、大雨の被害があいつぎ、冷夏を心配していたら、しっかり暑い日々が続いています。皆さま、いかがお過ごしでしょうか。

おかげさまで召命学校も女子十一名、男子二十二名の参加を得、召命を共に祈る会の協力によって無事終えることができました。途中台風の接近でプログラムの変更が危ぶまれましたが何とか川遊びをすることができました。普段静かな神学校がたくさんの子どもで賑わい、そのギャップに疲れました。皆様の教会ではもう夏の行事は済んだでしょうか。準備、実行、片付けとスタッフの方々は大変ですが、苦労した分、子供達にはいい体験として残るのでしょう。教区報は9月はお休みいたしますが、皆様の小教区での夏の行事を投稿してくださるようお願いいたします。

COSMOS
スポーツ用品・OA・文具　コスモス
〒830-1224 三井郡大刀洗町鵜木67－3
TEL 0942－77－3199
代表者 ペトロ 平田 清

“任意保険に加入してから車の運転を致しましょう”
自動車、火災、傷害、海外旅行傷害保険、保育園、幼稚園児を守る、企業賠償保険
〒814-0153
福岡市城南区樋井川3丁目17－10
大石保険事務所 大石真澄
☎092-552-8195 Ⓕ092-541-7734

FUJIKI
未来へ――安心を創る
藤木工務店
福岡支店 〒812-0016 福岡市博多区博多駅南3-1-1　TEL 092-441-6585(代表)
取締役社長 大森 周　福岡支店長 多田泰幸

カトリック
福岡教区報

松永久次郎司教認可
発行所　福岡司教区本部
福岡市中央区浄水通39
発行人
カトリック福岡司教区
編集人　中村　彰
TEL　092-522-5139
FAX　092-523-2152
振替口座　01760-6-20729
カトリック福岡司教区
定価　一部60円

ザビエル450年目の宣教

聖フランシスコ・ザビエルの聖遺物を迎えて

再び 博多を訪れる聖腕

10月15日19時カテドラルで荘厳ミサ

聖フランシスコ・ザビエル来日四五〇周年記念の最大のイベントともいうべき「聖腕」が十月八日から三十日まで九州・沖縄・広島にやってくる。これにより、鹿児島における記念ミサ（十一日）とともに、十月は最高の盛り上がりとなろう。松永久次郎司教は趣意書を発し、聖遺物が好奇心を満たすものではなく、今のわれわれの信仰を検証し、新世紀をふさわしく迎えるための助けとなるよう願っている。

一九九九年八月十五日、聖フランシスコ・ザビエル渡来四五〇年を迎え、この宣教の地に再び聖遺物（聖腕）巡回顕示の許可がイタリア政府より出され、十月八日より三十日まで、鹿児島教区、長崎教区、福岡教区、那覇教区、広島教区、大分教区を巡回することになりました。

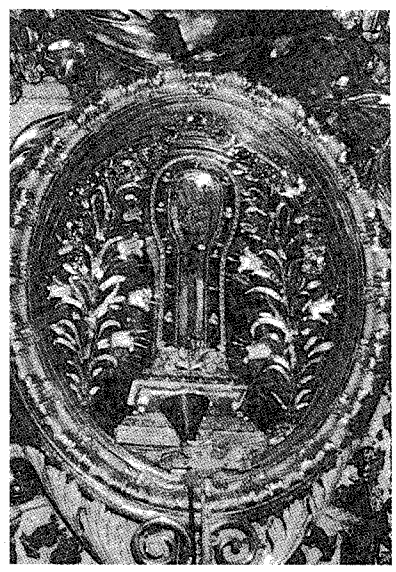
福岡教区でも十月十四日～十六日、十八日～十九日の五日間顕示されることになりました。日本における最初のキリスト教の宣教から四五〇年を経た今、いただいた私たちの信仰を検証し、二千年の大聖年に向けて歩む私たちの信仰を新たにできることを願っています。聖フランシスコ・ザビエルの宣教の恵みの開花とも言える私たち日本の殉教者を思い、特に今、郷土の殉教者二八名《小倉、熊本（花岡山）、八代、天草》の列福を求めて祈る私たちがこの聖遺物顕示により、一層信仰を深め、第三の千年期へ向けてのふさわしい準備のための助けを願うものです。

大聖年直前の準備の第三年―父である神に「父のもとへの旅」という意識のもと、真の回心の旅へ乗り出しましょう。

聖フランシスコ・ザビエルの聖遺物の顕示が人々の好奇心を満たすものではなく、信仰のうちに敬虔に受け入れ、今の私たちの信仰の生きざまを振り返り、聖フランシスコ・ザビエルの聖遺物の顕示の前で、よい黙想（感謝の祈り）を行えるように期待しています。

聖フランシスコ・ザビエルの聖遺物を迎えての司教趣意書

イタリア政府はさる七月十三日、聖腕の日本への移動・顕示を許可する決定を下し、その旨鹿児島教区長糸永真一司教に伝えた。これにより西日本の教会が五十年前のあの興奮に包まれることになる。鹿児島教区では聖腕を迎えるツアーを特別企画し、イタリアを北から巡礼しながらローマに行き、七日ピタウ大司教に託された聖腕とともに、ローマを出発成田経由で八日鹿児島に到着する。


聖フランシスコ・ザビエルの聖腕物

「聖腕」は移動顕示のために観音開き式の箱型保護枠に納められ、ケースの大きさは高さ80センチ、幅60センチ、奥行95センチ、総重量40キロ。

巡回予定日

聖腕の日本における訪問の予定（到着の日付）は次の通り。10月8日鹿児島教区・ザビエル教会、12日長崎教区・平戸教会、14日福岡教区・大名町教会、16日那覇教区・開南教会、18日福岡教区・小倉教会、19日広島教区・岡山教会、21日広島教区・山口ザビエル教会、25日広島教区・幟町教会、28日大分教区・大分教会、30日大分教区・宮崎教会、11月1日ローマへ。

教区内での行事

10月14日午前9時平戸教会で受け渡し、大名町教会への途上佐賀教会（11時半）と今村教会（14時半）で顕示、17時半大名町教会に到着。18日那覇教区から昼頃再来福、福岡空港より小倉教会へ向う。19日正午岡山教会へ向かう。

大名町教会　**14日18時**松永久次郎司教司式ミサ。その後21時30分まで自由拝観。**15日8時～21時**赦しの秘跡が受けられます。7時ミサ、10時30分ミサ、12時お告げの祈り、13時昼の祈り、18時晩課、19時より松永司教司式の荘厳ミサ。その後、自由拝観。**16日7時**ミサ。

小倉教会　**18日19時30分**松永司教司式による、ディエゴ加賀山隼人列福祈願ミサ。**19日11時**ミサ。

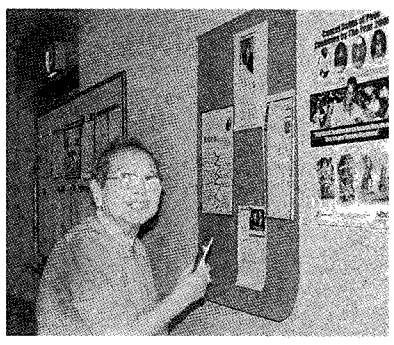
8月8日 債務帳消しキャンペーン 平和を祈る集い 福岡

福岡教区では平和旬間行事として、八月八日（日）午後から「平和を祈る集い」がカテドラル大名町教会で開催された。

第一部の講演会では「国際債務問題」をテーマにアジア太平洋資料センター共同代表の井上礼子さんが、「債務帳消しキャンペーン」とはどのようなものであるかを分かりやすく説明、百三十人ほどの参加者は熱心に聞き入った。

第二部の「平和を祈るミサ」には、福岡市在住の外国籍信徒六十余人を含む五百人の信徒が参列した。スペイン語、韓国語、英語、タガログ語、日本語で朗読や共同祈願、聖歌が歌われた。

ミサの説教では、対外債務帳消しキャンペーンに関わっているポール・マッカーティン神父（聖コロンバン会）が、「今日は世界の最も貧しい人々の代理として話したい」と前置きして、「アフリカの人々が今、世界の舞台の上では声のない人々になっています。彼らは、国家のレベルでも個人のレベルでも分裂し、疎外は増え、戦争、紛争も増加しています。そして、その原因が国際債務問題にほかならないのです」と、日本語と英語で語り、「教会の務めの一つは、人々を一致させることです」と、平和への強い願いをアッピールしている。


資料に見入る信徒

時の話題

鬼木　保之

私たちは字を読めない人に、どこか、さげすみの気持ちを持ってしまうことがあります。しかし、字を読めないことが、そんなに悪いことでしょうか。

犬養道子さんが、仕事の関係で、マダムAというモロッコ人のメイドさんを雇っていた時の事です。そのメイドさんは「字は読めません。書けません。」となんのくったくもなしに言ってのけました。それでも、実生活に困ることから、識字教育を考えました。ところが彼女は、コーランは暗唱しているし、モロッコ文学の語り部もいるし、芝居も映画もあるので「ちっとも困らない」と言い張ります。口伝、語り部の存在を、私たち「読み書き自在の人間」は忘れているか、低く評価しているのではないでしょうか。

ある地で、識字教育を始めたところ、子供たちは、ABCを習うその日から、エリート意識げる麻薬販売、売春、麻薬中毒、盗みに成り果てます。

別の地に赴任したある神父の話です。赴任先では、時間をかけて村人との交わりを深めて行きました。

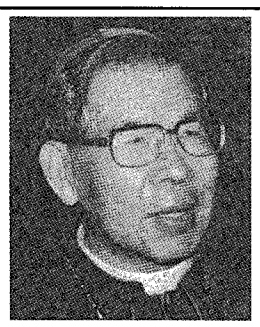
ある日、村の向上のため、勉強して字を読み書きしたいと言い出しました。それから識字教育が始まり、やがて、その村は模範的な農村になって行きました。

この二つの例からも、識字教育の難しさが分かると思います。読み書きだけが、文化教育の土台ではないという事実を見るにつけ「良い事だから」という拙速な問題提起は、相手が人間であることの忘却から来ているのではないでしょうか。

（高宮教会　信徒）

識字教育について

西日本宣教司祭大会 公開記念講演



講　師：金壽煥（キム・スーハン）枢機卿〈韓国・前ソウル教区長〉
テーマ：韓国における福音宣教の現状
日　時：11月17日14時
場　所：カテドラル大名町教会
ミサ：16時から

入場は無料ですが、入場整理券が必要です。入場整理券は、各小教区に準備しています。

※講演は、枢機卿ご自身、日本語で話してくださいます。

今月の意向

教皇様の意向のために祈りましょう

【一般の意向】カトリック大学とキリスト教文化

【布教の意向】信仰公布会の事業との宣教協力

【日本の教会の意向】「ザビエル渡来四五〇年」の開催

みちくさ

十月はロザリオの月である。信者は一人で、またグループで、ロザリオの信心に励むことであろう。古いとか、やぼくさいとかいう声が聞こえて来そうだが、やはりそこには信仰一途の信者の姿が見られる。人間の美しい姿の一つだと言っていい▼ところで、ロザリオは通常、五十回の「めでたし」で成立している。思えば、退屈な感じがする信心業だ。田舎のおばさんがよくするロザリオを唱えるとき、よく居眠りをしているのを見かけるが、不思議な現象ではないのだ▼一日中忙しかった。最初は熱心が居眠りを吹き飛ばしていたが、時がたつにつれて眠気に負けてしまった。悪魔なる者の誘惑があるのかもしれない。だけど、居眠りしている間は悪いことを考えない。誘いも聞こえて来ない。結局、悪魔の計略負けとなる▼ロザリオの玄義を黙想するのがこの信心の「特長」だと教えられる。本来居眠りする暇などないはずなのだが、そうとばかりも行かぬのが普通の善良な信者の常なのだ▼そこで眠らないために…、ロザリオの珠一つ毎に、一人の死者を思い出し、そのためにお祈りすることにしたらどうだろう。若いうちは五十の珠数は多すぎる。しかし、年をとると、忘れられている方々が余りに多いのに気づかされるものだ▼ロザリオの、たった一つの「めでたし」である。たいした役には立たぬであろう。だが、私が死んだとき思い出してロザリオの「めでたし」の一つでも捧げてくれる奇特な方がいるだろうかと、不安に思ったりもする▼あの世でこの十月のロザリオを待つことになるかも知れない。

〈M〉

四百年前、博多に信徒がいた
メダイは語る


出土したメダイ

八月二十六日（木）から三十日（月）までの五日間、福岡のデパートで「21世紀の心を拓く…福岡聖書展」が開催された。主催は、福岡市内のキリスト教諸派による福岡聖書展実行委員会。期間中、六千三百人の入場者を数えた。各地の聖書展との違いは、ザビエル渡来四百五十周年に因む「ザビエルコーナー」を特設したことである。鹿児島や山口などでも同時期に「ザビエル展」が行われる中、出土したばかりのメダイなど福岡独自の出品物として最高の物を展示することができた。

福岡市が発掘調査中だった旧奈良屋小学校跡地の15～16世紀の地層から一個のメダイが出土したニュースに、実行委員会は早速、福岡市の文化財課に「借用願い」を提出した。

すでに、26聖人記念館館長結城了悟神父の鑑定済みで福岡市は快く貸し出しを認めてくれた。

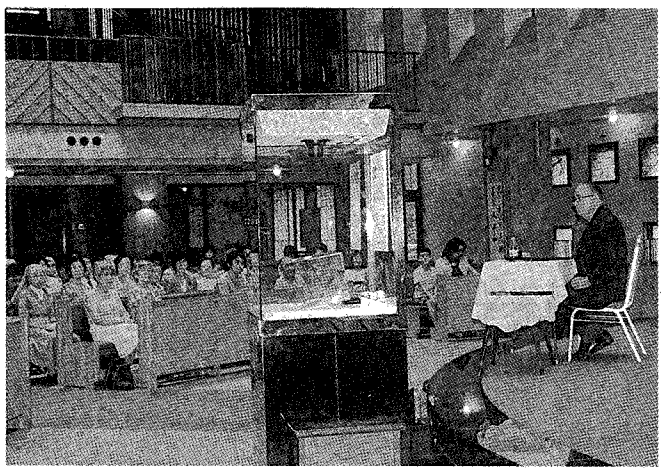
これまで、幾人かの宣教師や歴史家などの書簡などで、博多のキリシタンの存在は知られていたが、今、初めての物証に関係者に感動が走った。

この聖書展に先立ち、八月二十二日（日）、プレイベントとしてカテドラルで行われた結城了悟神父の「博多を訪れた、聖フランシスコ・ザビエル」の講演会にメダイを展示することができた。

結城神父はメダイを前に「ザビエルの四百五十周年にメダイが発掘されたのは、ザビエルのおみやげだと思います」といって、このメダイの持ち主であっただろう博多のキリシタンについて話した。

「博多の地図を見ると、メダイが出土した奈良屋小学校（福岡市博多区奈良屋町）は四百五十年前、ザビエルが通ったと思われる所に位置しています。平戸から船で博多港に着いたザビエルが港に近いお寺を訪問した記録がありますが、それは丁度この町です。ザビエルの友人ファン・フェルナンデスが博多に最初の教会を建てます。その後、教会は破壊に遭いますが、一六〇三年頃、黒田如水の努力で教会が再建されています。

一五九七年、京都から長崎へ引かれて行く途中、博多の港に入った二十六聖人に博多の信者が会い、長崎への手紙を預けている。すでに千人くらいの信者がいたと言われています。


メダイについて語る結城神父

一六〇三年、博多には教会があり、イエズス会のレジデンスがありました。そして、少年使節で、後に西坂で殉教した中浦ジュリアンが活躍しています。

一六一〇年頃ジュリアンは、博多で一人の赤ちゃんに洗礼を授けています。この子は、平戸松浦藩の重臣で信仰を守るために領地を棄て、長崎に亡命した籠手田家の家来で、その多くを黒田長政が引き受けた家来の一人、シメオン末武の子供です。この子供は、十七年後、雲仙で英雄的な殉教を遂げています。

ザビエルが平戸で宣教した。その平戸から、信者が博多に来た。そして、その信者が雲仙で殉教した。そのような道もありました。このように、キリシタンの歴史は、ほんとうに神の働きです。このメダイがその全ての歴史のシンボルとして今日から、この博多に保管されます。大切にして下さい。」

結城神父の話の後、展示された小さなメダイの周りを囲む信者の列がいつまでも続いた。

だれが、どんな思いでこのメダイを持っていたのだろうか、少しすり減った聖母の横顔にわれわれの先祖の信仰の証を見る思いがした。



盛況だった聖書展でのザビエルコーナー

盛況だった聖書展

このメダイは、福岡聖書展の「ザビエルコーナー」に展示された。今回の聖書展のテーマでもあった「福岡と聖書」に最も相応しい展示物として関係者の喜びも大きかった。

聖書展会期中はマスコミの反応もあり、「メダイ」の会場はいつも人垣ができ、四百五十年前のキリシタンの熱い信仰に思いを馳せることができた。

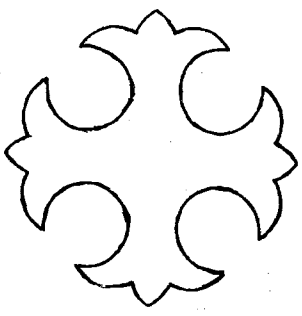
この聖書展は福岡市内のカトリックとプロテスタント諸派の協力で開催されたが、カトリックの実行委員代表の青木悟神父は「各宗派の関係者が一致協力した働きは大きな恵みでした。また、福岡地区婦人会の方々、修女連のシスター方の、会場ボランティアとしての働きなど、本当にたくさんの方に支えられた事に感謝いたします」と話していた。

尚、この「メダイ」は、福岡聖書展に出品された後、九月一日からは博多区井相田の埋蔵文化財センターで展示、保管されている。

花十字架
殉教者のシンボル

昨年（一九九八年）のディエゴ加賀山隼人顕彰奉仕会の発足と共に、津和野・殉教者列福調査準備委員会委員であり、ディエゴ加賀山隼人顕彰奉仕会・顧問酒井修氏より上申があっていた殉教者のシンボル花十字架を福岡教区殉教者顕彰のための紋章として松永久次郎司教の承認をうけた。

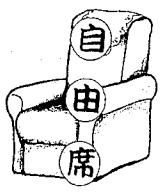
この開花させた花十字架を日本の殉教者のシンボルとして、信徒の心の一致を得て、ともに信仰と殉教の意義を学ぶ心を深めたいとの願いから上申されていた。



さらに殉教者教会、殉教のあった場所等を地図、書物に記す事により、巡礼活動、キリシタンとその殉教史を学ぶことに有益に生かされることを願ってである。特に、今日本一八八人の殉教者の列福を間近にして、わたしたちの信仰と殉教者に学び、心を一つにして列福を求めて祈ることへの一助になることが期待されている。

福岡おにぎりの会の夏祭り

マルセル・コース



八月二十二日「福岡おにぎりの会」主催による野宿者を対象とした「夏祭り」が須崎公園で午後四時から行なわれました。

当日の参加者は約二六〇名。大名町教会とルーテル教会の婦人会の方々の作ってくださったおにぎりをはじめ、牛肉一一〇キロ、ビール二〇〇本、焼酎二十升が参加者のお腹を満たしました。また、カラオケで楽しい一時を過ごすこともできました。後日の夜回りでは幾人もの人たちから「お世話になりました。久し振りに腹一杯食べました」との声を聞いています。

準備段階での不安をよそに、たくさんの方々の協力を得て、混乱もなく、整然と実施することができました。今回特筆すべきことは、後片付けやゴミ拾いにいたるまで、大勢の参加者が協力してくれたことです。連帯感が生まれつつあること、お仕着せの「祭り」から野宿者自身の「祭り」へと変わりゆく萌芽を感じました。皆様の心が受け止められ、生きて、形を取りつつあるのだと覚えてくだされば幸いです。

（美野島センター）

侍者会キャンプに参加して

中島　崇

八月三日から六日にかけて四日間、長崎県上五島において行われる所に位置しています。平戸から船で博多港に着いたザビエルが港に近いお寺を訪問した記録がありますが、それは丁度この町です。ザビエルの友人ファン・フェルナンデスが博多に最初の教会を建てます。その後、教会は破壊に遭いますが、一六〇三年頃、黒田如水の努力で教会が再建されています。

一五九七年、京都から長崎へ引かれて行く途中、博多の港に入った二十六聖人に博多の信者が会い、長崎への手紙を預けている。すでに千人くらいの信者がいたと言われています。



橋・豊津教会侍者会による巡礼キャンプを行いました。大聖年にあたる来年、豊津教会は創立五十周年という一つの節目を迎えます。その節目の前年に、多くの五島出身者を信者に持つ豊津教会にとって、この巡礼キャンプを行えるということは本当に意味深いことと思います。

教会巡礼では鯛ノ浦教会に泊めてもらい、十七の教会を回りました。それぞれの教会がすばらしい造り、雰囲気を持っていて、皆が目をみはりました。

行く先々での神父様の話、教会やキリシタン洞窟への道のりの険しさは、信仰という目に見えない、しかし、必ずそこにあるものの尊さを感じさせられました。

こうした信仰の片鱗に触れると同時に、海水浴や釣りをして自然にも接してきました。行く先々で歓迎して下さった神父様や信者さん、鯛ノ浦教会での侍者会との交流会など、たくさんの出会いにも恵まれました。子どもたちがこの恵みをしっかりと心に留め、思いやりと感謝の心のうちに信仰を深めていってほしいと思います。

（豊津教会　信徒）

ザビエルサマーキャンプに参加して

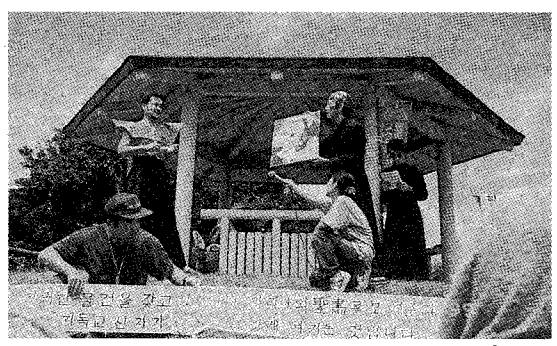
久禮　真理

八月十二日より三泊四日で鹿児島桜島においてザビエルサマーキャンプが開催されました。四五〇年前の八月十五日鹿児島にフランシスコ・ザビエルは到着しました。ザビエルゆかりの地を自分で歩き、ザビエルを体験したいと国内外から二五〇名もの青年たちが、桜島の日差し照る中に集いました。

さて、ザビエルの足跡を辿る道はザビエル上陸記念碑、福昌寺跡、キリシタン墓地、一宇治城跡、東市来町鶴丸城跡、鹿児島カテドラル・ザビエル記念聖堂、ザビエル滞鹿記念碑へと続きました。

参加した私たちは「ザビエルが叶えたかった夢とは何であろうか？」と考えてみました。ザビエルが日本で洗礼を授けたのは若干名。その四五〇年後、二五〇名の若者が自分の夢を探しに、新たな出会いを見つけに、クリスチャンとしての生き方を見つめ直すために集まったことこそ、ザビエルの夢の第一歩かもしれません。物質の富で溢れ、大事なことを意識せず、何も痛みを感じないことに慣れている今、ザビエルに触れた私たち青年にはすることが何かあるはずです。

（老司教会　信徒）



'99 心をひらいて
むなかた・てんてん・まつり
10月9日(土) AM10時より
福岡默想の家　〒811-4155 宗像市名残1056　TEL 0940(32)3222　FAX 0940(32)3385

ミサ用ワイン

ヴィノ デ ミサ
VINO DE MISA
スイートタイプ（赤）（白）
ご用命　お問い合せは
有限会社 大楠酒店
ヨハネ　青木　彰
〒815-0082　福岡市南区大楠2丁目4番8号
電話 092-531-4718　Fax 092-521-6453

別れ・出逢い・旅立ち
草苑〔SOU-EN〕
ご葬儀
木下株式会社
TEL 092-526-5656
〒810-0016
福岡市中央区平和3丁目1-5

信徒協福岡と北九州での秋の研修と運動会

大聖年を前に心身共に信徒養成

信徒使徒職協議会では九月十五日敬老の日に、福岡地区と北九州地区で研修会と運動会を開催し、心身ともにリフレッシュする貴重な一日を過ごした。

福岡地区 来住神父講演会

カテドラル大名町教会で行なわれた研修会では、教区の今年の目標「父なる神を共にほめ讃えます」をテーマに、来住英俊神父（御受難会）が、父のもとに帰ることの意義について講演した。

午前十時、福岡地区信徒協会長松本一俊氏と同担当司祭平田敬神父のあいさつの後、来住神父はテーマを①父のもとに帰る②賛美の祈り③父のもとから出て行く、の三つに分け、自らの体験に準拠しながら語った。

「人は旅に出て、何ものかであろうと努力しながらも、傷つき疲れ果て、放蕩息子のように、父のもとへ帰る。日本の教会についても同じことが言えよう。現代世界はまさにその父を、傷つき悔いて帰る者を抱き締め、優しく迎えてくれる父を求めている。…同時に大聖年を前にして、われわれもその父（傷つきながらも癒す人）になろうとしているのである。…



旅をするとは、父のもとから出て道を選び（決断し）ながら歩むことだが、それは誤る危険もある。しかし、それは人生の一部であり、誤りを悟って回心し、こうして父のもとに至るとき、父はわれわれを抱擁し、祝福してくれる。」

研修会の締めくくりとして行なわれたミサの中で、松永司教は敬老の日にちなんで、「信仰に基づく話、神の前に祈る大人の姿は、子供たちに何らかの力を及ぼすものである」と、キリスト者として生きる知恵を次の世代に伝えることの大切さについて語られた。「老人たちの祈りやきちんとした生活は、子供たちの心に価値ある遺産として残る。こうして、永遠の世界への楽しい導き手となっていただきたい。子供たちがいつの日にかそれを思い起こし、それに従って歩めるように」。

なおこのミサの献金は、トルコ大地震被災者への支援金として送られる。

北九州地区 親睦運動会

九月十五日、北九州地区は小教区の親睦をかねて合同運動会を開催。千人を超える参加者で盛り上がった。例年は小教区対抗のソフトボール大会であったが、子どもからお年寄りまで、誰でも参加できるものをと企画され、今回の運びとなった。前日は台風による雨と風のため開催が危ぶまれたが、当日は快晴に恵まれた。

種目は、運動会形式のレクレーションとして、得点を競うものではなく、盛り上がりのための幾つかの競技を除いて、あくまでみんなで楽しめる内容であった。

○×ゲームに始まり、幼児、女性や六十才以上と年齢を限定しての種目も取り入れられた。グランドの片隅でバーベキューをする教会もあり、参加者たちの笑顔を見る限り、今回の企画は大成功であった。

各教会の親睦をさらに深めるため、最後は輪になり、皆で炭坑節を踊り、無事大会を終えた。

（北川　卓也　小倉教会信徒）

平和巡礼 鳥栖教会

八月十五日、この特別な日に鳥栖教会では恒例の平和巡礼が行われた。夕方五時に鳥栖教会墓地に集まり、聖書の朗読と祈りをした後、車で基山聖堂に向かい、ロザリオを唱えながら小高い山中に散在する墓地を巡り歩いた。特に今年はザビエル来日四五〇年の記念の日に当たり、聖人の宣教に対する熱意も新たに伝わってくる。



基山聖堂は一八九一年、三人の熱心な仏教徒がカトリックの司祭との真しな討論の末、改宗し、多難な時代を耐え鳥栖教会の礎となった歴史的な場所である。

今は墓地に眠っておられる先人方が求められた神の国の平和を黙想しながら登る山道はうっそうと緑の木々が美しく、つくつくほうし、ひぐらしの声も一層の静けさを感じさせ、毎年一番早い秋を感じるのもこの時である。高齢の方々を囲んでの聖母被昇天を祝うミサで締めくくられた。

（松隈悦子　鳥栖教会信徒）

喜んで生きる

教区幼児教育連盟第21回教職員研修会

八月十八日～二十日までの三日間、第二十一回カトリック福岡教区幼児教育教職員研修大会が『喜んで生きる—恵みに応えて—』のテーマのもと、五十一ケ園から三三二名の教職員が参加して熊本・ニュースカイホテルで開催された。

みことばの祭儀による開会式に引き続き、長崎純心大学教授山内清海師による講演「喜んで生きる」に参加者一同、吸い込まれるように聴き入った。師は、フィリピ書四章四節「主において喜びなさい。重ねて言います。喜びなさい」と教える使徒パウロの言葉にスポットを当て、真の喜びについて、また教育の現場でその喜びをどう伝えてゆくのかを、大変わかりやすく、ユーモアを交えて内容豊かな講演をして下さった。その後、小グループに分かれての分団会において、参加者各自がいただいた恵みを分かち合い、一日目は終了した。



二日目は、関東学園大学教授江嶋正子氏による講演「子どもの祈り」を拝聴した。氏は「私たち大人は子どもを大人に成る以前の未熟で不完全なミニサイズな存在だと考えてしまいがちだ。しかし、よく観察すると、子どもは色々と教えてくれる。神様や祈りについてもそうだ。子どもはマリア様の御像の前へ喜んで行き挨拶し祈る。神様と素朴に、自然に結びつく」と語られた。また、聖なる祭儀により美しく、より積極的に参加するために、大神学院教授深堀純氏による聖歌指導もあり、他の研修会にはない楽しい一時も与えられた。三日間の最後は十三名の司祭団による荘厳な感謝ミサが捧げられ、研修の恵みを感謝し、二学期からの現場での新たな方向づけをいただき、静かな喜びを胸に帰路に着いた。

（西新教会　平田敬神父）

あなたの信仰があなたを救った

「一九九九年九月九日午前九時九分九秒に京都・金閣寺の前で会いましょう。」一九九九年七の月でこの世の終わりが来るとのノストラダムスの予言が流布し、人々が戦戦恐々としていた一九七〇年代終わりに、コンサートの中で未来に希望を持つためにと呼び掛けたものでした。それが約九百名もの人人が集まって実現されたとの報道がなされ、微笑ましく感じました。

ところで、先日、巡回の豊津教会での教会学校の時に、中学生の女の子に、明治時代の五島列島のキリシタン迫害の話をしました。そして過酷な拷問の中の「算木（さんぎ）責め」（三角に削った木を三本並べ、その上に衣服を脱がして正座させ、大人ふたりでやっと持ち上げることのできる位の石の板を膝の上に二つ乗せ、その石を揺さぶる拷問）と「晒（さら）し責め」（裸にして縛り付けたり、吹雪の夜、裸のまま丘の上に立たせるなどの拷問）と、信仰を捨てる事とのいずれかを選ばなければならないとしたらどれをとるか尋ねてみました。

ちょっと考えてその子は「算木責め」と答えました。こちらの方が驚いて、少し大袈裟に表現し、こんなに痛く辛いものだよと言いながらさらに尋ねてみましたが、答えは同じでした。「どうして？　僕だったら信仰を捨てると言うかもしれないのに」と理由を聞くと「信仰を捨てるのは神様を裏切るのでちょっといや。晒し責めは恥ずかしいし、算木責めもいやだけど、どれか一つと言われると仕方がない」との答えです。

この子も五島の隠れキリシタンの子孫です。

今日、子どもたちの教会離れが叫ばれています。以前、「堅信を小学四年生くらいでできないか、その頃くらいまでなら親の言う事を聞いて教会に来るので」という声さえも耳にしたほど、子どもたちへの信仰伝達が問われている中でこの子にはしっかりと信仰が息づいていて、嬉しく思います。

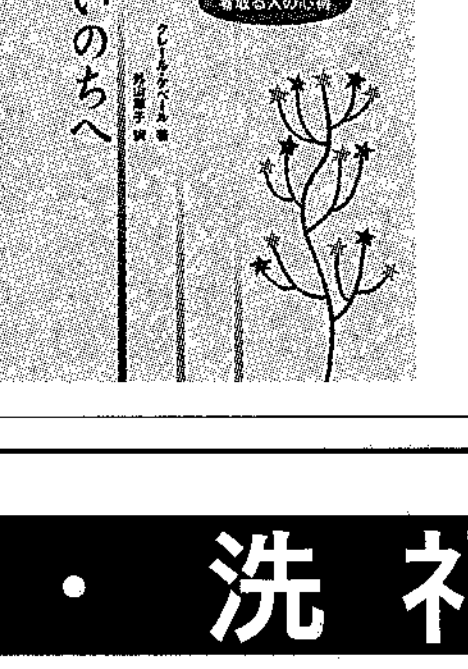
豊津教会は五島列島からの移住によって始まった教会で、来年五十周年を迎えます。

前任地では今村信徒発見一二五周年を通して、大刀洗の隠れキリシタンの信仰を学ばせていただいています。神を信じ、神の約束、救いに希望を持って生きられたその姿をです。これも恵みと感謝しています。そして、「あなたの信仰があなたを救った」と私たちもそのように言われたい、そう思う今日この頃です。

行橋教会主任　川上惣一神父

BOOK 読みま専科

★死から新しいいのちへ —看取る人の心得—
クレール・ケベール著　外山厚子訳

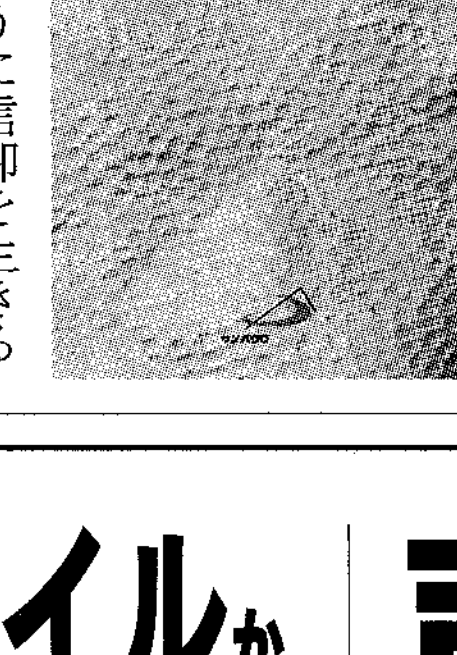


「ターミナルケア」とは死を迎えようとしている病人に対して、医学的、心理学的なケアのほか、家族の問題や感情の問題、精神的（宗教的）な問題にいたるあらゆる面でのケアが含まれます。死を特別視することなく、死の意味を見直し、死が本来あるべきところ、生のなかに位置づける必要があります。本書は人生の最後の時を生きようとする人々に接する方の心得を示唆し、希望と愛に力づける。

女子パウロ会　税別一一〇〇円

◇◇◇

★キリスト教の神学と霊性
百瀬文晃／佐久間勤編



今日どのように信仰を生きるか—本書は、現代の霊性をテーマとして開催された上智大学夏期神学講習会の講演とシンポジウムを基にしている。聖書に見る霊性の源泉、現代に生きるキリスト者の霊性、修道生活の霊性などについて、十三人の専門家たちが、それぞれの角度から分かりやすく説明する。

サンパウロ　税別二四〇〇円

ジャパンスマイルか 株式会社
不動産／管理・仲介・売買・建設／一般建築
〒810-0044 福岡市中央区六本松4-9-4
TEL092-761-8800
代表取締役 マルガリタ・マリア 吉田由利子

吉田設計 株式会社
建築設計／企画・設計・監理
〒810-0044 福岡市中央区六本松4-9-7
TEL092-711-0550
代表取締役 ヨゼフ 吉田豊博

祭壇・洗礼盤他
素材 大理石 御影石 その他
石のパイオニア
高木石材株式会社
〒860-0006 熊本市段山本町2-21
TEL 096-352-2417

素敵な音楽をあなたに…

「心への贈り物」講座　第５回

―聖フランシスコ・ザビエルの巡礼から学ぶもの―
渡来450年記念講演とパイプオルガンコンサート

日　時：10月23日(土)　10時～12時
第１部：結城了悟神父の講演
第２部：進藤務子氏のパイプオルガン演奏
会　場：久留米信愛女学院短期大学講堂(1号館2階)
問合先：久留米信愛女学院短期大学
生涯学習講座係　☎0942-43-4531

フルート＆ギター音楽の愉しみ

日　時：10月30日(土)　19時開演
会　場：箱崎カトリック教会
問合先：アンサンブル・デュオス・コンサーツ
☎092-929-0947

第8回チャリティーコンサート　バイオリンとオルガンの調べ　バイオリン　大期晴子

日　時：11月20日(土)　15時開演
会　場：大名町カトリック教会
問合先：☎092-781-5496（相良）
主　催：ぶどうの樹の会

読書の秋に聖書に親しむ

聖書講座'99　―ローマの信徒への手紙―

期　間：9月24日(金) ～ 11月26日(金)
場　所：カテドラルセンター　１階ホール
時　間：金曜日　19時～21時
主　催：教区聖書委員会
問合せ：教区本部事務局　☎092-522-5139

聖書を読む会「ヨハネの第一の手紙」

期　間：10月7日(木) ～ 2000年4月6日(木)
毎月初木曜日
時　間：朝の部　10時～11時30分
夕の部　19時30分～20時30分
場　所：佐賀カトリック教会　信徒会館
問合せ：佐賀カトリック教会「聖書を読む会」
☎0952-23-4754

案内版　会合と催し

福岡黙想の家　10月

9月
◇26日(日) ～ 10月2日(土)　御受難修道会黙想
10月
◇6日(水)　ミカエル会
◇9日(土)　99むなかたてんてんまつり
◇17日(日) ～ 23日(土)　サレジオ会黙想
◇24日(日)　典礼・聖歌と祈りの集い
11月
◇2日(火) ～ 3日(水)　聖母カテキスタ会黙想
◇6日(土) ～ 7日(日)　在世フランシスコ会黙想
北九州レジオ・マリエ黙想

[問合先] 黙想の家　☎0940・32・3222　FAX32・3385
※てんてんまつりの日時が例年と違います。10月9日(土)

生命山カトリック別院

生命山では、皆様のために、美しい自然の中で、神との語らいの日々を過ごしていただきたく、黙想会を計画いたしました。ご参加ください。

※祈りの集い
日　時：⑧10月14日(木)　9時45分～15時
⑨11月11日(木)　9時45分～15時
テーマ：三位一体のイコンの祈り
指　導：S.フランコ神父

※大黙想会
日　時：11月1日(月) ～ 10日(水) 朝まで
指　導：S.フランコ神父

※お祈り下さい
10月24日～27日までローマで開催される全世界諸宗教代表者会議に生命山の園善昭田神父とSr.マリア・デ・ジョルジョが参加します。
[問合先] 生命山カトリック別院
☎FAX0968・85・3100
＊個人、又はグループでの黙想

１０月のこよみ

1日(金)　幼きイエスの聖テレジア　聖書講座福岡⑫
2日(土)　守護の天使　今村聖母園介護センター落成式
3日(日)　年間第27主日　†E.ラゲ［福岡司教館1929］　宗教者による平和の祈り（生命山）
4日(月)　アシジの聖フランシスコ
7日(木)　ロザリオの聖母
9日(土)　むなかたTEN・TENまつり（福岡黙想の家）
10日(日)　年間第28主日　体育の日　若松教会50周年ミサ
11日(月)　ザビエル渡来450年記念祭（鹿児島）
14日(木)　ザビエル聖遺物（聖腕）平戸から福岡へ
15日(金)　聖テレジアおとめ教会博士　聖遺物を迎えて荘厳ミサ19時（カテドラル）
16日(土)　ザビエル聖遺物那覇教区へ
17日(日)　年間第29主日　世界宣教の日（献金）　湯川教会50周年　†J.グリーン［玉名教会1994］
18日(月)　聖ルカ福音記者　聖遺物那覇教区から小倉へ　ザビエル聖遺物を迎えて加賀山隼人殉教顕彰ミサ（小倉教会19時）
19日(火)　十字架の聖パウロ
23日(土)　†J.P.ドラビ［黒崎教会1967］
24日(日)　年間第30主日　唐津教会堅信式
27日(水)　†J.ベルトラン［門司港教会1987］
28日(木)　聖シモン・聖ユダ使徒
31日(日)　年間第31主日　教区和田墓地ミサ（14時）　生と老い・死を見つめる会［カテドラル14時］　†ヨセフ糸永一［今村教会1992］
■印は本面に詳細説明あり

福岡

■パストラルケア研究会
［日時］10月3日（日）14時～16時［場所］福岡サン・スルピス大神学院新館講話室［内容］沼野尚美先生を囲んでのフリートーク［参加費］無料
［次回］11月7日

■聖書講座［後期］ローマの信徒への手紙
［日時］19時～21時［場所］カテドラル大名町教会［テーマ・講師］⑫10月1日・イスラエルと福音、万人の救い・松永司教⑬8日・イスラエルの残りの者、イスラエルの再興・高見三明神父⑭15日・キリストにおける新しい生活・同上⑮22日・支配者への従順、隣人愛・森山信三神父⑯29日・兄弟を裁いてはならない・白浜満神父⑰11月5日・福音はユダヤ人と異邦人のためにある・青木悟神父⑱12日・使徒パウロの手紙の神学的考察・牧山勝美神父⑲19日・使徒パウロの手紙の神学的考察・同上⑳26日・使徒パウロの手紙の神学的考察・同上
［受講料］毎回800円、全回5000円［申込・問合先］カトリック福岡司教館☎092・522・4059（16時まで深堀）FAX523・2152（24時間）［主催］福岡教区聖書委員会（委員長　牧山勝美神父）

■和田墓地清掃とミサ
［日時］10月17日（日）清掃8時・ミサ11時、小雨決行、雨天の場合24日（日）に変更

■聖テレーズの著作を読む会
［日時］10月24日14時～15時30分［場所］カルメル会修道院（福岡市西区上ノ原）［問合先］カルメル会修道院［世話人］城島暁（浄水通教会所属）．次回は11月28日（毎月第4日曜日）

■典礼・聖歌と祈りの集い
［日時］10月24日（日）14時～17時［場所］宗像黙想の家［テーマ］待降節・降誕節の歌［指導］深堀純［お話］鈴木忠一神父［問合せ］☎0940・32・3222 FAX32・3385

■和田墓地死者の為のミサ
［日時］10月31日（日）14時［場所］和田墓地

■大名町教会バザー
［日時］10月31日（日）ミサ後から13時30分まで

■福岡生と老い・死を見つめる会
［日時］10月31日（日）14時～16時［場所］カテドラル大名町教会［内容］終末期医療に生かす生命倫理（バイオエシック）と語り合い［講師］唐崎愛子先生（小倉記念病院看護学校副校長）［参加費］500円［問合先］事務局（大山美穂子）☎092・711・3・8523）

■召命の集い
［日時］11月3日（水文化の日）8時30分受付［場所］福岡サンスルピス大神学院［問合先］召命の集い実行委員会☎092・864・4203

■第77回福岡結婚準備セミナー
［日時］11月4日（木）～12月11日（土）毎木曜・土曜日19時～21時30分［場所］カテドラル大名町教会［申込・問合先］カトリック・ファミリーセンター☎092・541・6207 FAX552・5022

■福岡ホスピスの会
［日時］11月14日（日）14時～16時［場所］カテドラル大名町教会4階会議室［内容］地域の緩和ケア病棟　佐賀市の場合［講師］佐藤医師（佐賀県立好生館院長）［参加費］700円［次回］1月23日

■美野島司牧センターよりお願い
衣類・毛布のカンパをお願いします［問合先］コース神父☎092・431・1419

召命黙想会

日　時：10月23日(土)～24日(日)
場　所：聖心の祈りの家（篠栗）
対　象：18才以上の青年
参加費：2,000円
申込先：青木悟神父
☎092-522-5139（司教館）

ワールドユースデイ2000年

行き先：ローマ（大聖年を世界の青年と）
期　間：2000年8月11日～22日
対　象：18歳から35歳までの青年男女
費　用：30万円くらい
申込締切：10月24日(日) 厳守
申込先：中村彰神父
☎FAX092-531-6821（福岡カトリック神学院）

北九州

■お母さんの集い
［日時］10月18日（月）10時半～13時［場所］カトリック小倉教会［内容］講話、歌、ミサ［講師］鈴木忠一神父（御受難会）［参加費］500円［問合先］福吉三代子☎093・962・1395

佐賀

■聖書を読む会
［日時］10月7日（木）から毎月初木曜日［時間］朝の部10時、夕の部19時半［場所］カトリック佐賀教会［問合先］カトリック佐賀教会「聖書を読む会」☎0952・23・4754

熊本

■第12回熊本短期キリスト教講座
［日時］10月1日～10月29日毎週金曜日の全5回・午前の部10時30分～12時30分、午後の部19時～21時［場所］カトリック手取教会［テーマと講師］①午前：夫の宿題（死は終わりではない、心暖かい医療）午後：夫の宿題（日本人の心に届くキリスト教）・遠藤順子氏②尊いのちがもたらすもの・吉永ユリ氏③人としての成長への旅・ジェラルド・グリフィン神父④大聖年とキリスト教の変容・池長潤大司教⑤午前：旅立つ夫が残したもの（夫の中にみた神の働き）・原田公子氏　午後：母に導かれて（神様のご計画はすばらしい）・徳富義種氏［問合と申込先］熊本カトリック案内所☎096・322・7948 FAX352・1515

編集後記

読書の秋、食欲の秋、スポーツの秋、収穫の秋といろいろなことに意欲的に取り組める季節となりました。個人的には自分の生まれた月でもあり、十月が一番好きです。

いのちについて考えてみませんか
第12回生命尊重講演会
マザーテレサからの伝言
マザーの大きな美しい手　愛と救い
講　演：ドキュメンタリー「マザーテレサとその世界」映画監督　千葉茂樹氏（日本映画学校副校長）
日　時：11月13日（土）　13時～16時30分
場　所：アクロス福岡イベントホール
チケット：1，000円（学生500円）
問い合わせ：☎092-572-1361
主　催：福岡県いのちを尊重する会

COSMOS
スポーツ用品・OA・文具　コスモス
〒830-1224 三井郡大刀洗町鵜木67－3
TEL　0942－77－3199
代表者　ペトロ 平田　清

“任意保険に加入してから車の運転を致しましょう”
自動車、火災、傷害、海外旅行傷害保険、保育園、幼稚園児を守る、企業賠償保険
〒814-0153
福岡市城南区樋井川3丁目17－10
大石保険事務所　大石真澄
☎092-552-8195　Ⓕ092-541-7734

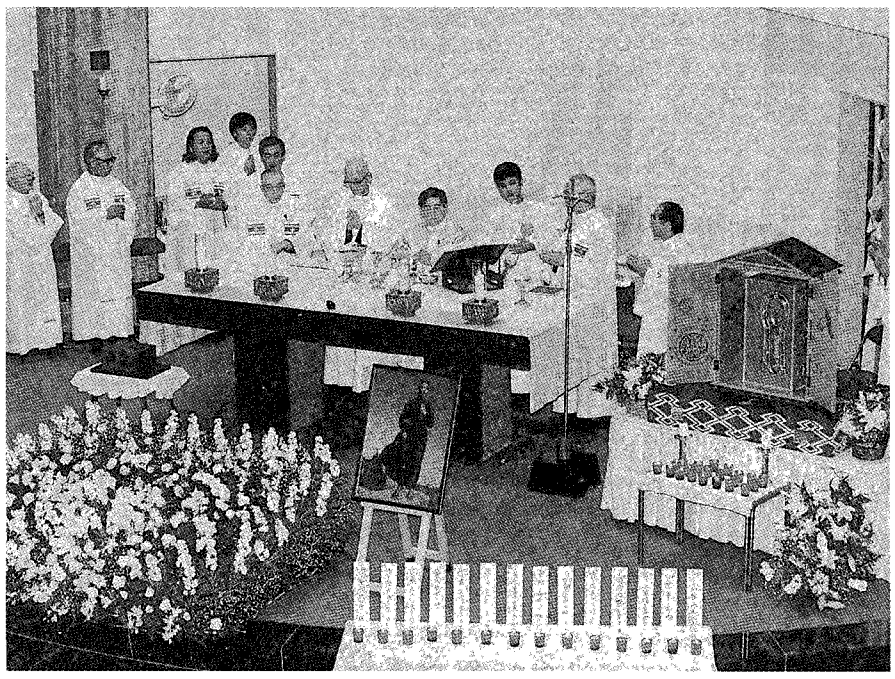
FUJIKI
未来へ――安心を創る
藤木工務店
福岡支店　〒812-0016 福岡市博多区博多駅南3-1-1　TEL 092-441-6585(代表)
取締役社長　大森　周　福岡支店長　多田泰幸

再宣教の風吹かせた聖腕

教区各地で六千人が崇敬

大勢の市民も訪問

聖フランシスコ・ザビエル渡来四五〇周年にあたり、各地で盛大に記念行事が催された。福岡教区にもザビエルの聖腕が五十年ぶりに訪れ、佐賀教会、今村教会、大名町教会、小倉教会で顕示され、信徒、市民も含め約六千人が崇敬した。五十年ぶりに教会に訪れた人や、赦しの秘跡にあずかった人など、日頃教会から遠ざかっていた人にも新たに教会に足を運ばせる恵みの機会ともなった。



聖フランシスコ・ザビエルの聖腕を迎えミサを捧げる松永司教と司祭

カテドラル大名町教会には十四日の五時過ぎに到着した。三時頃から集まり始めたたくさんの信者に迎えられ、歓迎のミサがザビエルの霊名を持つ堤敏雄神父司式で行われた。勤め帰りの人、チラシなどを見て来ましたという一般市民、取材の報道各社など六百人近い参加者があった。

十五日は朝八時から夜九時まで告解室に司祭が交代で詰め、赦しの秘跡が授けられた。十時半からザビエル山田成章神父司式のミサが行われた。この頃から新聞やテレビの報道で「聖腕」の様子を知った人たちからの問合せや訪問が相次いだ。訪問の後、受付に立ち寄った「仏教徒です」という婦人は、涙を流しながら、「宗教が違うのにこの感動はなぜでしょうか?」と話していた。また、「ずっと教会を離れていた者ですが行ってもいいでしょうか」という問合せもあった。

信徒、未信徒を問わず、「五十年前の、終戦間もないあの時、聖腕にどれだけ勇気づけられたことか…」と言って聖腕の前に長くぬかずく人の姿もあった。

午後七時から松永久次郎司教司式による記念荘厳ミサが行なわれた。説教の中で松永司教は「多くの人に洗礼を授けた手、祝福した手、秘跡を授けた手、この手の祝福を受けて召命の道を歩み始める人がでることを望みます」と語った。このミサでは福岡教区内の列福申請中の二七名の殉教者が紹介され、祭壇の前に名前とろうそくが子供たちの手によってともされた。ミサ後、翌日まで徹夜崇敬が行なわれ、約二十名の司祭、修道女、信徒が参加した。

翌十六日は朝七時から堤要吉神父によるミサの後、次の訪問先である那覇教区の有馬神父と二人の信徒一行に手渡された。

最初の訪問地 佐賀教会へ

十四日平戸教会で朝九時、松永司教を団長とする福岡教区の一行に、長崎の島本大司教より聖腕が手渡された。一行は聖腕とともに佐賀教会に十二時前に到着。佐賀地区では約二百名の信徒が集っていた。主任のF・ジョルジョ神父司式でみことばの祭儀が行われ、約一時間崇敬が行われた。最後に司教が多くの人を祝福したザビエルの聖腕に触れて、皆を祝福した。



稲穂の揺れる今村教会へ

佐賀教会を出発した聖腕と一行は、今村教会に二時半頃に到着し、沿道にあふれる信徒の歓迎を受けた。筑後地区から約六百名の信徒が集った。崇敬に先立ち、聖フランシスコ・ザビエルの聖遺物を迎えての司教趣意書が読まれた。浦川務神父(久留米教会助任)司式によるみことばの祭儀とロザリオの祈りが唱えられた。最後には佐賀教会と同じく、司教がザビエルの聖腕にふれ、皆を祝福した。



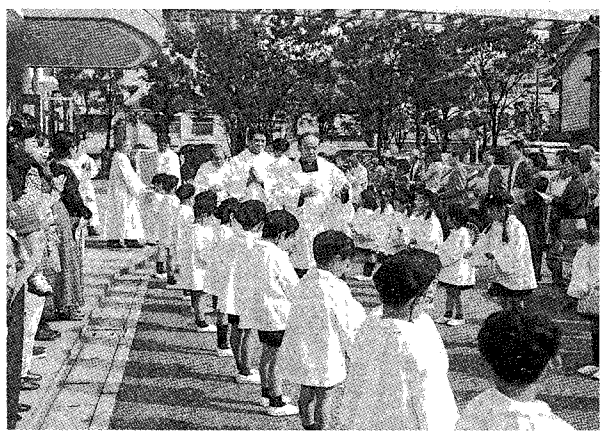
加賀山隼人を顕彰する小倉教会へ

小倉教会には十八日午後二時に到着した。宮ノ尾カトリック幼稚園児が花まきする中を通って入堂し、松永司教司式でみことばの祭儀が行われた。午後七時半からは小倉教会ゆかりの殉教者ディエゴ加賀山隼人正興長の列福祈願ミサが松永司教司式のもと、司祭二十二名、信徒八五〇名余りが参加して捧げられた。司教は説教の中で「ザビエルの宣教は七十年後、ディエゴ加賀山隼人とその家族の殉教という大きな恵みとして開花した」と語った。

小倉教会では聖腕の顕示台をザビエルの宣教精神が、あとを行く司祭に受け継がれるよう願って、回心と喜びを表わすバラ色の祭服の上に安置された。

十九日午前十一時のお別れミサは平田寛神父司式で捧げられた。

この二日間、小倉教会には延べ二千名余りが崇敬に訪れた。



時の話題

塩谷　恵策

八月十四日、ディリのカテドラルは立錐の余地の無いほどの参列者で埋まり、教会に入り切れない人々が外に立ち、ベロ司教の説教に聞き入っていた。一人の宣教師の葬儀ミサに、少年少女たちが二時間以上立ち通しで与り、力強く美しく歌っていたのが印象に残っている。そのカテドラルは、今は焼け落ちた。その日カテドラルから神学院まで筆者を送ってくださったカリム神父(インドネシアに帰化したドイツ人神父)も、修道院に避難していた百人の信者を守ろうとして銃殺されてしまった。

恐怖の嵐が吹き荒れた二週間が過ぎ、国連承認の多国籍軍が展開し、インドネシア国民協議会が併合の無効宣言をすることによって、東ティモール問題は解決の方向に向かいつつあるとはいえ、ここの人々の苦しみはまだ終わっていない。西ティモールに逃げた二十万人といわれる避難民の生活は、食糧、医療など、極度の非人間的生活を強いられており、雨季を迎える前に解決されなければ、伝染病などにより沢山の人命がまた失われるだろう。ダレの山中に避難していた五万人以上の人々がディリに帰れたが、ディリの町の八割が焼かれてしまい、住むこともかなわぬ人々が沢山いるという。衣食住を整えること、医療活動、将来の国と教会を担う若者の教育などの支援は緊急の課題である。独立への道が見え始めた今からがPKFには参加できない日本の出番であるといえよう。大名町教会が、今年のバザーを東ティモールの人々のためになど、我が国のカトリック教会の東ティモールの人々に対する関心が高いことを嬉しく思っている。東京、京都、大阪、山口など全国に支援のネットワークが広がりつつあるようだ。

ディリに姉妹校を持つ泰星学園(二面参照)で、今日一人の東ティモール人女性が投票前のディリについて話してくれた。完全な独立国として歩み出すまで出来るだけの協力を続けたい。

(泰星学園教諭・司祭)

東ティモールはいま

西日本宣教司祭大会

日時：11月16日～18日
テーマ：新しい福音宣教
講師：岩島忠彦神父
(上智大学神学部教授)

公開記念講演

講師：金壽煥(キム・スーハン)枢機卿
〈韓国・前ソウル教区長〉
テーマ：韓国における福音宣教の現状
日時：11月17日14時
場所：カテドラル大名町教会
ミサ：16時から

福岡教区修道女連盟(会長Sr関口律子)ではこの会期中、司祭たちの上に聖霊の恵みを求めて祈りの連携プレイを企画。福岡教区内の三十の女子修道会が大会の三日間、各修道院の聖堂で一時間の祈りを捧げ、次の修道院へと渡していく。各修道院からは一時間のみでなく可能な限りの時間を申し出てこの大会に高間で祈る聖母の心で同伴する。

みちくさ

若い人たちは諺によわい、とよくいわれる。よく知らないから使わないというならまだしも、生半可な知識で、意味も確かめずに使うから間違いが起こる。統計によると最も多い間違いが「情けは人のためならず」だという。めぐりめぐって結局は自分のためになるから、人には情けをかけよ、という意味なのだが、甘えがでて本人のためにならないから、人に情けをかけてはいけない、と正反対に理解している人が多い。情けない▼ある大学では、サークル活動に参加してもらおうと、学生たちが教授の所へ来て「枯れ木も山のにぎわいとか申しますから、ぜひご出席を」「わらにもすがる思いでお願いに来ました。」わらや枯れ木にされてはたまらない。当然、来てもらえなかった。卒業生から、「先生の教えを他山の石として頑張っております」とあいさつされたら、どんな恩師だろうとみじめな気持ちにならざるをえない▼精一杯着飾って七五三の宮参りの母子に出会った近所の女子学生「マアかわいいッ。馬子にも衣装とはよくいったものねー。」その日以来、そのお母さんからは口もきいてもらえなかった。無教養の報いというべきか。「蛙の子は蛙」をほめ言葉と思い込んでいる人も多いらしい▼こういった誤解は、なにも若い人ばかりとは限らないかもしれない。退社後、上司の家でごちそうになった面々、帰りがけにひと言「どや、口なおしにその辺でいっぱい。」彼らの出世の道は閉ざされたも同然か▼「先日は先生の拙著をお贈りいただき…」と言って、周りも気づかない御時勢。「先日の教区報の拙文拝読いたしました」と言われた時の心の準備も必要かも。〈H〉

カトリック福岡教区報
松永久次郎司教認可
発行所　福岡司教区本部
福岡市中央区浄水通39
発行人
カトリック福岡司教区
編集人　中村　彰
TEL　092-522-5139
FAX　092-523-2152
振替口座　01760-6-20729
カトリック福岡司教区
定価　一部60円

今月の意向

教皇様の意向のために祈りましょう
【一般の意向】司祭、修道者、宣教者に呼ばれている者への支援
【布教の意向】老人と宣教上の役割
【日本の教会の意向】カトリック学校と施設の福音化

東ティモールに一日も早い平和を
私たちにも何かできる

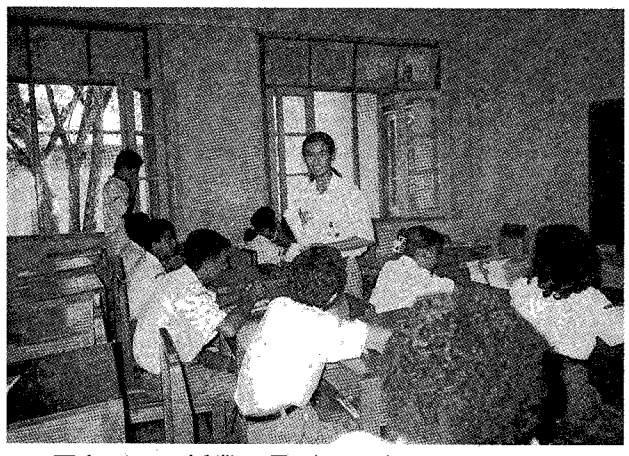
東ティモールでは八月三十日の住民投票後も民兵や軍による虐殺や無数の難民がでている。日本司教団では、主任司祭、修道会総長・管区長・地区長、カトリック施設長、全信徒の皆様あてで緊急援助の募金協力を九月十七日付けで出した。

十主の平和

天候の不安定な日々が続きますが、皆様毎日の生活の中に主のみ旨を求めてお励みのことと存じます。

今、新聞やテレビを通して、毎日東ティモールの情報が伝えられています。一九七五年以来インドネシア軍が東ティモールに入り、インドネシアは一方的に東ティモールを、自分たちの一つの州として宣言いたしました。大多数の住民が独立を望んでいるにもかかわらず、そして国連が八回にわたって、東ティモールの自決権を採択したにもかかわらず、今日に至るまで軍や民兵による虐殺が繰り返されています。

今年の八月三十日の独立か併合かを問う住民投票で、独立派が圧勝したにもかかわらず、かえって東ティモールの人々への殺りくは加速し、無数の難民を出しています。オーストラリア



平和だった授業風景（1999年８月15日ころ）

に逃れた人たちには、直ちに必需品が供給されましたが、西ティモールに入った人たちや東ティモールの中で避難している人たちは、民兵や軍の脅威にさらされ、極度の飢えに苦しんでいます。食糧、医療の面での緊急の援助を必要としています。

このような状況に対し、日本の司教たちは、全教会をあげて寄付金を募ることを決意しました。皆様からのご寄付は、カリタスジャパンがとりまとめ、オーストラリアH・F・ディーキン司教様（国際カリタス理事会の副会長）のご指示に従い、国際カリタス「東ティモール」のリエゾンであるカリタス・オーストラリアに届けられます。そして東ティモールの人人のための必需品と医療活動のために使われます。

尚、今回の募金は緊急援助のためとさせていただき、一九九九年九月十九日から十一月末までといたします。皆様のご理解と、ご協力をよろしくお願いいたします。

送金方法は、個人、団体、小教区単位で、カリタスジャパンの郵便振替、あるいは、現金書留、いずれでも結構です。必ず「東ティモール緊急援助金」と明記してください。

社会福祉委員会
カリタスジャパン
〒135-8585
東京都江東区潮見2-10-10
日本カトリック会館内
☎ 03-5632-4439
FAX 03-5632-4464
郵便振替番号　00170-5-95979

泰星学園の取り組み
聖ヨセフ学園

二年前から、東ティモールの首都ディリにある、聖ヨセフ学園と泰星学園が姉妹校縁組みをし、毎年教員と卒業生がディリを訪れるようになった。東ティモールの用意ならぬ状況は聖ヨセフ学園と、隣接する小神学校（九八人の元気な神学生がいる）をも巻き込み、併合派民兵に命を脅かされた市民たちが、多いときは数百人、聖ヨセフ学園に避難していた。一九七五年のインドネシア軍の進入以来、三〇万人もの犠牲者がでているが、この間最後の安全な砦がカトリック教会であった。ノーベル平和賞受賞者のベロ司教が住む司教館、教会、修道院、カトリック学校に逃げ込みさえすれば、そこだけは聖域と見なされ、安全だった。

ところが今回はスアイの教会で修道女、司祭各三人と百人の信徒が「処刑」されたのをはじめ、ベロ司教の元にいた七五人が殺され、同司教も無理矢理に連行された。聖ヨセフ学園に対しても脅迫が相次ぎ、教室や体育館に威嚇射撃の弾丸が飛んできた。

聖ヨセフ学園の生徒たちも、緊迫した空気の中で、福岡との間に一つの橋が架かっていることを頼もしく思っていると、姉妹校の安否を憂慮して訪問していた塩谷神父（泰星学園教諭）に伝えた。また、泰星の生徒との文通を望んで、何人もの生徒から手紙が託された。ディリの郵便局、電話局が破壊されている今、こちらから返事する術もないが、一日も早くこの状態が改善され、両校の生徒がこの架け橋を渡って自由に行き来することが出来るときが来ることを待ち望んでいる。

泰星学園の文化祭での取組は「朝日新聞」にも紹介され反響を呼んだ。学園の母の会では募金活動も行なった。

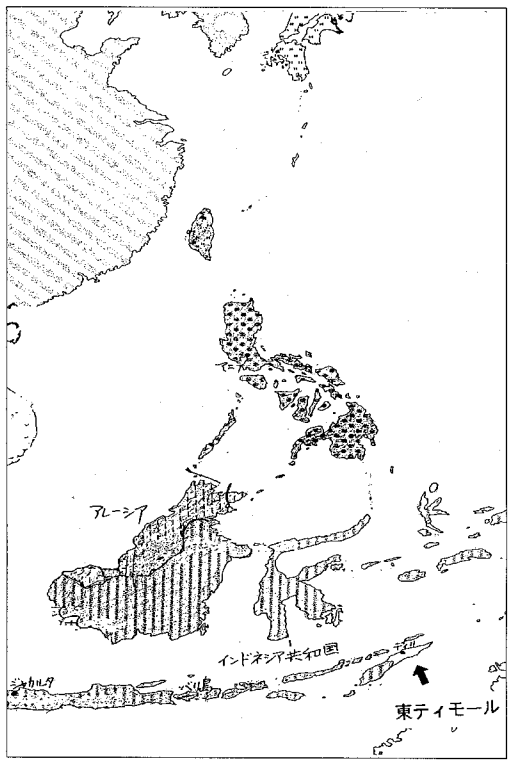
日本から遠い東ティモールだが、彼等の困窮を共有出来るのではないだろうか。

キリストの優しさと、キリストが教える正義で。



泰星学園の文化祭での訴え

「姉妹校の一大事！」と泰星学園の生徒や保護者たち、特に生徒会役員や文化祭実行委員たちが高い関心を寄せ、九月二三日の文化祭でも『東ティモール特別展』を企画して、同じアジアの小さな島国に注目するよう呼びかけていた。



聖腕巡回の旅

今村　武史

十月十四日、平戸より佐賀・



た。あらためて『日本におけるカトリックの総ての始まり！』と、有難さに気が遠くなりそうでした。

鹿児島に着き、昼食前の僅かな時間に新ザビエル教会の外観だけでもと思い、夫と二人タクシーを走らせました。道路を挟んで前に上陸記念公園があり、上陸地点は海岸だろうと漠然と思っていました頭に、四五〇年の時の経過を知らされました。

いよいよ気の引き締まる思いで立派な鹿児島アリーナの会場に入りました。百五〇名の司祭、二〇名の司教、教皇特使のショーカ枢機卿、そして聖腕の行列。あまりの荘厳さに目いっぱいに涙が溜まりました。この鹿児島の地で御ミサにあずかれる幸せというより、信仰薄い私がここにいていいのかしらと、申し訳なさが胸に広がりました。

前日箱崎教会で森山先生のザビエルについての講話、またバスの中でも三時間ちかいビデオで想像以上の沢山なご苦労を見聞きさせていただきました。現代風に言えばザビエル城の若君であったことも思い一入（ひとしお）でした。心の底からの感動の一日、有難うございました。

（箱崎教会　信徒）

鹿児島の荘厳ミサに参加して

白水　良子

十月十一日（月）、鹿児島での聖フランシスコ・ザビエル渡来四五〇年記念荘厳ミサに参加できました。

聖フランシスコ・ザビエル神父様が四五〇年前においでいただきましたおかげで、日本にカトリックの信仰が伝えられ、私も信者になれました。愛する息子を、天に送ることもできました。勇気をもって十字架を担いながらも、ザビエル様の愛をもって、ザビエル様のような宣教者となれるよう努力と祈りが必要だと感じています。

今の日本にこそ、物質的な豊かさに惑わされることなく、多くの日本人に神様の福音を伝える大切な時だと思います。神の国の完成を目指してザビエル様の取り次ぎを願いつつ、祈りのうちに信仰生活に励みたいと思います。

（武蔵ヶ丘教会信徒）

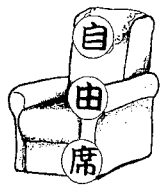
『頼むよ』と言われた召命の集いで

シスター水浦　シヅエ

召命に関心を持つ青年を対象とした黙想会が十月二十三日、二十四日篠栗の聖心の祈りの家で行われた。両日は秋晴れ、山の緑と澄んだ空気、黙想するには絶好の環境であった。まず特筆すべきことは、参加者が例年の数倍、青年男女半々で参加実数二十三名、寝室の割り振り、食事作りなど、まさに嬉しい悲鳴であったことだ。

第一回の基調講演の中で、御受難会の来住神父は「召命とはキリストの体である教会を視野に入れて考えるべきで、それが立ってゆくために主から『頼むよ』と声をかけられている」と言われた。続いて青木悟神父が、信徒と司祭との支え合いの現実を熱っぽく語られた。

二日目は午前がシスター二人による、その会の修道生活の特色について、午後は信徒側から見た、司祭の有り難さについて話された。参加者の中には、涙とともに聴いている人もいた。個人面接もあった。皆が残してくれたアンケートは来年度のために貴重である。（ショファイユの幼きイエズス修道会）



来春から男女共学のマリスト学園高等学校

一九六一年開校のマリスト学園は、熊本の健軍教会のそば。

男女共生の時を迎えた対応となった。選考を保護者に任せたという制服はコーディネート自由なユニークなもの。男女の別なく青少年の教育の場として創造性豊かな人材育成をしたい、と森淳校長は語った。所在は熊本市健軍2丁目

待降節黙想会へのお誘い

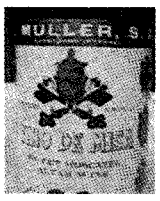
対象：一般信徒

① 12月３日(金) 16：00 ～ ５日(日) 昼食まで 《Fr.ガブリエル》
② 12月10日(金) 16：00 ～ 12日(日) 15：00まで 《Fr.マテオ》
③ 12月17日(金) 16：00 ～ 19日(日) 15：00まで 《Fr.来住》
主の降誕を祝う ④ 12月23日(木) 16：00 ～ 25日(土) 昼食まで 《Fr.鈴木》

【会　費】①②③④共２泊３日・12,000円（部分参加可 お問い合わせください）
【申込み】電話　０９４０－３２－３２２２（月～土　9：30～17：00）

福岡黙想の家　〒811-4155 宗像市名残1056　TEL 0940(32)3222 FAX 0940(32)3385

ミサ用ワイン



ヴィノ　デ　ミサ
VINO DE MISA
スイートタイプ（赤）（白）
ご用命　お問い合せは
有限会社　大楠酒店
ヨハネ　青木　彰
〒815-0082　福岡市南区大楠2丁目4番8号
電話 092-531-4718　Fax 092-521-6453

別れ・出逢い・旅立ち
草苑（SOU-EN）
ご葬儀
木下株式会社
ＴＥＬ092－526－5656
〒810-0016
福岡市中央区平和３丁目1-5

創立50年を迎えた若松教会・湯川教会

北九州市の住宅地域の宣教基地
宣教の火蓋を切ったのはパリ・ミッション会

若松教会

十月十日（日）、「今日こそ神が造られた日、喜び歌えこの日を共に」の歌と共に、松永司教様はじめ六名の司祭たちの入堂で若松教会創立五十周年記念ミサが始まりました。五十年の歳月、信仰生活の歩みを共にしてきた私たちの心に何ともいえない喜びと神への感謝の念が湧いてきます。

若松教会はパリミッション会のルネ・ルリエ神父様の手によって一九五〇年六月に創立されました。第二次世界大戦後の混乱と貧困のさ中に芽生えた小さい共同体の信仰の芽は五十年の間、神の慈しみと司祭・信徒の協力によって日々育てられ大きく成長してきたと思います。「聖母の七つの御悲しみ」に捧げられた当教会の歩みには、聖母の御保護の協力も大きかったことでしょう。

松永司教様と山頭・コース・モラレス・青木・中村・田中神父様方による記念ミサは、司教様による堅信式でその核心に入りました。「教会の使命、キリストの証し人となる使命をそれぞれの人が果たすように。人間の力ではなく神からの力、聖霊の賜物をいただき、互いに助け合うことによってキリストの証し人となるように」と、司教様は力強く呼びかけられました。


お祝いの謝辞を述べる受堅者

ミサ後、幼稚園の聖母子像の除幕式が行われ、秋晴れのさわやかな日射しの中に真っ白い聖母子の御像が輝きました。その後の祝賀会も暖かさ、喜び、なごやかさがあちこちに満ちており、神の祝福を感じるものでした。

（若松教会　橋本芳子）

湯川教会

創立五十周年を迎えた北九州の聖母園と湯川教会（主任・浦俊雄神父）では、十月十七日、松永久次郎司教司式のもと、盛大な記念ミサが行なわれた。小倉教会より分離独立して以来、信徒は千名を超え、聖堂内は補助椅子も不足、立席ができるほどの信徒で溢れた。

九時に始まったミサでは、主任司祭をはじめ、前主任の平田寛神父、当教会出身の小島智博神父（サレジオ会）ら五司祭が共同司式。説教の中で松永司教は、湯川教会の順調な発展を喜び、奇しくもザビエル渡来四百五十周年と重なった教会の創立五十周年に言及して、「これから新しい宣教に向かって、新しい一歩を踏み出すべきである」と強調された。



湯川教会の記念ミサとシンボルマーク（右上）

ミサ後、司祭館横で記念植樹が行なわれ、続いて聖母園広場に設けられた大テントのもと、にぎやかな祝賀会が行われた。その席上、新しく決まった湯川教会のシンボルマークが披露され、作者の小島浩氏より解説があった。

祝賀会は信徒総出で、園児の遊戯や楽器演奏、婦人会のフラダンスなどが舞台で演じられ、最後にビンゴゲームで盛り上がって閉会となった。

右の手にうながされて

先日、鹿児島で、フランシスコ・ザビエル渡来四五〇年祭の記念ミサに与った。久しぶりにお会いした聖腕に私は深く感動し、心から感謝した。思えば五十年前（一九四九年）、私が高校二年生の時、聖腕は福岡においでになった。四百年も前に亡くなられた方の右腕が腐敗しないで今日まで残っているとは。それを間もなく見ることができるのである。私は興奮していた。

平和台球場に数万人の人々が集まり盛大なミサが行われた。実に荘厳であった。私は、聖腕を一目見たいと望んでいたが、あの人出の中では聖腕を間近に見ることは出来なかった。しかし、幸いなことに、聖腕はミサの後、大名町の教会に安置されることになった。私は「しめた」と思った。長い行列であったが、私は辛抱強く並んで、ついに世紀的遺物を間近に眺めることができたのである。

そこで本当は帰るべきだったのだが、私は欲張って、もう一度行列に並んだ。二度目の体面が近づいた頃、係りの人が「信心用品を聖腕を納めた箱のガラスに触れてもよい」と言われたので、私はロザリオと祈祷書を触れさせてもらった。私は幸せであった。しかし、私はめげることなく、またまた、行列に並んだのである。三度目の正直。夜も更けて人数もすくなくなったせいか、私たちは聖腕のガラスに接吻することが許された。私は与えられたこのチャンスを一生忘れまいと思った。あと数日で洗礼を受けるというその時であったから、私は、真剣にザビエルの取り次ぎを願った。「ザビエル様、どうぞ私が、洗礼の恵みを全うすることができますように」そして私は司祭になった。願った以上の恵みが与えられたのである。

一五四九年八月十五日、鹿児島に上陸してから日本を発つまで、わずか二年と四ヶ月の間に、ザビエルはあの右の手で、たくさんの人々に洗礼を施し、殉教も恐れぬような信者たちを作った。聖人と比べるわけにはいかないが、それにしても、私は今まで何をしていたのだろう。四十年も司祭をしているのに、一向に成果を上げることが出来なかった。私は五十年ぶりに、もう一度願いを更新した。

「ザビエル様、どうぞ私が、司祭を全うすることができますように」。

健軍教会主任　鵜野泰年神父

閉館する研修センター 生涯養成の場を日本カトリック会館へ

日本司教団はこのたび、日本カトリック研修センター（名古屋）を来る二〇〇〇年三月末日をもって閉鎖し、この建物を聖母カテキスタ会に返還することを決定した。

同研修センターは、一九八七年に開催された第一回福音宣教推進全国会議における「生涯養成」の提言に応えて開設され、建物は聖母カテキスタ会の厚意により新築、司教団に貸与されたもの。

開設後八年にわたり生涯養成の豊かなプログラムが展開されたことは事実だが、バブル崩壊後、財政は窮迫、財政建て直し策も効を奏さず、今後同センターの運営は無理と判断、止むなく閉鎖と決まった。

しかし、研修センターの閉鎖は生涯養成に対する司教団の熱意が後退したわけではなく、決意も変わらない、と司教団は表明している。今後は新たな形で推進していく考えで、東京・潮見の日本カトリック会館の中に奉仕チームを置き、担当司教の指導のもとに活動を展開していくことになっている。

10月9日 てんてんまつりまた盛況

黙想の家

今年の『むなかた・TEN TENまつり』は、「体育の日」が移動祝日になったこともあり、初めて十月十日ではなく、十月九日（土）としました。十と十の「てん・てん」ではなくて、「てん・ないん」とすべきでしょうが、おなじみ「てんてんまつり」の名前は残しました、と院長の鈴木忠一神父。

当日は、秋晴れの好天気に恵まれて、ほぼ二千人の人出でにぎわった。ザビエル来日四五〇周年に思いをはせて、特別講演は上智大学の尾原悟教授（イエズス会）に「ザビエルが日本にもたらしたもの」というテーマで珍しい資料を材料にユニークなお話。聞く人の心に大きな感動を与えた。

その他、三万坪の敷地いっぱいに繰り広げられる様々なイベント。宗像市の様々な市民団体や海外支援のボランティアグループ、そして近隣の二つの小教区・古賀、水巻教会の協力で、おもちつき、ちびっ子コーナー、ふれあいバザー、お食事コーナーやシスターのお店などで終日盛り上がった。

宗像市の瀧口市長さんも来場し、ニコニコ顔で、「てんてんまつりもこの地域のお祭りとして定着しましたね。がんばってね」と喜びと励ましのエール。



午後は、町内の子供会コーラス、こやぎ座の人形劇、綾塚ファミリーバンドでゴスペル・ウエスタンの歌声、そして司祭団全員参加の「子どもとともに捧げるミサ」で締めくくり、すばらしい秋のお祭りの一日を歌い上げました。

テレジア田口ミツエ修道女
（マリアの宣教者フランシスコ修道会）
10月25日帰天　94歳

BOOK 読みま専科

★わが心のクリスマス
パール・バック著
磯村愛子訳

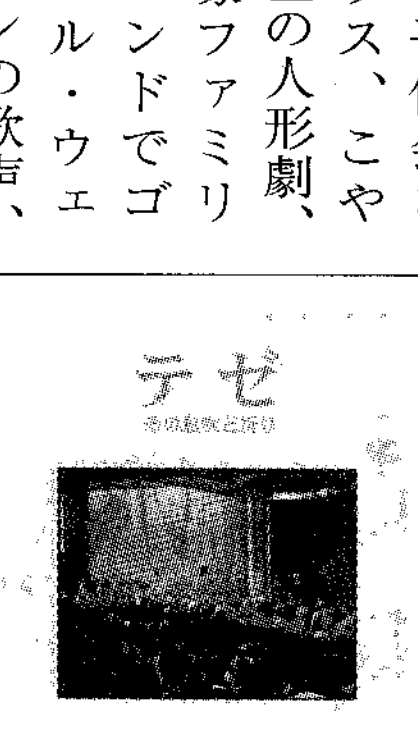


ノーベル文学賞を受賞した、『大地』の作家として当時、世界的な反響を呼んだパール・バック女史のクリスマスの物語。宣教師の両親をもち、長年中国で生活した著者自身の体験をもとにした、珠玉の八の短編。暖かな食卓や贈り物の交換の一夜にクリスマスの心が輝き、喜ばしい意味を与えてくれる。物語の中に心からの愛が息づき、愛することの幸せが家族を結び、世界を結ぶ大きな力であることを考えさせ、感動を与える。

女子パウロ会　税別一五〇〇円

◇　◇　◇

★テゼ—その息吹と祈り—
シャンタル・ジョリー編
水垣美和訳



一九四〇年にブラザー・ロジェによって創立されてから五十九年、テゼ共同体は、ヨーロッパはもちろん、世界各地から何万という若者たちをひきつけている。ブラザー・ロジェと共に祈るブルゴーニュの丘は、絶えず驚くべき精神的活力で鳴りひびいている。

本書は、この生き生きとした様子、テゼに根ざした恵みを、より深く味わわせてくれる。

サンパウロ　税別八〇〇円

ジャパンスマイルか 株式会社
不動産/管理・仲介・売買・建設/一般建築
〒810-0044 福岡市中央区六本松4-9-4
TEL092-761-8800
代表取締役 マルガリタ・マリア 吉田由利子

吉田設計 株式会社
建築設計/企画・設計・監理
〒810-0044 福岡市中央区六本松4-9-7
TEL092-711-0550
代表取締役 ヨゼフ 吉田豊博

祭壇・洗礼盤他
素材｛大理石 御影石 その他
石のパイオニア
高木石材株式会社
〒860-0006 熊本市段山本町2-21
TEL 096-352-2417

講座を聴こう！

聖書講座'99 ―ローマの信徒への手紙―

期　間：9月24日(金) ～ 11月26日(金)
場　所：カテドラルセンター　1階ホール
時　間：金曜日　19時 ～ 21時
主　催：教区聖書委員会
問合せ：教区本部事務局　☎092-522-5139

福岡 結婚準備セミナー

会　費：カップルで参加の場合　14,000円
　　　　お一人で参加の場合　　9,000円
会　場：カトリック大名町教会内1階大ホール
対　象：婚約者、結婚を前提として交際中の方、最近結婚された方
日　時：11月4日(木)、6日(土)、11日(木)、27日(土)
　　　　午後7時 ～ 9時30分
申込・問合先：カトリック・ファミリーセンター

福岡生と老い・死を見つめる会講演会

テーマ：メモリアルサービス
　　　　(亡くなられた方の写真をお持ち下さい)
　　　　死別体験者グループの語り合い
講　師：大山　悟 神父
日　時：11月28日　午後2時 ～ 4時
会　場：カトリック大名町教会
会　費：500円
問合先：福岡生と老い・死を見つめる会事務局
　　　　☎092-713-8523（大山）
　　　　☎092-607-6992（村尾）

イタリア大聖年巡礼の旅

行 き 先：ローマ、アッシジ、フィレンツェ、シエナ、ピサ、ミラノ
日　　時：2000年5月9日(火) ～ 5月18日(木)
　　　　　10日間
募集人員：30名
申 込 金：50,000円
申込締切日：1999年12月27日
申 込 先：カトリック呼子教会　伊東成晃神父
　　　　　☎0955-82-3126　FAX0955-82-4746
主　　催：（株）阪急交通社　博多支店
　　　　　☎092-472-2243　FAX092-411-4574

案内版　会合と催し

福岡黙想の家　11月

11月
◇2日(火) ～ 3日(水)　聖母カテキスタ会黙想
◇6日(土) ～ 7日(日)　在世フランシスコ会黙想
　　北九州レジオ・マリエ黙想
◇8日(月) ～ 12日(金)　聖コロンバン会黙想
◇10日(水)　ミカエル会
◇14日(日) ～ 20日(土)　サレジオ会黙想
◇20日(土) ～ 21日(日)　熊本青年の集い
◇23日(火) ～ 24日(水)　九州アシュラム
◇26日(金) ～ 28日(日)　ユースフルライフ・カウンセリングワークショップ
◇29日(月) ～ 12月1日(水)　御受難修道会共同体の日
12月
◇3日(金) ～ 5日(日)　待降節黙想会B.ガブリエル神父

［問合先］黙想の家　☎0940・32・3222　FAX32・3385

生命山カトリック別院

生命山では、皆様のために、美しい自然の中で、神との語らいの日々を過ごしていただきたく、黙想会を計画いたしました。ご参加ください。

※祈りの集い
日　時：⑨11月11日(木)
　　　　9時45分～15時
　　　　⑩12月9日(木)
　　　　9時45分～15時
テーマ：三位一体のイコンの祈り
指　導：S.フランコ神父
※大黙想会
日　時：11月1日(月) ～
　　　　10日(火) 朝まで
指　導：S.フランコ神父

［問合先］生命山カトリック別院
☎FAX0968・85・3100
＊個人、又はグループでの黙想等、常時受け付けています。

11月のこよみ

4日(木)　聖カロロ・ボロメオ
　　教皇ヨハネ・パウロ2世霊名祝日
5日(金)　聖書講座福岡⑰
7日(日)　年間第32主日　福岡パストラルケア研究会■
9日(火)　ラテラン教会の献堂
14日(日)　年間第33主日 **小郡教会堅信式**
　　聖書週間［～22日］
　　ホスピスの会［カテドラル14時］■
　　大楠教会バザー10時～14時
16日(火)　西日本宣教司祭大会［～18日］
17日(水)　西日本宣教司祭大会ミサ［カテドラル］
　　金壽煥枢機卿講演会［カテドラル14時］
21日(日)　王であるキリスト［聖マリアの奉献］
22日(月)　聖セシリアおとめ殉教者
　　†P.ポール［黙想の家1996］
23日(火)　勤労感謝の日：北九州地区信徒協研修会
　　熊本地区信徒協研修会［健軍教会10時～］
　　†B.シュルツ［吉塚教会1996］
27日(土)　†S.ズワノニ［唐津教会1962］
28日(日)　待降節第1主日　**崎津教会堅信式**
　　生と老い・死を見つめる会［カテドラル14時］■
30日(火)　聖アンデレ使徒　臨時司祭評議会
12月
1日(水)　†アシジF.伊東誠二［馬渡島教会1997］
3日(金)　聖フランシスコ・ザビエル司祭
5日(日)　待降節第1主日　宣教地司祭育成の日
　　黒崎教会堅信式
8日(水)　無原罪の聖マリア
　　福岡カトリック神学院創立記念日
■印は本面に詳細説明あり

福岡

■**聖書講座［後期］ローマの信徒への手紙**
［日時］19時～21時［場所］カテドラル大名町教会［テーマ・講師］⑰11月5日・福音はユダヤ人と異邦人のためにある・青木悟神父⑱12日・使徒パウロの手紙の神学的考察・牧山勝美神父⑲19日・使徒パウロの手紙の神学的考察・同上⑳26日・使徒パウロの手紙の神学的考察・同上［受講料］毎回800円、全回5000円［申込・問合先］カトリック福岡司教館☎092・522・4059（16時まで深堀）FAX523・2152（24時間）［主催］福岡教区聖書委員会（委員長牧山勝美神父）

■**パストラルケア研究会**
［日時］11月7日（日）14時～16時［場所］福岡サン・スルピス大神学院新館講話室［内容］詳読会　病人訪問　いやされるかかわり「お見舞品」の項P.40～P.44［参加費］無料［次回］12月5日

■**ヤングママ黙想会**
［日時］11月11日（木）10時～15時　ベビーシッター有り［場所］司教館新館5階［テーマ］ビデオを見ながら生命を考える・子育てQ&A［指導］松井忠之神父と日本カトリック女性団体連盟［参加費］1000円昼食費含む　お子様の昼食は持参して［主催］福岡教区地区婦人会［問合先］各教会婦人部

■**福岡県いのちを尊重する会講演会**
［日時］11月13日（土）13時30分～16時30分［場所］アクロス福岡イベントホール［内容］マザーテレサからの伝言［講師］千葉茂樹（日本映画学校副校長）［参加費］1000円（学生500円）［問合先］☎FAX092・572・1361［主催］福岡県いのちを尊重する会

■**福岡ホスピスの会**
［日時］11月14日（日）14時～16時［場所］カテドラル大名町教会4階会議室［内容］地域の緩和ケア病棟　佐賀市の場合［講師］佐藤医師（佐賀県立好生館院長）［参加費］700円［次回］1月23日

■**第24回典礼聖歌研修会**
［日時］11月21日（日）13時～15時30分［場所］カトリック光丘教会［指導］深堀純氏（大名町教会信徒）［問合先］有馬浩☎092・661・2673［参加費］無料

■**聖テレーズの著作を読む会**
［日時］11月28日14時～15時30分［場所］カルメル会修道院（福岡市西区上ノ原）［問合先］カルメル会修道院［世話人］城島暁（浄水通教会所属）・次回は12月26日（毎月第4日曜日）

■**第52回福岡市民クリスマス**
［日時］12月13日（月）18時～［場所］福岡市民会館大ホール［メッセージ］M・コース神父［問合先］実行委員会事務局☎092・731・1805

■**美野島司牧センターよりお願い**
衣類・毛布のカンパをお願いします［問合先］コース神父☎092・431・1419

音楽を聴こう！

第8回チャリティーコンサート
バイオリンとオルガンの調べ
バイオリン　太期　晴子
オルガン　平田　孝子
日　時：11月20日(土)　15時開演
会　場：カトリック大名町教会
問合先：☎092-781-5496（相良）
主　催：ぶどうの樹の会

北九州

■**死者を記念する日**
［日時］11月7日（日）14時～16時［場所］カトリック黒崎教会［ミサ司式］平田寛神父［主催］援助修道会黒崎修道院☎093・621・5670

■**講演会**
［日時］11月21日（日）15時～17時［場所］カトリック小倉教会［テーマ］沖縄の移住労働者について［講師］シスター宮城涼子（聖マリアの汚れなき御心のフランシスコ姉妹会）［会費］無料［主催］カトリック福岡教区正義と平和協議会、移住労働者と共に生きるネットワーク・九州［問合先］岩本光弘☎093・293・3516

■**北九州地区信徒協研修会**
［日時］11月23日（火）13時30分～15時10分［場所］カトリック戸畑教会［テーマ］明日の教会に向けて司祭の役割、信徒の役割［講師］L・ベリオン神父

召命祈願ミサ

12月2日（木）19時30分、有志の会である《**召命をともに祈る会**》主催で、福岡教区に司祭、修道者の召命を求めて、福岡サン・スルピス大神学院で**召命祈願ミサ**が行なわれます。どなたでも参加できます。

大聖年行事　お知恵拝借

～キリスト降誕2000年～ カトリック・フェスティバル

福岡教区信徒使徒職協議会では、大聖年の記念行事としてカトリック・フェスティバルを2000年11月3日に開催することを決定しました。この記念行事は子供達や若者たちに視点をおいたものにしようと計画しています。

この記念行事を広く教区信徒にアピールするため、下記の要領で記念行事のアイデアを募集する事にしました。

①スローガン：新しい時代を創造、イメージするもの。及びサブテーマ。
②行事内容について
③テーマ音楽（作詞、作曲）

問合先：水巻教会　松尾隆
　　　　☎・FAX093-293-4981
締　切：①、②1999年12月31日
　　　　③　　2000年 3月31日
※入選者には賞品を用意します。

お知らせ

「西日本宣教司祭大会」とほぼ同時期の為、「神学院祭」を中止いたします。
福岡サン・スルピス大神学院院長　大山　悟

佐賀

■**聖書を読む会**
［日時］毎月初木曜日・朝の部10時～11時30分・夕の部19時30分～20時30分［場所］カトリック佐賀教会信徒会館［内容］ヨハネの第一の手紙［問合先］佐賀カトリック教会聖書を読む会☎0952・23・4754

熊本

■**熊本地区信徒協研修会**
［日時］11月23日（火）10時～16時30分［場所］健軍教会［内容］『明日の教会を考える』熊本の教会に明日は有るか［講師］山元真神父・深堀純氏［会費］1500円（弁当代含む）

編集後記

十一月は典礼暦では死者の月にあたる。身内のためだけでなく、すべての死者のために祈り、死について黙想を深めたい。

編集部では皆様の原稿を募集しています。原稿用紙四〇〇字以内で、月の十五日までなら次号に掲載できます。写真同封でも結構です。

COSMOS
スポーツ用品・OA・文具　コスモス
〒830-1224 三井郡大刀洗町鵜木67－3
TEL　0942－77－3199
代表者　ペトロ 平田　清

“任意保険に加入してから車の運転を致しましょう”
自動車、火災、傷害、海外旅行傷害保険、保育園、幼稚園児を守る、企業賠償保険
〒814-0153
福岡市城南区樋井川3丁目17－10
大石保険事務所　大石真澄
☎092-552-8195　Ⓕ092-541-7734

未来へ――安心を創る
藤木工務店
FUJKi
福岡支店　〒812-0016 福岡市博多区博多駅南3-1-1　TEL 092-441-6585(代表)
取締役社長　大森　周　福岡支店長　多田泰幸

聖霊が西日本に降り注がれた日

近くて近い国の金壽煥枢機卿の講演会に900人が参集

11月16日
11月18日

西日本宣教司祭大会を開催

新しい福音宣教 ―第三の千年期に向けて―

キリスト降誕二千年の大聖年の前年に当たる今年、西日本六教区（長崎・鹿児島・大分・福岡・広島・那覇）の司教、司祭二五〇人が福岡で一堂に会した。十一月十六日から十八日の三日間、福音宣教について日頃の思いを分かち合い、21世紀に向け新しい福音宣教の手がかりを模索するため、「新しい福音宣教…第三の千年期に向けて…」をテーマに「西日本宣教司祭大会」が開催された。基調講演で岩島忠彦師（上智大学神学部長）は「唯一の福音と二つの宣教観」と題して語った。特別講師として来日した前ソウル教区長の金壽煥（キム・スーハン）枢機卿は、カテドラルで「韓国における福音宣教の現状」と題して示唆に富む公開講演を行った。主催は、六教区の司教で構成するザビエル渡来四五〇年祭西日本委員会である。



十六日（火）午後一時半、エレミヤの20章が朗読され、聖歌「主とともに」を歌い、大会は開幕した。

主催者の島本要大司教（長崎教区）から、召命の減少に伴って信徒の働きが求められている現在、新しい福音宣教の方向性を探る大会となるようにと挨拶があった。事務局より発表された大会の参加者は二四二名。二時からは上智大学神学部長岩島忠彦神父が「唯一の福音と二つの宣教観―ザビエルが目指したもの、公会議が目指したもの―」というテーマで基調講演を行った。（2面に講演要約）

これを受け、全員が二十の分団会に分かれ、分かち合いを行った。長崎教会管区の集いはナイス以来で、しかも今回は広島教区が加わり、雰囲気も新たに自己紹介から始まり、講演の感想や各自の司牧体験を分かち合った。日頃抱えている疑問を出し合い、考えあう場にもなった。

夕食からの時間が自由になっていたので、懐かしい同窓生たちと連れ立って行く姿が随所に見られた。

十七日（水）は八時四五分から朝の祈りをした後、再び分団会が行われた。「新しい福音宣教」のために神の民へ向けての提言を話し合い、各グループからその中の一つを出し合った。神学校を一つにする、信徒の信仰教育のためのテキストの作成、今回の大会を継続させる、聖書を読む運動を展開するなど、多くの提言が出ていた。

午後二時からカテドラル大名町教会で行われた金壽煥枢機卿の記念公開講演会には司祭のほか、九州各地から六百人を超える信徒、修道者の参加があった。

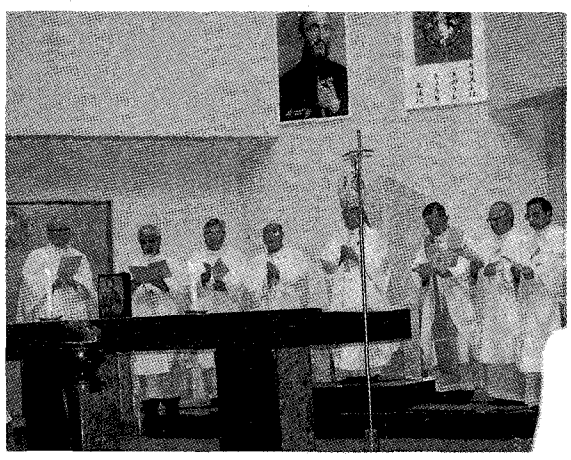
金枢機卿は、韓国教会の二一五年（一七八四年～）の歴史、そして現在の発展にいたる数々の取り組みを紹介した。参加した大勢の司祭、修道者、信徒が「励まされた、希望を与えられた」と語っていた。（2面に抜粋）


空港で司祭代表から花束を受ける金枢機卿



四時から松永司教司式で金枢機卿も交えた六教区の司教、司祭、修道者、信徒による大会記念ミサが捧げられた。説教の中で松永司教は「福音宣教は神の恵みと人間の努力の合作によってなされる。古い道も新しい道もともに大切にしながら、忍耐して希望の内に歩みましょう」と語った。

典礼では、ミサ曲にやまとの捧げ歌が、奉納では各教区代表が教区名が書かれたろうそくを奉納、少し時間をとった平和の挨拶では全員が聖堂内を握手や挨拶をして回った。聖体拝領では、多数の参加者にもかかわらず両形色の形体がとられるなどいろいろと工夫されていた。奉納された献金は、「朝鮮民主主義人民共和国の兄弟姉妹のために」となっていた。このような典礼の工夫について、司祭だけでなく信徒や修道者の中からも「すばらしかった」の声が多く聞かれた。



六時半からは主会場になっているホテルで懇親会があり、歌や漫才など、司祭らの豊かなタレントも披露され、楽しい交流の一時を過ごした。金枢機卿もラテン語の聖歌を歌われた。

最終日十八日（木）は九時から全体会があり、各分団会から出された提言のまとめがなされた。今後、今大会のためになされたアンケートの結果と分析、提言をどうまとめて対処していくかが、実行委員に託された。

閉会にあたっての派遣ミサは糸永司教（鹿児島教区）司式で行われた。説教の中で司教は「エマオへ向かう弟子たちは復活のキリストに出会い、みことばに心を燃やされ、パンに目を開かれ、復活したキリストを伝える宣教者に変えられた。この大会に参加した私たちも心を燃やされ、それぞれの司牧の現場に帰って福音を宣べ伝えましょう」と力強く呼びかけた。

カトリック福岡教区報
松永久次郎司教認可
発行所 福岡司教区本部
福岡市中央区浄水通39
発行人 カトリック福岡司教区
編集人 中村 彰
TEL 092-522-5139
FAX 092-523-2152
振替口座 01760-6-20729
カトリック福岡司教区
定価 一部60円

今月の意向

教皇様の意向のために祈りましょう

【一般の意向】救い主イエス・キリストのご降誕
【布教の意向】教区司祭と海外宣教奉仕
【日本の教会の意向】大聖年の始まりのご降誕

時の話題

中野民夫

二〇〇〇年問題？

西暦二〇〇〇年が間近に迫ってきましたが、もうひとつのミレニアムが大きな問題になっています。「コンピュータ西暦二〇〇〇年問題（Y2K）と言われている問題です。コンピュータが西暦年を下二桁のみで扱ってきたために、99年から00年になるとき、「00」を1900年と勘違いして様々な誤作動を引き起こしてしまう可能性があるというのです。便利になった現代社会では、世界を巡る情報通信や交通や金融のネットワークをはじめ、暮らしに欠かせない電気・ガス・水道などのライフライン、家庭の電気機器まで、すべてコンピュータやマイクロチップに依存しています。マイクロチップは世界に五百億個存在しているといわれていますし、どこかのちょっとした誤作動が、複雑につながりあった網の目の中でどんな事態を引き起こすか、実は誰もわからない、というのです。人類にとって過去に例のない初めての試練なのです。

最近になって政府や企業では対策を進め、重要な分野での問題はないと言っています。しかし一方で、「年末年始に向けた準備について」という政府広報を十月三十日の各新聞に出し、食糧や飲料水、預貯金の記録、現金の引き出し、ガソリンの備え、医薬品などの備蓄を呼びかけています。JR東日本は日付の変わる時は電車を止め、航空各社も大晦日の欧州線の運休を決め、コンピュータメーカーは多くの社員を待機させるため東京のホテルは早くから満員です。

さて、今から私たちに何ができるのでしょうか。自治体やライフライン各社の危機管理対策がどうなっているのか情報を集めたり、確認するのも大切ですが、当てにはできません。防災対策と同じで、万一の混乱から自分や家族を守るのは自分たちです。

一週間分ほどの水や食糧や燃料の備蓄は必要でしょう。何かが起こったとき、パニックにならずに落ち着いて状況を見極め、身近なコミュニティでの協力や助け合いが必要になってきます。そのとき、教会がそれぞれの地域で持つ意義はとても大きいのではないでしょうか。備えあれば憂いなし。物理的な備えに加え、心の準備も進めておきたいものです。

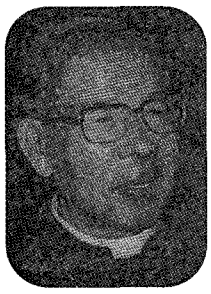
（会社員）

みちくさ

西日本宣教司祭大会に参加した。今回の大会は長崎管区だけでなく広島教区も含めてだったので、新鮮な雰囲気がした。基調講演ではザビエル時代の宣教観と第二バチカン公会議後の宣教観の違いをクローズアップさせて話された。教理を教えて洗礼を授けるザビエル型の宣教も、生活のあかしや貧しい人との関わりといったマザーテレサ型の宣教も、どちらも大切な働きである。働きは違っても同じキリストへの愛に燃えて、キリストを伝えているのだから▼金枢機卿の講演では韓国の教会の歴史と現在の福音宣教の状況が話された。その中で二つのことが特に参考になった。一つは信徒使徒職団体が幅広くあって、だれでもいずれかの団体に入れること。日本ではまだまだ信徒使徒職団体の数が少ない。もう一つは小共同体運動。日本でも小教区の中に地区割りを作り、地区集会をしている教会もある。しかし、地区集会には必ず司祭が行って指導している。韓国では地区集会よりもっと小さい集会を作り、その小共同体のリーダーの養成をしている。司祭がいなくても聖書の分かち合いができて、互いの信仰を深め合っているし、新しく教会に来る人のサポートもしっかりとできている▼分団会では日頃の司牧活動の分かち合いだけでなく、新しい福音宣教に向かって、司教・司祭・修道者・信徒を合わせた神の民への提言が話し合われた。一日一本福音宣教のためにロザリオをするとか、信者でない人の冠婚葬祭を積極的に行うとか、まだまだしていないことが多いことに気づかされた。ザビエルの宣教師魂を見習いたいものだ。〈N〉

韓国における福音宣教の現状

福音宣教の主役たちは信徒使徒職



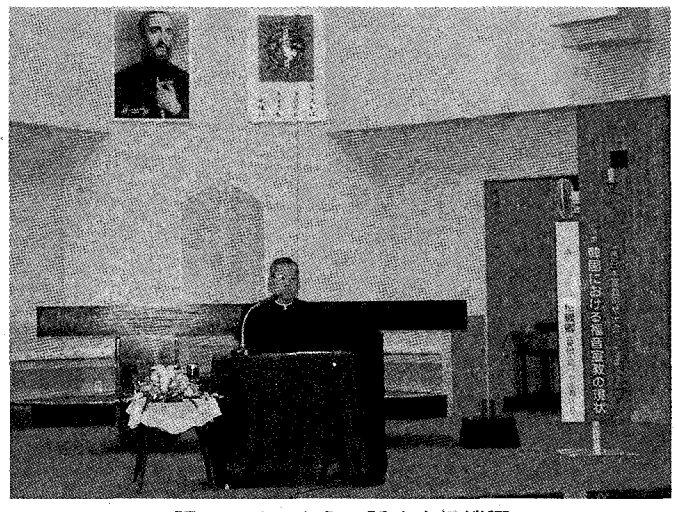
金壽煥枢機卿

韓国の教会は一九九八年末現在、十五の教区に一一四七の教会、七つの神学校、韓国人司祭二六〇二人、信者数三八〇余万人に及んでいます。この発展の理由として次の四つの取り組みがあげられます。

信徒使徒職の活動

信徒使徒職活動のひとつは、団体の設立目的に従って活動するレジオマリエ、クルシリヨ、聖霊カリスマ運動、マリッジエンカウンター、ビンセンチオ・ア・パウロ会、都市貧民使徒職団体など数多くの信徒使徒職団体があり、二つ目は、職場中心の各種学校、公共団体、会社などの職場内の信徒使徒職団体であり、三つ目は、職種別に法曹人会、言論人会、芸術人会、商工人会、教授会、学生連合会、カトリック労働青年会、カトリック農民会、女性連合会、カトリック運転手使徒会など、ほとんど全ての分野にかけ組織されている使徒職団体です。これらの使徒職団体は大部分、週一回あるいは月一回の会合を通して福音の糧を供給され、福音宣教に主力を注いでいます。

次に、韓国カトリック教会には、二百年間伝来されてきた美しい、由緒正しい伝統的な信者たちの葬礼習慣があります。信者の家庭で死者があった場合、葬礼委員会が遺族と協議して葬礼にかかわる一切を取り仕切ります。通常三日から五日にわたる喪の期間中、教会の使徒職団体が二十四時間途絶えることがないように交代で慰霊の祈りを捧げ、訪問客の案内や接待、他にも色々な煩わしい雑務をすべて、委員会で処理してくれるので、遺族は静かな気持ちで喪に服することができるのです。こうした葬礼の風習は、人々にカトリックならではの美しい光景として好感を持たれ、宣教にも大きく貢献しています。



語りかけるように話す金枢機卿

聖書の集い

一年から三年間にかけて聖書を学ぶ聖書四十週間、または百週間をはじめ、新・旧約聖書の全般的学習や、特定のテーマを主題にした聖書学習などが各教会や教区別に活発に実施されています。青年聖書の集いもソウル教区を始めとして、かなり活発に行われています。さらに、信者たちの新しい福音化のための信者再教育に力点を置いて、待降節や四旬節には外部から講師を招いて特別講演を聞き、機会あるごとに団体や小共同体別に講演を通して信仰を固めています。

小共同体運動

ソウル大司教区は一九九二年から二〇〇〇年代の福音化を目指しながら、まず教会の刷新を試みました。新しい教会像のビジョンを提示しながら教会を小共同体でもって構成される共同体への変化を推進しました。それは、教会内で信者たちが信徒使徒職を遂行できるようにして参与する教会へと進むためでした。当時、各教会には「班の集い」という隣り組みたいな組織がありましたが、この「班の集い」は教会の告知事項の伝達とか、待降節・四旬節の赦しの秘跡の表を配るとか、病者の秘跡が必要な時に班長を通して司祭に知らせるなど、教会運営のための組織に過ぎませんでした。

この「班の集い」を小共同体に転換し育成するのが急務でした。先ず始めに、教会の司祭たちにこの新しい教会像を提示して、小共同体の必要性と多様な「福音の分かち合い」について教育しました。ソウル大司教区の各教会には、それぞれ平均百を超える班があり、十～十二班が一つの区域になっています。ですからソウル大司教区は二百余の教会に二万二千余の班があって、二〇〇〇の区域に組織され、女性は「区域の集い」を、男性は「班の集い」を行なっています。現在班の17％が毎週集会を開き、18％は隔週で、残りは月に一回、男性はだいたい月に一度の集いを持ちます。従って既存の班の姿を小共同体へと成長させるためには区域長、及び班長教育が重要でした。

ソウル教区は洗礼志願者の教理を教理の伝達だけに終わらせず、洗礼志願者教育の始めから小共同体すなわち「班と区域の集い」に同伴させています。その結果、洗礼志願者たちの脱落がほとんどなくなりました。

この他にも、近来一部の教会では「街頭宣教」に乗り出し、一部の使徒職団体では、会員たちが宣教目標を定めて、年間一～二名を信仰生活に導くなど、犠牲と奉仕をもって宣教の一線に参与してもいます。

唯一の福音と二つの宣教観

ザビエルが目指したもの、公会議が目指したもの

唯一の福音「神の国」

福音は全人類のためであり、キリストにおける一回限りのものである。キリストは「時は満ちた。神の国は近づいた。悔い改めて福音を信ぜよ」といって公生活を開始された。神の国とは単なる教えではなく、神の恵みが人々に広まることである。そして、福音とは神の国の到来の喜ばしいおとずれであり、キリストそのものでもある。従って、福音の宣教とはキリストを伝えることであり、神からの霊と力により、あかしをもってなされるダイナミックなものである。この福音を伝えるのはパウロのように神から選ばれた者だけではなく、福音に接したすべての者の使命である。



近代型―ミッションとしての宣教

ザビエルの時代の宣教は、新大陸発見に伴う、新しい挑戦としての「ミッション」であった。キリストを知らない民にどのようにキリスト教の教理を伝え、受洗者を増やすかに重点が置かれた。洗礼が必要なのは、地獄に行かないため、魂の救いのためといった、当時の救いについての理解に基づいていた。それはザビエルの書簡から、神を知らなかった祖先は地獄に行っているのか、それが本当ならば、神は日本人の祖先たちに慈悲心を持っていなかったのかといった対話がなされたことからも窺い知れる。当時の宣教の主体となったのは、宣教会の宣教師である司祭であった。

これは、トリエント公会議（1545年～63年）の影響によるものである。この公会議から「制度としての教会観」が強調され始める。教義が固められ、秘跡、聖職位階制度が強調されるようになる。第一バチカン公会議（1869年～70年）は、トリエントに始まる「制度としての教会観」の頂点である。

日本での明治時代の再宣教は教会を建て、小教区制度を整えていくことを主眼とした。第一バチカン公会議の影響により、司牧型、管理型の教会理解が強調された。宣教とは福音をのべ伝え、教会そのものを植えつける活動であった。

公会議型―福音化としての宣教

第二バチカン公会議（1962年～65年）を機に前述の宣教観は転機を迎えた。宣教の主体はすべての信仰者であり、宣教の内容として教理の伝達だけでなく、生活のあかし、社会活動への参与、インカルチュレーション、諸宗教間対話などもあげられている。いわゆる福音化としての宣教である。

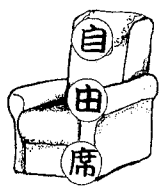
宣教の未来に向けて―キリストのあかしをする福音宣教

宣教の未来に向けての問題提起をしてみたい。他宗教も救いへの道といっているのに、今日、まだ宣教は必要なのか、それは何のために、といった疑問が湧いてくる。福音化とされる、文化内受容・対話の促進・社会正義の実現などは、キリストの福音を宣教していると言えるのだろうか。宣教の中心はキリストである。キリストを宣べ伝えない福音宣教はない。キリストの宣教はあかしによるが、あかしによらない。そして大切なのは、宣教の具体的内容より「キリストの愛が私たちに強く迫っている」（二コリント5章14節）という動機である。宣教の主体、方法、具体的内容は時代によって異なるが、宣教の根源的動機「イエス・キリスト」は、どの時代も変わらない。

今何をなすべきか？

今すべきこととして二つのことを提案したい。一つは「信徒の霊性」を深めるためのいろいろな方法を用いること、あと一つは司祭の役割を明確にすることである。キリストをあかしするためには、信徒一人ひとりが「生きた信仰」をもっていなければならないし、信徒の役割が増えてくると司祭の役割を明確にしていなければ、互いに競争してしまう。司祭の役割は愛において示されるリーダーシップである。

二十世紀は終わった



鵜野泰年神父

「二十世紀はついに終わった。」これが私の西日本宣教司祭大会に与っての印象である。もう終わったのだ。二十世紀はいろいろなことが起こった。しかしもう終わったのだ。過去は終わった。過去を引きずってはならないが過去を忘れてはならない。私も二十世紀を六十六年生きた。そして、もうすぐ新しい世紀にはいるのだ。自分の人生で、二度とこの世紀の変わり目に立ち会うことはない。不思議に私の心に緊迫感はなかった。世紀末というのに。

二日目の親睦会の中で、金枢機卿は余興のステージに上がって歌ってくれた。それは、坂卿のしぶい、しかも落ち着いたラテン語の歌であった。「見よ、兄弟が共に座っている。なんという喜び、なんという恵み、なんという喜び」（詩編一三三）。それは金枢機卿の心をそのまま表わすものであった。そして、そこに集まった司祭たちの心を表わすものでもあった。全体の雰囲気の中で落ち着いた、ほんのりとした安堵感があったのは不思議であった。世紀末であるのに。

二十世紀のめまぐるしい変化と荒波の中でカトリック教会は何をしたのだろう？　また、そのカトリックの中で自分は何をしたのかと反省すればきりがない、大成功もどこかであったに違いない。いずれにしても、終わったのだ。そして、二十一世紀は目前に迫っている。まるで告白場に跪いて赦しを待っている罪人のような心境である。もう一度立ち上がればいいのだ。

二十世紀を六十六年生きた私は、二十一世紀をあと何年生きるかわからないが、二つの世紀に生きる恵みを受けたことを感謝しよう。そして、自分が何かをしようと考えるのではなく、神様がお考えになっておられることを、私の上に実現してくださいますようにと祈りながら、二十一世紀を過ごすことができたらいいと思っている。



（健軍教会主任司祭）

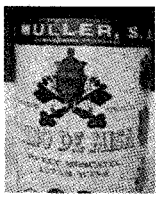
おさそい　待降節黙想会と祈りの学校

対象：一般信徒　①12月３日（金）16：00～５日（日）昼食まで《Fr. G.ガブリエル》
②12月10日（金）16：00～12日（日）15：00まで《Fr. V.マテオ》
③12月23日（木）16：00～25日（土）昼食まで《Fr.鈴木忠一》
★祈りの学校／テーマ：ロザリオを繰る
12月18日(土)～19日(日) 15：00　<来住 英俊　神父>

会費：①②③共２泊３日・12,000円（部分参加可お問い合わせください）
祈りの学校１泊２日6,000円

福岡黙想の家　〒811-4155 宗像市名残1056　TEL 0940(32)3222 FAX 0940(32)3385

ミサ用ワイン



VINO DE MISA（ヴィノ デ ミサ）
スイートタイプ（赤）（白）
ご用命　お問い合せは
有限会社 大楠酒店
ヨハネ　青木 彰
〒815-0082　福岡市南区大楠2丁目4番8号
電話 092-531-4718　Fax 092-521-6453

別れ・出逢い・旅立ち
草苑（SOU-EN）
ご葬儀
木下株式会社
TEL092-526-5656
〒810-0016
福岡市中央区平和３丁目1-5

カトリック・ルーテル青年合同親睦会

熊本

カトリックとルーテルの共同宣言を祝う

十月三十一日（日）ドイツのアウグスブルクで、ローマカトリック教会を代表してキリスト教一致促進評議会議長のキャシディ枢機卿と、ルーテル世界連盟の議長クラウゼ監督たちが「義認の教理についての共同宣言」の合意文書に調印した。これを記念して、同日午後七時より、カトリック、ルーテル両青年の合同親睦会が熊本市内のイタリア料理店で開催された。

当日はカトリック、ルーテル会わせて四二名が集まった。その中には司祭五名、牧師三名も含まれている。聖歌マラナタを歌い、一致のための約束の祈りをした後、おいしい料理、飲み物を口にしながら楽しい会話がはずんだ。互いの教会の状況を聞き合ったり、今後の行事を話し合ったり、写真を撮ったりとあっという間に予定の時間が過ぎていった。最後に調印式を記念して二枚の色紙にそれぞれの名前と印鑑を押し、カトリックとルーテル相互の教会で保管することにし、今後の一致協力を誓い合った。

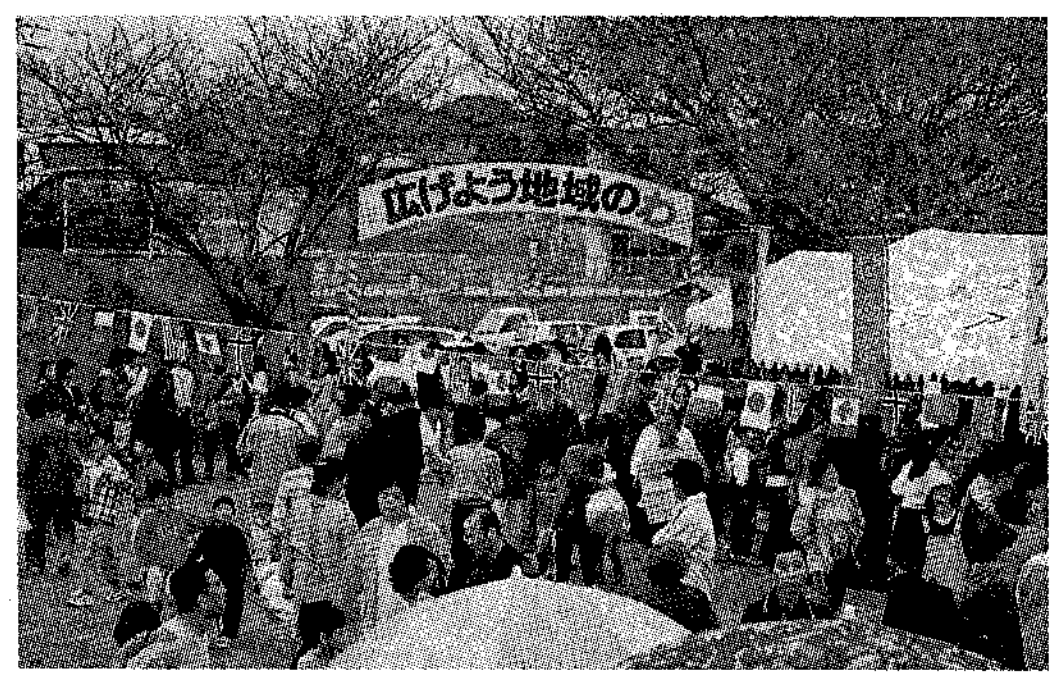


今後の活動として、十二月二十五日午後三時より福岡サンスルピス大神学院においてクリスマス合同礼拝式を企画している。次回は熊本だけではなく、福岡を含めた九州内の知り合った青年たちに参加を呼びかけている。

第5回 地域親睦大バザー

新田原教会

秋の収穫を地域の人々と共に感謝する大バザーが、十月三十一日、新田原教会で催された。五回目となる今回のテーマは「広げよう地域のわ」と題し、地域に溶け込む教会を目指して準備を進めてきた。



午前十時の開催の時間を待ちきれず、会場に詰め掛けた人々で場内は溢れんばかりとなり、我先と各コーナーを行き来する中、宮脇小教区委員長の開会の言葉も聞き取れにくいほどの賑わいをみせた。ヨゼフ会の焼芋や、壮年会の餅つき、各地区で作ったいろんな食品や友愛品が飛ぶように売れ、正午には売り切れが出始めるほど。ステージでは聖マリアの園園児による鼓笛隊の演奏を手始めに、宮崎より駆け付けたカリタス修道女会志願生による歌と踊り、地元の中学、高校生によるバンド演奏や、青年会のゲームで会場はさらに盛り上がりをみせた。

一方、聖堂は、普段教会に馴染みのない人のために開放され、カトリックの案内と小教区の歴史紹介がなされた。また、テレジア館ではふれあい喫茶、抹茶コーナー、教会学校生徒や大人の作品展示コーナーがあり、静かな憩いのひとときも。

各食品コーナーで食欲を満たせながら、久しぶりの旧交を暖めたり、行橋八幡太鼓の迫力ある演技に心を奪われながら、最後の福引抽選に会場がひとつになって、盛会のうちに幕を閉じた。

召命の集い

大神学校



毎年恒例となっている召命の集いが今年もサン・スルピス大神学院で十一月三日（水）に行われた。今年のテーマは「出会い〜イエスと私とまだ見ぬ君と〜」。参加者は約一三〇〇名。召命祈願ミサは、松永司教司式で平田司教と司祭三十八名で捧げられた。

グランドの斜面を使った野外劇、神学生による講演、子供たち対象のレクレーションも例年通り行われた。

来年は同日、久留米信愛女学院で行われる予定。

教え子が感謝の集い 金祝のイエール神父

西日本宣教司祭大会が終わった十八日、ゼノン・イエール神父（サンスルピス会）の霊的指導を受けた司祭三十一名が集って、司祭叙階五十周年の金祝をお祝いした。

霊的息子を代表して長男である鵜野神父より金祝のお礼と感謝の言葉が、続いて三十名の司祭が一言づつお祝いの言葉を述べた。



▶お祝いの言葉をのべる鵜野神父

食事の終わりにイエール神父から「宣教師になり、聖書を教えることは、神のはからいだった」とお礼の言葉があった。

不動山殉教者慰霊祭

佐賀

佐賀地区信徒使徒職協議会で恒例の行事となった不動山キリシタン殉教者慰霊祭が、死者の月十一月七日、佐賀県嬉野町不動山区で、キリシタン史跡の「異宗徒塚跡」において開催された。



殉教ミサは、伊東成晃神父（呼子教会）の司式、佐賀地区の司祭六名により捧げられ、県内の信徒百名余が参加。地元を代表して嬉野町長、不動山の各区長ほか区民がともに祈りを捧げた。

「異宗徒塚跡」には、大舟神社があり、一説にはこの場所は昔、キリシタンの教会と墓地があった所であろうといわれている。墓には異宗徒であるために頭蓋骨に釘を打ち込まれた人骨がぞくぞくと発見されたといわれている。

同地は、二十六聖人が長崎へ送られた長崎街道から程遠からぬ所、往時はキリシタンの往来が盛んであったろうと想像される。ここ不動山一帯で殉教された多くの方々の永遠の安息と、その残された足跡に思いをいたし、この地に与えられた恵みに感謝して殉教祭を終えた。

佐賀教会信徒 田丸 鋭

ヨセフ・M・ドワイヤー氏

笹丘教会主任T・ドワイヤー神父の敬弟。11月11日アメリカで帰天。62歳

フランシスコ**中田藤太郎神父**（フランシスコ会）11月14日長崎にて帰天。もと高宮教会に在任。89歳



クリスマスの馬小屋

…小さな福音宣教のこころみ…

今、チョット夢中になっていることがあります。

クリスマスに向けての小さな福音宣教のこころみですが、ここ福岡黙想の家のルルドに馬小屋を造り、大勢の人（特に信者でない方がた）にほんとうのクリスマスを味わっていただこう！という計画です。

巷のクリスマスは、サンタクロースとジングルベル。そして華やかなホテルのディナーショーと豪華なプレゼント…そんな日本製のクリスマスにささやかな抵抗をと思って始めた計画です。手始めに、黙想の家の入り口には、大きめのこんな看板を造りました。

『皆さん！クリスマスは愛に満ちた心のお祭りです。ルルドのほこらに、二千年前のクリスマスの光景、ベトレヘムの馬小屋を造りました。イエスの誕生をかわいいお人形で飾り、光で照らします。清らかな心でクリスマスを祝い、愛されていることを喜び、幸せをお祈り下さい。どなたでもご自由に、どうぞ！（午後10時まで）』

教会の庭や聖堂内で馬小屋を飾り、ご降誕の黙想をする習慣は大変に古いそうです。直接の起源は、あの平和の聖者アッシジの聖フランシスコが一二二三年にローマの近くのグレッチオというところで、牛とロバを配した馬小屋の情景を再現して降誕ミサを祝ったことからということです。

ここ福岡黙想の家では、待降節第一主日（11月28日）から降誕節とご公現の祝日までの約一月間、毎晩ルルドの広場で光り輝く小さな聖家族が皆さんを待っています。

黙想の家の馬小屋のもうひとつユニークなこころみは、「祈りのプレゼント（共同祈願）」です。それぞれの思いを込めて「祈りの板」（木片）に自分で書いた祈り文を、馬小屋の脇にあるクリスマス・ツリーに、絵馬のように捧げてください。12月24日（金）夜、クリスマス・イヴの野外ミサの中で、その板を香と共にかがり火にくべて奉献します。自分のためではなく、大切に思う人のために祈る「祈りのプレゼント」です。

いよいよ大聖年が始まる今年の待降節、黙想の家へ巡礼、ルルドの馬小屋でご降誕を黙想、そして身近な主イエスを囲んでご一緒に祈りませんか。

お待ちしています。

黙想の家院長 鈴木忠一神父

BOOK 読みま専科

★エディット・シュタイン
—小伝と手記—
エディット・シュタイン、C・ド・メーステル著
西宮・福岡カルメル会訳



一九四二年にアウシュヴィッツ強制収容所で亡くなった彼女が生きた時代は混乱と残酷な時代であった。ユダヤ人であるがために、カルメル会の閉域から強制収容所へと移送され、キリストと同じように苦しみの極限の中で人生を終えた晩年。どんな時期も彼女は、真剣で誠実であった。心底、納得できる光に出会うまで、彼女はとどまるところを知らなかった。

女子パウロ会 税別一〇〇〇円

◇ ◇ ◇

★はだかのサンタさん
秋島 信英・文
水野はるみ・絵



「クリスマスをいっしょに過ごしましょう」と、北の国のサンタさんが南の国のサンタさんを誘いました。二人のサンタは大急ぎでプレゼントを配り終えてから、レストランで、楽しくゆかいなクリスマスイブを過ごしました。ところが……。

サンパウロ 税別九〇〇円

ジャパンスマイルか 株式会社
不動産/管理・仲介・売買・建設/一般建築
〒810-0044 福岡市中央区六本松4-9-4
TEL092-761-8800
代表取締役 マルガリタ・マリア 吉田由利子

吉田設計 株式会社
建築設計/企画・設計・監理
〒810-0044 福岡市中央区六本松4-9-7
TEL092-711-0550
代表取締役 ヨゼフ 吉田豊博

祭壇・洗礼盤他
素材 { 大理石 御影石 その他
石のパイオニア
高木石材株式会社
〒860-0006 熊本市段山本町2-21
TEL 096-352-2417

第52回福岡市民クリスマス
市民として市民と共にキリストの降誕を祝おう

開催日：12月13日（月）
時　間：開場=18時　開会=18時30分
　　閉会=20時30分予定
会　場：福岡市市民会館大ホール
出演者：本田路津子さん
　　ムーゼンクランツ福岡少年少女合唱団
メッセージ：マルセル・コース神父
　　（美野島司牧センター長）
入場料：無　料
問合先：☎092-731-1805（市民クリスマス実行委員会）
※家族連れで是非参加してください。

イタリア大聖年巡礼の旅

行　き　先：ローマ、アッシジ、フィレンツェ、シエナ、ピサ、ミラノ
日　　時：2000年5月9日（火）～5月18日（木）10日間
募集人員：30名
申　込　金：50,000円
申込締切日：1999年12月27日
申　込　先：カトリック呼子教会　伊東成晃神父
　　☎0955-82-3126　FAX0955-82-4746
主　　催：（株）阪急交通社　博多支店
　　☎092-472-2243　FAX092-411-4574

大聖年行事　お知恵拝借
～キリスト降誕2000年～ カトリック・フェスティバル

福岡教区信徒使徒職協議会では、大聖年の記念行事としてカトリック・フェスティバルを2000年11月3日に開催することを決定しました。この記念行事は子供達や若者たちに視点をおいたものにしようと計画しています。

この記念行事を広く教区信徒にアピールするため、下記の要領で記念行事のアイデアを募集する事にしました。

①スローガン：新しい時代を創造、イメージするもの。及びサブテーマ。
②行事内容について
③テーマ音楽（作詞、作曲）

問合先：水巻教会　松尾隆
　　☎・FAX093-293-4981
締　切：①、②1999年12月31日
　　③　2000年 3月31日
※入選者には賞品を用意します。

近日刊行　新版
聖書思想事典
旧約から新約にかけて説明。「愛」に始まり「笑い」まで、読者を聖書の世界に誘います。
定価：6,510円 税込

案内版　会合と催し

福岡黙想の家　12月

◇3日(金)～5日(日)　待降節黙想会B.ガブリエル神父
◇5日(日)～7日(火)　有明長老会／祈りの集い
◇8日(水)　ミカエル会
◇10日(金)～12日(日)　待降節の黙想会〈マテオ神父〉
◇18日(土)～19日(日)　祈りの学校／ロザリオを繰る〈来住神父〉
◇23日(木)～25日(土)　ご降誕黙想会〈鈴木神父〉
◇27日(月)～1月5日(水)　幼きイエズス修道会黙想

2000年1月6日(木)～12日(水)　休　館
◇14日(金)～16日(日)　日本カトリックセンターコース

☆11月28日(日)～1月2日(日)　ルルドの広場の馬小屋で聖家族が待っています。

[問合先] 黙想の家　☎0940・32・3222　FAX32・3385

生命山カトリック別院

生命山では、皆様のために、美しい自然の中で、神との語らいの日々を過ごしていただきた、黙想会を計画いたしました。ご参加ください。

※祈りの集い
・12月16日(木) 10時～15時
・1月13日(木) 10時～15時

※クリスマスの集い
1）12月18日(土) 村の子供たちのため
2）12月23日(木) 本寺シュバイツアー寺での降誕祭
3）12月24日(金) 玉名カトリック教会での降誕祭
4）12月26日(日) 清水寺を招いて家族と共に降誕祭

＊新　年
元旦～3日近隣の人々のため祝福の祈り、新年の挨拶、甘酒

[問合先] 生命山カトリック別院
☎FAX0968・85・3100

＊個人、又はグループでの黙想常時受け付けています。

12月のこよみ

5日（日）　待降節第2主日　宣教地司祭育成の日（献金）　黒崎教会堅信式
8日（水）　無原罪の聖マリア　福岡カトリック神学院創立記念日
12日（日）　待降節第3主日　今村教会堅信式
13日（月）　聖ルチアおとめ殉教者
14日（火）　十字架の聖ヨハネ
17日（金）　†M.コニリー［島崎修道院1990］
18日（土）　†J.マグラ［荒尾教会1976］
19日（日）　待降節第4主日　†パウロ青木功［行橋教会1973］
20日（月）　†M.ソーレ［久留米教会1917］
23日（木）　天皇誕生日　†A.ベニエ［飯塚教会1983］
24日（金）　**降誕祭徹夜ミサ**［カテドラル20時30分］　聖ペトロ大聖堂の聖年の扉が開かれる
25日（土）　主の降誕（クリスマス）
26日（日）　聖家族の祝日
27日（月）　聖ヨハネ使徒福音記者
28日（火）　幼子殉教者
31日（金）　大晦日

2000年1月
1日（土）　元旦／神の母聖マリア《守るべき祝日》　**世界平和の日ミサ**（カテドラル10時）　†G.ドロー［人吉教会1950］
2日（日）　主の公現　†J.ドノフ［菊池教会1985］　†ヨセフ牧山藤房［司教館1993］

■印は本面に詳細説明あり

福岡

■パストラルケア研究会
［日時］12月5日（日）14時～16時［場所］福岡サン・スルピス大神学院新館講話室［内容］大山悟神父様のお話［参加費］無料［次回］1月9日

■女性合唱団レーベンス・マイ第二回演奏会
［日時］12月11日（土）13時30分開場［会場］カテドラル大名町教会［入場料］1500円［問合先］092・575・3267

■第52回福岡市民クリスマス
［日時］12月13日（月）18時～［場所］福岡市民会館大ホール［メッセージ］M・コース神父［問合先］実行委員会事務局☎092・731・1805

■第12回宗像市民クリスマス
［日時］12月18日（土）18時開場［会場］宗像ユリックス［メッセージ］鈴木忠一神父［入場料］500円［問合先］0940・32・5225

■聖テレーズの著作を読む会
［日時］12月26日14時～15時30分［場所］カルメル会修道院（福岡市西区上ノ原）［問合先］カルメル会修道院［世話人］城島暁（浄水通教会所属）・次回は1月23日（毎月第4日曜日）

■美野島司牧センターよりお願い　衣類・毛布のカンパをお願いします［問合先］コース神父☎092・431・1419

北九州

■クリスマスの贈り物 ―山本百合子ピアノコンサート―
［日時］12月25日（土）15時30分開場［場所］カトリック小倉教会［入場料］2000円［問合先］093・941・0927岩丸

■聖書を読む会
［日時］毎月初木曜日・朝の部10時～11時30分・夕の部19時30分～20時30分［場所］カトリック佐賀教会信徒会館［内容］ヨハネの第一の手紙［問合先］カトリック佐賀教会聖書を読む会☎0952・23・4754

佐賀

■カトリックいのちを守る会　創立総会・講演会
［日時］12月12日（日）13時30分～16時30分［場所］カトリック手取教会信徒会館［演題］神の賜物・尊いいのち［講師］シスター吉永ユリ

熊本

合唱メンバー募集
オペラ "忘れられた少年"

歌うことのお好きなみなさん　音楽をつくる夢をお持ちのみなさん　ご一緒にオペラ"忘れられた少年"を創りませんか！　年齢、性別、学歴、宗教を問いません。

練習：毎日曜日
　　13時～15時30分
場所：カトリック小倉教会
　　信徒会館2階
連絡先：☎093-921-0093
　　カトリック小倉教会

1999年12月24日／主の降誕・夜半のミサ

教会	時間	教会	時間	教会	時間
福岡地区		本郷	18:30	鹿島	18:00
糸島	20:00		21:00	唐津	20:00
今村	20:00	吉塚	20:00	佐賀	20:00
大楠	20:00	南粕屋(巡)	19:30	多久	20:00
大牟田	20:00	老司	19:30	武雄	20:00
小郡	19:30	北九州地区		鳥栖	21:00
久留米	19:00	飯塚	19:30	馬渡島	19:00
	22:00	黒崎	19:00	呼子	20:00
古賀	19:00		22:00	熊本地区	
	23:00	小倉	18:00	荒尾	19:00
笹丘	19:30		20:30	大江	19:00
浄水通	18:00		23:00	帯山	19:30
	20:30	新田原	20:00	菊池	20:00
大名町	18:00	田川	18:30	健軍	19:00
	20:30	天神町	20:00	崎津	21:00
	24:00	戸畑	20:00	島崎	20:00
高宮	20:30	直方	19:00	玉名	19:00
茶山	20:30	水巻	19:30	手取	19:30
西新	19:00	門司	19:30		23:00
箱崎	19:30	湯川	20:00	人吉	20:00
光丘	20:00	行橋	19:00	本渡	19:30
二日市	20:00	若松	19:30	水俣	20:00
美野島	20:00	佐賀地区		武蔵ケ丘	19:30
	スペイン語	伊万里	20:00	八代	19:30

その他

■若者のための聖地巡礼
［日時］2000年2月26日（土）～3月11日（土）［参加費］235、000円［主催］真生会館カトリック学生センター［申込締切］1月21日［問合先］シュガレ神父☎03・3350・6117

■第61回熊本結婚準備セミナー
［日時］1月18日（火）～2月14日（月）の毎月曜日・火曜日19時～21時30分［場所］手取教会［申込・問合先］手取教会☎096・352・3030

編集後記

待降節に入りました。教会ではクリスマスの飾り付けや回心式など準備が進んでいます。一方、町では十一月初めからクリスマスセールが始まり、クリスマスソングが流れています。どちらの準備の方がよくできて、クリスマスの喜びに満たされているのでしょうか。

師走に入ると、忙しさの合間に忘年会が入って、疲れも増してきます。編集部でも原稿を印刷所に渡した時は、ゆっくり温泉にでも行きたいねと話が出ます。まだ実現していませんが。

九九年も皆様の協力で毎月発行ができました。ありがとうございました。

COSMOS
スポーツ用品・OA・文具　コスモス
〒830-1224 三井郡大刀洗町鵜木67－3
TEL 0942－77－3199
代表者 ペトロ 平田 清

"任意保険に加入してから車の運転を致しましょう"
自動車、火災、傷害、海外旅行傷害保険、保育園、幼稚園児を守る、企業賠償保険
〒814-0153
福岡市城南区樋井川3丁目17－10
大石保険事務所 大石真澄
☎092-552-8195　Ⓕ092-541-7734

FUJHi
未来へ――安心を創る
藤木工務店
福岡支店 〒812-0016 福岡市博多区博多駅南3-1-1　TEL 092-441-6585(代表)
取締役社長 大森 周　福岡支店長 多田泰幸